

平成30年度
全国学力・学習状況調査
福岡県学力調査
調査結果報告書

国語

算数
数学

理科

質問紙調査



平成30年12月
福岡県教育委員会

■ 報告書作成・活用についての基本的な考え方

この報告書は本県の教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的として作成しています。また、全国学力・学習状況調査及び福岡県学力調査により測定できるのは、学力の特定の一部であることや学校における教育活動の一側面であることを踏まえています。

※ Webページへの掲載

本報告書は、平成30年12月14日（金）17：00以降、次のWebページで閲覧することができます。

① 福岡県庁ホームページ

URL：<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/life/5/41/>

（トップページ→子育て・教育→教育→義務教育→一般情報）

② 福岡県教育庁教育振興部義務教育課各種資料のページ

URL：<http://gimu.fku.ed.jp>

平成30年度 全国学力・学習状況調査 福岡県学力調査 調査結果報告書

目 次

I	平成30年度 全国学力・学習状況調査 調査の概要	1
1	調査の目的	
2	調査対象の学年	
3	調査の方式	
4	調査の内容	
5	調査日	
6	4月17日に調査を実施した県内公立学校・児童生徒数	
7	調査問題の内容	
II	調査結果の概要	3
1	調査結果の概況	
2	教科に関する調査の結果（福岡県全体の状況）	
3	標準化得点の推移	
	(1) 本県の標準化得点の推移	
	(2) 地区別の標準化得点の推移	
4	県全体の平均正答率度数分布（市町村単位）	
5	児童生徒の無解答の状況（地区別）	
	(1) 全体の状況	
	(2) 教科区分ごとの「無解答なし」の児童生徒の状況	
	(3) 無解答率が全国平均より低い問題数の全問題数に占める割合	
6	市町村別の状況	
III	各教科の調査結果	28
1	小学校国語	
2	小学校算数	
3	小学校理科	
4	中学校国語	
5	中学校数学	
6	中学校理科	
7	過去の調査問題（同一問題）との正答率の比較	
IV	小中をつないで効果を上げている取組事例	51
	～9年間の学びの連続性を大切にし、中学校でさらに学力を向上させる取組～	
	事例1 太宰府市教育委員会	
	事例2 須恵町教育委員会	
	事例3 遠賀町教育委員会	
	事例4 小郡市教育委員会	
V	小学校と中学校の取組状況を質問紙で比較分析	68
	(1) 学校質問紙	
	■ P D C A サイクルの確立	
	■ 指導計画の作成	
	■ 児童生徒に対する家庭学習への働きかけ	
	■ 近隣等の小/中学校との成果や課題の共有	
	■ 近隣等の小/中学校との合同研修	
	(2) 児童生徒質問紙（同一集団での推移で比較）	
	■ 自己有用感	
	■ ノートに書くこと（算数/数学）	
	■ 自分の考えを深めたり広げたりすること	
VI	児童生徒質問紙に関する調査結果と分析	73
1	学力基盤づくり	
	(1) 自己有用感	
	(2) 将来に関する意識	
	(3) 規範意識	
	(4) 学習に対する関心・意欲・態度	
	(5) 基本的な生活習慣	

- 2 授業づくり
 - (1) 各教科の内容
 - (2) 課題解決に向けた取組
 - (3) 自分の考えを深めたり広げたりすること
- 3 家庭・関係機関との連携
 - (1) 家庭学習
 - (2) 読書時間
 - (3) 地域・社会とのかかわり

VII 学校質問紙に関する調査結果と分析 91

- 1 学力基盤づくり
 - (1) 学習規律
- 2 授業づくり
 - (1) 指導方法
 - (2) 補充的な学習
 - (3) 教職員の取組
- 3 教員の意識・指導力の向上
 - (1) カリキュラム・マネジメント
 - (2) 調査結果の活用
 - (3) 教員研修
 - (4) 教職員の取組
- 4 家庭・関係機関との連携
 - (1) 教育課程の周知
 - (2) 家庭学習
 - (3) 地域・社会とのかかわり
- 5 その他
 - (1) 就学援助

VIII 児童生徒質問紙と学校質問紙の調査結果の比較分析 106

- 課題解決に向けた取組
- 学んだことを生かすこと
- 自己有用感

IX 平成30年度 福岡県学力調査結果 109

- 1 調査の概要
- 2 調査結果の概要
 - (1) 県全体及び地区別の平均正答率、最大・最小の差
 - (2) 全体の状況
 - (3) 小学校の状況
 - (4) 中学校の状況
 - (5) 地区別の標準化得点
 - (6) 県平均を100とした場合の同一集団（H30年度中学校第2学年）の各地区の標準化得点の経年変化
 - (7) 県平均を100とした場合の全国学力・学習状況調査と県学力調査の各地区の標準化得点
- 3 各学年の調査結果
 - (1) 小学校第5学年国語
 - (2) 小学校第5学年算数
 - (3) 中学校第1学年国語
 - (4) 中学校第1学年数学
 - (5) 中学校第2学年国語
 - (6) 中学校第2学年数学

X まとめと今後の取組 122

- 1 これまでの取組
- 2 取組の成果と課題
- 3 今後の取組

平成30年度全国学力・学習状況調査結果

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象の学年

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査の方式

文部科学省による悉皆方式の調査として実施する。

4 調査の内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数／数学、理科）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 など

※ 理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に扱う。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(3) 調査時間

小学校

1時限目（45分）	2時限目（45分）	3時限目（45分）	4時限目（45分）	
国語A（20分） 算数A（20分）	国語B（40分）	算数B（40分）	理科（40分）	児童質問紙 （20分程度）

※ 児童質問紙は、4時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。

中学校

1時限目（50分）	2時限目（50分）	3時限目（50分）	4時限目（50分）	5時限目（50分）	
国語A（45分）	国語B（45分）	数学A（45分）	数学B（45分）	理科（45分）	生徒質問紙 （20分程度）

※ 生徒質問紙は、5時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。

5 調査日

平成30年4月17日（火）

6 4月17日に調査を実施した県内公立学校・児童生徒数

小学校	学校数(校)	児童数(人)				
		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
福岡県(公立)	730	43,567	43,564	43,564	43,567	43,594
全国(公立)	19,386	1,030,025	1,029,799	1,030,013	1,029,847	1,029,828

中学校	学校数(校)	生徒数(人)				
		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
福岡県(公立)	351	40,179	40,194	40,187	40,180	40,188
全国(公立)	9,597	966,764	966,786	966,969	966,908	967,188

※ 学校数は、国・私学を除く。

※ 福岡県(公立)には、両指定都市を含む。

7 調査問題の内容

■ 各教科のA区分とB区分の設問数(※ 理科調査は、AとBを区分せずに出題している。)

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
A 主として「知識」	12	14	16	32	36	27
B 主として「活用」	8	10		9	14	

■ 評価の観点別の設問数(※複数の観点を含む問題があるため、設問数とは必ずしも一致しない。)

国語の評価の観点	小学校		中学校	
	国語A	国語B	国語A	国語B
国語への関心・意欲・態度	0	3	0	3
話す・聞く能力	1	3	3	3
書く能力	1	5	4	2
読む能力	2	2	4	6
言語についての知識・理解・技能	8	0	21	1

算数・数学の評価の観点	小学校		中学校	
	算数A	算数B	数学A	数学B
算数への関心・意欲・態度	0	0	0	0
数学的な考え方	0	9	0	10
数量や図形についての技能	5	0	14	4
数量や図形についての知識・理解	9	1	22	0

理科の評価の観点	小学校	中学校
	理科	理科
自然事象への関心・意欲・態度	1	1
科学的な思考・表現	12	16
観察・実験の技能	1	4
自然事象についての知識・理解	2	8

■ 問題形式別の設問数

問題形式	小学校					中学校				
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
選択式	11	5	10	3	13	21	6	18	2	17
短答式	1	0	4	2	1	11	0	18	7	4
記述式	0	3	0	5	2	0	3	0	5	6

II 調査結果の概要

1 調査結果の概況

		小学校（公立）			中学校（公立）		
		平均正答数/出題数	平均正答率	標準化得点	平均正答数/出題数	平均正答率	標準化得点
国語 A	福岡県	8.6 / 12	71	101.2	24.1 / 32	75	99.2
	全 国	8.5 / 12	71	-	24.3 / 32	76	-
国語 B	福岡県	4.4 / 8	55	100.0	5.5 / 9	61	100.0
	全 国	4.4 / 8	55	-	5.5 / 9	61	-
算数 A 数学 A	福岡県	8.9 / 14	63	100.0	23.3 / 36	65	97.9
	全 国	8.9 / 14	64	-	23.8 / 36	66	-
算数 B 数学 B	福岡県	5.1 / 10	51	100.0	6.4 / 14	46	97.0
	全 国	5.1 / 10	52	-	6.6 / 14	47	-
理科	福岡県	9.8 / 16	61	102.1	17.7 / 27	65	98.9
	全 国	9.6 / 16	60	-	17.9 / 27	66	-

平均正答数：児童生徒の正答数の平均のこと。

平均正答率：平均正答数を設問数で割った値を百分率で表示した値のこと。

標準化得点：各年度の全国の平均正答数をそれぞれ100となるよう標準化した得点のこと。

2 教科に関する調査の結果（福岡県全体の状況）

- 小学校の標準化得点は、国語B、算数A、算数Bが全国と等しく、国語A、理科は全国を上回った。
- 中学校の標準化得点は、国語Bが全国と等しく、他の教科区分は全国を下回った。

3 標準化得点の推移

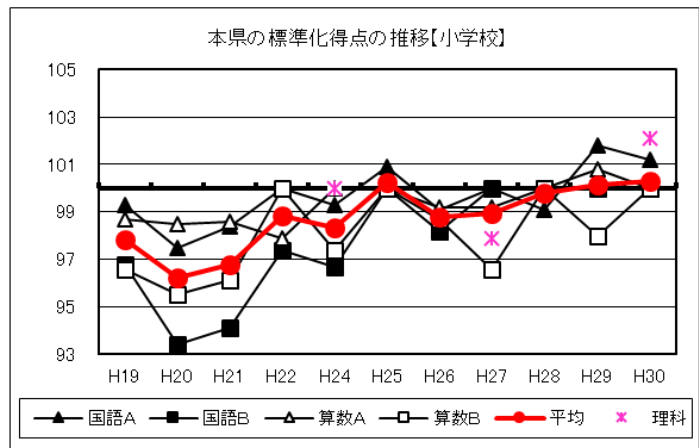
(1) 本県の標準化得点の推移

<小学校>

- 昨年度（理科はH27）との比較では、国語A、算数Aは下降し、国語Bは昨年度と同様、全国と等しく、算数B、理科は上昇した。
- 平成19年度（理科はH24）との比較では、全ての教科区分において、上昇した。
- 4教科区分を平均すると、調査開始以来、最高値である。

■ 本県の標準化得点の推移

	国語A	国語B	算数A	算数B	平均	理科
H19	99.3	96.8	98.7	96.6	97.9	
H20	97.5	93.4	98.5	95.5	96.2	
H21	98.4	94.1	98.6	96.1	96.8	
H22	100.0	97.4	97.9	100.0	98.8	
H24	99.3	96.7	100.0	97.4	98.4	100.0
H25	100.9	100.0	100.0	100.0	100.2	
H26	99.1	98.2	99.2	98.7	98.8	
H27	100.0	100.0	99.2	96.6	99.0	97.9
H28	99.1	100.0	100.0	100.0	99.8	
H29	101.8	100.0	100.8	98.0	100.2	
H30	101.2	100.0	100.0	100.0	100.3	102.1



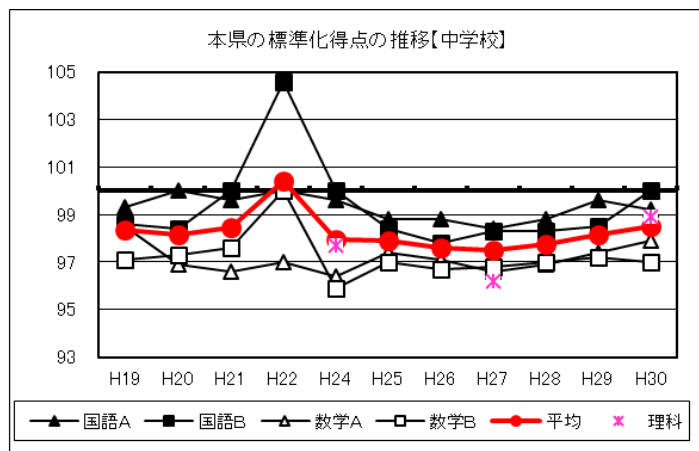
※ 「平均」は、理科を除いた4教科区分の標準化得点を平均した値である。

<中学校>

- 昨年度（理科はH27）との比較では、国語A、数学Bは下降し、国語B、数学A、理科は上昇した。
- 平成19年度（理科はH24）との比較では、国語B、理科において、上昇した。
- 4教科区分を平均すると、3年連続で上昇傾向である。

■ 本県の標準化得点の推移

	国語A	国語B	数学A	数学B	平均	理科
H19	99.3	98.6	98.5	97.1	98.4	
H20	100.0	98.4	96.9	97.3	98.2	
H21	99.6	100.0	96.6	97.6	98.5	
H22	100.0	104.6	97.0	100.0	100.4	
H24	99.6	100.0	96.4	95.9	98.0	97.7
H25	98.8	98.4	97.4	97.0	97.9	
H26	98.8	97.8	97.1	96.7	97.6	
H27	98.4	98.3	96.6	96.8	97.5	96.2
H28	98.8	98.3	96.9	97.0	97.8	
H29	99.6	98.5	97.4	97.2	98.2	
H30	99.2	100.0	97.9	97.0	98.5	98.9



※ 「平均」は、理科を除いた4教科区分の標準化得点を平均した値である。

(2) 地区別の標準化得点の推移

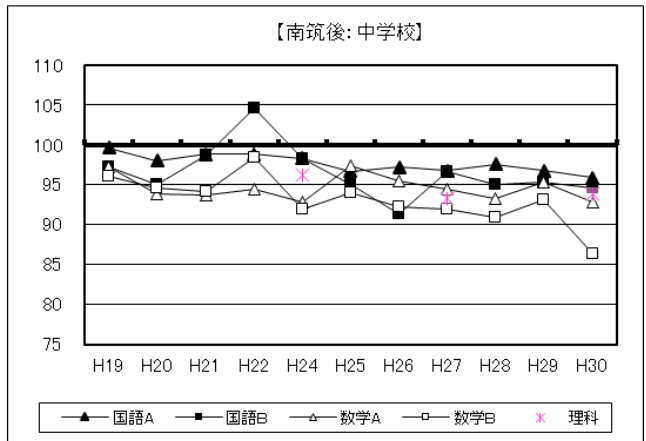
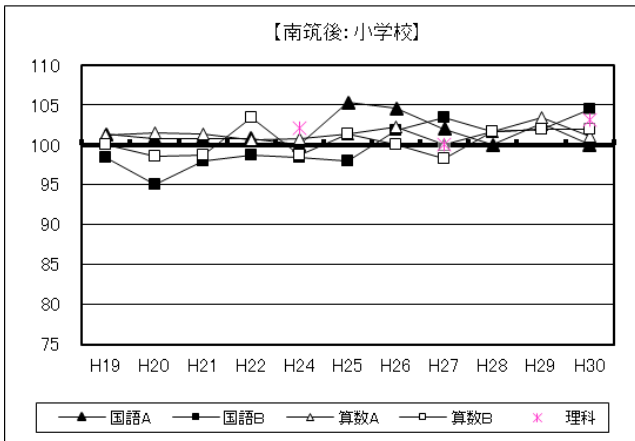
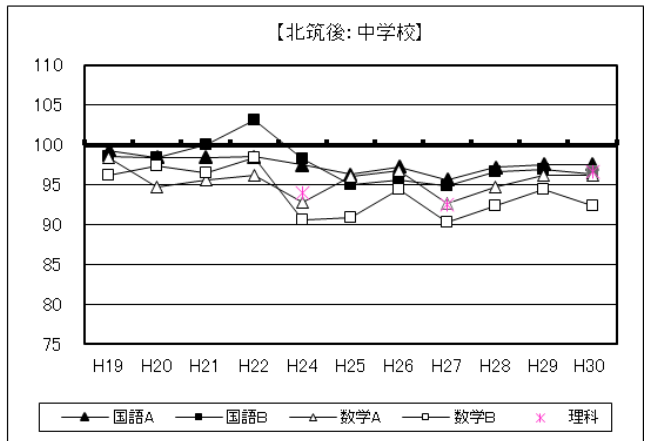
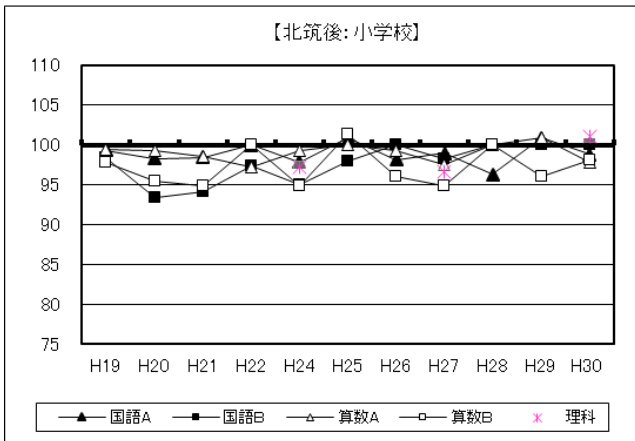
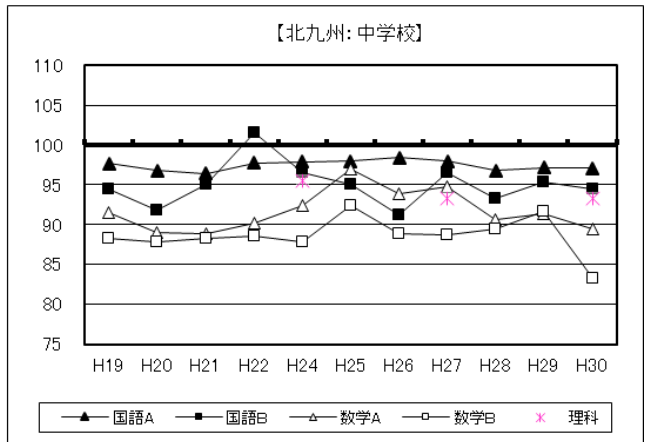
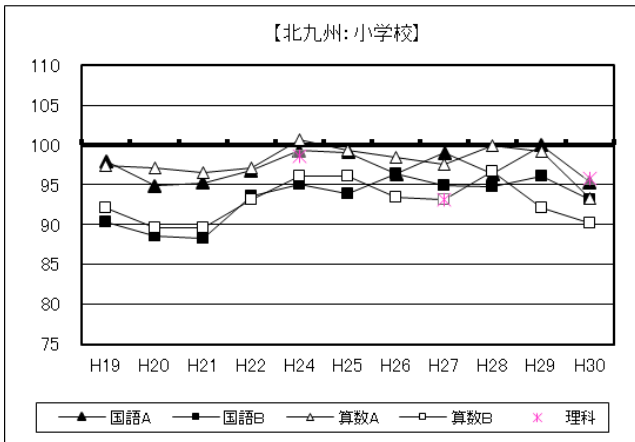
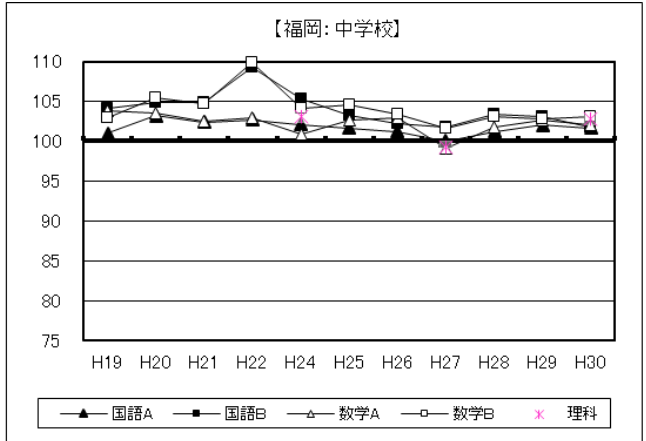
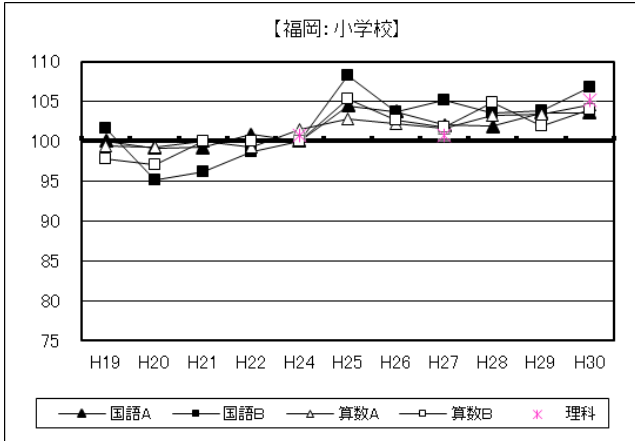
- 7つの地区間の標準化得点の最大・最小の差は、小学校では国語Bで15.9ポイントと最も大きく、中学校では数学Bで21.2ポイントと最も大きい。
- 最大・最小の差は、A問題（主として「知識」に関する問題）よりも、B問題（主として「活用」に関する問題）の方が大きい。
- 最大・最小の差は、算数／数学において、小学校に比べ中学校の方が大きい。また、中学校では国語より数学の方が大きい。
- 平成19年度（理科はH24）との比較では、7つの地区間の最大・最小の差は、小学校では国語Bで、中学校では国語A、国語B、数学A、理科で縮小した。

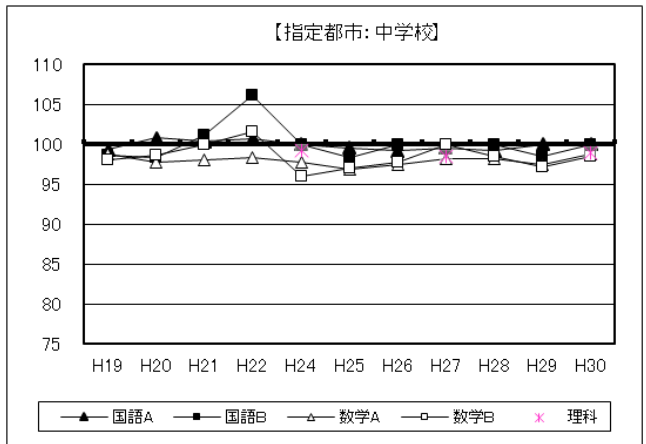
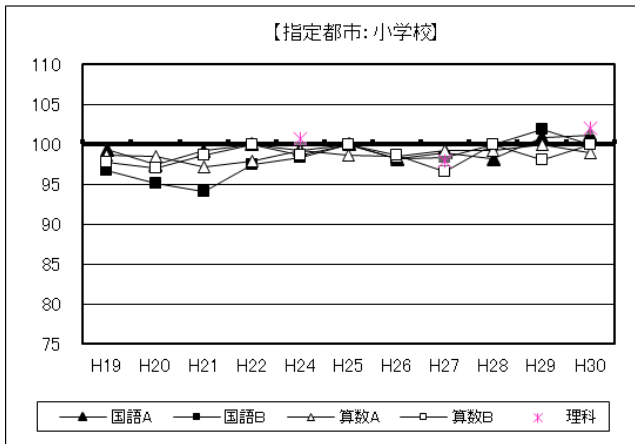
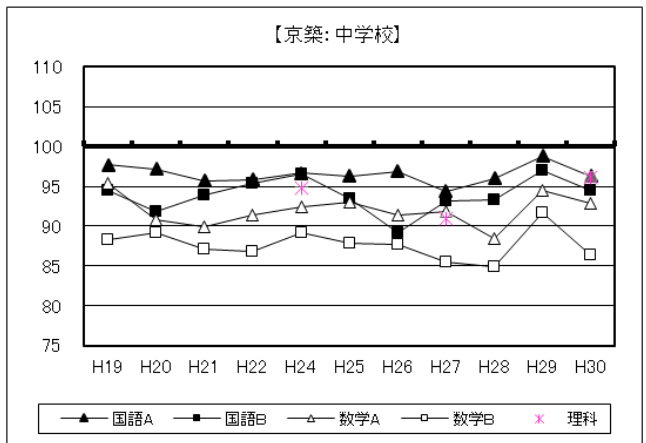
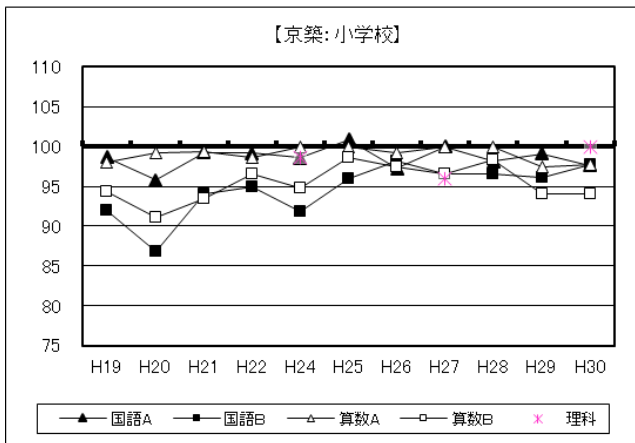
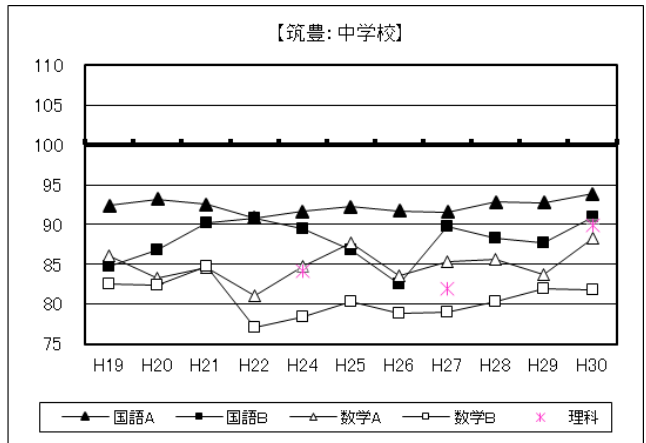
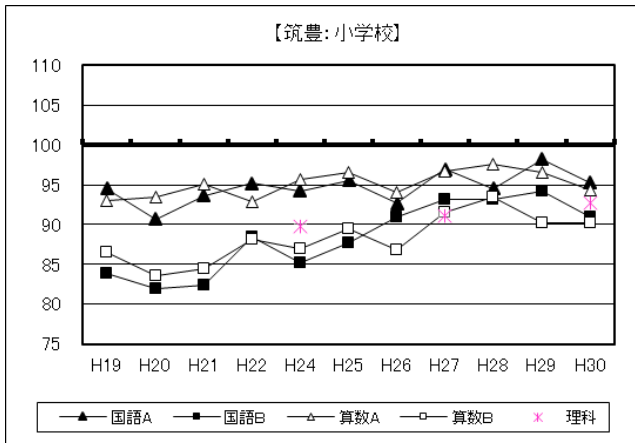
■ 地区別の標準化得点と最大・最小の差

	小学校					中学校				
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
福岡地区	103.5	106.8	104.5	103.9	105.2	101.6	101.8	102.1	103.0	102.8
北九州地区	95.3	93.2	93.3	90.2	95.8	97.1	94.5	89.5	83.3	93.3
北筑後地区	98.8	100.0	97.8	98.0	101.0	97.5	96.4	96.2	92.4	96.6
南筑後地区	100.0	104.5	101.1	102.0	103.1	95.9	94.5	92.9	86.4	93.9
筑豊地区	95.3	90.9	94.4	90.2	92.7	93.8	90.9	88.2	81.8	89.9
京築地区	97.6	97.7	97.8	94.1	100.0	96.3	94.5	92.9	86.4	96.1
指定都市	101.2	100.0	98.9	100.0	102.1	100.0	100.0	98.7	98.5	98.9
最大・最小の差 (H30)	8.2	○15.9	11.2	13.7	12.5	○7.8	○10.9	○13.9	21.2	○12.9
H29	5.4	9.6	6.8	11.8		9.3	15.4	18.9	20.9	
H28	7.3	10.3	5.6	11.5		8.4	15.0	16.1	22.7	
H27	5.1	11.9	5.0	10.2	9.6	8.4	11.9	13.8	22.6	17.2
H26	11.9	12.7	8.3	15.8		9.5	19.6	19.4	24.4	
H25	9.7	20.4	6.1	15.8		9.4	16.4	14.8	24.2	
H24	5.8	14.8	5.7	13.0	12.4	10.4	15.8	16.1	25.7	18.8
H22	5.6	10.2	7.8	15.3		11.8	18.4	21.9	32.8	
H21	7.1	15.6	6.3	15.6		9.9	14.7	17.9	20.0	
H20	10.1	13.1	8.1	14.9		10.0	18.0	20.2	23.0	
H19	6.8	17.7	8.4	13.5		8.6	19.5	17.8	20.4	

※ ○印：H19（理科はH24）より地区間の差が縮小したことを示す。

■ 標準化得点の推移



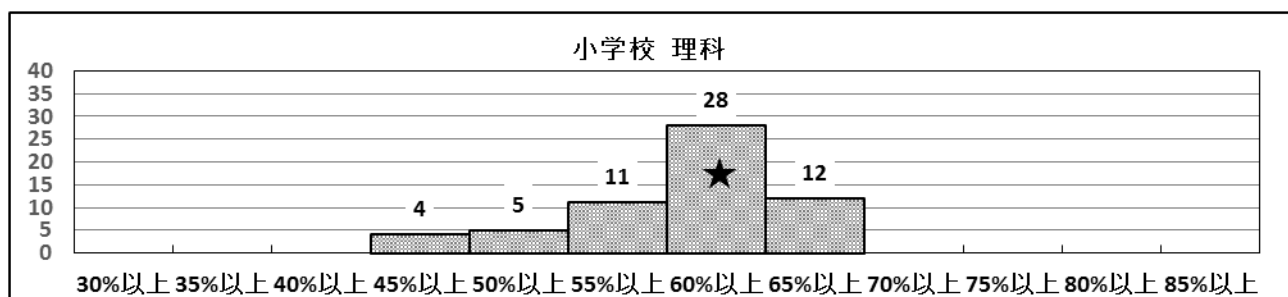
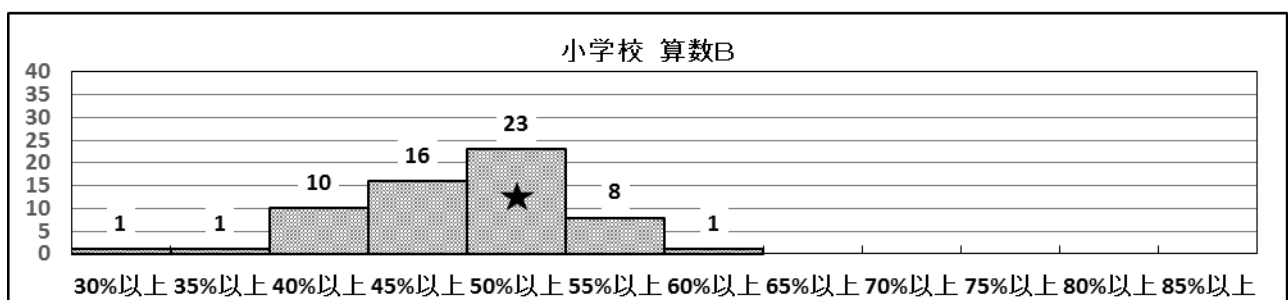
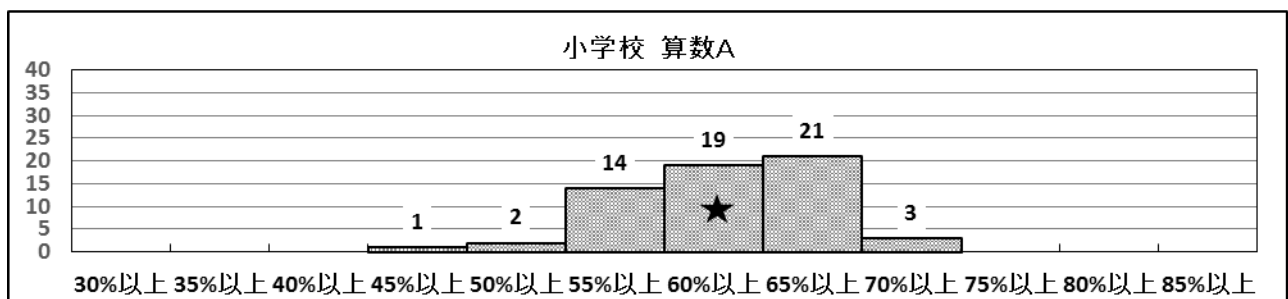
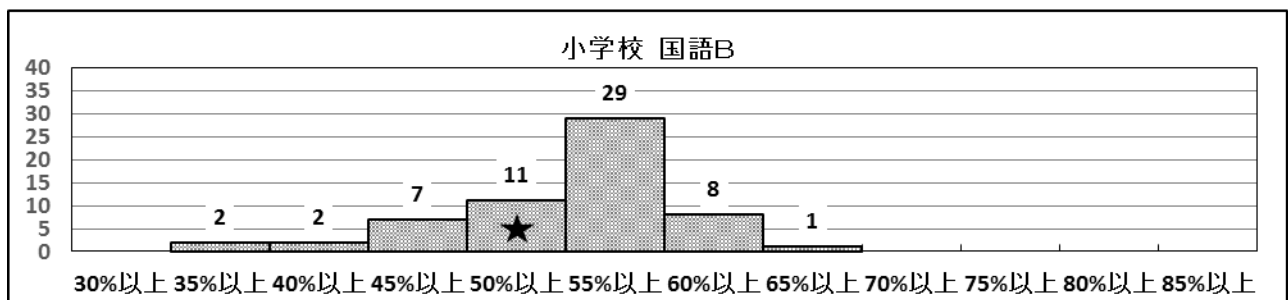
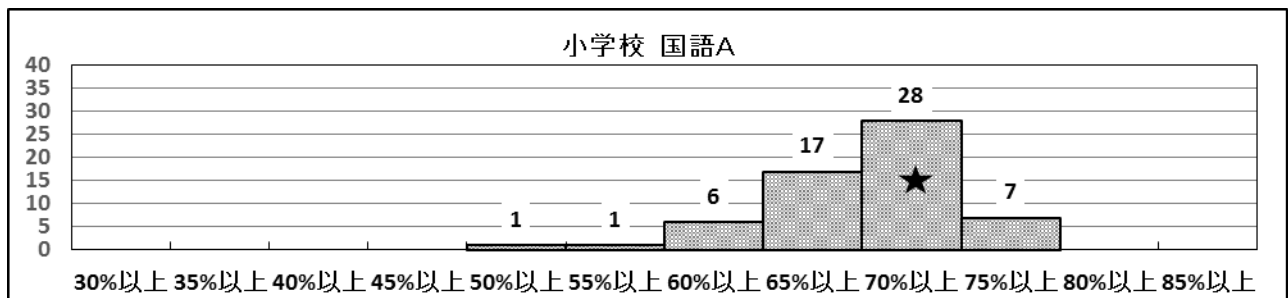


4 県全体の平均正答率度数分布（市町村単位）

※ グラフの左軸は市町村教育委員会の数を示している。

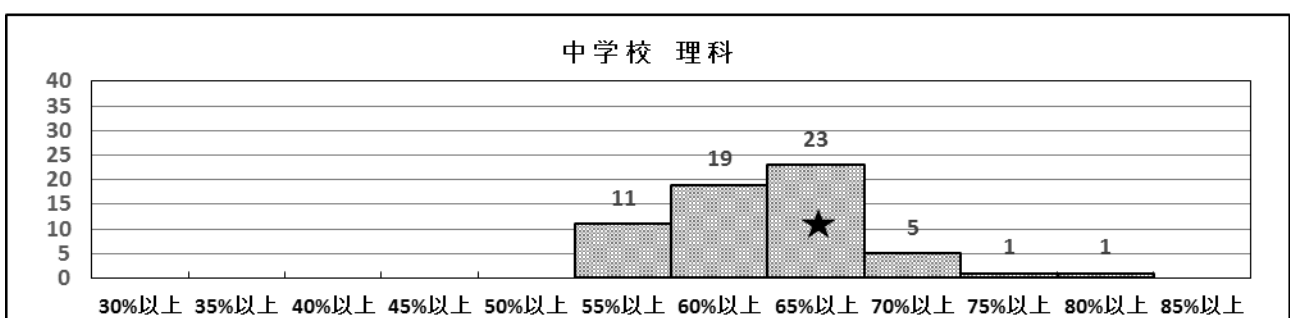
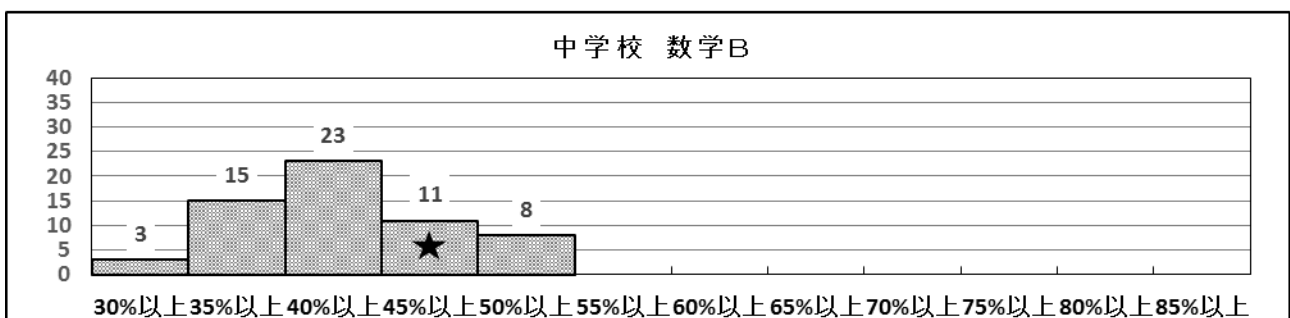
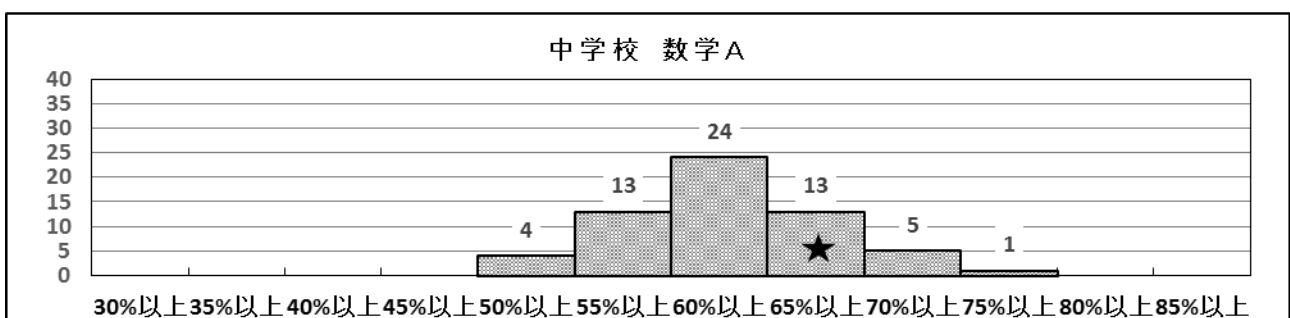
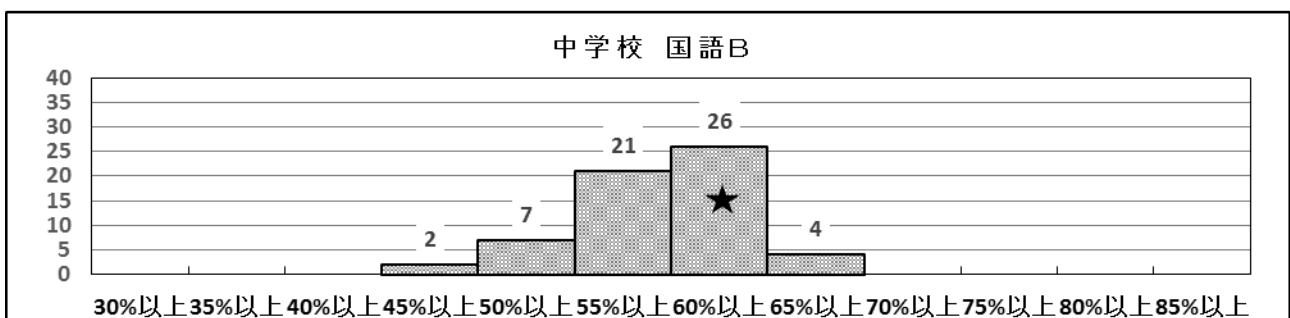
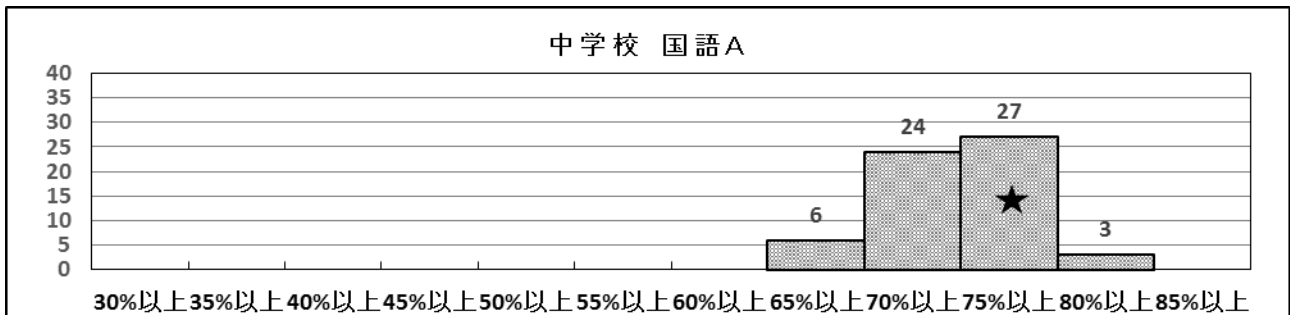
■ 小学校

- 国語B及び算数Aは、全国の平均正答率のある階級（★印）よりも1つ高い階級に最も多くの市町村が集まっており、その他の教科区分は、全国の平均正答率のある階級に、最も多くの市町村が集まっている。
- 全国の平均正答率のある階級を含め、それ以上の階級に位置する市町村の数は、国語Aでは35、国語Bで49、算数Aで43、算数Bで32、理科40であり、全市町村数（60）の半数以上となっている。



■ 中学校

- 国語及び理科は、全国の平均正答率のある階級（★印）に、最も多くの市町村が集まっており、数学は、全国の平均正答率のある階級より1つ下の階級に、最も多くの市町村が集まっている。
- 全国の平均正答率のある階級を含め、それ以上の階級に位置する市町村の数は、国語Aでは30、国語Bで30、数学Aで19、数学Bで19、理科30であり、国語、理科は全市町村数（60）の半数となっている。また、数学Bでは52市町村が正答率50%未満に分布している。



5 児童生徒の無解答の状況（地区別）

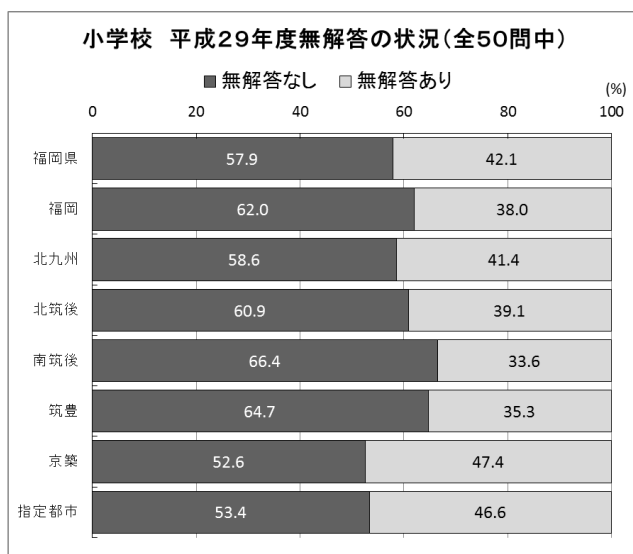
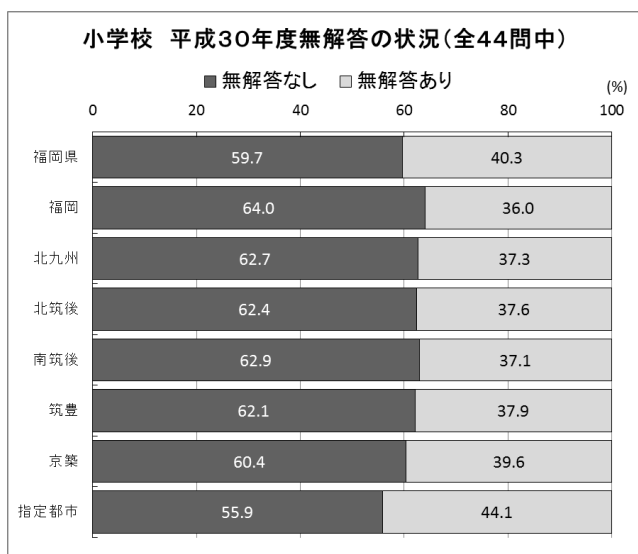
教科に関する調査（国語・算数／数学）における児童生徒の無解答の状況を地区別に分析する。

※ 小学校は全44問、中学校は全91問を対象とし、全問題中1問でも無解答がある場合は「無解答あり」としている。

(1) 全体の状況

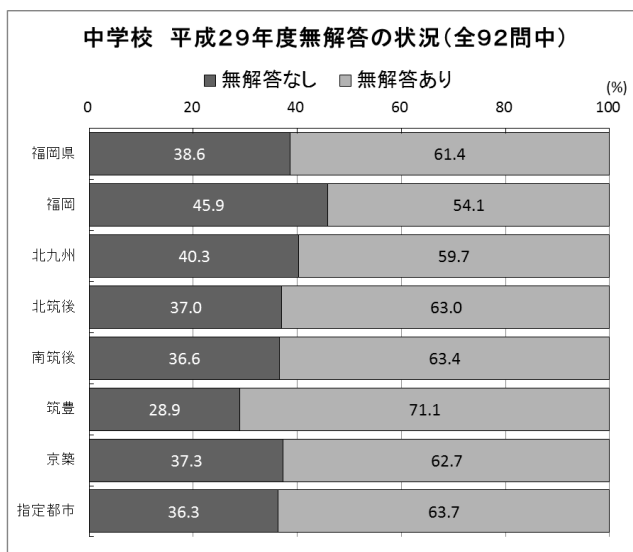
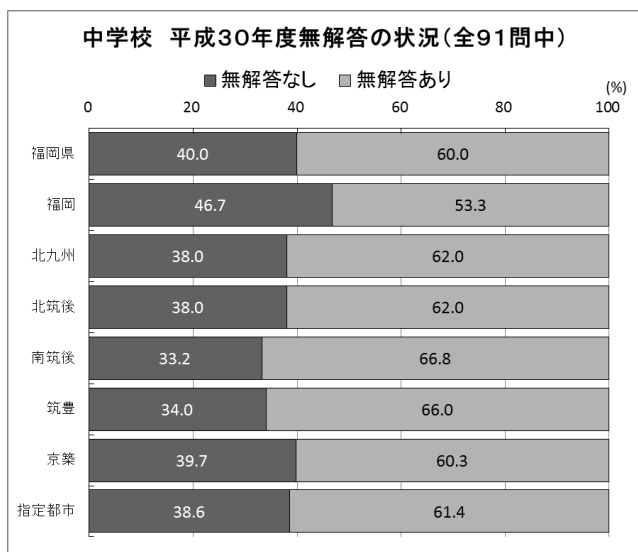
■ 小学校

- 平成29年度と比較すると、県全体では、「無解答なし」の児童の割合が増加した。
- 福岡、北九州、北筑後、京築、指定都市の地区において、「無解答なし」の児童の割合が増加した。



■ 中学校

- 平成29年度と比較すると、県全体では、「無解答なし」の生徒の割合が増加した。
- 福岡、北筑後、筑豊、京築、指定都市の地区において、「無解答なし」の生徒の割合が増加した。



(2) 教科区分ごとの「無解答なし」の児童生徒の状況

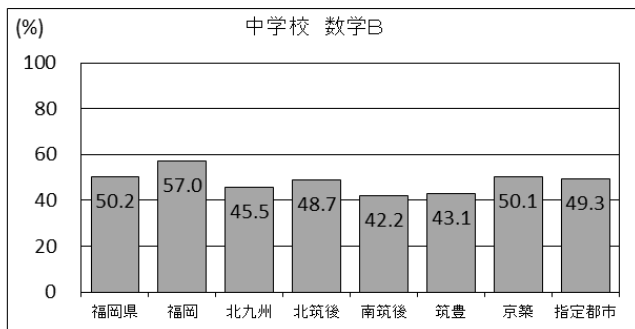
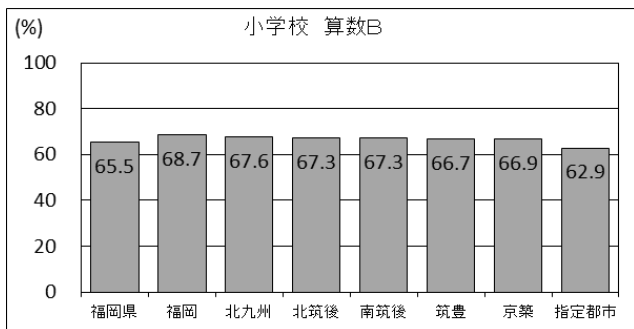
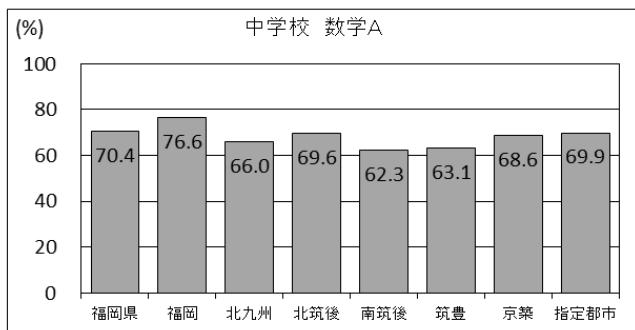
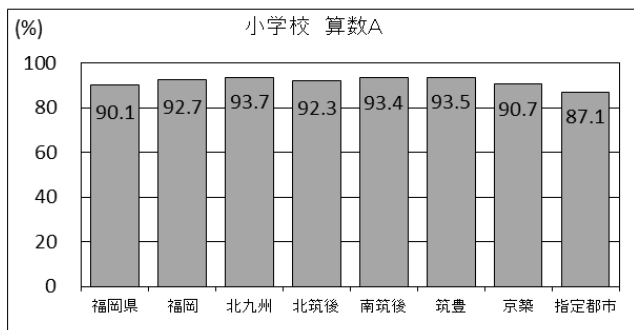
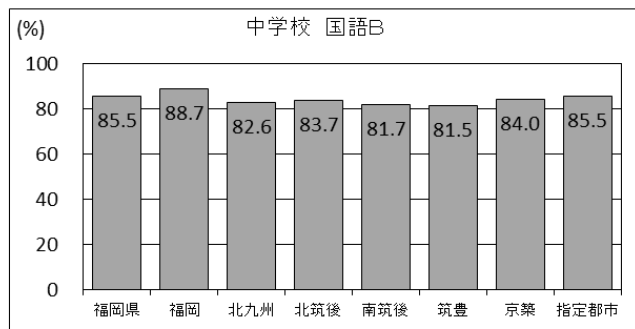
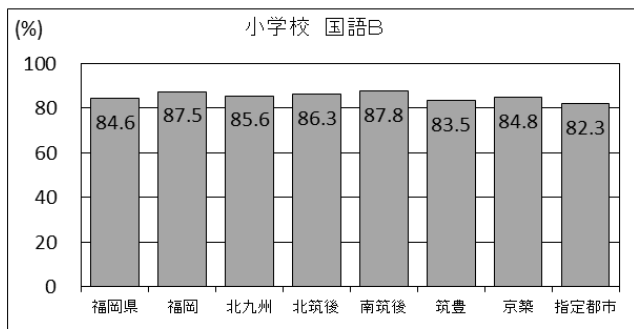
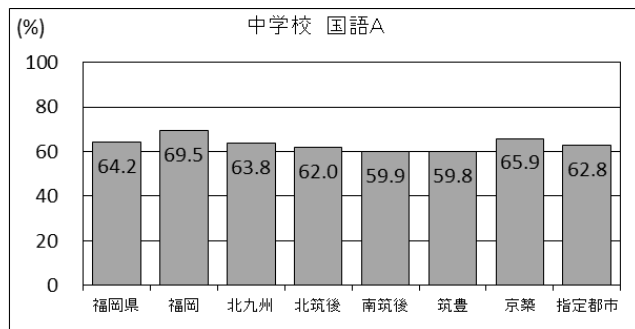
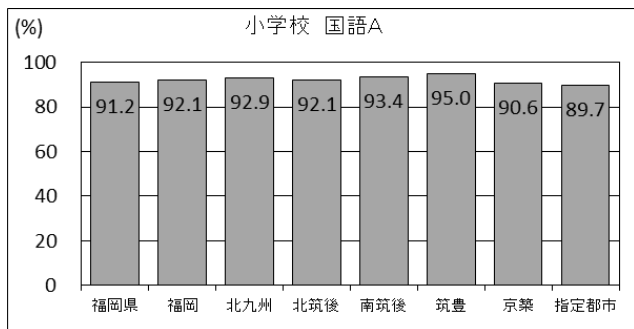
■ 小学校

○ 県全体では、国語、算数ともにA問題の方がB問題より「無解答なし」の児童の割合が大きい。

■ 中学校

○ 県全体では、国語はB問題の方が、数学はA問題の方が「無解答なし」の生徒の割合が大きい。

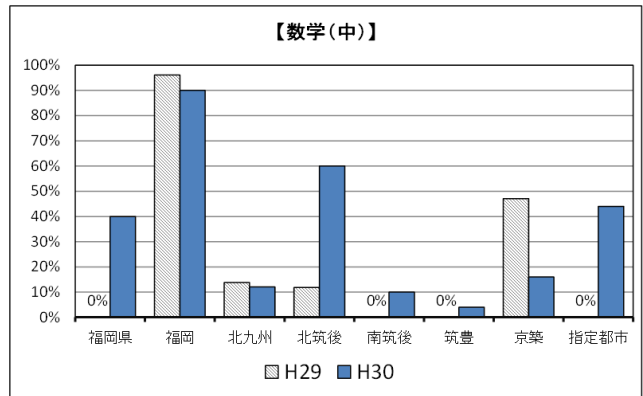
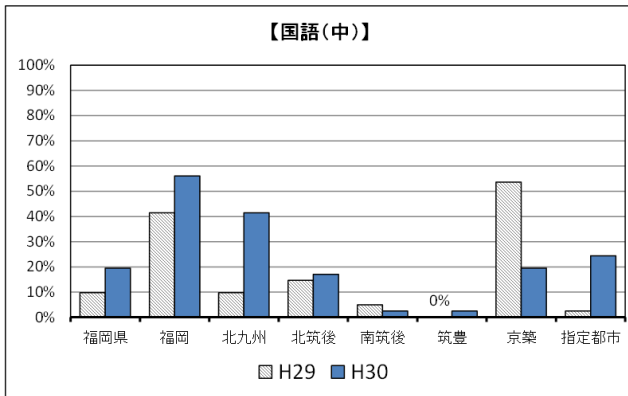
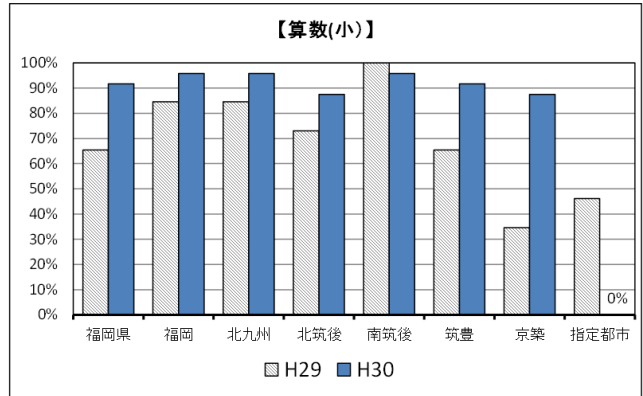
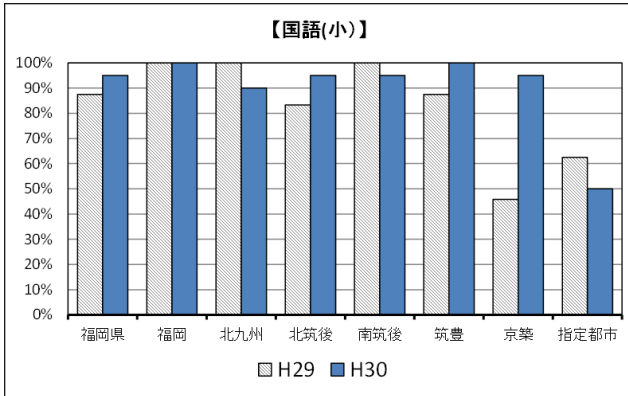
各教科区分における「無解答なし」の児童生徒の割合



(3) 無解答率が全国平均より低い問題数の全問題数に占める割合

国語及び算数／数学の各設問の無解答率が全国平均より低い問題数の全問題数に占める割合を県と地区別、本年度と昨年度で比較した。

- 平成29年度と比較すると、小学校では、無解答率が全国平均より低い問題数の割合が増加しており、改善が見られる。
- 平成29年度と比較すると、中学校では、無解答率が全国平均より低い問題数の割合が増加しており、改善が見られる。

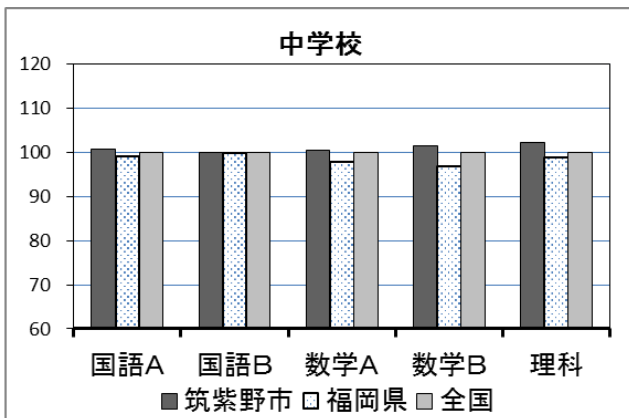
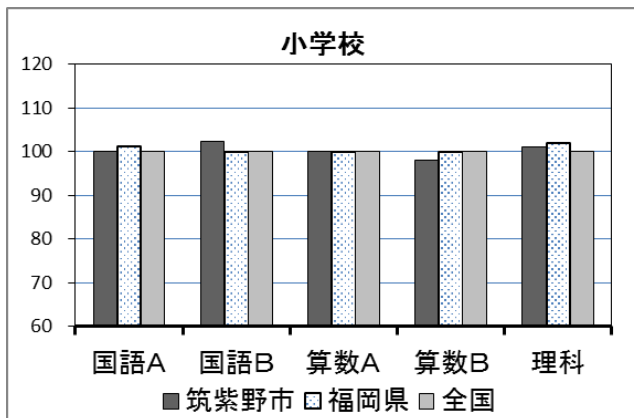


6 市町村別の状況

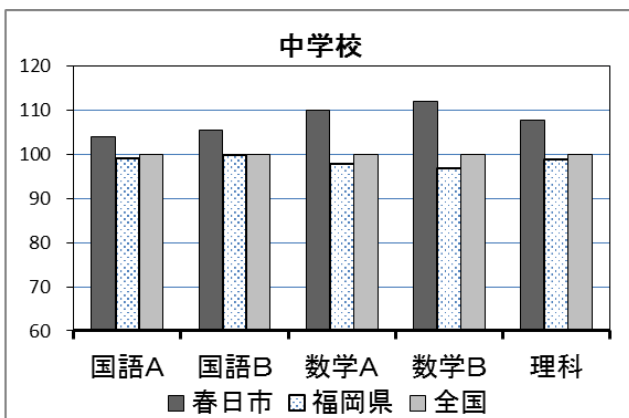
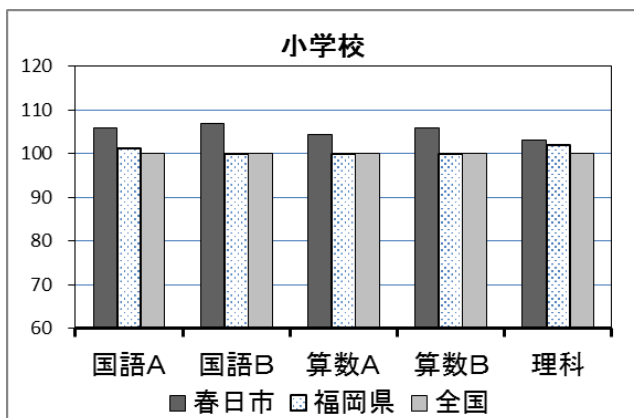
平成30年度は、全ての市町村教育委員会（小学校、中学校共に1校である市町村を除く）が公表に同意した。なお、市町村内の学校数が1小学校又は1中学校である場合は、当該学校を公表の対象外としている（以下「公表対象外」と表記する。）。したがって、東峰村、糸田町、赤村、吉富町・吉富町外一市中学校組合は1小学校、1中学校のため、掲載していない。

※ 標準化得点（各年度の全国の平均正答数をそれぞれ100となるよう標準化した得点のこと。）

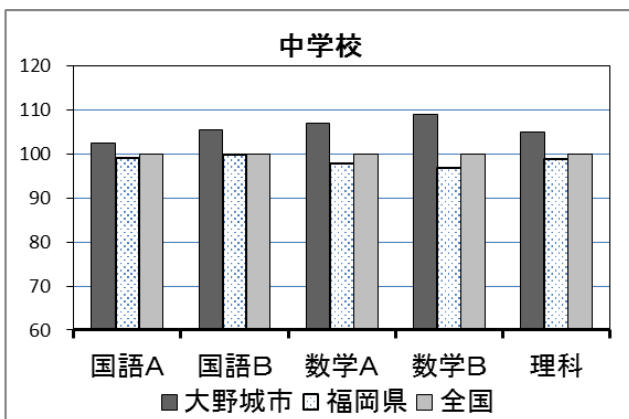
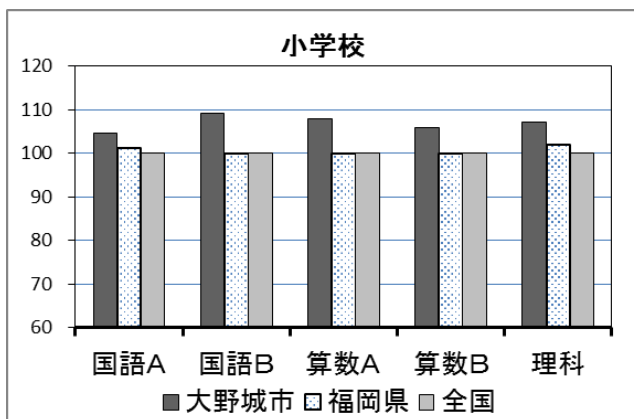
【筑紫野市】



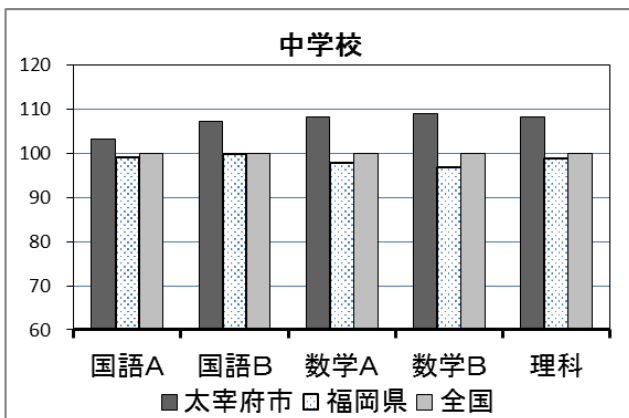
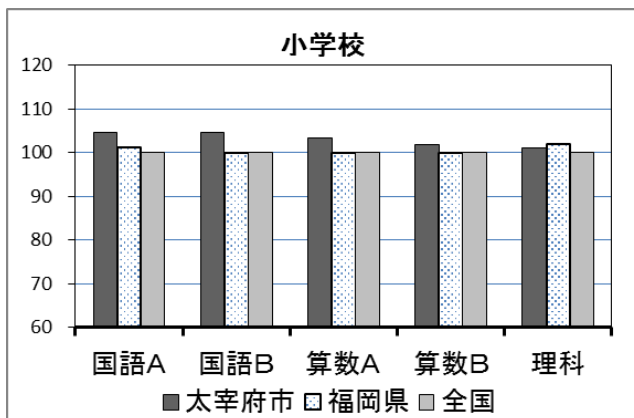
【春日市】



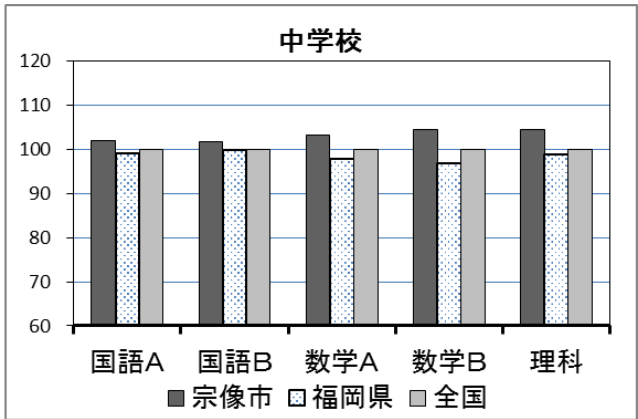
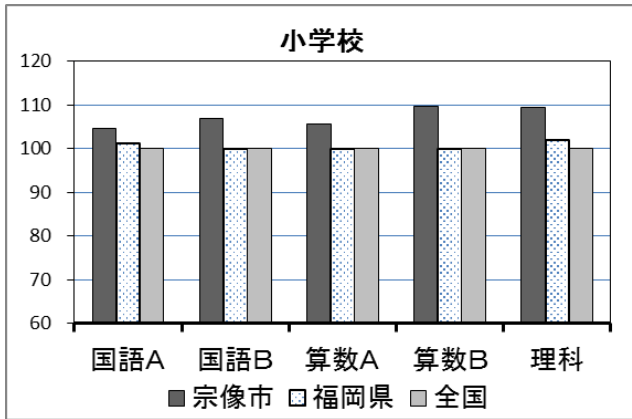
【大野城市】



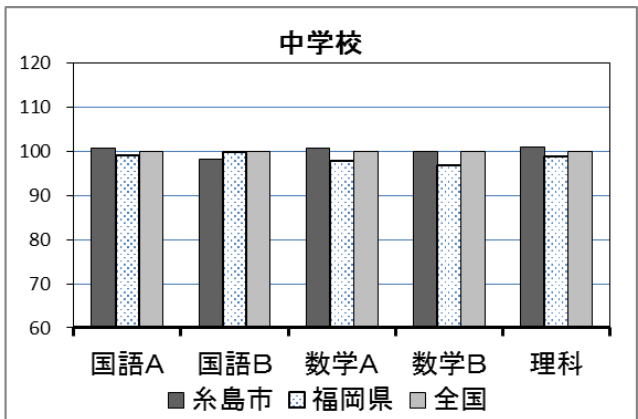
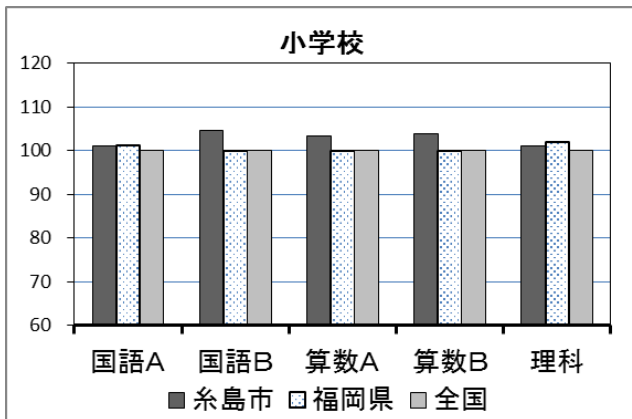
【太宰府市】



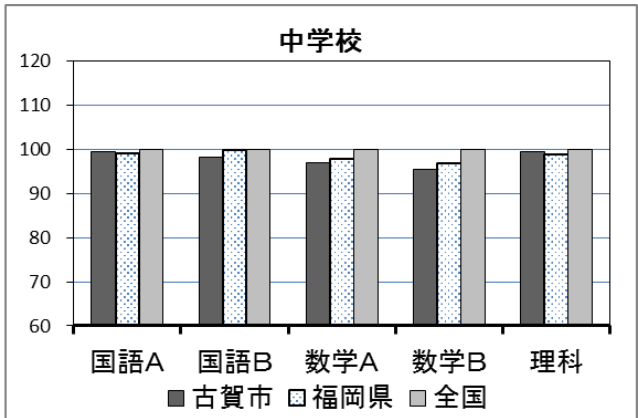
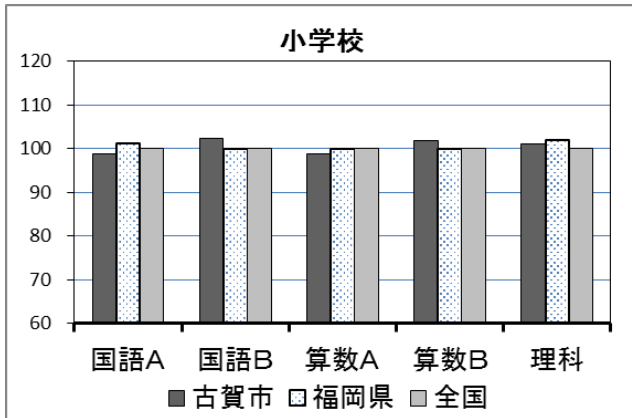
【宗像市】



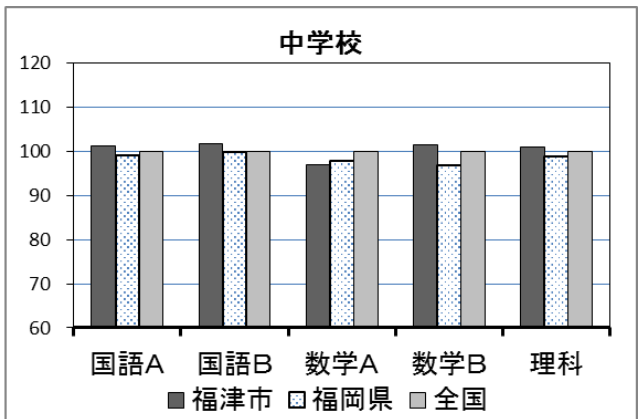
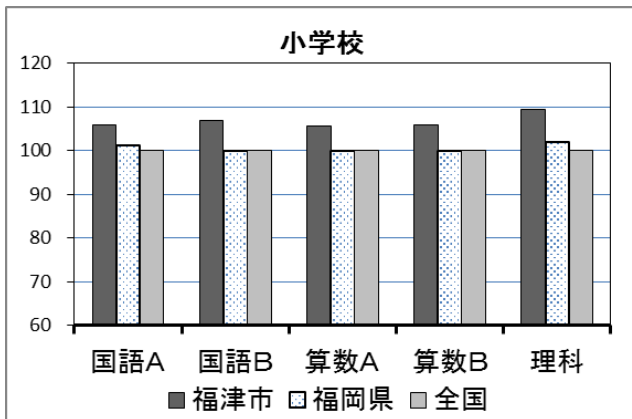
【糸島市】



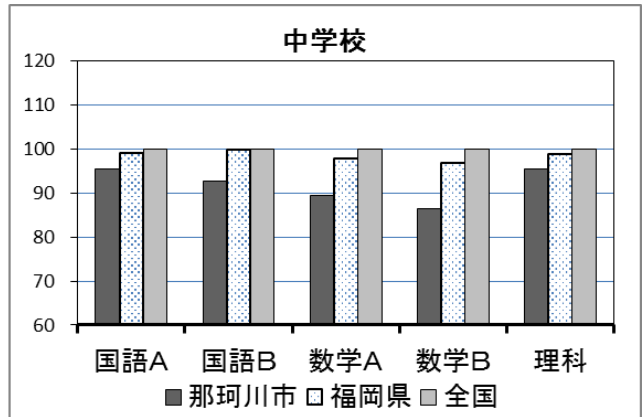
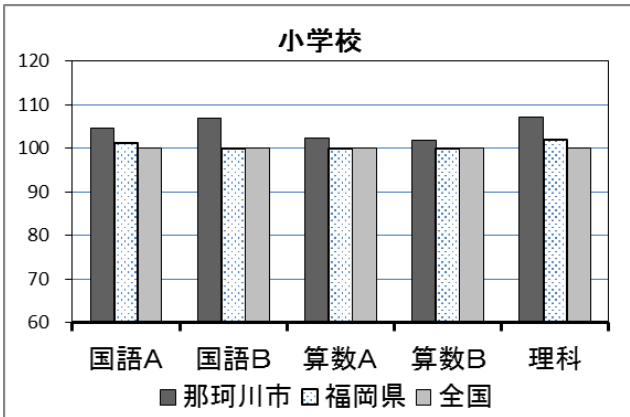
【古賀市】



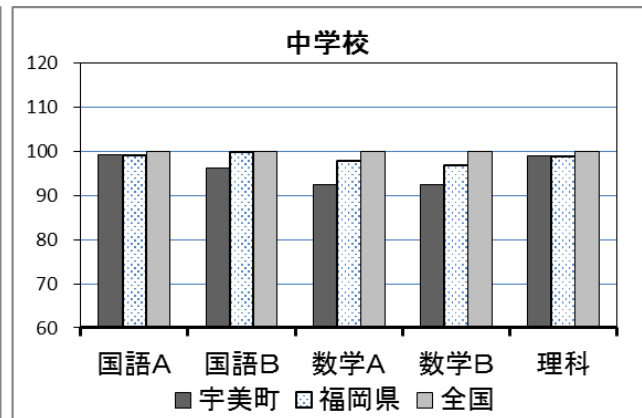
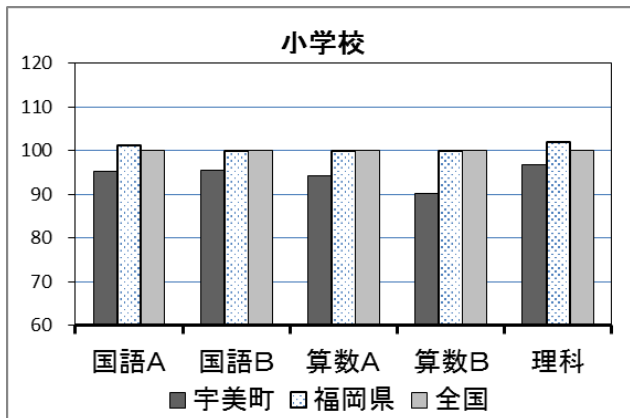
【福津市】



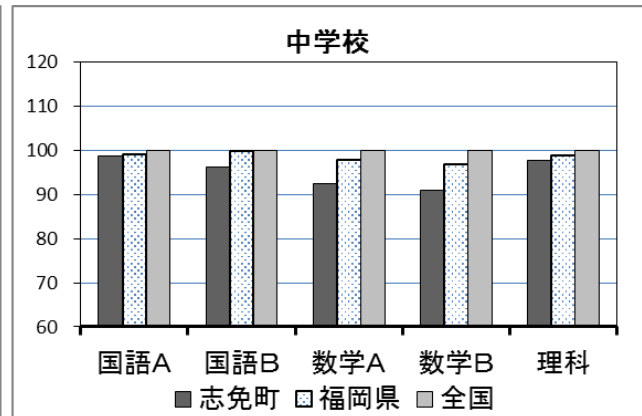
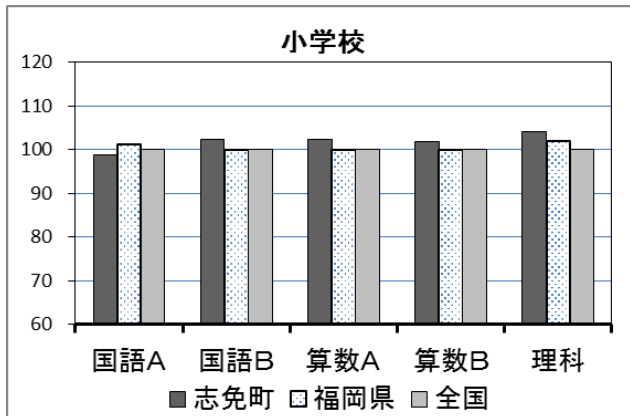
【那珂川市】



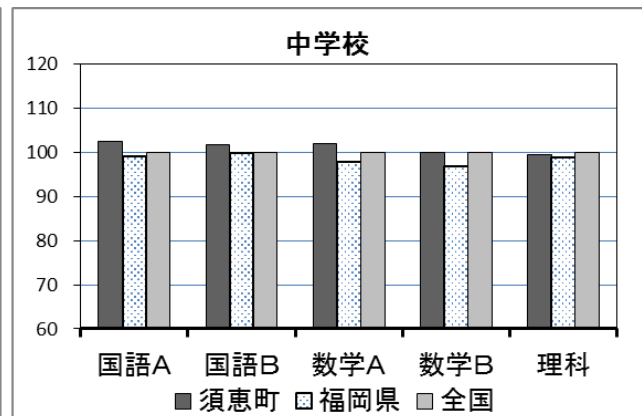
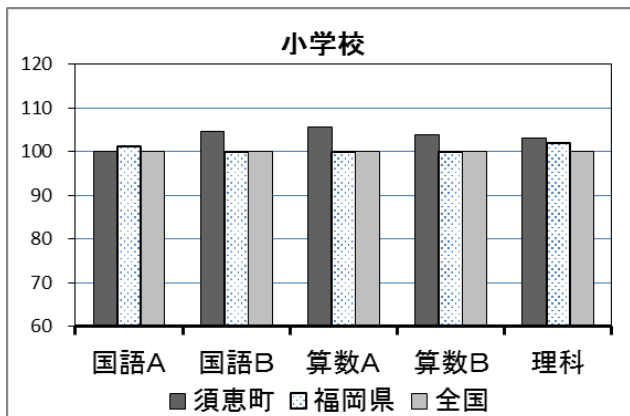
【宇美町】



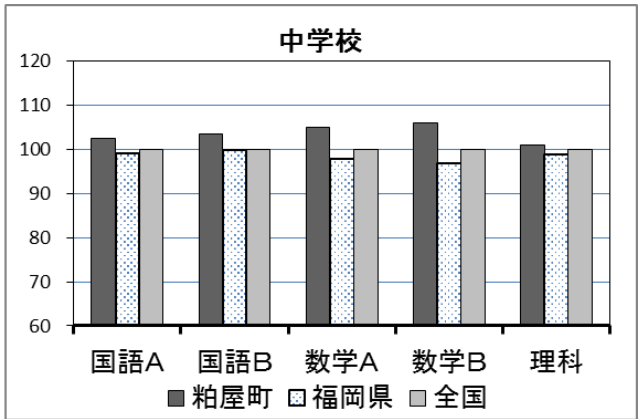
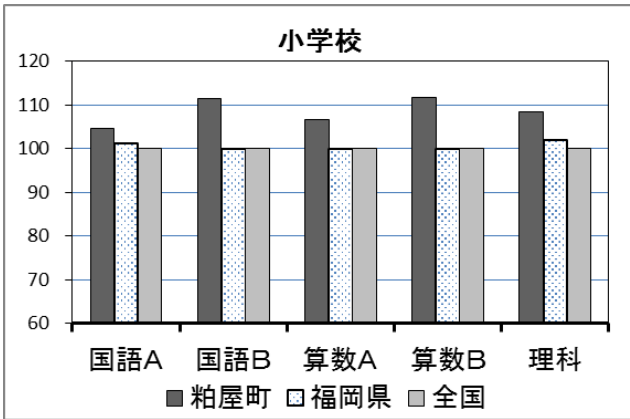
【志免町】



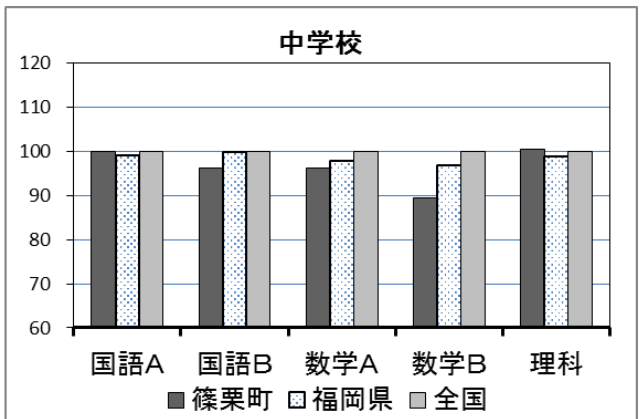
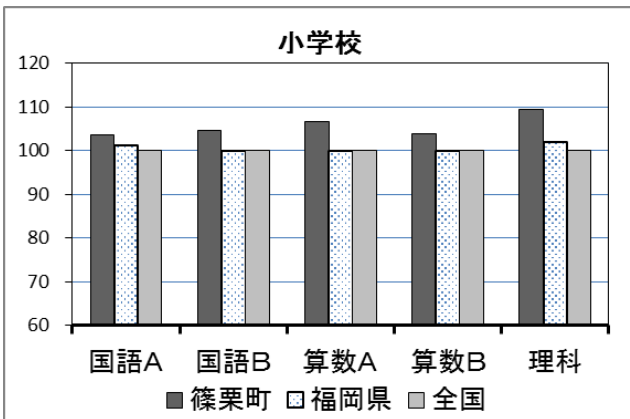
【須恵町】



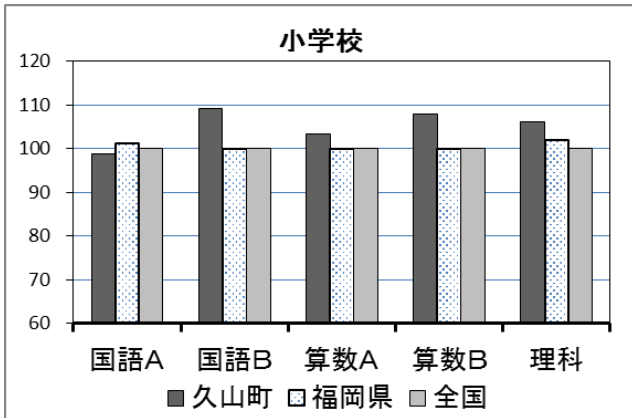
【粕屋町】



【篠栗町】

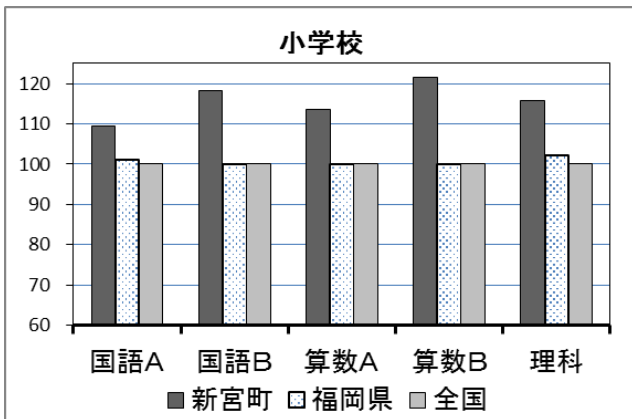


【久山町】



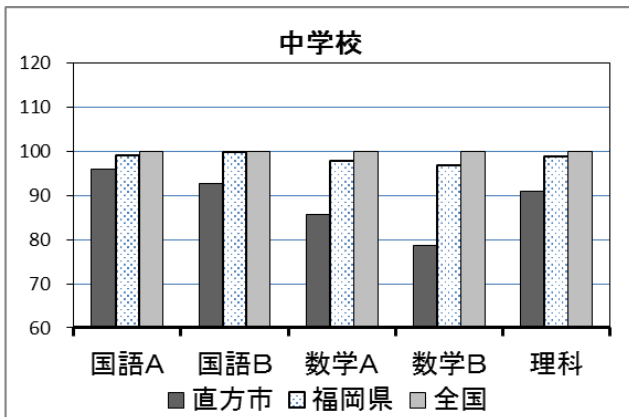
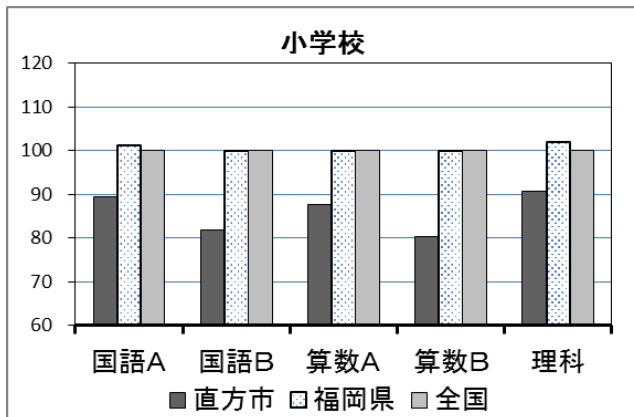
中学校は、公表対象外

【新宮町】

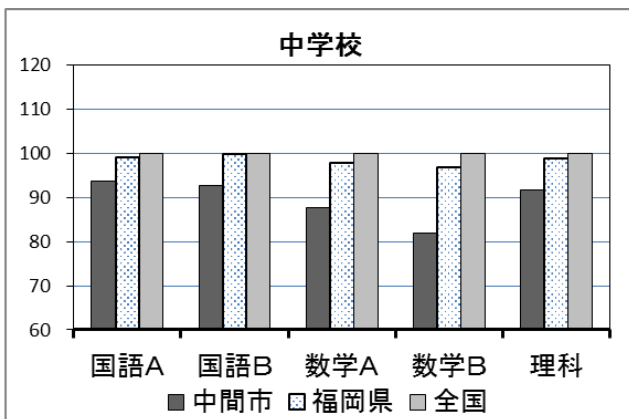
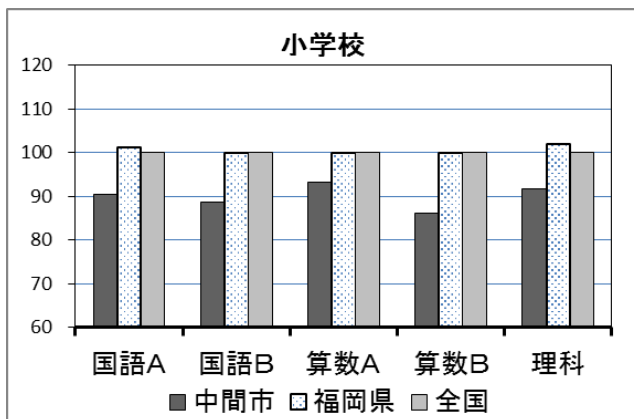


中学校は、公表対象外

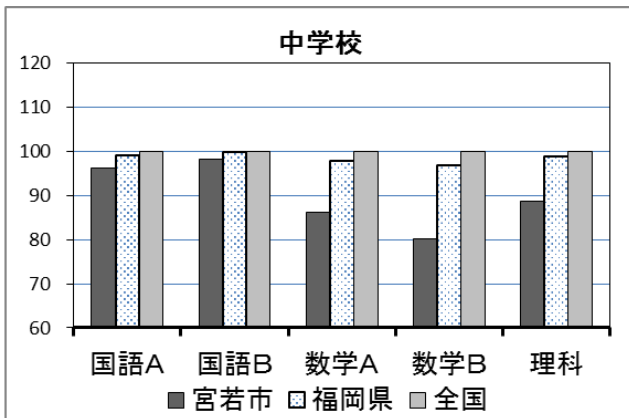
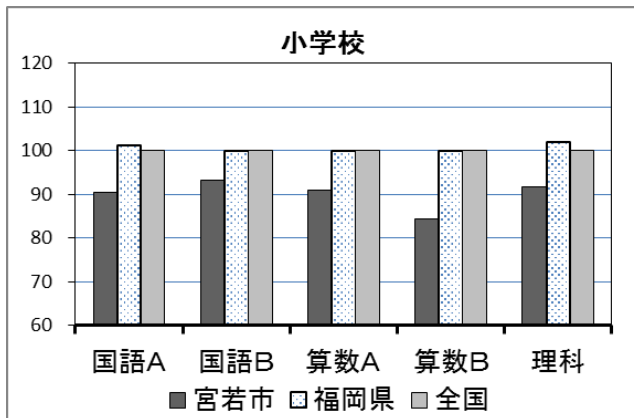
【直方市】



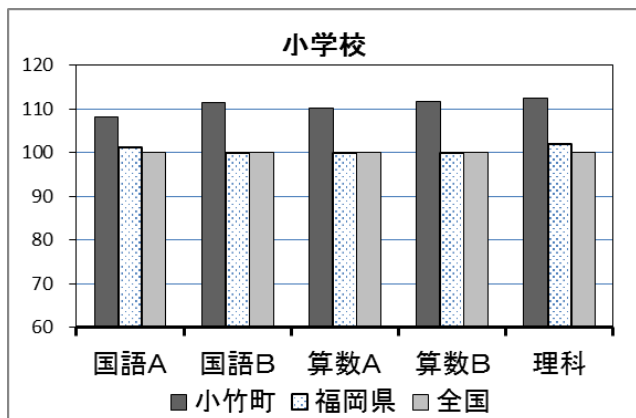
【中間市】



【宮若市】

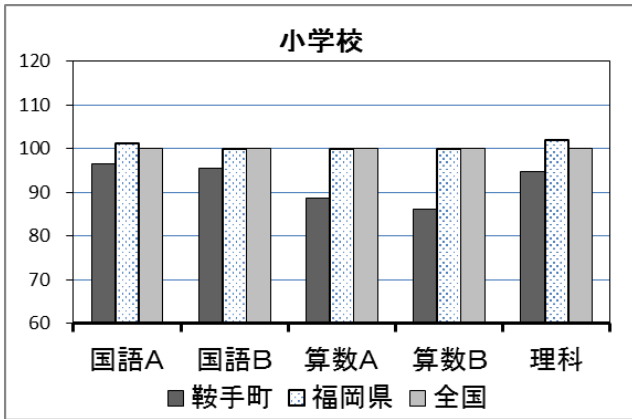


【小竹町】



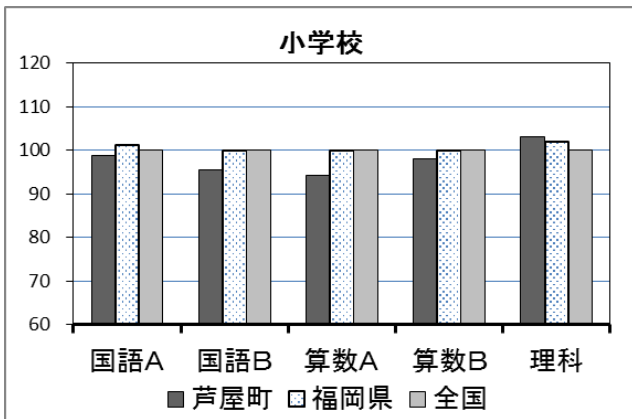
中学校は、公表対象外

【鞍手町】



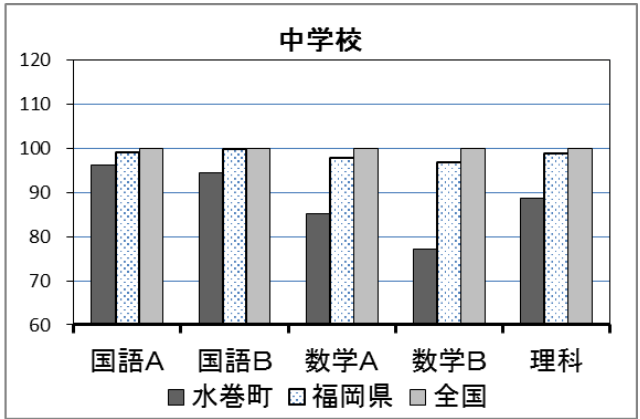
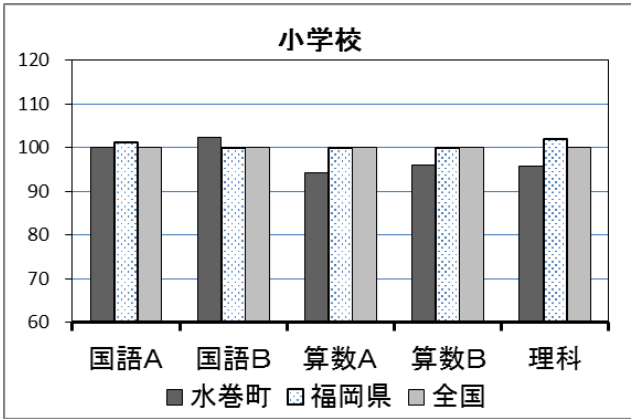
中学校は、公表対象外

【芦屋町】

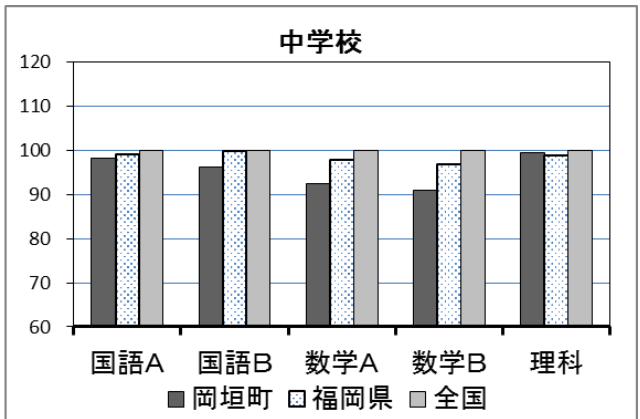
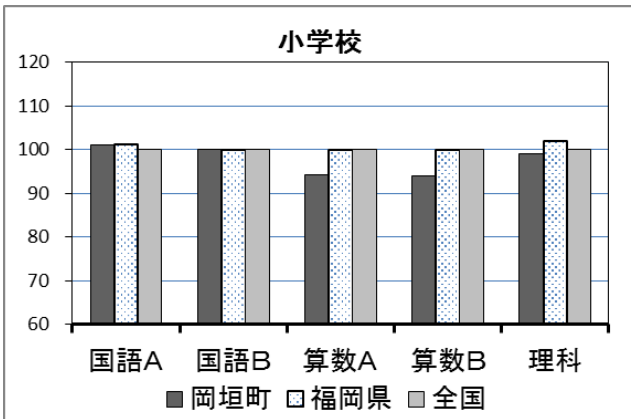


中学校は、公表対象外

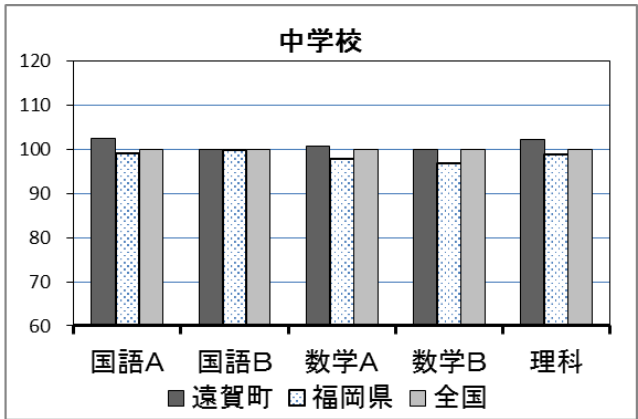
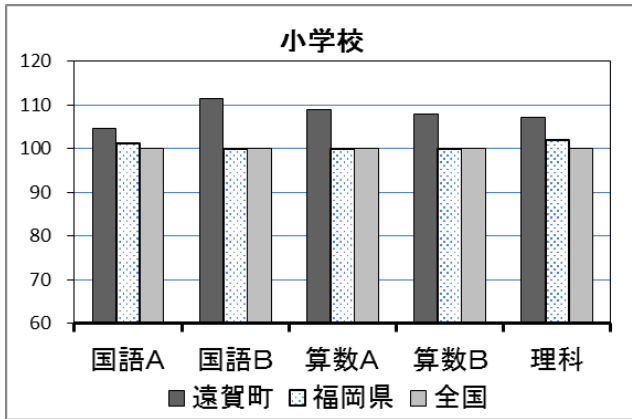
【水巻町】



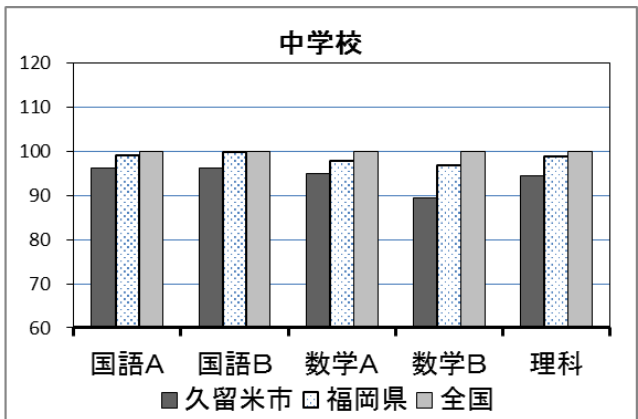
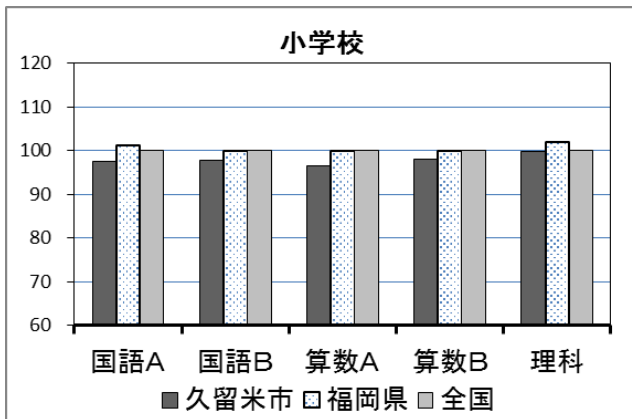
【岡垣町】



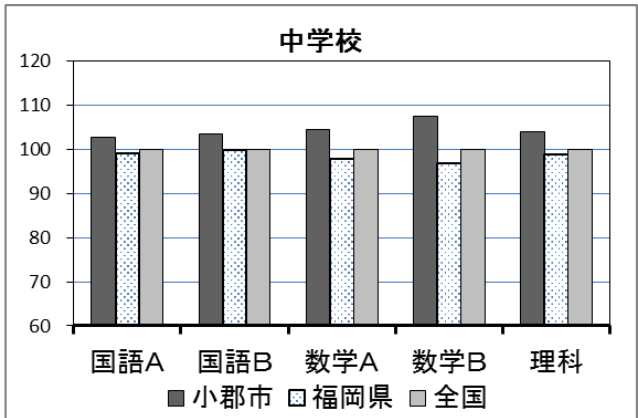
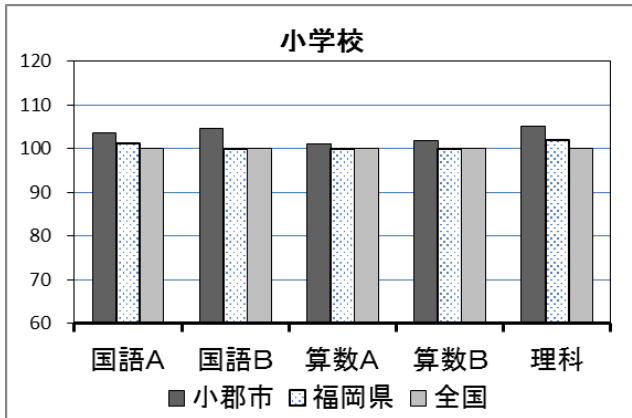
【遠賀町】



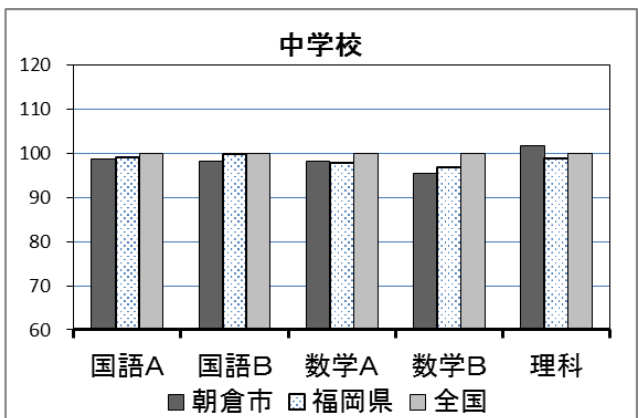
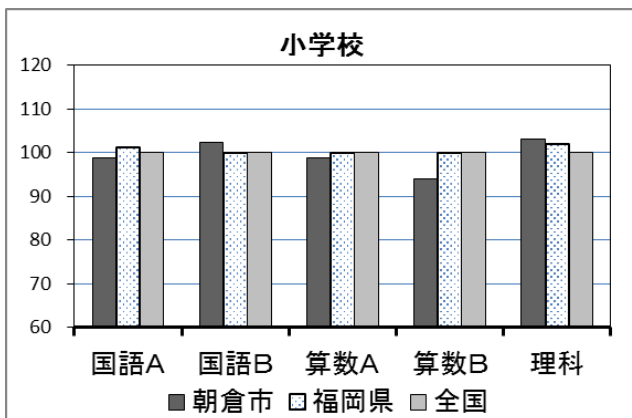
【久留米市】



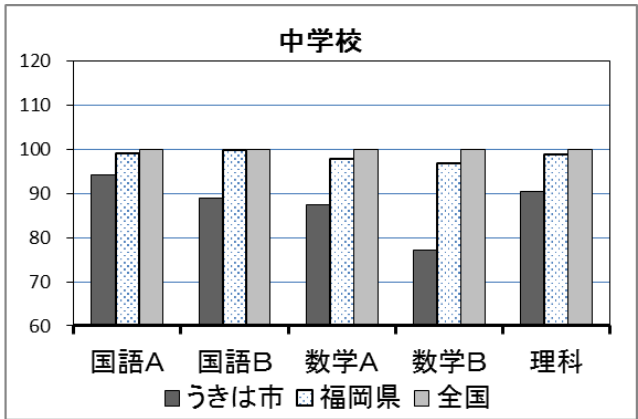
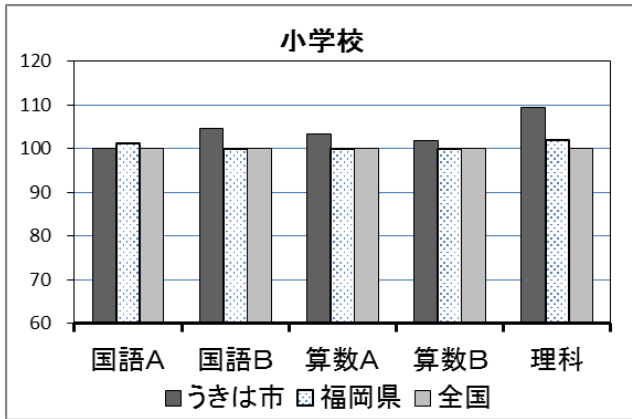
【小郡市】



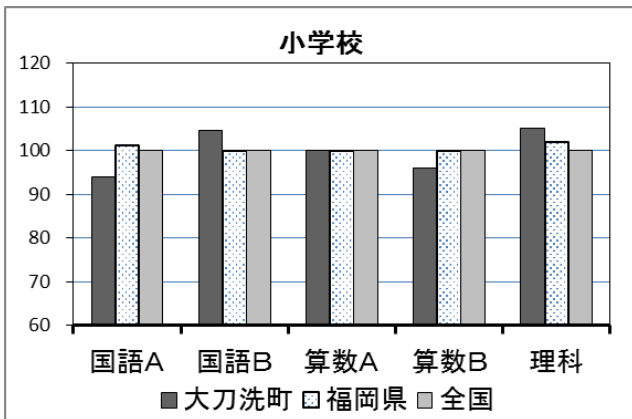
【朝倉市】



【うきは市】

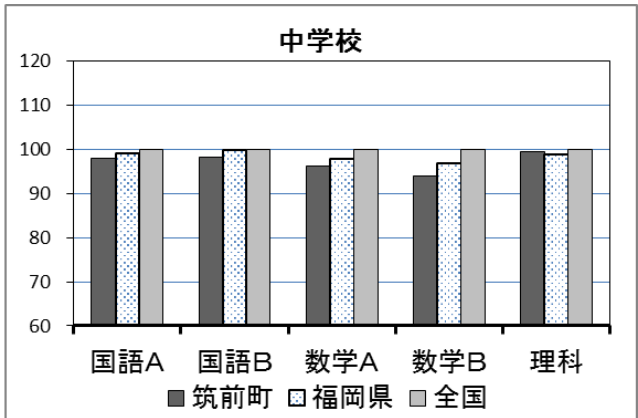
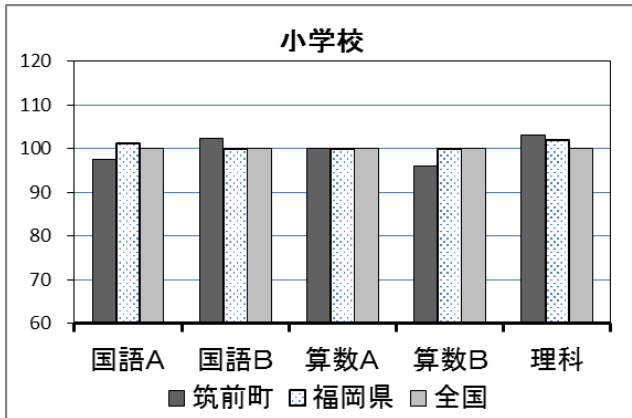


【大刀洗町】

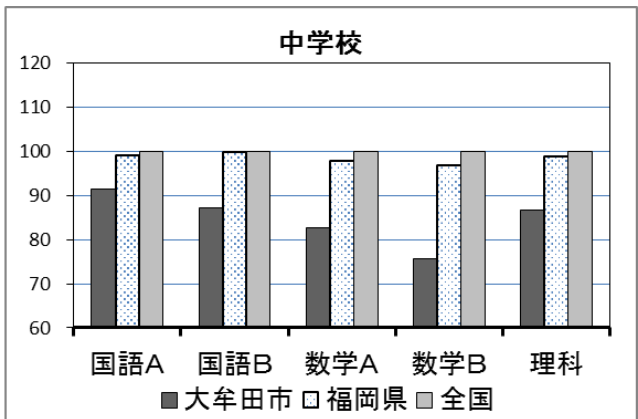
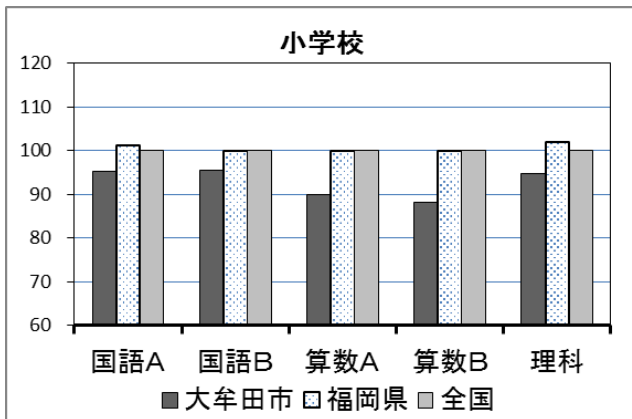


中学校は、公表対象外

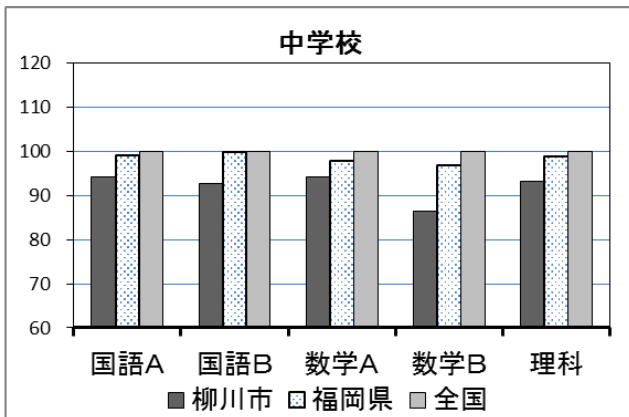
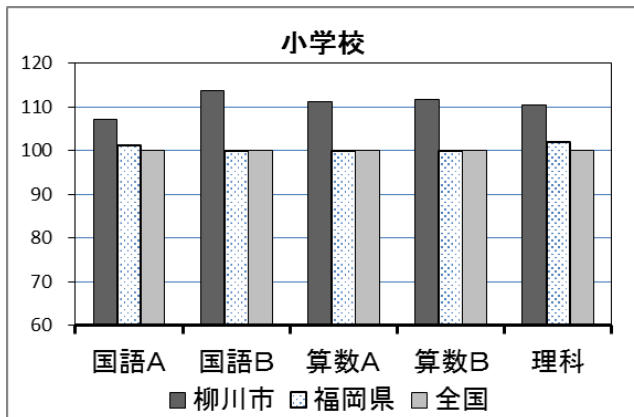
【筑前町】



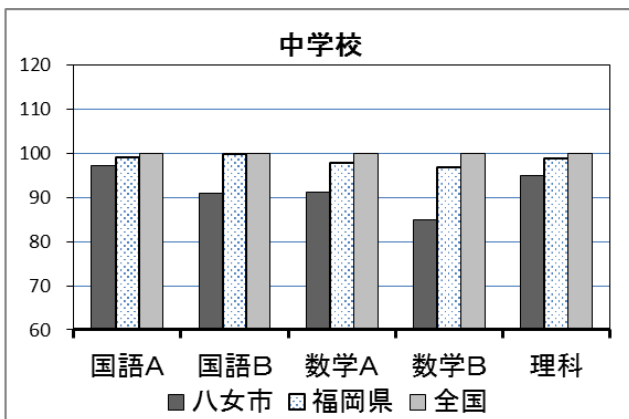
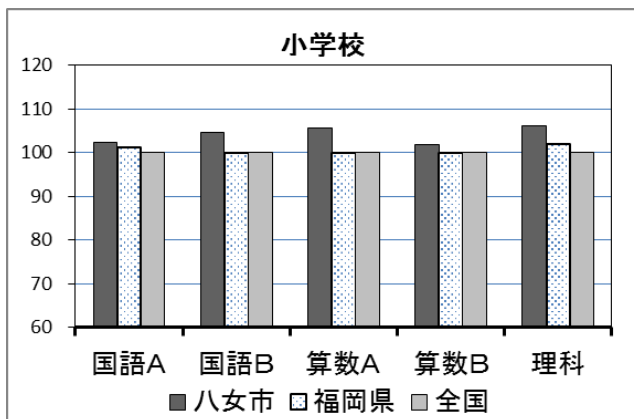
【大牟田市】



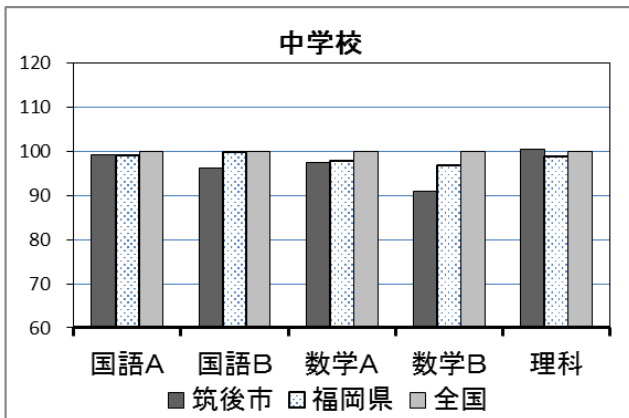
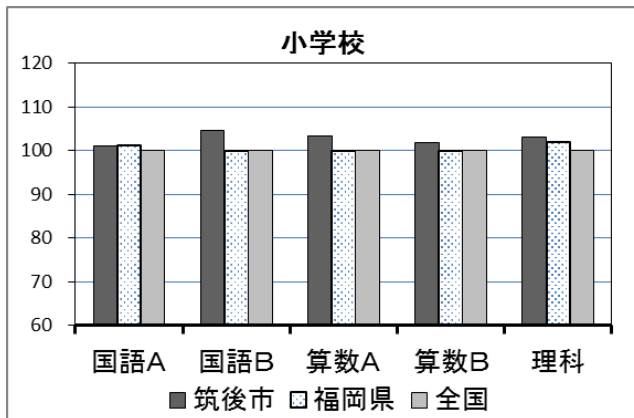
【柳川市】



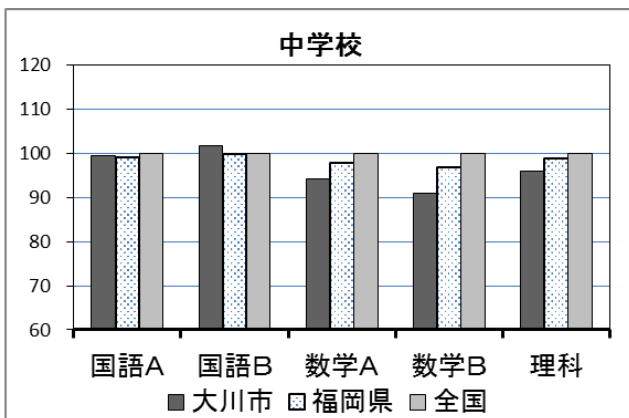
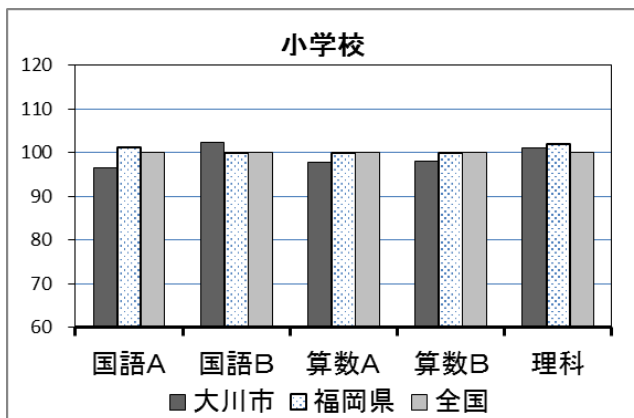
【八女市】



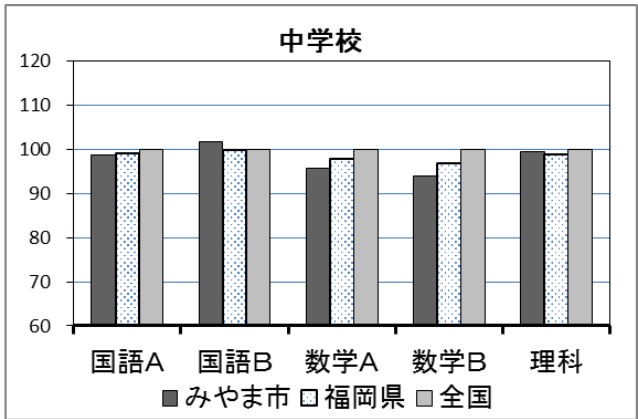
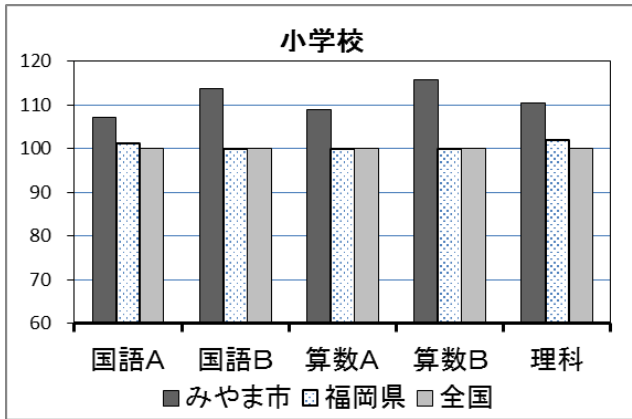
【筑後市】



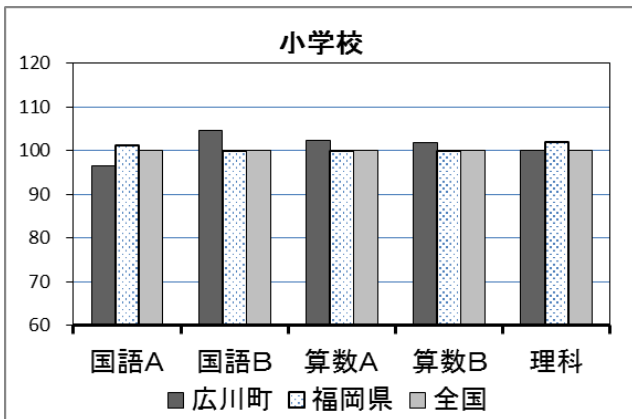
【大川市】



【みやま市】

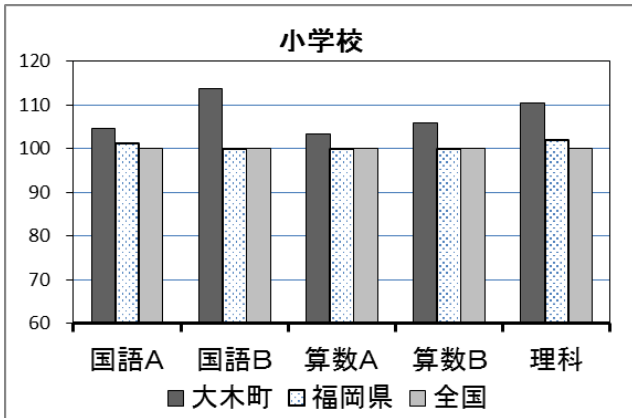


【広川町】



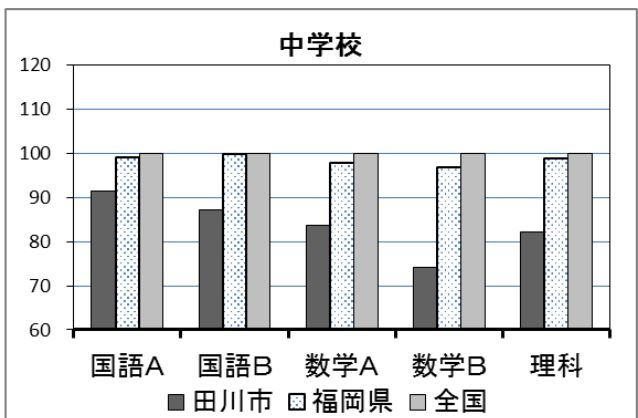
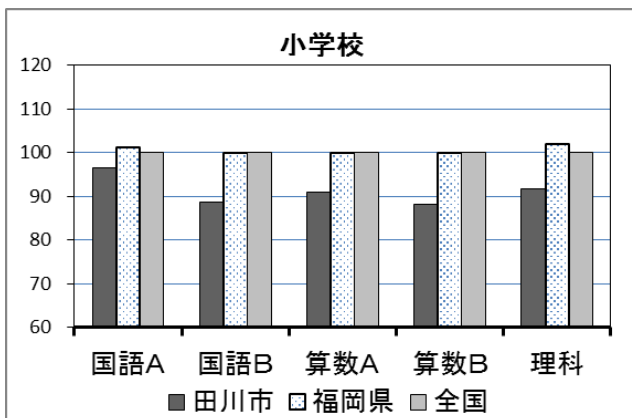
中学校は、公表対象外

【大木町】

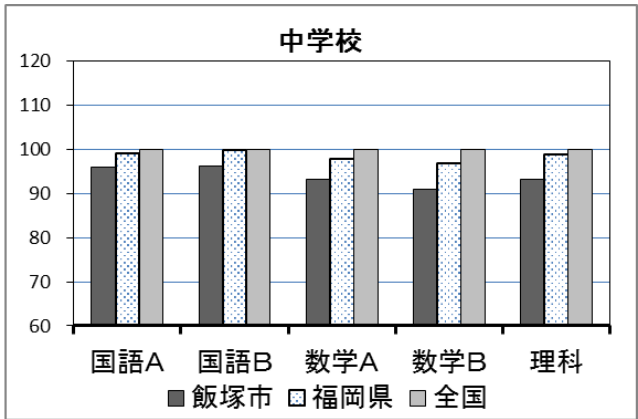
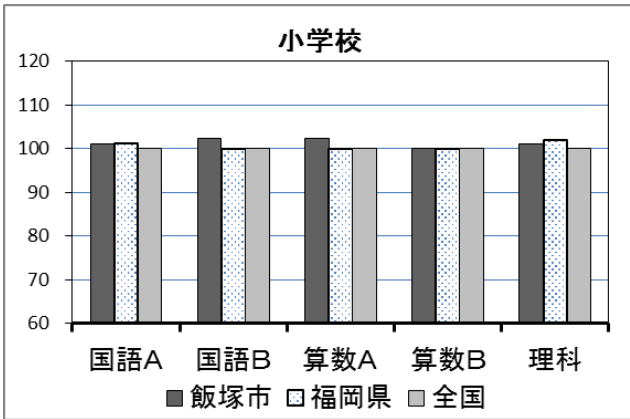


中学校は、公表対象外

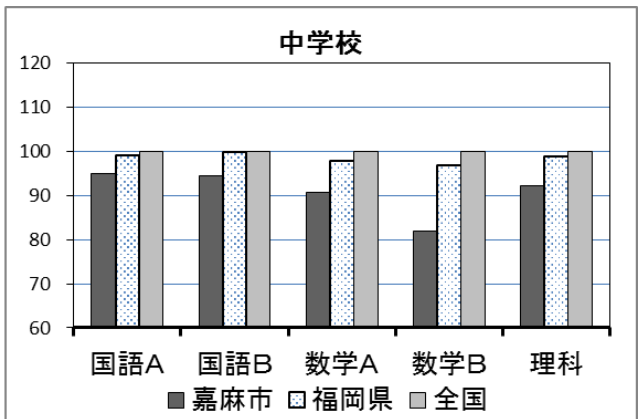
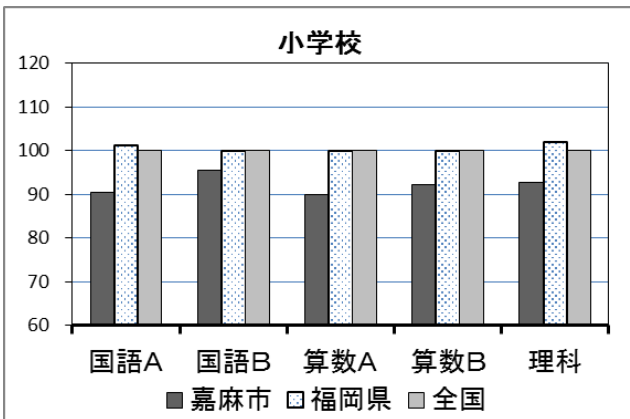
【田川市】



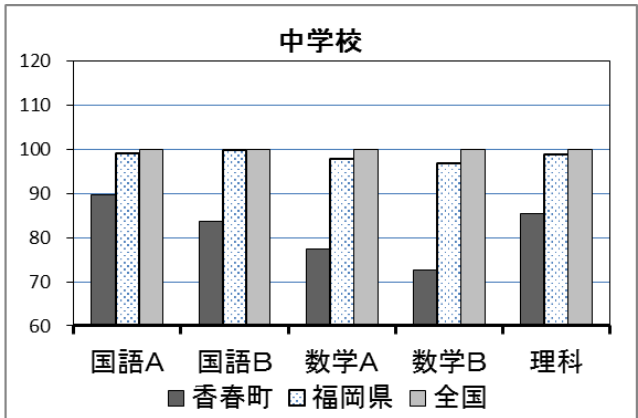
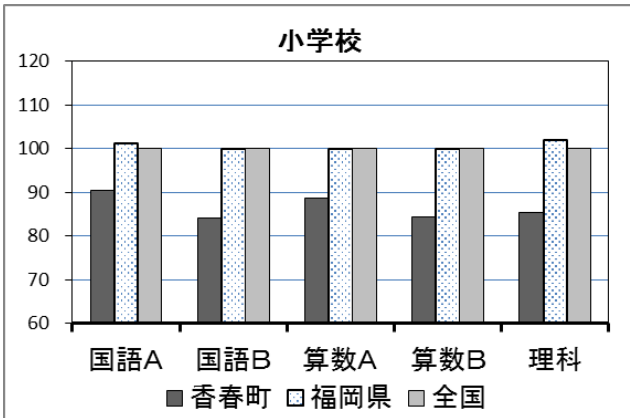
【飯塚市】



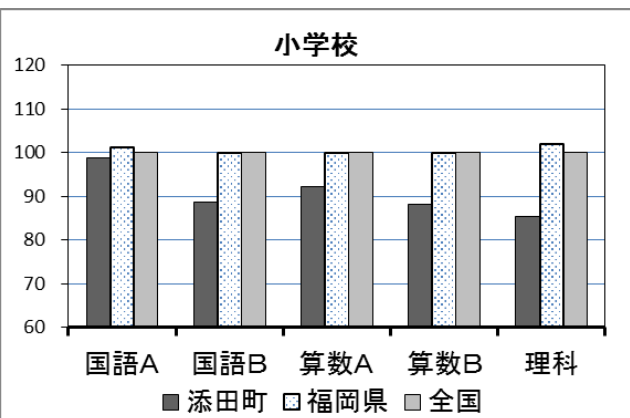
【嘉麻市】



【香春町】

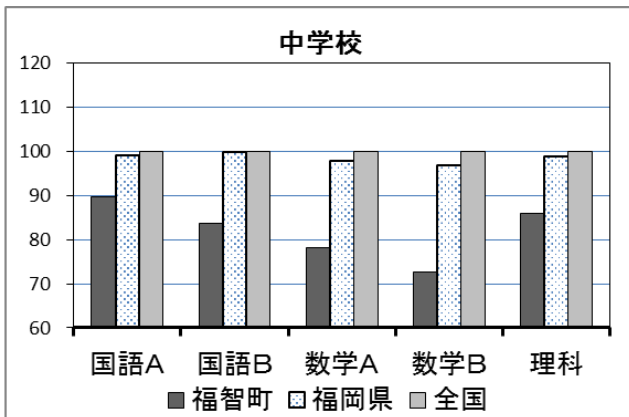
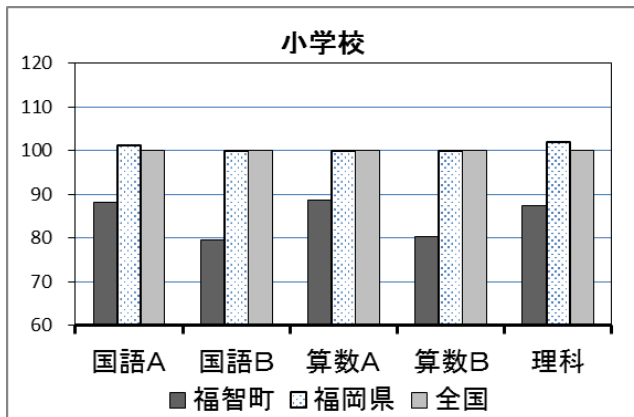


【添田町】

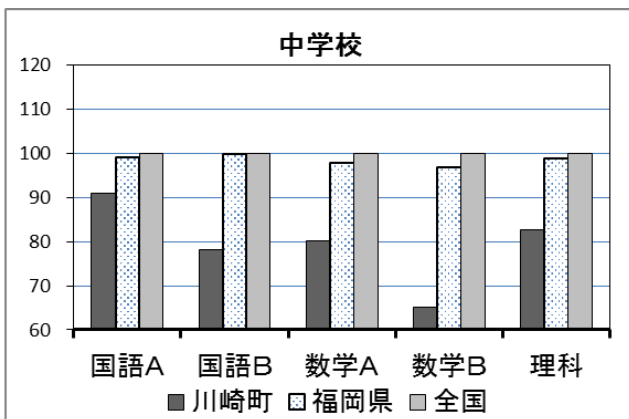
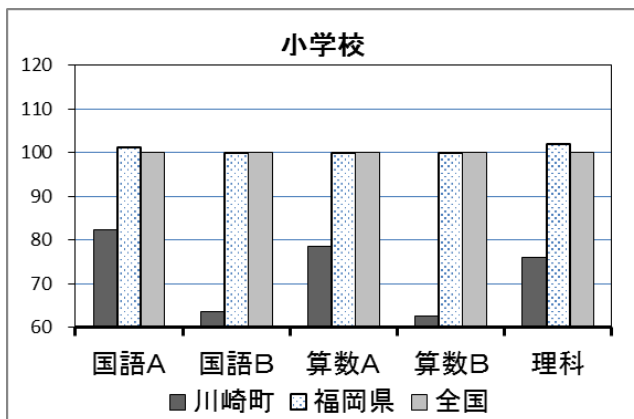


中学校は、公表対象外

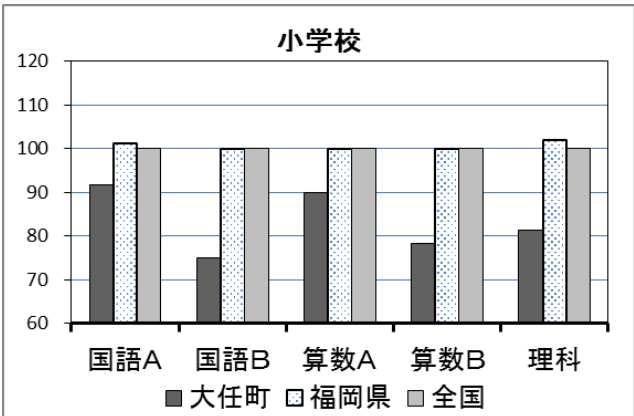
【福智町】



【川崎町】

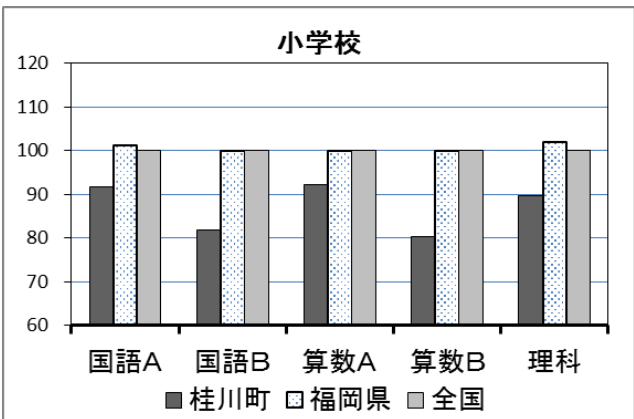


【大任町】



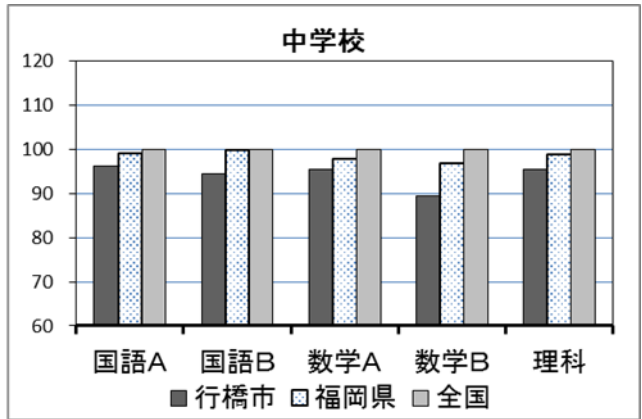
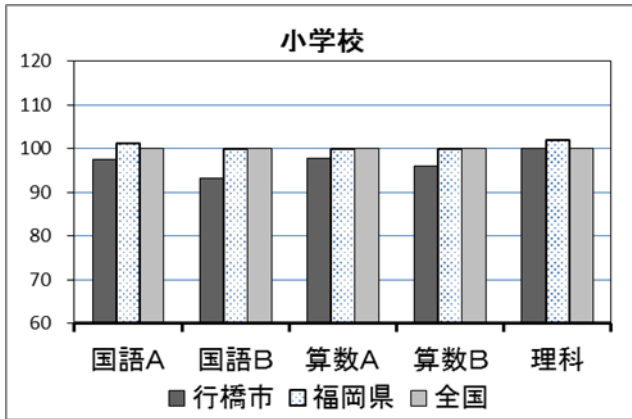
中学校は、公表対象外

【桂川町】

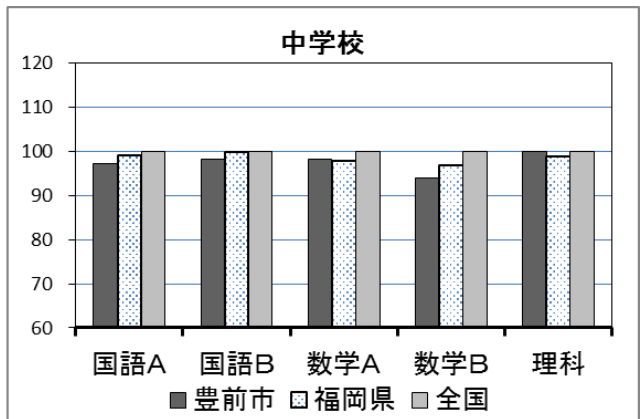
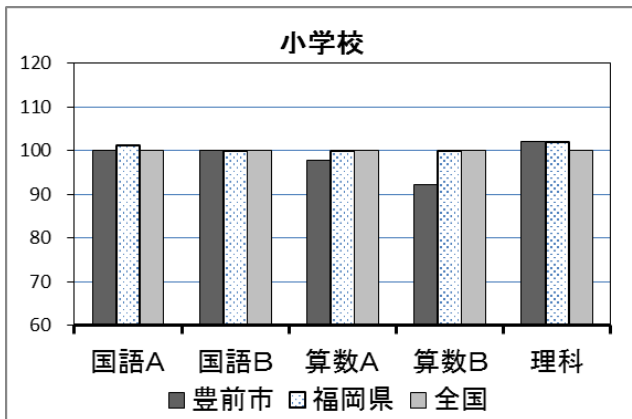


中学校は、公表対象外

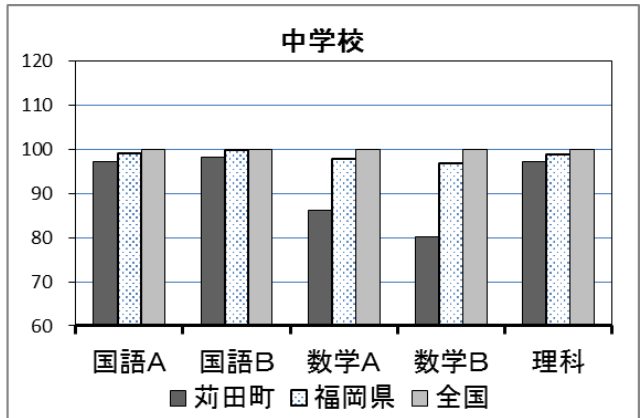
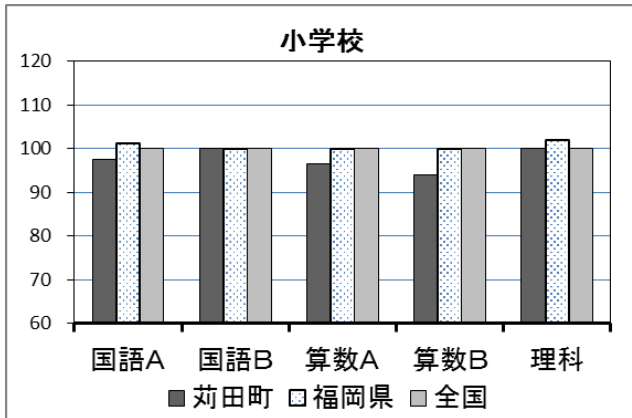
【行橋市】



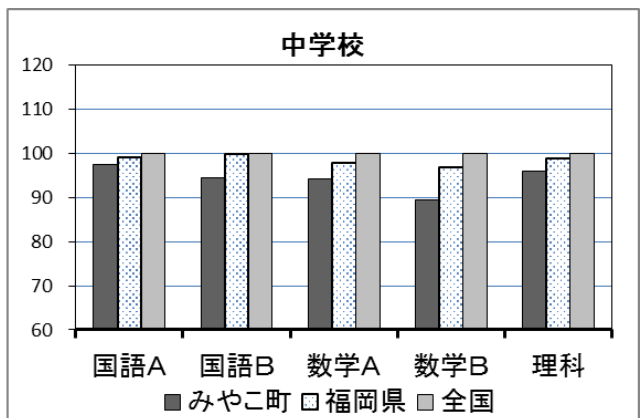
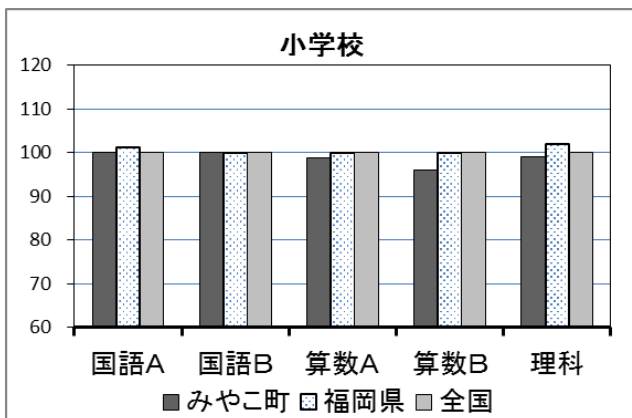
【豊前市】



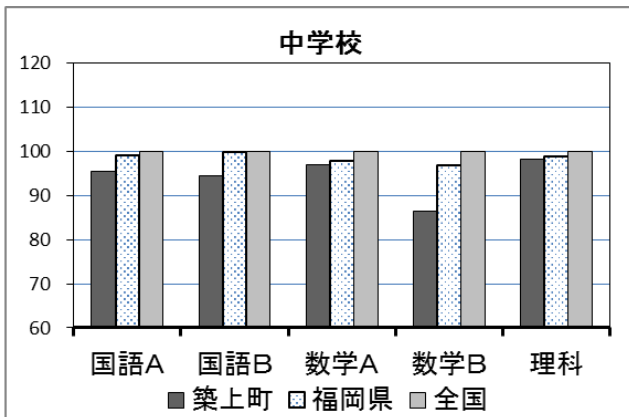
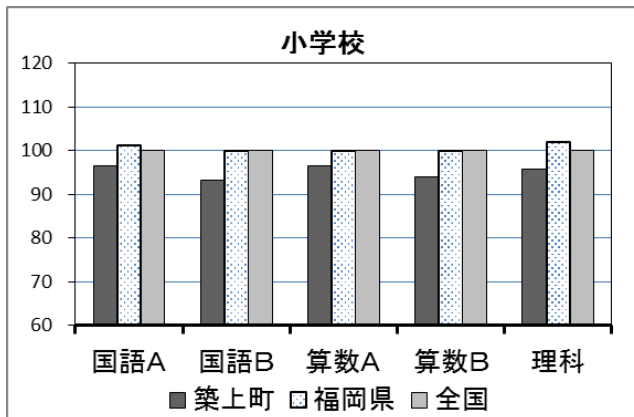
【苅田町】



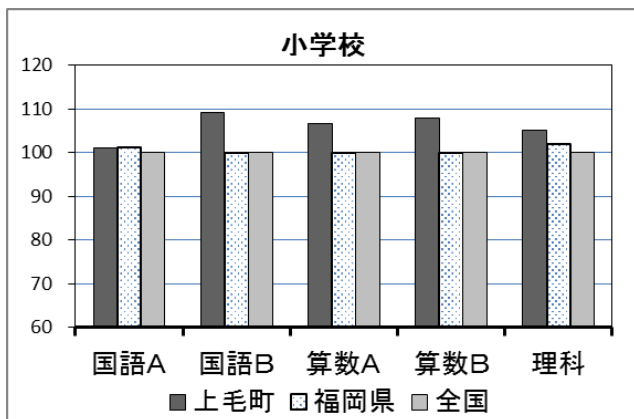
【みやこ町】



【築上町】

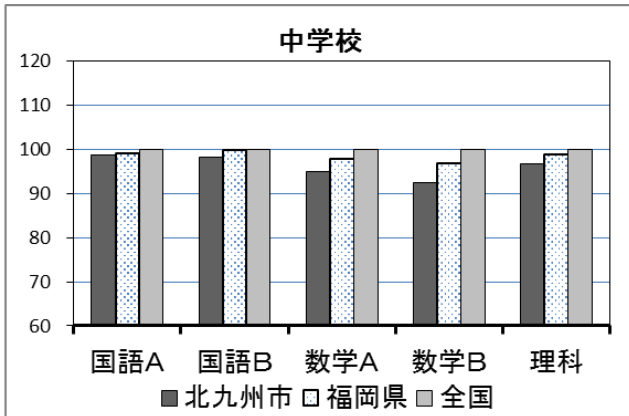
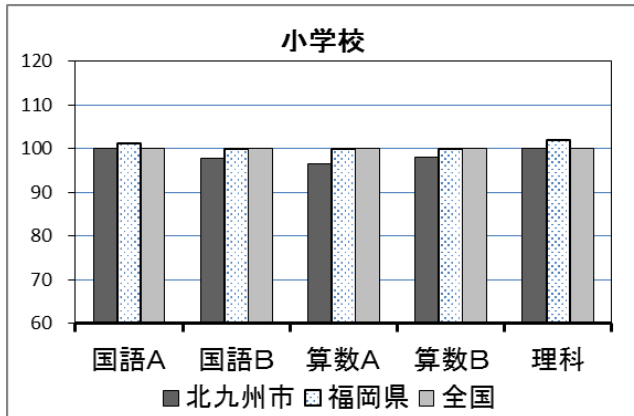


【上毛町】

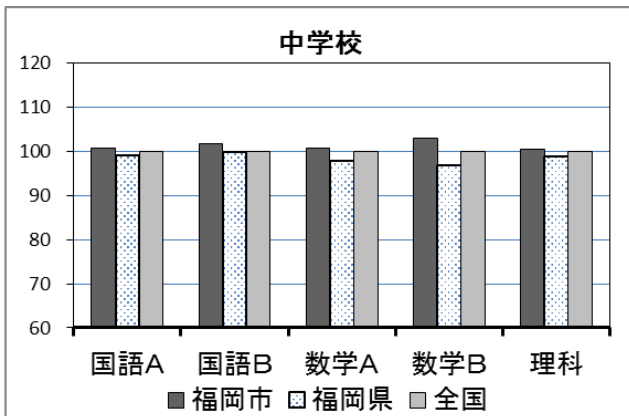
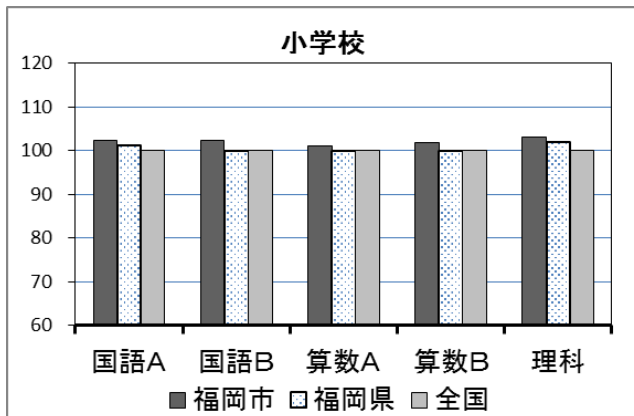


中学校は、公表対象外

【北九州市】



【福岡市】




Ⅲ 各教科の調査結果

1 小学校国語

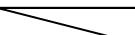
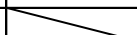
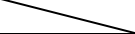
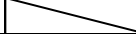
- 国語Aでは、次のような課題が見られた。
 - ・ 文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くこと
(A 5 福岡県 36.9% 全国 35.5%)
- 国語Bでは、次のような課題が見られた。
 - ・ 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること
(B 1 三 福岡県 35.7% 全国 33.8%)
 - ・ 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くこと
(B 2 二 福岡県 13.4% 全国 13.5%)
 - ・ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むこと
(B 3 一 福岡県 50.3% 全国 49.4%)
 - ・ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかくこと
(B 3 二 福岡県 53.7% 全国 52.3%)
- ※ 授業改善の視点から、特に課題が見られるものを挙げている。
- ※ 数値は平均正答率を示している。

■ 平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差、評価の観点別・問題形式別正答率

※  は対象問題がないことを示している。

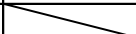
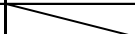
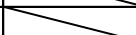
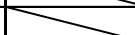
<国語A>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	8.6	71	9.0	2.6
全国(公立)	8.5	71	9.0	2.7

	評価の観点					問題形式		
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式
福岡県		91.3	74.1	74.3	67.7	74.4	36.9	
全国		90.8	73.8	74.0	67.0	73.9	35.5	

<国語B>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	4.4	55	5.0	1.9
全国(公立)	4.4	55	5.0	1.9

	評価の観点					問題形式		
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式
福岡県	34.2	65.8	46.4	52.0		68.2		34.2
全国	33.2	64.6	45.6	50.8		67.6		33.2

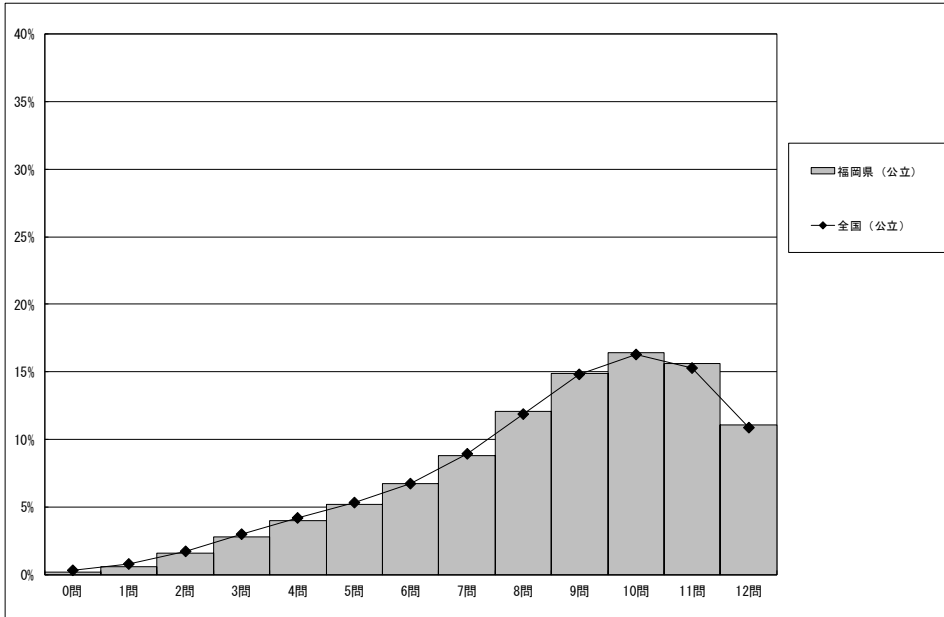
■ 正答数分布 横軸：正答数（問） 縦軸：割合（％）

平成30年度全国学力・学習状況調査 小学校調査
 調査結果概況 [国語A：主として知識]
 福岡県一児童（公立）

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	43,567	8.6 / 12	71	9.0	2.6
全国（公立）	1,030,025	8.5 / 12	70.7	9.0	2.7

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



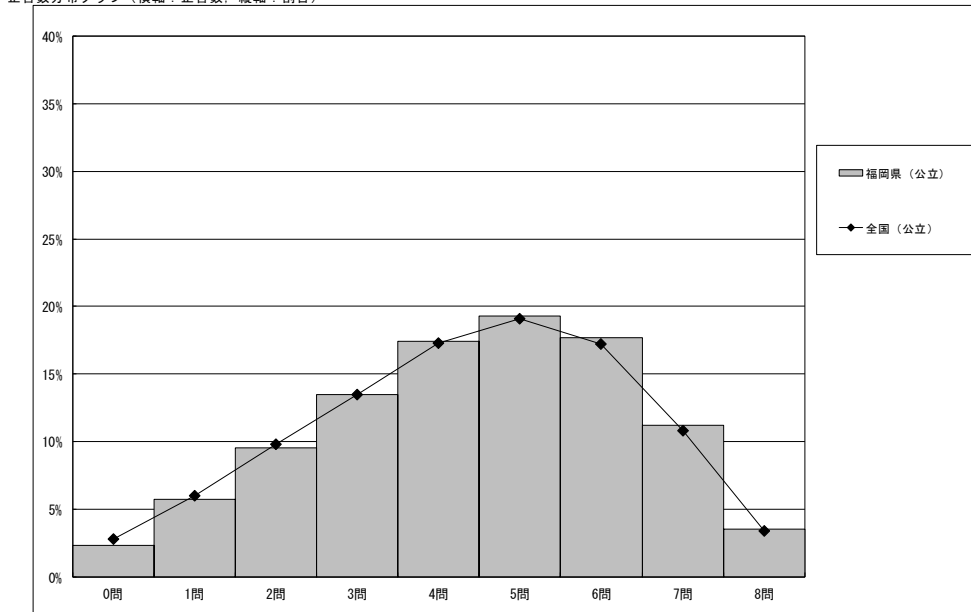
正答数	正答数集計値		
	児童数	割合(%)	
	福岡県(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
0問	94	0.2	0.3
1問	264	0.6	0.8
2問	683	1.6	1.7
3問	1,226	2.8	3.0
4問	1,745	4.0	4.2
5問	2,247	5.2	5.3
6問	2,920	6.7	6.7
7問	3,846	8.8	8.9
8問	5,260	12.1	11.9
9問	6,511	14.9	14.8
10問	7,154	16.4	16.3
11問	6,781	15.6	15.3
12問	4,836	11.1	10.9

平成30年度全国学力・学習状況調査 小学校調査
 調査結果概況 [国語B：主として活用]
 福岡県一児童（公立）

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	43,564	4.4 / 8	55	5.0	1.9
全国（公立）	1,029,799	4.4 / 8	54.7	5.0	1.9

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数	正答数集計値		
	児童数	割合(%)	
	福岡県(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
8問	1,519	3.5	3.4
7問	4,888	11.2	10.8
6問	7,723	17.7	17.2
5問	8,407	19.3	19.1
4問	7,591	17.4	17.3
3問	5,863	13.5	13.5
2問	4,121	9.5	9.8
1問	2,470	5.7	6.0
0問	982	2.3	2.8

■ 小学校国語 A 設問別正答率

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
1	図書館への行き方の説明として適切なものを選択する	相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す	91.3	90.8	0.0	0.1
2	物語を書くときの構成の工夫の説明として適切なものを選択する	自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える	74.1	73.8	0.2	0.3
3	【オムレツを作ったあとの感想】を踏まえ、【オムレツのページ】をどのように読めばよいか、適切なものを選択する	目的に応じて必要な情報を捉える	73.9	73.9	0.1	0.2
4	『くらやみの物語』を読んで心に残ったことを一文を取り上げて説明する際に、その一文が心に残った理由として適切なものを選択する	登場人物の心情について、情景描写を基に捉える	74.7	74.0	0.3	0.3
5	【春休みの出来事の一部】の中で、-----部と-----部とのつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す	文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く	36.9	35.5	2.9	3.9
6	慣用句の意味と使い方として適切なものを選択する(心を打たれる)	日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う	90.8	90.4	1.1	1.4
7	【話を聞いている様子の一部】の「ア」, 「イ」に入る内容の組み合わせとして適切なものを選択する	相手や場面に応じて適切に敬語を使う	57.8	56.0	2.2	2.7
8ア	文の中で漢字を使う(せい造)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	72.2	73.4	4.1	5.2
8イ	文の中で漢字を使う(せつ備)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	82.4	82.2	5.0	6.3
8ウ	文の中で漢字を使う(しょう毒)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	82.8	82.2	5.4	6.6
8エ	文の中で漢字を使う(かん理)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	65.0	65.0	6.1	7.4
8オ	文の中で漢字を使う(せつ極的)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	53.6	51.4	6.4	7.7


■ 小学校国語B 設問別正答率

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県(公立)	全国(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
1一	【話し合いの様子の一部】における木村さんの発言の意図として、適切なものを選択する	話し合いの参加者として、質問の意図を捉える	84.0	82.5	0.2	0.4
1二	【話し合いの様子の一部】における司会の発言の役割として、適切なものを選択する	計画的に話し合うために、司会の役割について捉える	77.7	77.5	0.3	0.6
1三	これから言葉をどのように使っていきたいかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、 <input type="text"/> を書く	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる	35.7	33.8	5.4	6.2
2一	「かみかみあえ」についての【おすすめする文章】の最初の部分に <input type="text"/> のように書いた理由として適切なものを選択する	目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える	57.9	57.6	1.3	1.7
2二	【おすすめする文章】の <input type="text"/> に、むし歯を防ぐ効果について、【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れて詳しく書く	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く	13.4	13.5	2.4	2.7
2三	【紹介する文章】を基にして【おすすめする文章】を書くときの工夫として適切なものを選択する	推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える	71.3	70.8	2.9	3.4
3一	山下さんは、どのようなことが知りたくて【自伝「旅人」の一部】を読んだのか、その説明として適切なものを選択する	目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む	50.3	49.4	2.9	3.2
3二	【伝記「湯川秀樹」の一部】を読んで、【ノートの一部】 <input type="checkbox"/> 最も心がひかれた一文とその理由の文章の <input type="text"/> に入る内容を書く	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む	53.7	52.3	11.0	11.9

2 小学校算数



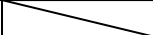
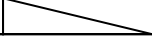
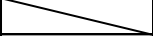
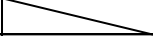
- 算数Aでは、次のような課題が見られた。
- ・ 小数の除法の意味について理解すること
(A 2 福岡県 41.6% 全国 39.9%)
 - ・ 単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解すること
(A 4 (2) 福岡県 49.3% 全国 50.1%)
 - ・ 円周率の意味について理解すること
(A 7 (1) 福岡県 42.5% 全国 41.6%)
- 算数Bでは、次のような課題が見られた。
- ・ メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できること
(B 3 (1) 福岡県 20.3% 全国 20.7%)
 - ・ 棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができること
(B 3 (2) 福岡県 22.7% 全国 23.9%)
- ※ 授業改善の視点から、特に課題が見られるものを挙げている。
 ※ 数値は平均正答率を示している。

■ 平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差、評価の観点別・問題形式別正答率

※  は対象問題がないことを示している。

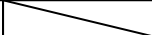
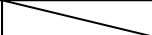
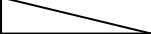
<算数A>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	8.9	63	9.0	3.2
全国(公立)	8.9	64	9.0	3.2

	評価の観点				問題形式		
	関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形の技能	数量や図形の知識・理解	選択式	短答式	記述式
福岡県			62.6	63.8	61.7	67.4	
全国			63.0	63.8	61.8	67.8	

<算数B>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	5.1	51	5.0	2.6
全国(公立)	5.1	52	5.0	2.7

	評価の観点				問題形式		
	関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形の技能	数量や図形の知識・理解	選択式	短答式	記述式
福岡県		48.9		69.9	52.6	66.6	43.8
全国		49.2		71.7	54.0	66.6	43.9

■ 正答数分布 横軸：正答数（問） 縦軸：割合（％）

平成30年度全国学力・学習状況調査

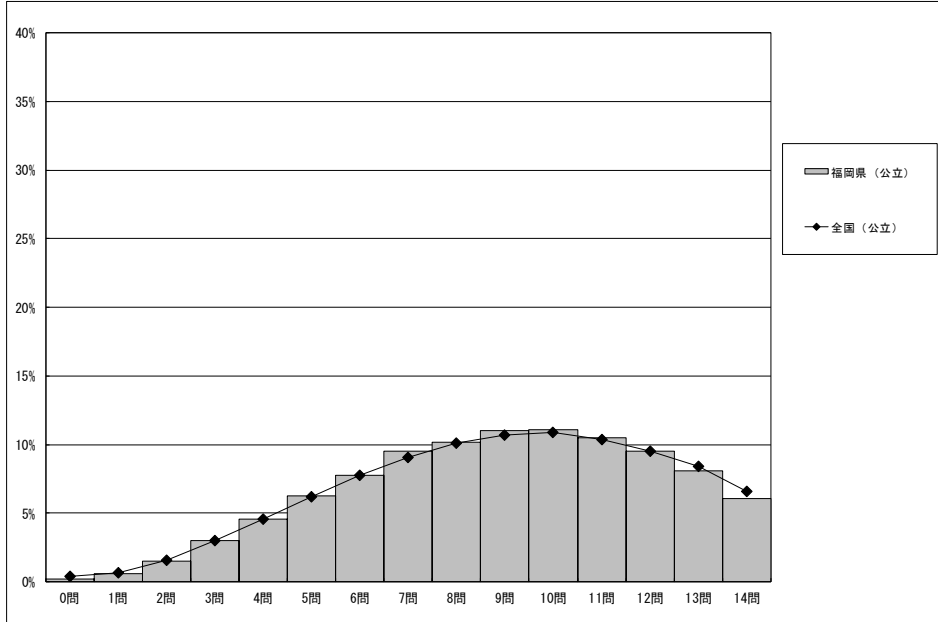
小学校調査

調査結果概況 【算数A：主として知識】
福岡県－児童（公立）

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	43,564	8.9 / 14	63	9.0	3.2
全国（公立）	1,030,013	8.9 / 14	63.5	9.0	3.2

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数	正答数集計値		
	児童数	割合(%)	
	福岡県 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
14問	2,648	6.1	6.6
13問	3,516	8.1	8.4
12問	4,148	9.5	9.5
11問	4,556	10.5	10.4
10問	4,851	11.1	10.9
9問	4,791	11.0	10.7
8問	4,440	10.2	10.1
7問	4,119	9.5	9.1
6問	3,416	7.8	7.8
5問	2,734	6.3	6.2
4問	2,018	4.6	4.6
3問	1,291	3.0	3.0
2問	668	1.5	1.6
1問	261	0.6	0.7
0問	107	0.2	0.4

平成30年度全国学力・学習状況調査

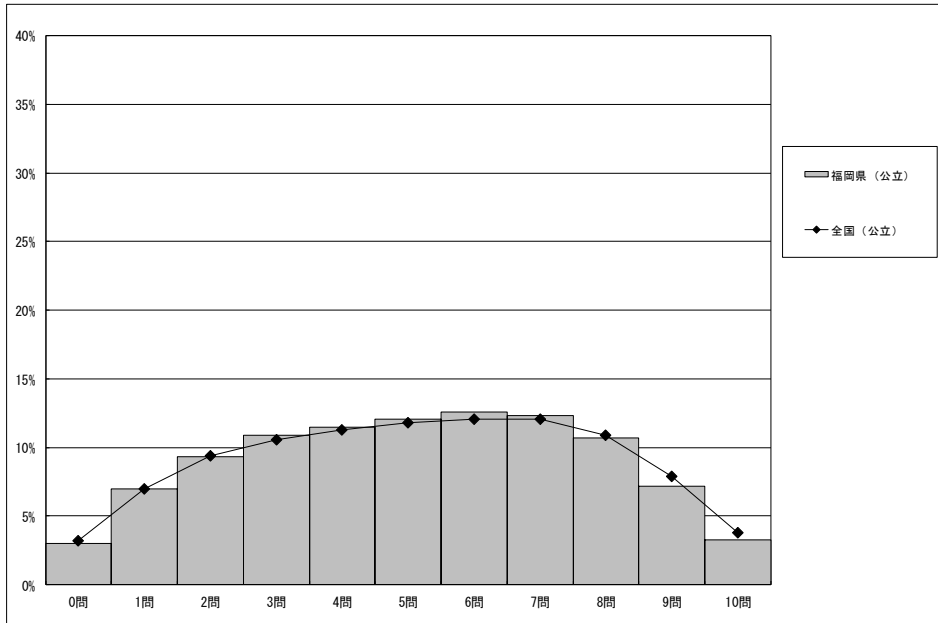
小学校調査

調査結果概況 【算数B：主として活用】
福岡県－児童（公立）

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	43,567	5.1 / 10	51	5.0	2.6
全国（公立）	1,029,847	5.1 / 10	51.5	5.0	2.7

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数	正答数集計値		
	児童数	割合(%)	
	福岡県 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
10問	1,440	3.3	3.8
9問	3,143	7.2	7.9
8問	4,676	10.7	10.9
7問	5,343	12.3	12.1
6問	5,481	12.6	12.1
5問	5,271	12.1	11.8
4問	5,010	11.5	11.3
3問	4,765	10.9	10.6
2問	4,069	9.3	9.4
1問	3,042	7.0	7.0
0問	1,327	3.0	3.2

■ 小学校算数 A 設問別正答率

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県(公立)	全国(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
1(1)	針金0.2mの重さと針金0.1mの重さを書く	除法で表すことができる二つの数量の関係を理解している	62.3	62.9	1.6	1.7
1(2)	針金0.4mと、0.4mの重さの60gと、1mの重さが、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ	1に当たる大きさを求める問題場面上における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる	67.3	66.7	1.8	2.4
1(3)	針金1mの重さを求める式を選ぶ	1に当たる大きさを求める問題では、除数が小数である場合でも除法を用いることを理解している	66.4	65.3	1.8	2.2
2	答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ	小数の除法の意味について理解している	41.6	39.9	0.8	1.0
3	3桁の整数どうしの大きさを比べ、十の位に入る適切な数字を書く	十進位取り記数法で表された数の大小について理解している	75.6	76.4	1.1	1.3
4(1)	面積がそろっている㊸と㊹の二つのシートの混み具合について、正しいものを選ぶ	異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解している	89.4	87.8	0.4	0.6
4(2)	㊸と㊹の二つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ	単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解している	49.3	50.1	0.9	1.0
5(1)	角㊺の角の大きさが、何度であるかを選ぶ	180° の角の大きさを理解している	94.6	94.4	0.9	1.1
5(2)	分度器の目盛りを読み、 180° よりも大きい角の大きさを求める	180° や 360° を基に分度器を用いて、 180° よりも大きい角の大きさを求めることができる	57.8	58.5	1.2	1.5
6	空間の中にあるものの位置を正しく書く	示された表現方法を基に、空間の中にあるものの位置を表現することができる	73.7	73.5	2.8	3.3
7(1)	円周率を求める式として正しいものを選ぶ	円周率の意味について理解している	42.5	41.6	2.5	3.2
7(2)	円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを選ぶ	直径の長さや円周の長さの関係について理解している	52.4	55.6	2.8	3.6
8	200人のうち80人が小学生のとき、小学生の人数は全体の人数の何%かを選ぶ	百分率を求めることができる	50.8	52.9	3.7	4.6
9	示された事柄が両方当てはまるグラフを選ぶ	折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる	63.1	63.6	5.9	7.2

■ 小学校算数B 設問別正答率

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
1(1)	合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から見いだすことができる図形として、正しいものを選ぶ	合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすことができる	69.9	71.7	0.2	0.3
1(2)	一つの点の周りに集まった角の大きさの和が 360° になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く	図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が 360° になっていることを記述できる	47.9	48.2	13.4	14.4
2(1)	全体で使える時間の中で、「ルールの説明」に使える時間は何かを書き	示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めることができる	70.2	70.5	1.3	1.5
2(2)	1回の玉入れゲームの時間を3分に最も近い時間にするための玉を投げる時間を、表に整理して求める	示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断することができる	47.1	47.9	1.4	1.6
3(1)	メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く	メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる	20.3	20.7	17.9	18.0
3(2)	一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることをまとめた文章に当てはまるものを選ぶ	棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる	22.7	23.9	1.0	1.1
4(1)	「32, 40」の二つの数の和が9の段の数になるわけを、分配法則を用いた式に表す	示された考え方を解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現することができる	63.1	62.7	5.6	6.2
4(2)	横に並んでいる七つの数について、示された表現方法を適用して書く	示された考え方を解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述できる	60.6	59.5	11.1	11.3
5(1)	横の長さが7mの黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く	折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述できる	43.1	43.2	16.8	16.6
5(2)	4色を順に繰り返してつなげ、輪かざり1本を作ったときの、30個目の折り紙の輪の色を選ぶ	折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断することができる	65.3	66.5	8.6	8.3

3 小学校理科

○ 理科は、次のような課題が見られた。

- ・ より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できること (2(3) 福岡県 21.8% 全国 20.1%)
- ・ 太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できること (3(4) 福岡県 38.7% 全国 41.9%)
- ・ 実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できること (4(4) 福岡県 38.4% 全国 35.9%)

※ 授業改善の視点から、特に課題が見られるものを挙げている。

※ 数値は平均正答率を示している。

■ 平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差、評価の観点別・問題形式別正答率

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	9.8	61	10.0	3.2
全国(公立)	9.6	60	10.0	3.2

	評価の観点				問題形式		
	関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式
福岡県	82.1	54.6	72.3	83.8	64.3	80.8	30.1
全国	82.1	54.1	71.1	81.5	63.8	79.4	28.0

■ 正答数分布 横軸：正答数（問） 縦軸：割合（％）

平成30年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [理科]
福岡県－児童（公立）

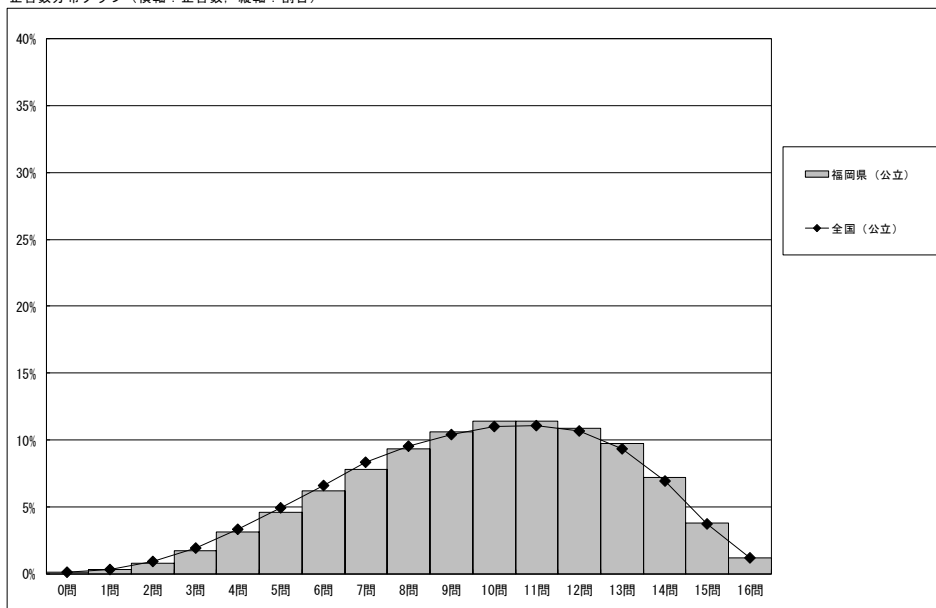
小学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	43,594	9.8 / 16	61	10.0	3.2
全国(公立)	1,029,828	9.6 / 16	60.3	10.0	3.2

正答数	正答数集計値		
	児童数	割合(%)	
	福岡県(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
0問	38	0.1	0.1
1問	131	0.3	0.3
2問	329	0.8	0.9
3問	731	1.7	1.9
4問	1,332	3.1	3.3
5問	2,019	4.6	4.9
6問	2,690	6.2	6.6
7問	3,409	7.8	8.3
8問	4,054	9.3	9.5
9問	4,629	10.6	10.4
10問	4,953	11.4	11.0
11問	4,954	11.4	11.1
12問	4,758	10.9	10.7
13問	4,239	9.7	9.3
14問	3,158	7.2	6.9
15問	1,657	3.8	3.7
16問	513	1.2	1.2

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）




■ 小学校理科 設問別正答率

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県(公立)	全国(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
1(1)	野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ	安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想できる	82.1	82.1	0.0	0.0
1(2)	鳥の翼と人の腕のつくりについてのまとめから、どのような視点を基にまとめた内容なのかを選ぶ	調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析できる	76.5	76.2	0.1	0.1
1(3)	腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く	骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解している	80.8	79.4	2.9	3.8
1(4)	人の腕が曲がる仕組みについて、示された模型を使って説明できる内容を選ぶ	人の腕が曲がる仕組みを模型に適用できる	56.3	56.6	0.3	0.4
2(1)	流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ	堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している	86.8	83.6	0.1	0.1
2(2)	流れる水の働きによる土地の侵食について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、斜面に水を流したときの立てた棒の様子を選ぶ	土地の侵食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる	54.8	55.4	0.2	0.3
2(3)	一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く	より妥当な考えをつくり出すために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる	21.8	20.1	0.7	1.0
2(4)	上流側の雲の様子や雨の降っている所と下流側の川の水位の変化から、上流側の天気と下流側の水位の関係について言えることを選ぶ	より妥当な考えをつくり出すために、複数の情報を関係付けながら、分析して考察できる	62.5	59.8	0.2	0.3
3(1)	風が吹く方向を変えるためにモーターの回転が逆になる回路を選ぶ	乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用できる	63.4	63.5	0.2	0.3
3(2)	回路を流れる電流の流れ方について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、検流計の針の向きと目盛りを選ぶ	電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる	47.4	47.7	0.3	0.5
3(3)	回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直した内容を選ぶ	実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに改善できる	58.6	59.4	0.4	0.6
3(4)	目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中での光電池の適切な位置や向きを選ぶ	太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できる	38.7	41.9	0.4	0.6
4(1)	ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気づき、適切に操作する方法を選ぶ	ろ過の適切な操作方法を身に付けている	72.3	71.1	0.4	0.5
4(2)	海水と水道水を区別するために、2つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断した内容を選ぶ	より妥当な考えをつくり出すために、2つの異なる方法の実験結果を分析して考察できる	89.2	89.4	0.5	0.6
4(3)	食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ	物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる	47.6	42.7	1.1	1.3
4(4)	食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導き出す結論を書く	実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる	38.4	35.9	7.0	8.9

4 中学校国語

- 国語Aでは、次のような課題が見られた。
- ・ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと
(A 8 三エ 福岡県 29.2% 全国 29.2%)
 - ・ 目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くこと
(A 8 四 2 福岡県 16.8% 全国 22.3%)
- 国語Bでは、次のような課題が見られた。
- ・ 文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉えること
(B 1 一 福岡県 45.2% 全国 45.9%)
 - ・ 目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くこと
(B 1 三 福岡県 12.9% 全国 13.3%)
 - ・ 相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書くこと
(B 3 三 福岡県 50.6% 全国 49.2%)
- ※ 授業改善の視点から、特に課題が見られるものを挙げている。
 ※ 数値は平均正答率を示している。

■ 平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差、評価の観点別・問題形式別正答率

※  は対象問題がないことを示している。

<国語A>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	24.1	75	25.0	5.3
全国(公立)	24.3	76	26.0	5.3

	評価の観点					問題形式		
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式
福岡県		74.9	73.3	76.8	75.7	76.1	74.2	
全国		75.2	73.9	76.7	76.5	76.8	74.7	

<国語B>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	5.5	61	6.0	2.0
全国(公立)	5.5	61	6.0	2.0

	評価の観点					問題形式		
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式
福岡県	50.6	75.4	31.7	53.3	50.6	65.7		50.6
全国	50.3	76.6	31.3	53.5	49.2	66.7		50.3

■ 正答数分布 横軸：正答数（問） 縦軸：割合（％）

平成30年度全国学力・学習状況調査

調査結果概況 [国語A：主として知識]

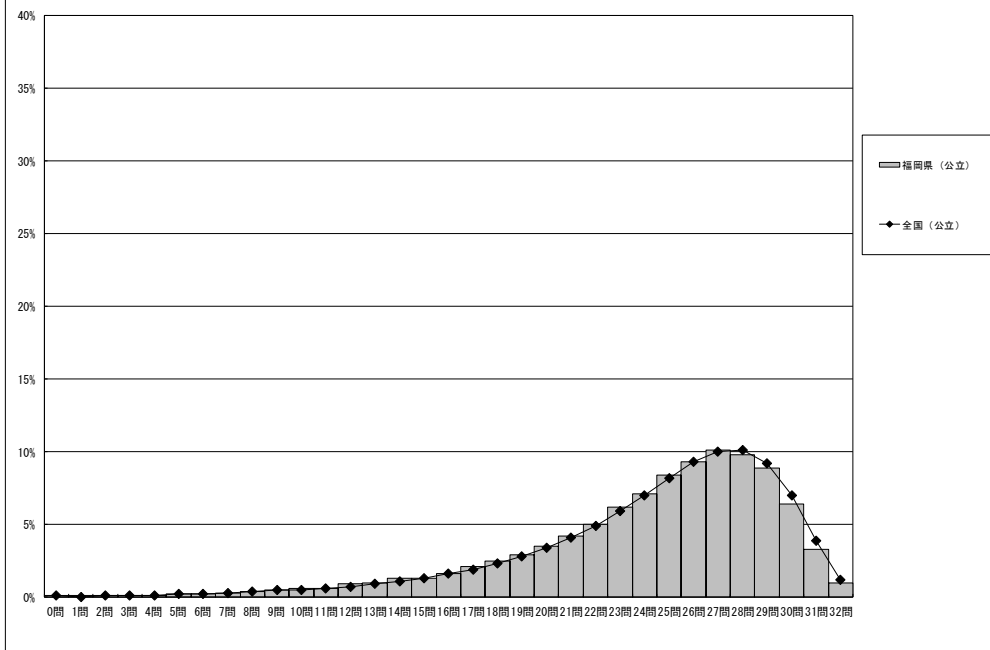
福岡県一生徒（公立）

中学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	40,179	24.1 / 32	75	25.0	5.3
全国（公立）	966,764	24.3 / 32	76.1	26.0	5.3

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数	正答数集計値		
	生徒数	割合 (%)	
	福岡県 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
0問	30	0.1	0.1
1問	26	0.1	0.0
2問	29	0.1	0.1
3問	27	0.1	0.1
4問	50	0.1	0.1
5問	62	0.2	0.2
6問	91	0.2	0.2
7問	123	0.3	0.3
8問	143	0.4	0.4
9問	192	0.5	0.5
10問	231	0.6	0.5
11問	261	0.6	0.6
12問	363	0.9	0.7
13問	400	1.0	0.9
14問	526	1.3	1.1
15問	536	1.3	1.3
16問	646	1.6	1.6
17問	825	2.1	1.9
18問	993	2.5	2.3
19問	1,155	2.9	2.8
20問	1,399	3.5	3.4
21問	1,698	4.2	4.1
22問	2,024	5.0	4.9
23問	2,485	6.2	5.9
24問	2,842	7.1	7.0
25問	3,386	8.4	8.2
26問	3,736	9.3	9.3
27問	4,042	10.1	10.0
28問	3,950	9.8	10.1
29問	3,573	8.9	9.2
30問	2,570	6.4	7.0
31問	1,344	3.3	3.9
32問	421	1.0	1.2

平成30年度全国学力・学習状況調査

調査結果概況 [国語B：主として活用]

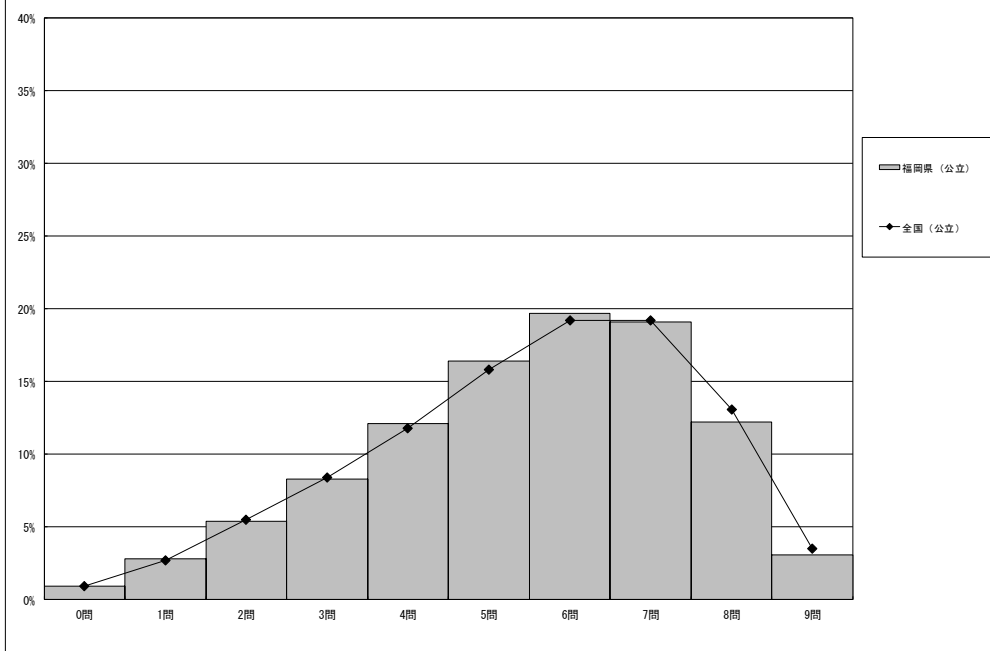
福岡県一生徒（公立）

中学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	40,194	5.5 / 9	61	6.0	2.0
全国（公立）	966,786	5.5 / 9	61.2	6.0	2.0

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数	正答数集計値		
	生徒数	割合 (%)	
	福岡県 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
0問	366	0.9	0.9
1問	1,125	2.8	2.7
2問	2,181	5.4	5.5
3問	3,346	8.3	8.4
4問	4,873	12.1	11.8
5問	6,584	16.4	15.8
6問	7,919	19.7	19.2
7問	7,662	19.1	19.2
8問	4,888	12.2	13.1
9問	1,250	3.1	3.5

■ 中学校国語 A 設問別正答率（前半）

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
1ー	スピーチの感想に対して先生が述べた言葉として適切なものを選択する	話の論理的な構成や展開などに注意して聞く	88.4	87.4	0.1	0.1
2ー	図書だよりの下書きの構成を説明したものとして適切なものを選択する	書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成する	89.7	89.5	0.3	0.3
2二	二つの意見の内容を一文で書き加える	伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように書く	63.3	64.0	3.2	3.3
3ー	「それは掛け値のない一、二秒の間のできごとである」を説明したものとして適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する	88.0	88.2	0.2	0.2
3二	父と保吉の言動についての説明として適切なものを選択する	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する	82.6	82.8	0.3	0.2
4ー	意見文の下書きに一文を書き加える意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討する	60.5	62.8	0.2	0.2
4二	段落の内容を入れ替えて書き直す理由として適切なものを選択する	段落相互の関係性に注意し、読みやすく分かりやすい文章にする	79.6	79.4	0.3	0.3
5ー	本文の第六段落の説明として適切なものを選択する	段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てる	76.0	76.3	0.5	0.5
5二	新聞紙の製造工程の一部を言い表したものとして適切なものを選択する	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える	60.5	59.5	0.4	0.4
6ー	話合いの際のメモのとり方の説明として適切なものを選択する	話合いの話題や方向を捉える	71.6	72.4	0.6	0.5
6二	話合いの中で確認しなければならないことについての司会としての発言を書く	話合いの話題や方向を捉えて的確に話す	64.6	65.8	13.3	13.3
7ー	場面に当てはまる語句の意味として適切なものを選択する（ハナイカダ）	語句の辞書的な意味を踏まえて文脈上の意味を捉える	85.5	87.3	0.8	0.6
7二	「それでは」の働きとして適切なものを選択する	接続詞の働きについて理解する	87.4	88.4	1.2	0.9
8ー1	漢字を書く（紙をひもで <u>タ</u> バねる）	文脈に即して漢字を正しく書く	78.6	79.0	12.8	13.2
8ー2	漢字を書く（舞台の <u>マ</u> クが上がる）		68.9	72.9	15.4	14.4
8ー3	漢字を書く（先制点を <u>ユ</u> ルす）		75.3	71.4	16.6	19.5
8二1	漢字を読む（ <u>模</u> 型を作る）	文脈に即して漢字を正しく読む	95.3	95.7	1.8	1.9
8二2	漢字を読む（池の水が <u>凍</u> る）		97.9	97.8	0.9	0.9
8二3	漢字を読む（技を <u>磨</u> く）		98.1	98.1	0.9	1.1

■ 中学校国語 A 設問別正答率（後半）

8三ア	適切な語句を選択する（立場の異なる両者の主張は終始一貫して変わらず、最後まで結論が出なかった）	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	75.3	77.7	0.9	0.8
8三イ	適切な語句を選択する（魚の中には群れを作って泳ぐ習性をもつものがある）		89.8	91.0	0.6	0.5
8三ウ	適切な敬語を選択する（先生が私たちに大切なことをおっしゃった）		88.2	88.0	0.7	0.6
8三エ	適切な語句を選択する（彼はせきを切ったように話し始めた）		29.2	29.2	1.0	0.9
8三オ	適切な語句を選択する（意見の折り合いをつける）		61.9	61.8	1.0	0.9
8三カ	適切な語句を選択する（わたしが健康になったのは、 <u>ひとえ</u> に母のおかげです）		63.8	65.4	1.1	1.0
8三キ	適切な語句を選択する（姉はみんなと一緒に運動をすることが好きだ。一方、妹は一人で本を読むことが好きだ）		95.0	95.2	1.1	1.0
8四1	「心を打たれる」の意味として適切なものを選択する	慣用句の意味を理解する	94.3	94.7	1.0	0.8
8四2	「心を打たれた。」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰（何）」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く	目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くように書く	16.8	22.3	7.4	6.5
8五	作品への助言として適切なものを選択する	行書の基礎的な書き方を理解して書く	51.6	54.4	1.6	1.2
8六1	『韓非子』の中の語句の訳を抜き出す（いはく）	古典の文章と現代語訳とを対応させて内容を捉える	90.6	91.1	5.8	5.1
8六2	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（とほさざるなし）	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む	67.1	63.0	7.2	7.4
8六3	『韓非子』の中で矛盾していることの説明として適切なものを選択する	古典に表れたものの見方や考え方を理解する	79.4	81.3	2.9	2.2

■ 中学校国語 B 設問別正答率

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県(公立)	全国(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
1一	グラフから分かることについて文章中で説明しているものとして適切なものを選択する	文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える	45.2	45.9	0.2	0.2
1二	複数の辞書を引用して「天地無用」の意味を示す効果として適切なものを選択する	文章の構成や展開について自分の考えをもつ	63.7	64.3	0.2	0.2
1三	「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く	目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く	12.9	13.3	6.9	7.0
2一	二人の質問の意図として適切なものを選択する	質問の意図を捉える	86.5	86.8	0.2	0.2
2二	二人に続いてする質問を書く	話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する	88.2	88.3	6.0	5.9
2三	ロボットに期待することを述べて発表をまとめる際の話の進め方として適切なものを選択する	全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す	51.4	54.6	0.5	0.4
3一	登場人物についての説明として適切なものを選択する	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する	80.4	80.2	0.4	0.4
3二	文章中の表現について語った人物として適切なものを選択する	登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる	67.2	68.2	0.5	0.4
3三	話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く	相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く	50.6	49.2	11.4	12.4

5 中学校数学

○ 数学Aでは、次のような課題が見られた。

- ・ 一次関数の意味を理解すること (A 1 2 福岡県 35.4% 全国 36.4%)


○ 数学Bでは、次のような課題が見られた。

- ・ 不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができること (B 1 (3) 福岡県 35.5% 全国 36.2%)
- ・ 事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができること (B 2 (2) 福岡県 37.9% 全国 37.5%)
- ・ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができること (B 3 (3) 福岡県 13.3% 全国 13.2%)
- ・ 数学的な結果を事象に即して解釈することを通して、成り立つ事柄を判断し、その理由を数学的な表現を用いて説明することができること (B 5 (2) 福岡県 9.0% 全国 10.4%)

※ 授業改善の視点から、特に課題が見られるものを挙げている。

※ 数値は平均正答率を示している。

■ 平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差、評価の観点別・問題形式別正答率

※  は対象問題がないことを示している。

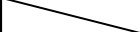
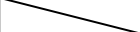
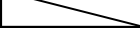
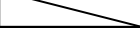
<数学A>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	23.3	65	24.0	8.1
全国(公立)	23.8	66	25.0	8.1

	評価の観点				問題形式		
	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数量や図形の技能	数量や図形の知識・理解	選択式	短答式	記述式
福岡県			68.7	62.0	59.7	69.5	
全国			70.4	63.3	61.5	70.7	

<数学B>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	6.4	46	6.0	3.5
全国(公立)	6.6	47	7.0	3.5

	評価の観点				問題形式		
	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数量や図形の技能	数量や図形の知識・理解	選択式	短答式	記述式
福岡県		44.0	49.4		59.8	54.6	27.2
全国		45.1	51.3		61.5	56.2	27.9

■ 正答数分布 横軸：正答数（問） 縦軸：割合（％）

平成30年度全国学力・学習状況調査

調査結果概況 【数学A：主として知識】

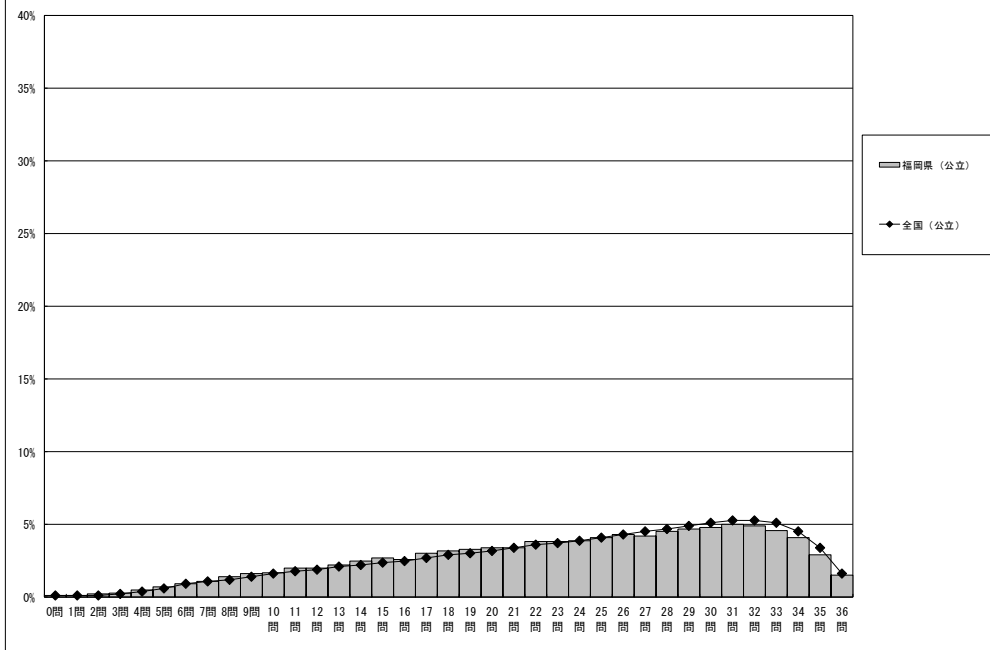
福岡県一生徒（公立）

中学校調査

以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	40,187	23.3 / 36	65	24.0	8.1
全国（公立）	966,969	23.8 / 36	66.1	25.0	8.1

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数	正答数集計値		
	生徒数 福岡県 （公立）	割合 (%) 福岡県 （公立）	全国 （公立）
0問	34	0.1	0.1
1問	34	0.1	0.1
2問	63	0.2	0.1
3問	112	0.3	0.2
4問	183	0.5	0.4
5問	271	0.7	0.6
6問	345	0.9	0.9
7問	449	1.1	1.1
8問	568	1.4	1.2
9問	628	1.6	1.4
10問	703	1.7	1.6
11問	796	2.0	1.8
12問	809	2.0	1.9
13問	887	2.2	2.1
14問	991	2.5	2.2
15問	1,097	2.7	2.4
16問	1,042	2.6	2.5
17問	1,209	3.0	2.7
18問	1,290	3.2	2.9
19問	1,343	3.3	3.0
20問	1,378	3.4	3.2
21問	1,381	3.4	3.4
22問	1,512	3.8	3.6
23問	1,529	3.8	3.7
24問	1,586	3.9	3.9
25問	1,656	4.1	4.1
26問	1,737	4.3	4.3
27問	1,691	4.2	4.5
28問	1,799	4.5	4.7
29問	1,881	4.7	4.9
30問	1,939	4.8	5.1
31問	1,993	5.0	5.3
32問	1,976	4.9	5.3
33問	1,840	4.6	5.1
34問	1,658	4.1	4.5
35問	1,158	2.9	3.4
36問	619	1.5	1.6

平成30年度全国学力・学習状況調査

調査結果概況 【数学B：主として活用】

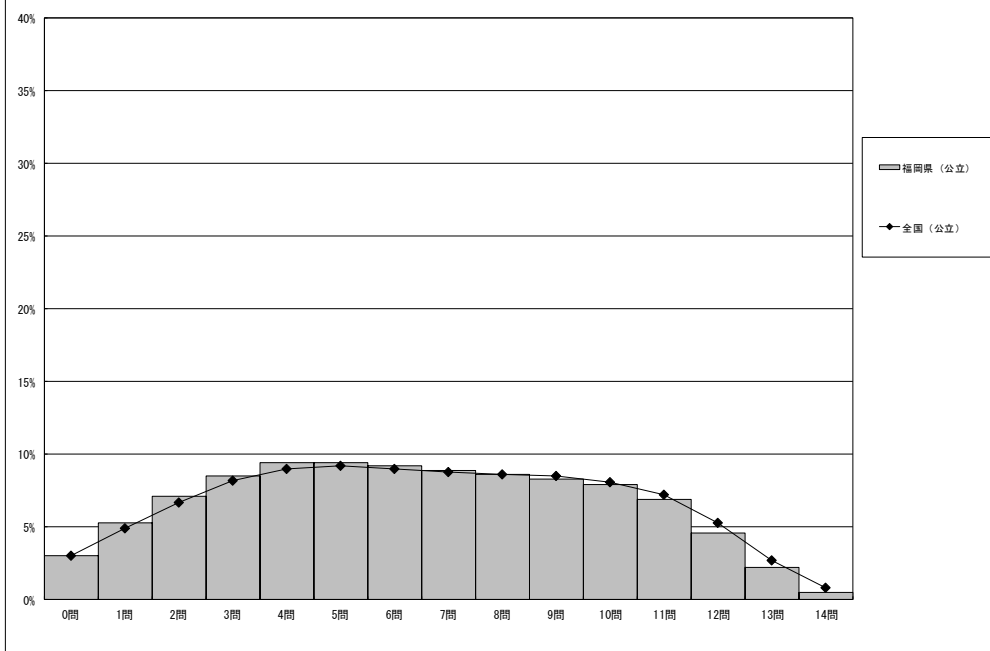
福岡県一生徒（公立）

中学校調査

以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	40,180	6.4 / 14	46	6.0	3.5
全国（公立）	966,908	6.6 / 14	46.9	7.0	3.5

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数	正答数集計値		
	生徒数 福岡県 （公立）	割合 (%) 福岡県 （公立）	全国 （公立）
0問	1,206	3.0	3.0
1問	2,149	5.3	4.9
2問	2,870	7.1	6.7
3問	3,400	8.5	8.2
4問	3,778	9.4	9.0
5問	3,796	9.4	9.2
6問	3,703	9.2	9.0
7問	3,587	8.9	8.8
8問	3,450	8.6	8.6
9問	3,348	8.3	8.5
10問	3,164	7.9	8.1
11問	2,770	6.9	7.2
12問	1,861	4.6	5.3
13問	883	2.2	2.7
14問	215	0.5	0.8

■ 中学校数学A 設問別正答率（前半）

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
1 (1)	数直線上の点が表す負の整数の値を読み取る	数直線上に示された負の整数を読み取ることができる	94.6	94.6	0.3	0.4
1 (2)	絶対値が6である数を書く	絶対値の意味を理解している	74.8	69.0	5.4	7.3
1 (3)	$2 \times (-5^2)$ を計算する	指数を含む正の数と負の数の計算ができる	65.3	68.9	0.9	1.0
1 (4)	ある日の最低気温がその前日の最低気温からどれだけ高くなったかを求める式を選ぶ	ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表されることを理解している	54.9	54.2	0.1	0.1
2 (1)	「1個 a kgの荷物3個と1個 b kgの荷物4個の全体の重さは15kg以上である」という数量の関係を表した不等式を書く	数量の大小関係を不等式に表すことができる	39.2	41.5	8.5	8.5
2 (2)	$6a^2b \div 3a$ を計算する	単項式どうしの除法の計算ができる	90.3	91.0	2.6	2.4
2 (3)	$a=3, b=-4$ のときの式 $a-2b$ の値を求める	文字式に数を代入して式の値を求めることができる	77.3	78.5	5.0	4.8
2 (4)	等式 $S = \frac{1}{2}ah$ を、 a について解く	具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形することができる	43.6	48.2	15.7	15.3
3 (1)	一元一次方程式 $6x-3=9$ を解く際に用いられている等式の性質を選ぶ	方程式を解く場面における等式の性質の用い方について理解している	59.7	64.0	0.6	0.6
3 (2)	比例式 $x:20=3:4$ を解く	簡単な比例式を解くことができる	88.0	87.8	5.0	5.0
3 (3)	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 5x-2y=10 \\ 3x-2y=2 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	79.1	80.0	4.9	4.6
3 (4)	連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を選び、式で表す	着目する必要がある数量を見だし、その数量に着目し、連立二元一次方程式をつくることができる	74.5	75.2	0.5	0.6
4 (1)	ひし形が線対称な図形か点対称な図形か選ぶ	ひし形は、線対称な図形であり、点対称な図形でもあることを理解している	67.9	67.1	0.3	0.3
4 (2)	$\triangle ABC$ を辺ABが辺ACに重なるように折った線を作図するための線を選ぶ	折り目の線で作図と角の二等分線の関係を理解している	52.2	54.9	0.7	0.8
4 (3)	長方形ABCDを、点Aを中心として時計回りに 90° だけ回転移動した図形をかく	回転移動した図形をかくことができる	65.4	66.1	4.1	4.4
5 (1)	直方体において、与えられた面に平行な辺を書く	空間における平面と直線との位置関係（面と辺が平行であること）を理解している	72.0	74.3	1.4	1.4
5 (2)	半円の直径を軸として回転させてできる立体の名称を書く	半円を、その直径を軸として回転させると、球が構成されることを理解している	80.0	82.4	2.9	2.9
5 (3)	与えられた円柱の見取図から、その円柱の投影図を選ぶ	見取図、投影図から空間図形を読み取ることができる	80.2	83.7	0.3	0.3
5 (4)	底面の四角形が合同で高さが等しい四角柱と四角錐の体積の関係について、正しいものを選ぶ	四角錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい四角柱の体積の $\frac{1}{3}$ であることを理解している	56.2	57.6	0.5	0.5
6 (1)	三角形の外角を表す式を選ぶ	三角形の外角とそれと隣り合わない2つの内角の和の関係を理解している	68.7	71.4	0.4	0.4
6 (2)	五角形の1つの頂点を動かし、角の大きさを 90° に変えたときの内角の和の変化として正しいものを選ぶ	多角形の内角の和の性質を理解している	75.1	75.7	0.4	0.4

■ 中学校数学A 設問別正答率（後半）

7 (1)	$\triangle ABC$ と $\triangle DEF$ が合同であるための条件として、正しいものを選ぶ	2つの三角形が合同であるために必要な辺や角の相等関係について理解している	69.2	72.0	0.5	0.5
7 (2)	長方形で成り立ち、ひし形でも成り立つことを選ぶ	長方形やひし形が平行四辺形の特別な形であることを理解している	77.1	78.2	0.5	0.5
8	対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ	証明の必要性和意味を理解している	39.9	45.5	0.6	0.6
9 (1)	比例 $y = 5x$ について、正しい記述を選ぶ	比例 $y = ax$ における比例定数 a の意味を理解している	64.3	65.5	1.2	1.2
9 (2)	比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求める	与えられた比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求めることができる	50.6	55.0	14.1	13.0
9 (3)	反比例のグラフから表を選ぶ	反比例について、グラフと表を関連付けて理解している	52.8	52.8	1.3	1.4
10	点 $(-2, 3)$ の位置を座標平面上に示す	座標平面上に点の位置を示すことができる	67.1	69.9	2.9	2.9
11 (1)	一次関数 $y = 2x + 7$ について、 x の値が1から4まで増加したときの y の増加量を求める	一次関数 $y = ax + b$ について、 x の値の増加に伴う y の増加量を求めることができる	41.7	45.3	15.0	14.8
11 (2)	一次関数 $y = -2x + 6$ が表すグラフを選ぶ	一次関数 $y = ax + b$ について、 a と b の値とグラフの特徴を関連付けて理解している	54.1	56.3	0.8	0.9
12	歩いた道のりと、残りの道のりの関係について、正しい記述を選ぶ	一次関数の意味を理解している	35.4	36.4	1.0	1.0
13	グラフから、連立二元一次方程式の解を座標とする点について、正しい記述を選ぶ	連立二元一次方程式の解を座標とする点は、座標平面上の2直線の交点であることを理解している	60.1	62.7	1.6	1.9
14 (1)	生徒35人の靴をサイズごとに調べ、最頻値が25.5cmだったことについて、必ずいえる記述を選ぶ	最頻値は、資料の中で最も多く出てくる値であることを理解している	69.7	68.4	1.4	1.4
14 (2)	反復横とびの記録の中央値を求める	与えられた資料から中央値を求めることができる	74.5	74.0	4.5	4.6
15 (1)	1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ	多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している	37.7	40.2	1.9	1.8
15 (2)	大小2つのさいころを同時に投げるとき、和が8になる確率を求める	表などを利用して、確率を求めることができる	72.3	71.3	9.3	9.7

■ 中学校数学B 設問別正答率

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
1(1)	全校生徒300人に対する上位4曲を回答した生徒数の割合を求める	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる	55.1	55.7	10.7	11.1
1(2)	放送計画で、1日目がA、2日目がBになる確率を求める	与えられた情報を分類整理し、不確かな事象の起こりやすさの傾向を捉えることができる	40.5	43.9	7.4	7.0
1(3)	全校よりも1年生の回答用紙によるくじ引きの方が曲Fが選ばれやすいことの原因を確率を用いて説明する	不確かな事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる	35.5	36.2	22.6	24.9
2(1)	はじめの数が10のときの計算結果を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	89.4	89.5	4.6	4.4
2(2)	はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になる説明を完成する	事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる	37.9	37.5	25.3	25.0
2(3)	計算の順番を入れ替えたものを選択し、その計算結果が何の倍数になるかを求める	3つの計算の順番を入れ替えたときの計算結果を数学的に表現することができる	68.2	68.3	0.8	1.1
3(1)	列車の運行のようすが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを事象に即して解釈することができる	65.1	67.6	0.5	0.5
3(2)	グラフから、列車のすれ違いが起こる地点のA駅からの道のりを求める	グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することができる	76.7	77.7	7.0	6.9
3(3)	A駅からの道のりが6kmの地点において、列車Aが通ってから列車Bが通るまでの時間をグラフから求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	13.3	13.2	32.8	33.4
4(1)	証明されたことから、新たにわかることを選ぶ	証明を振り返り、証明した事柄を基にして、新たな性質を見いだすことができる	54.4	55.4	0.6	0.7
4(2)	平行四辺形ABCDの外側に2つの点E、Fを取っても、四角形EBFDは平行四辺形となることの証明を完成する	発展的に考え、条件を変えた場合について、証明の一部を書き直すことができる	39.3	42.4	4.8	6.2
4(3)	平行四辺形ABCDを正方形ABCDに変えたときの四角形EBFDがどのような四角形になるかを説明する	付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる	40.4	42.3	23.9	24.6
5(1)	S社の団体料金が通常料金の何%引きになっているかを求める式を書く	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる	12.8	16.0	22.8	24.1
5(2)	通常料金をaとしたときの団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び、その理由を説明する	里奈さんの計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することができる	9.0	10.4	4.7	6.6

6 中学校理科

- 理科は、次のような課題が見られた。
 - ・ 濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できること
(2(2) 福岡県 44.8% 全国 46.9%)
 - ・ 風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できること
(3(1) 福岡県 36.4% 全国 37.5%)
 - ・ 植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できること
(9(2) 福岡県 19.1% 全国 19.4%)

※ 授業改善の視点から、特に課題が見られるものを挙げている。

※ 数値は平均正答率を示している。

■ 平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差、評価の観点別・問題形式別正答率

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	17.7	65	18.0	5.2
全国(公立)	17.9	66	19.0	5.2

	評価の観点				問題形式		
	関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式
福岡県	74.8	64.3	66.1	67.7	70.2	69.4	49.2
全国	74.0	64.9	67.0	68.7	70.9	70.2	50.1

■ 正答数分布 横軸：正答数(問) 縦軸：割合(%)

平成30年度全国学力・学習状況調査

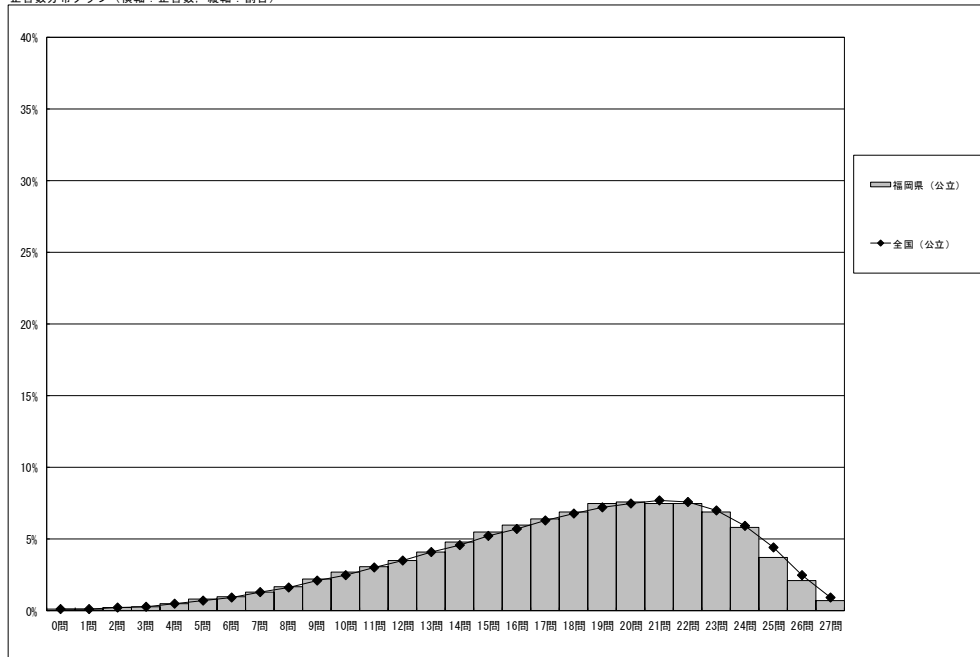
中学校調査

調査結果概況 [理科]
福岡県一生徒(公立)

・以下の集計値/グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	40,188	17.7 / 27	65	18.0	5.2
全国(公立)	967,188	17.9 / 27	66.1	19.0	5.2

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)



正答数	正答数集計値			
	生徒数	割合(%)		
	福岡県(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)	全国(公立)
0問	21	0.1	0.1	0.1
1問	32	0.1	0.1	0.1
2問	62	0.2	0.2	0.2
3問	112	0.3	0.3	0.3
4問	182	0.5	0.5	0.5
5問	303	0.8	0.7	0.7
6問	382	1.0	0.9	0.9
7問	539	1.3	1.3	1.3
8問	665	1.7	1.6	1.6
9問	888	2.2	2.1	2.1
10問	1,068	2.7	2.5	2.5
11問	1,264	3.1	3.0	3.0
12問	1,419	3.5	3.5	3.5
13問	1,634	4.1	4.1	4.1
14問	1,922	4.8	4.6	4.6
15問	2,216	5.5	5.2	5.2
16問	2,392	6.0	5.7	5.7
17問	2,568	6.4	6.3	6.3
18問	2,754	6.9	6.8	6.8
19問	3,003	7.5	7.2	7.2
20問	3,061	7.6	7.5	7.5
21問	3,021	7.5	7.7	7.7
22問	2,999	7.5	7.6	7.6
23問	2,766	6.9	7.0	7.0
24問	2,311	5.8	5.9	5.9
25問	1,473	3.7	4.4	4.4
26問	859	2.1	2.5	2.5
27問	272	0.7	0.9	0.9

■ 中学校理科 設問別正答率（前半）

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
1 (1)	光の反射を利用した「テレプロンプター」のモデルを作って科学的に探究する場面において、光の直進や反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用することができるかどうかをみる	光の反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用できる	61.2	61.7	0.1	0.1
1 (2)		テレプロンプターのモデルの光の道筋を検討して改善し、適切な光の道筋を説明することができる	74.5	73.7	0.2	0.2
2 (1)	理科通信のアサリに興味をもち、アサリが出す砂の質量は何に関係しているのかを科学的に探究する学習場面において、水溶液の濃さや無脊椎動物に関する知識、問題解決の技能を活用できるかどうかをみる	無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用できる	86.6	86.2	0.1	0.1
2 (2) 低い濃度		濃度が異なる食塩水のうち、濃度の低いものを指摘できる	75.4	76.5	1.2	1.2
2 (2) 3.0%の濃度		濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる	44.8	46.9	1.2	1.3
2 (3)		「アサリが出した砂の質量は明るさに関係しているとはいえない」と考察した理由を指摘できる	79.1	79.7	0.2	0.2
2 (4)		1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘できる	57.8	61.3	8.8	9.5
3 (1)	コンピュータを使ったシミュレーションで台風の進路や風向を科学的に探究する場面において、日本の天気の特徴に関する知識と観測方法や記録の仕方に関する知識・技能、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる	36.4	37.5	0.2	0.2
3 (2)		太平洋高気圧（小笠原気団）の特徴についての知識を身に付けている	64.7	67.3	0.4	0.4
3 (3)		シミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘できる	52.0	52.3	7.5	7.9
4 (1)	図書便りに紹介されていたファラデーの「ロウソクの科学」を読んで、ガスバーナーを使った燃焼を科学的に探究する場面において、実験器具の操作や化学変化と原子・分子、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	ガスバーナーの空気の量を調節する場所を指摘できる	73.6	73.4	0.3	0.4
4 (2)		炎の色と金網に付くすすの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できる	43.2	44.1	15.4	15.5
4 (3)		化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる	48.3	49.4	14.5	16.2
5 (1)	「運転中に運転士に話しかけるとブレーキを踏むのが遅れるのではないか」という予想を科学的に探究する場面において、刺激と反応についての知識と自然の事物・現象を実験の装置や操作に対応させたモデル実験の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	神経系の働きについての知識を身に付けている	51.8	57.2	7.5	7.1
5 (2)		反応の時間を測定する装置や操作を刺激と反応に対応させた実験を計画できる	61.3	62.8	0.5	0.5

■ 中学校理科 設問別正答率（後半）

6 (1)		電流計は回路に直列に接続するという技能及び電流計の電気用図記号の知識を身に付けている	68.4	70.5	0.4	0.4
6 (2) 電流	自転車のライトの豆電球型のLEDが豆電球に比べて明るく点灯したことに疑問をもって科学的に探究する場面において、電流・電圧と抵抗及び電力と発生する光の明るさとの関係に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる	実験の結果を示した表から電流の値を読み取ることができる	77.6	77.2	10.5	11.6
6 (2) 抵抗		オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる	53.9	51.9	12.9	14.6
6 (3)		豆電球と豆電球型のLEDの点灯の様子と電力との関係を指摘できる	91.0	91.4	0.6	0.6
7 (1)	緊急地震速報による避難訓練の後、地震を科学的に探究する場面において、地震の揺れの伝わり方や光と音の伝わり方に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる	地震の揺れの強さが震度であること、S波による揺れが主要動であることの知識を身に付けている	55.2	55.1	0.4	0.4
7 (2)		緊急地震速報を受け取ってからS波による揺れが始まるまでの時間が最も長い観測地点を指摘できる	78.9	78.5	0.6	0.5
7 (3)		初期微動継続時間の長さや震源からの距離の関係の知識と音の速さに関する知識を活用できる	94.2	94.4	3.6	3.6
8 (1)	火を使わないで発熱する商品の仕組みを科学的に探究して実験ノートにまとめる場面において、化学変化と熱についての知識と問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる また、探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見だし探究を深めようとしているかどうかをみる	アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身に付けている	83.5	83.5	0.5	0.6
8 (2)		発熱パックに入っているアルミニウムが水の温度変化に関係していることを指摘できる	70.4	72.0	0.5	0.6
8 (3)		探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見だし探究を深めようとしている アルミニウムは水の温度変化に関係していることについての新たな問題を見いだすことができる	74.8	74.0	18.9	20.3
9 (1)	部屋に見立てた容器に植物を入れて湿度の変化を科学的に探究する場面において、蒸散と湿度に関する知識、問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	植物の葉などから水蒸気が出る働きが蒸散であるという知識を身に付けている	88.7	88.0	0.6	0.6
9 (2)		植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる	19.1	19.4	19.8	21.4

7 過去の調査問題（同一問題）との正答率の比較

※ 「本県における過去との比較」は、同一問題について、本年度と過去の本県における正答率を比較し、その差を表す。

（↑：向上、↓：低下、数値は過去の本県調査結果と比較した増減値）

※ 「全国における過去との比較」は、同一問題について、本年度と過去の全国における正答率を比較し、その差を表す。

（↑：向上、↓：低下、数値は過去の全国調査結果と比較した増減値）

【中学校国語 A】

問題番号	問題の内容	H30			過去の全国調査における同一問題の正答率				本県における過去との比較	全国における過去との比較
		福岡県	全国	差	年度	福岡県	全国	差		
8三カ	適切な語句を選択する（わたしが健康になったのは、 <u>ひとえに母のおかげです</u> ）	63.8	65.4	-1.6	H22	61.1	63.5	-2.4	+2.7 ↑	+1.9 ↑

【中学校数学 A】

問題番号	問題の内容	H30			過去の全国調査における同一問題の正答率				本県における過去との比較	全国における過去との比較
		福岡県	全国	差	年度	福岡県	全国	差		
1(3)	$2 \times (-5^2)$ を計算する	65.3	68.9	-3.6	H26	67.3	70.7	-3.4	-2.0 ↓	-1.8 ↓
2(4)	等式 $S = \frac{1}{2} ah$ を a について解く	43.6	48.2	-4.6	H21	41.4	44.5	-3.1	+2.2 ↑	+3.7 ↑
6(2)	五角形の1つの頂点を動かし、角の大きさを 90° に変えたときの内角の和の変化として正しいものを選ぶ	75.1	75.7	-0.6	H22	71.3	72.8	-1.5	+3.8 ↑	+2.9 ↑
15(1)	1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ	37.7	40.2	-2.5	H25	29.5	33.1	-3.6	+8.2 ↑	+7.1 ↑

※小学校国語、算数、小・中学校理科については同一問題は出題されていない。

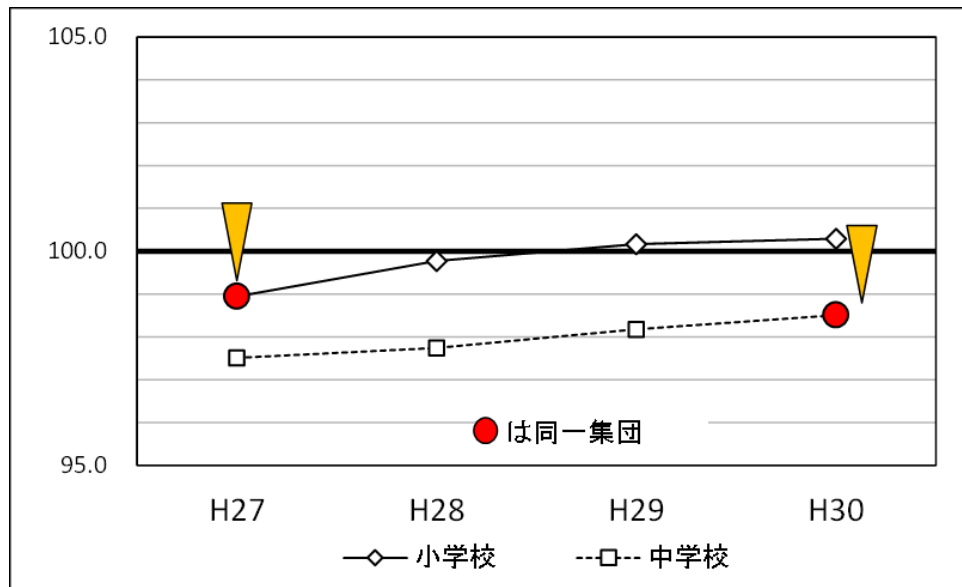
IV 小中をつないで効果を上げている取組事例

～9年間の学びの連続性を大切にし、中学校でさらに学力を向上させる取組～

本章は、9年間で子供を育てるという考え方に立ち、児童生徒の学力を小学校卒業後、中学校でさらに伸ばしている市町教育委員会及び学校の効果的な取組を紹介しています。

<参考>

全国学力・学習状況調査 本県の標準化得点（4教科区分の平均）の経年変化



このグラフは、小・中それぞれの標準化得点（4教科区分の平均）の経年変化を表しています。グラフには、●とその上に▼のマークを示しています。これは、同一集団である、H27年度の小学6年生と、平成30年度の中学3年生の標準化得点（4教科区分の平均）を比較しやすいよう、マークを入れたものです。

グラフからわかるように、本県では、同一集団の学力が、中学校段階で伸び悩んでいることが分かります。

本章で紹介する4つの事例では、小学6年生段階での学力を中学校段階でさらに伸長させています。

【事例1】

■ 学校、家庭、地域が連携した9年間の学力向上推進

太宰府市教育委員会

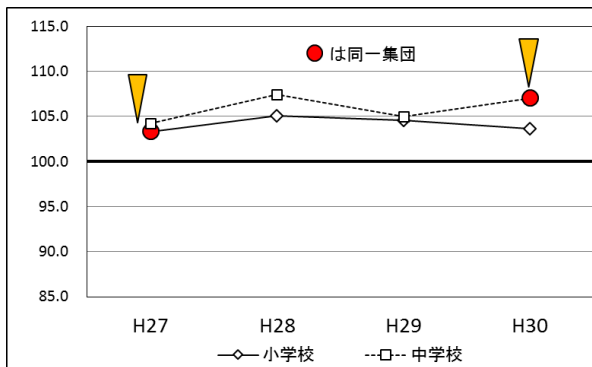
・全小学校7校、全中学校4校

○標準化得点（4教科区分平均）の経年変化

＜太宰府市教育委員会の特長＞

学校（小・中）、家庭、地域が協働して児童生徒の学力向上を推進

- 学力育成の学校体制づくりを推進
- 家庭や地域との連携を推進
- 県や市の重点に基づく実態資料の作成・提供
- 対象を明確にした具体的な改善依頼
- 小・中の切れ目ないPDCAサイクルの確立



1 まちとしての中核となる学力向上の取組

(1) 学力育成の学校体制づくりを推進【太宰府市学力向上宣言 Project 3】（資料1）

- ◇学習規律の徹底、支持的風土の醸成
 - 学び方、話し合いのルールなどの積極的な指導による安心して学べる雰囲気、児童生徒同士・教師と児童生徒の良好な人間関係の醸成
- ◇定期的な復習の実施
 - 「定着の時間」の教育課程への位置づけ、学習支援ボランティアを派遣
- ◇思考力を育む授業づくり、定期考査問題作成の推進
 - 入試問題、全国学力・学習状況調査問題、授業アイデア例等の情報提供
 - 市学力向上委員会における定期考査問題情報提供、市若年サークルにおける演習・協議

(2) 家庭や地域との連携を推進

- ◇中学校ブロックコミュニティ・スクールの推進
 - 小・中が学力実態や学習習慣等について目標や方法を共有化する研修会等の実施
 - 地域コミュニティによる学習支援の普及促進
- ◇「だざいふ・家庭共育宣言」（H27市PTA会長会作成）の普及促進
 - 家庭における学習・生活のリズム定着のための共通理解・共通実践の啓発

2 全小中学校に浸透・徹底させるための工夫

(1) 県や市の重点に基づく、学校別の学力実態資料等の作成・提供（資料2）

- ◇全国学力・学習状況調査（各教科区分）の経年変化（同一学年、同一集団）
- ◇全国学力・学習状況調査（各教科区分）の下位層（得点率50%以下）の人数割合と平均得点
- ◇全国学力・学習状況調査（児童生徒質問紙）の重点設問の相関分析（家庭学習時間、アクティブ・ラーニング、教師による児童生徒の肯定、地域との関わり等）

(2) 対象を明確にした学力向上推進会議、学校訪問による改善指導

- ◇校長会、教頭会、主幹教諭会、学力向上コーディネーター会の実施
 - 各学校における、それぞれの立場に応じた具体的な取組の推進
- ◇管理職、ミドルリーダーを対象とした市教委訪問
 - 「格差是正」を視点とする指導・助言
 - 「学校間格差」の解消を促す、管理職やミドルリーダーによる他校視察（成果を自校へ還元）
- ◇学校の全体（全職員）研修の場への指導主事派遣
 - 学校の学力・学習状況実態、授業改善の具体的方策の提供

(3) 小・中の切れ目ないPDCAサイクルの確立

- ◇全小学校小6年度末の復習（定着）週間の位置づけ、中学校入学時の学力テストの結果を小・中で共有化

■ 県や市の施策を浸透させる本校の取組

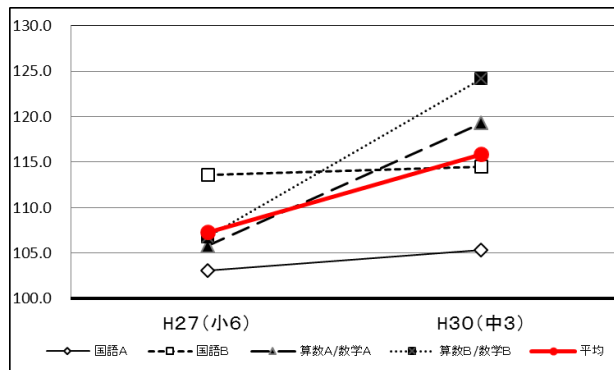
太宰府市立 A 中学校

・ 全校生徒数 248 名、全学級数 8（特支 1）

○ 同一集団の各教科区分等の標準化得点の変化

< A 中学校の特長 >

- おだやかでまじめな生徒集団、一方で自尊感情の向上が課題
- 学力向上といじめ・不登校対応の重点課題を柱とした校務運営
- 中学校区コミュニティ・スクールの推進による小中連携の充実
- 協働的で OJT を大切にする教師集団



3 まちの施策を受けて中核となる学校の取組

(1) 校内研究を核とした授業改善

本校では、学力育成の学校体制づくりの中心を研究推進委員会が担い、教職員の共同実践として、「学びの協同活動（資料 3）」を取り入れた授業づくりに取り組んでいる。「学びの協同活動」は小集団での協働的な学び合いの学習活動を指す。この活動の成立には、学級の支持的風土づくりが欠かせない。以上のことを受けて、本校の校内研究では、以下の取組を重点的に行っている。

- ・ 一人年間 2 回の「学びの協同活動」を取り入れた公開授業の実施
- ・ 生徒同士の穏やかな人間関係づくりのための「リレーション活動」の定期的な実施

(2) 自学ノートを中心とした自主学習・家庭学習の徹底（資料 4）

全国学力・学習状況調査の質問紙調査結果から、家庭学習の徹底が重点課題であることを受けて、家庭での自主学習をうながす「自学ノート」の質的改善に取り組んでいる。この「自学ノート」では「自学」のパターンを「ドリル・定着の自学」「まとめ・復習の自学」「ステップアップの自学」に分け、自分で内容を決めて 1 日 1 ページを取り組ませるようにしている。自学ノートに使うノートは、B5 版であること以外は特に指定していないが、以下の内容を記入させている（資料 4）。

- ・ ノートの一番上に「めあて」を書く。
- ・ ノートの最後に「まとめ」や「次の目標」を書き、次の学習につなげるようにする。

(3) ブロックコミュニティ・スクールを中心とした小中連携

市教委が推進する「小中連携を活かした中学校ブロックコミュニティ・スクール」について、A 中学校ブロックでは、スローガンを「学力向上！ A 中ブロックコミュニティ・スクール」とし、学力向上に特化した「ブロックコミュニティ協議会」を中心に設置している。また、特色ある取組を推進するために、3 つの推進部会を設置している。各推進部の主な取組は次の通りである。

- ・ 授業研究推進部会…主題研究を重点とした授業づくり研究。全国学力・学習状況調査の分析
- ・ 教科交流推進部会…小中 9 年間の連続発展を意図した、教科カリキュラムの交流
- ・ 家庭学習推進部会…家庭学習習慣・自学ノートの充実など家庭学習を定着させる小中間の連携

4 全ての学級や全ての教科担当に浸透・徹底させるための工夫

(1) 教職員研修の工夫

校内研修会で、県の施策、市の学力実態資料をもとに以下の活動を教員全員で行っている。

- ・ 全教員での市が提供した学力実態の分析と分析結果を基にした学力向上プランによる PDCA サイクルの確立（資料 5）
- ・ 全国学力・学習状況調査の問題を全員で解き合った後、国・数・理の教師による解説及び具体的な授業場面や各学年の取組に活用する手立てを検討
- ・ 市の学力向上推進協議会の内容を受けた今後の取組についての協議

(2) 「未来への架け橋」等、県や市の教育委員会が発信する授業改善・学習資料の活用の徹底

授業改善・学習資料として「未来への架け橋」「思考力・表現力等を問うことを重視した定期考査問題」を活用し、以下の取組を行っている。

- ・ 全教職員で資料の内容を確認・分析し、授業場面での活用方法を協議後、授業で使用
- ・ 担当教員が市研修に参加し、資料を参考にした定期考査問題の作成、実施

資料1 「太宰府市学力向上宣言」

太宰府市学力向上宣言

**太宰府市好みに
確かな学力を育成することを宣言します**

〓 太宰府市教育委員会
 〓 太宰府市小中学校 校長会
 〓 太宰府市小中学校 教員会

Project ① 授業研修＜授業力育成＞
授業力を高める実践的な研修を実施します

Project ② 市圏学研修＜人材育成＞
指導力の優れた市内外の教師に学びます

Project ③ 共通取組の実践＜学校体制＞
学校の学びの体制を整えます

Project ③ 信頼される学校の基礎整備
全小中学校で実施し確実に成果を出します

学力育成の学校体制

小学校

- 過去の問題を扱う授業
- 書く・話す・交際の授業
- 読書活動の推進
- スキルタイムの実施
- ノートの指導
- 定期的な練習の実施

活用力を育てる授業
思考力・判断力・表現力等の
領域に取り組みます

定数を守る取組
学習内容を反復し、いつでも
使える力にしています

学習・生活のリズム
学力につながる生活リズムを
整えます

中学校

- 過去の問題を扱う授業
- 活用問題の応用反復導入
- アクティブ・ラーニングの
視点を取り入れた授業改善
- 読書→週末読書→読書テ
ストのサイクル、少人数授業
- 学力コンクールの実施
- 学校ボランティアの活用
- PTAと連携した家庭学習
- スマホ等、家庭ルール作り

〓 お問い合わせ先
 太宰府市教育委員会 学校教育部
 TEL 092-921-2121
 (内線438)
 FAX 092-921-3667

＜太宰府市学力向上宣言活用のポイント＞

本宣言には、①授業力育成、②人材育成、③学校体制の整備について、市内全小中学校で実践する内容を示している。学力向上について、小学校間、中学校間の取組の較差を縮小するとともに、小学校、中学校の連携も促している。※上記資料は③学校体制の整備のみ

資料2 全国学力・学習状況調査質問紙調査 経年変化

	質問項目 ※③以外は、4段階で最も「当てはまる」の割合	年度	小学校		中学校	
			市平均	全国平均	市平均	全国平均
①	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	H 2 8	34.0	42.2	33.6	32.2
		H 2 9	37.2	47.3	35.6	34.5
		H 3 0	44.7	42.5	36.2	32.5
②	友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	H 2 8	22.1	26.9	22.7	20.2
		H 2 9	21.8	26.9	17.9	19.7
		H 3 0	34.6	34.7	38.0	32.4
③	学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか（1時間未満の割合）	H 2 8	30.8	37.3	32.2	32.1
		H 2 9	27.8	35.6	26.4	30.4
		H 3 0	24.1	33.7	25.8	29.4
④	授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか	H 2 9	29.7	34.5	19.0	19.4
		H 3 0	37.7	40.1	26.1	31.6

＜全国学力・学習状況調査質問紙調査活用のポイント＞

本市では、質問紙調査の重点項目を策定し、各学校・太宰府市・全国の結果を提供するとともに、指導主事が全学校を訪問して取組の改善を依頼している。経年変化によると、多くの項目で改善傾向が見られる。

資料3 「学びの協同活動の取組」

学びが成立する前提条件	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の生徒が相互を高め合う場となるように、また一人一人が自分の思いを班の中に出し合い、信頼関係・互恵関係を築いていく学級づくりを行う。そのためにリレーション活動を活用する。 ・生活班(班)と学習班(グループ)は分ける。
学習班(グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・男女混合4人(市松模様の机配置)を基本とする。また男2女2の構成が望ましい。 ・全員が額を寄せて小さな声で話しても聞こえる環境とする。 ・5人以上の班は作らない。
学びの目標設定	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒にとって『難』または『やや難』である目標」(生徒が背伸びしてジャンプすれば解決できる目標)を設定する。 ・また、3つの視点「同一性(共通のこたえの追究)・個人性(個に応じて自分のこたえを追究)・多様性(さまざまなこたえの追究)」のいずれから目標を明確にする。

資料4 「自分で考える自学ノートの取組」

A中学校 自学ノートの取組方 その1

今の自分に必要な自学ノートにしましょう。

ア ドリル・定書の自学【英文練習や計算練習など、何度も練習をして習ったことを定書させるための自学です。ノートいっぱい書きましょう。】

イ まとめ・復習の自学【授業内容を振りかえったり、理解したい内容を確認したりするために習ったことを自分でまとめる自学です。自分の言葉でまとめましょう。】

ウ ステップアップの自学【難易度の高い問題に取り組み、力を伸ばすための自学です。テストの問題や、自作問題に取り組みとよいでしょう。】

取組む方 ①ノートの一番上に〈めあて〉を書きます。※各教科の例を参考に。...

例：(英語イ) 代名詞の種類やどのような時に使うのかをまとめよう。...

②ノートの最後に〈まとめ〉や〈次の目標〉を書き、次の学習につなげましょう。...

例：代名詞はすでに話題になっている人やものについて言うときに、その後の代わりを使う。...

☆ 各教科のめあての例 (5教科) ...

数学ア	因数分解の問題をたくさん解こう。...
数学イ	比例と一次関数の違いを表・式・グラフの特徴をもとにまとめよう。...
数学ウ	〇〇の内容の入試問題を解いてみよう。...

取組む方 ①ノートの一番上に〈めあて〉を書きます。※各教科の例を参考に。...

例：(音楽応用) ホルン・ト短調の音楽の特徴をまとめよう。...

②ノートの最後に〈まとめ〉や〈次の目標〉を書き、次の学習につなげましょう。...

例：ホルンとは、主旋律が音の高さを低くしながらあらわれ、組み合いながら展開する音楽である。...

☆ 各教科のめあての例 (技能教科) ...

美術	基本	色の特徴をまとめよう。...
	応用	色の特徴を理解して活用法をまとめよう。...

【生徒に提示して説明した「取組む方」】

【生徒がつくっためあてとまとめの例】

〈ア〉美術

めあて：テスト範囲の復習をして、基本的な言葉を覚えよう。

まとめ：線遠近法は消失点の数によって名称が変わってくる。どんなところから見ると何になるかが大切。

〈イ〉社会

めあて：現代社会と日本国憲法についてまとめよう。

まとめ：問題を合意へ導くときの考え方をまとめ、おさらいをすることができた。

〈ウ〉理科

めあて：化学分野の記述で答える問題を解こう。

まとめ：～記述問題の解き方～①指定語句はそのまま写す。②文末に注意する。(～から、～こと、～名詞)

資料5 「実態に即した学力向上プランの修正と修正内容の全教職員への周知」(4月当初→8月修正)

修正を行った項目	修正した内容
視点1-①生徒の学力の課題	【内容付加】自校採点結果より、数学Bの得点率の低さが明らかとなり、課題として追加
視点1-②中期目標・指標	【数値更新】4月の学力診断テスト結果をもとに、年度末に向けた具体的な数値目標を各教科で詳細に決定
視点3 学力基盤づくり	【内容付加】数学における少人数指導は、表現力向上に焦点化

＜学力向上プラン活用のポイント＞

- 短期目標とそれに合わせた取組は、研究推進委員会で実態に合わせて大胆に修正を図る。
- 校内研修会で学力向上コーディネーターによる変更内容の十分な説明を行い、周知を図る。
- 研究主任より、重点化を図る取組む方を、授業事例をもとに説明する。

【事例2】

■ 小中9ヵ年を見通した学力向上

須恵町教育委員会

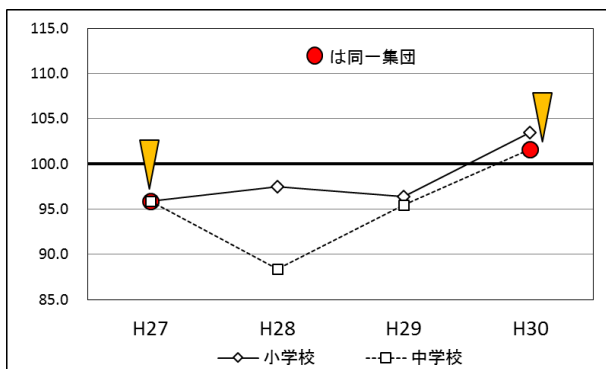
・全小学校3校、全中学校2校

○標準化得点（4教科区分平均）の経年変化

＜須恵町教育委員会の特長＞

幼・小・中の連携に力点をおき、平成24年度からは、小中融合教育を推進している。

- 一人一人の児童生徒に視点を当てた学力向上
- 「感動」「感謝」「共感」できる心の教育の推進
- 継続的な小中融合教育の推進
- 学力向上検証委員会の機能化
- 年6回の教務担当者会での学力向上の検証



1 まちとして中核となる学力向上の取組

(1) 一人一人の児童生徒に視点を当てた学力向上

- ・C評価の児童生徒に対する学年や学校の指導について、PDCAマネジメントサイクルによる学力向上を図る。
- ・小学校では、3・4年生でのC評価の児童ゼロを目指し、放課後の補充学習等について、学年体制で組織的に取り組み、学力の確実な定着を図る。
- ・中学校では、1・2年のC評価の生徒リストを作成・共有し、個々の生徒への対応を学年部、学級担任と教科担任が連動して取り組み、分析テストの結果を分析し、評価と指導の一体化を図る。

(2) 「感動」「感謝」「共感」できる心の教育の推進

【道徳教育の充実】

- ・特別活動や地域行事との関連化を図り、ボランティアなど具体的な地域への貢献を通して児童生徒の道徳的実践力の向上を図る。
- ・「成長のあしあと」（家庭と学校をつなぐ15年間の子どもの成長記録※資料1）や土曜授業参観等を通して保護者や地域へ心の教育の推進や道徳教育の重要性を啓発し共通理解を図る。

【規範意識の醸成】

- ・校区コミュニティや地域と連動した、コミュニティ行事等への計画的な参加を促すとともに挨拶運動や生徒会、児童会等を活用した取組の充実を図る。
- ・勤労観の育成につながる黙働掃除を生徒会と児童会が連携して取り組む。

2 全小中学校に浸透・徹底させるための工夫

(1) 継続的な小中融合教育の推進

【小中融合推進委員会】

- ・各学校の校長・教頭・主幹教諭・研究主任で構成され、研究の方向性の審議や小中合同研修会の内容の吟味、研修日程の調整を行う。

【小中合同研修会】

- ・各学校の教員が一同に会して、公開授業後の整理会や講話などを通して、小中が統一して取り組む内容や指導方法の共通理解を図る。

(2) 学力向上検証委員会の機能化

全国学力・学習状況調査の自校採点を5月初旬に行い、分析結果をふまえて手立てを策定する。各校で改善策に対する進捗状況を学級単位で進行管理するために

- ・小学校では、4・5・6年生の学年主任者会を年2回開催し、指導内容を協議する。
- ・中学校では、数学・国語の教科部会を年2回開催し、指導内容を協議する。

(3) 年6回の教務担当者会での学力向上の検証

各学校での「学力向上に向けた取組」を中心に進捗状況を共有するために、「決めたこと」「共通実践内容」に対する月単位でのC-A（チェックとアクション）を実施している。

■ 生徒の授業評価を生かした授業改善と学習基盤づくり

須恵町立B中学校

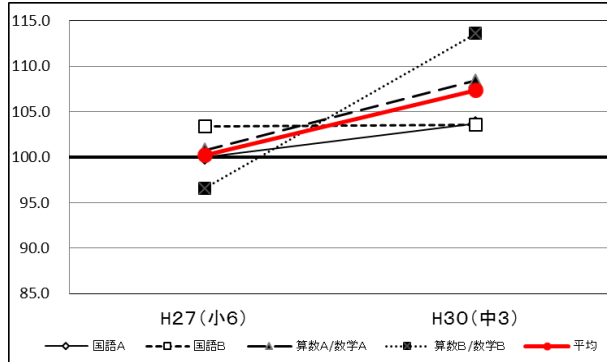
・全校生徒数320名、全学級数11（特支2）

○同一集団の各教科区分等の標準化得点の変化

<B中学校の特長>

生徒の声を反映させた「授業改善」と、生徒会活動と連動した「心の教育」を重視している。

- 一人一人の生徒に視点を当てた学力向上
- 「きたほめ！」ボランティア
- 小中合同での目指す授業像等の共通理解
- 生徒による授業評価を生かした授業改善
- 生徒会活動による心の教育の推進



3 まちの施策を受けて中核となる学校の取組

(1) 一人一人の生徒に視点を当てた学力向上

【「振り返り」における発問の工夫】

「振り返り」では、生徒が「何がわかったのか」「次は何をわかりたいか」を自覚させることが大切であると考えます。そのため、生徒に「何を、どのタイミングで、どのように」を意識しながら発問を行っている。生徒に「理解に対する問い」「関連に関する問い」「方略に関する問い」「振り返りに関する問い」という4つの問いを意図的、継続的、計画的に行うことで、生徒の「わかった」につなげている。

【C評価生徒への対応】

学力分析テストの結果をもとに、学力が低位の生徒の中から各学級5名程度の生徒を抽出している。教科担任は、C評価生徒の授業中の様相を観察したり、「振り返り」での反応を分析したりすることで、授業改善を行っている。学年体制としては、定期考査前や長期休業中に行われる補充教室に参加させ、学力の補充を行っている。

(2) 「きたほめ！」ボランティア

生徒の自己有用感の育成を図るために、「ボランティア活動」に取り組んでいる。具体的には、校内で行われる「美化作業」「PTAバザーの手伝い」や校外で行われる「地域の祭りの手伝い」「小学校の補充学習の支援」など多岐にわたる。それらの活動の後には、「きたほめチャレンジカード」に「活動日」「活動内容」「感想」を記載し、担任に提出している。次の活動への意欲となるように、担任を中心に評価している。

4 全ての学級や全ての教科担当に浸透・徹底させるための工夫

(1) 小中9年間で目指す授業像等の共通理解

年3回の小中合同授業研修会において、共通の目指す授業像をつくり、共通理解するとともに、基盤となる学習規律や家庭での学習習慣、「挨拶」「無言清掃」等の学校生活に係る内容について揃えることで、小・中学校での学びの系統を整えている。

(2) 生徒による授業評価を生かした授業改善

4月に生徒と教師に各教科で学習アンケート（資料2）を実施することを周知している。

そして、7月に学習アンケートを実施して集計を行い、8月に研究推進委員会が、各教科で結果の分析と12月までの重点取組項目の決定及び数値目標を設定するように提案している。同時に、学習アンケートを基に9月に生徒に配布する「授業こうします宣言」（資料3）を作成するようにしている。

(3) 生徒会活動による心の教育の推進

生徒会活動では、「五徳の心」を育成するための具体的な取組として、「挨拶運動」と「無言清掃」に重点的に取り組んでいる。4月に生徒会オリエンテーションとして、挨拶と無言清掃の仕方を共通理解する場を設けている。また、「五徳の心の自己評価シート」（資料4）を年に3回実施し、生徒の変容から目標値を設定し、生徒会活動と連動し具体的な取組を実施している。

資料1 「成長のあしあと」

須恵町個別の教育支援計画書

氏名	ふりがな	性別	生年月日	平成 年 月 日	住所	保護者名	連絡先	緊急連絡先
お子様の成長の記録を残しましょう *評定については 4・・・よくできている 3・・・だいたいできている 2・・・あまりできていない 1・・・全くできていない								
園・学校名	() 小学校 1年	() 小学校 2年	() 小学校 3年					
子どもの様子 *よき点と課題の両面をご記入ください								
保護者の願い・要望 *課題等を記入ください								
教育 *園・学校での子どもの成長								
項目	評 価 項 目	評 定	項目	評 価 項 目	評 定	項目	評 価 項 目	評 定
学習	学習時間を決めて、学習するようになりましたか。		学習時間を決めて、学習するようになりましたか。	自分から机に向かって、集中して取り組む習慣が身に付くようになりましたか。		自分で今日の宿題を確認し、必ずやり遂げようになりましたか。		
	自分で宿題をやり遂げるようになりましたか。		自分で宿題をやり遂げるようになりましたか。	宿題や持ち物を点検を自分で行ったり、学習でつまづいているところをたずねたりして、学習を解決するようになりましたか。				
読書	学校からの連絡やお便り、翌日の学習準備などを一緒に確かめるようになりましたか。		学校からの連絡やお便り、翌日の学習準備などを一緒に確かめるようになりましたか。	家庭で本を読む習慣が付き、楽しく本を読むようになりましたか。		家庭で本を読む習慣が付き、いろいろな本を読むようになりましたか。		
	家庭で本を読む習慣が付き、楽しく本を読むようになりましたか。		家庭で本を読む習慣が付き、楽しく本を読むようになりましたか。					
生活	友達と仲よく生活できるよう社会のルールを身につけるようになりましたか。		友達と仲よく生活できるよう社会のルールを身につけるようになりましたか。	友達と仲よく生活できるよう社会のルールを身につけるようになりましたか。		友達と仲よく生活できるよう社会のルールを身につけるようになりましたか。		
	友達と仲よく生活できるよう社会のルールを身につけるようになりましたか。		友達と仲よく生活できるよう社会のルールを身につけるようになりましたか。					
地域	一緒に買い物をしたり、時計を読んだりしながら生活経験をふやすようになりましたか。		一緒に買い物をしたり、時計を読んだりしながら生活経験をふやすようになりましたか。	地域の町民図書館や歴史資料館などに行って、文化や自然・歴史に興味を持つようになりましたか。				
	一緒に買い物をしたり、時計を読んだりしながら生活経験をふやすようになりましたか。		一緒に買い物をしたり、時計を読んだりしながら生活経験をふやすようになりましたか。					
家庭	PTA 主体によるノーテレビ・ノーゲームを実施して効果がありましたか。		PTA 主体によるノーテレビ・ノーゲームを実施して効果がありましたか。	PTA 主体によるノーテレビ・ノーゲームを実施して効果がありましたか。		PTA 主体によるノーテレビ・ノーゲームを実施して効果がありましたか。		
	家族との会話を進めるようになりましたか。		家族との会話を進めるようになりましたか。	毎日の手伝いが習慣化するようになりましたか。		毎日の手伝いが習慣化するようになりましたか。		
家庭	毎日の手伝いをするようになりましたか。		毎日の手伝いをするようになりましたか。	「早寝・早起き・朝ご飯」の取り組みができるようになりましたか。		「早寝・早起き・朝ご飯」の取り組みができるようになりましたか。		
	毎日の手伝いをするようになりましたか。		毎日の手伝いをするようになりましたか。	学校・地域・行政が一体となった支援体制ができていますか。		学校・地域・行政が一体となった支援体制ができていますか。		
保護者印	担任印		保護者印	担任印		保護者印	担任印	

<「成長のあしあと」活用のポイント>

家庭と幼・保・小・中学校による、子どものポジティブな面にスポットを当てた成長の記録であり、担任間の指導の引継ぎの際にも、子どものよい点を積極的に捉えることができる。

資料2 「生徒による授業評価アンケート」

B中学校 学習アンケート(H. 30・前期) ()年()組()番 氏名()			
このアンケートは、みなさんの学習や家での勉強の様子について尋ねるものです。今後の学習を、さらに充実したものにするための資料となります。自分が感じたこと、考えたことなどを振り返り、一つひとつ真剣に答えてください。			
1 学習への取り組みについて			
①	学校の授業時間外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、勉強していますか。(塾や家庭教師の時間を含む)	⑥3時間以上 ⑤2時間以上、3時間より少ない ④1時間以上、2時間より少ない	③30分以上、1時間より少ない ②30分より少ない ①全くない
②	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれぐらいの時間、勉強していますか。(塾や家庭教師の時間を含む)	⑥3時間以上 ⑤2時間以上、3時間より少ない ④1時間以上、2時間より少ない	③30分以上、1時間より少ない ②30分より少ない ①全くない
③	週末課題を通して、文章の書き方を学ぶことができましたか。	④とてもできた ③できた	②あまりできなかった ①できなかった
④	週末課題を通して、自分の考えを文章に書き表すことができるようになりましたか。	④とてもできた ③できた	②あまりできなかった ①できなかった
⑤	3 年生セミナーを取り組んでみて、授業や受験勉強に役立ちますか。	④とても役に立っている ③ある程度役に立っている	②あまり役に立っていない ①役に立っていない
2 授業について			
アンケートの各質問の内容を読み、該当するものを一つ選びマークシートに答えてください。 「④当てはまる、③どちらかといえば、当てはまる、②どちらかといえば当てはまらない、①当てはまらない」			
国語	1	授業での先生の「問いかけ(問い)」は授業が「わかる」ことに役立っていますか。	④・③・②・①
	2	授業の中で行う学習内容や学習の方法の振り返りは「わかる」ことに役立っていますか。	④・③・②・①
	3	授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されている。	④・③・②・①
	4	授業での生徒間で話し合う活動を通して、学習内容が広がったり深まったりしていますか。	④・③・②・①
	5	授業の内容はよくわかる。	④・③・②・①
	6	宿題(予習・復習)に取り組むことで、授業の内容がよくわかる。	④・③・②・①
	7	授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいますか。	④・③・②・①

<生徒による授業評価アンケート活用のポイント>

家庭学習の時間など、学習に取り組む姿勢に関する質問と各教科の授業に関する質問の2つに分かれている。

前者については、「全国学力・学習状況調査」の質問内容と同じ項目にすることで全国との比較をしている。

後者については「主題研修」の検証に活用し、授業改善に役立っている。

資料3 「授業こうします宣言！」

B中 2学年 授業こうします宣言！	
みなさんが7月に書いた「授業アンケート」の結果から、9月から以下のように学習を行います。それぞれの教科の内容を確認しよう。	
国語	○考えたことをきちんと定着させるために、「振り返り」を行います。 ○学習内容の理解を深めるために、予習を中心とした「宿題」を計画的に出します。
数学	○1年生の時の問題を解く時間をとります。 ○課題解決や練習問題のときは、ペアや小集団で確認する活動を取り入れ、自信をもって発表できるようにします。 ○毎時間の授業の終わりに、この時間に「わかった」ことを振り返る活動を行います。
社会	○最後の振り返りで「わからなかった内容」を確認し、その時間、(次の授業)で再度学習します。 ○宿題または予習を計画的に出し、授業の内容をより深く理解できるようにします。
理科	○演示実験のときには、課題解決に向けての話し合い活動を行っていきます。 ○1時間の授業の最後には、その授業で学んだこと、理解すべきことを明確にしていきます。
英語	○学習課題に興味を持てるように、視覚的なもの(映像や写真等)を使います。 ○宿題(予習・復習)したことが、次の時間で活かせるようにします。

＜「授業こうします宣言！」活用のポイント＞

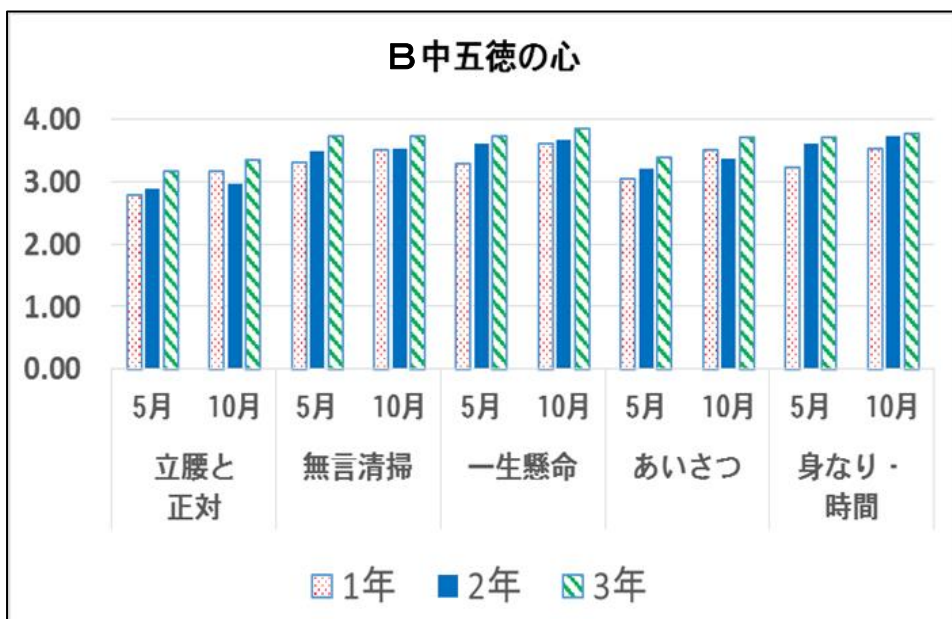
7月に、生徒による自己評価を行い、その結果を職員研修と教科部会で分析し、9月からの授業についてのマニフェストを示す。

資料4 「五徳の心 自己評価シート」

B中五徳の心 自己評価シート				
自分の行動を振り返り4段階で評価しよう				
1:できていない 2:少しはできている 3:だいぶんできている 4:よくできている				
	質問内容	前期	中期	後期
1	正しい姿勢(立腰)で正対して話を聞くことができる。	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
2	黙って膝をついて床を拭く無言清掃ができている。	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
3	仲間と一緒に係活動や行事などに一生懸命に活動することができる。	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
4	立ち止まり挨拶と丁寧な言葉遣いができる。	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
5	身なりを整え、時間を守ることができる。	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4

＜「五徳の心 自己評価シート」活用のポイント＞

「五徳の心」が育った生徒の姿を具体的に提示し、生徒が振り返りやすいように工夫している。



＜「五徳の心 自己評価シート分析」活用のポイント＞

グラフ化し、職員研修で提示する。「きたほめ」や「生徒会活動」と照らし合わせながら、今後の取組の内容を吟味している。

【事例3】

■ 小中9ヵ年を見通した学力向上

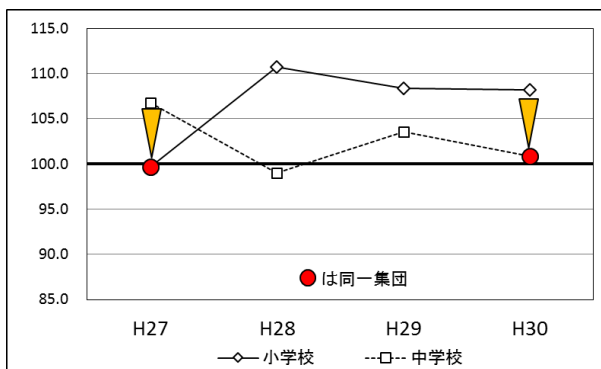
遠賀町教育委員会

・全小学校3校、全中学校2校

○標準化得点（4教科区分平均）の経年変化

<遠賀町教育委員会の特長>

平成25年度から県の重点課題の研究指定を受け、遠賀中学校区で小中連携教育を進めてきた。平成28年度からは、国立教育政策研究所の研究指定を受け、小中連携教育を町内全小中学校に広げながら、まちぐるみで児童生徒の学力向上を目指している。小中9ヵ年の連続性を重視した連携組織を構築し、「授業づくり」と「学習基盤づくり」に重点を置いた取組を推進している。



1 まちとしての中核となる学力向上の取組

(1) 研究推進組織体制の構築と運営の工夫

小中学校が連携しながら学力向上を推進するために研究組織（資料1）を構築している。「小中学校連携教育協議会」では、小中連携教育を効果的に推進するために研究の方向性や目指す具体像を示し、その実現に向けた方策を提示している。それを受けて「小中学校連携教育プロジェクト委員会」では、具体的な取組内容や方法について計画・立案し、各部会（学習指導部会・学習基盤部会・特別支援教育部会）や各学校の実践につなげている。加えて「小中連携事務局」では、各部会、各学校の取組の進捗状況を把握するとともに、各種委員会の日程決めや連絡・調整を行っている。

(2) 資質・能力を育む授業づくり

本町では、3段階で構成する学習過程（資料2）による授業づくりを行い、児童生徒の資質・能力の育成を目指している。今年度は、『比較』したり『関係付け』たりする『思考の方法』を取り入れた場面設定「話型の活用」「思考ツール等の活用」の支援を授業の中に位置付け、児童生徒の思考・判断・表現を促す授業づくりに重点を置いて取り組んでいる。

(3) 学習基盤の整備・充実

児童生徒の学習基盤を整備・充実させ、さらなる学力向上を図るため、基本的な生活習慣や家庭学習習慣の定着、学習規律の確立等に重点を置いた取組を推進している。今年度は、「通信機器の使用の在り方についての啓発」「基礎・基本の定着のための帯時間の設定」「家庭学習強化週間の設定」「学習規律に係る『授業の約束』の活用」等を計画的・継続的に実施している。

2 全小中学校に浸透・徹底させるための工夫

(1) 小中学校連携教育協議会（学力検証委員会）の計画的な実施

小中学校が連携して学力向上に向けた取組を推進することができるように、小中学校連携教育協議会において、児童生徒の学力実態等の分析を合同で詳細に行い、共通の目標や指標を設定している。各小中学校が、この目標や指標の実現を目指し、自校の実態に即した取組について吟味・検討し、より効果的な取組を実践するようにしている。

(2) 小中合同研修会の実施

本町の全教職員が共通理解のもと、協働で授業改善に取り組むことができるように、「小中合同研修会」を計画的に実施している（年間7回程度）。本研修会は、町内の全教職員が参加し、中学校における週1回の「ノー部活デー」の日を活用して実施している。本研修会では、資質・能力を育む授業づくりの方向性について提案したり、そのための有効な支援の在り方について協議したりしている。また、小中学校の代表者による公開授業や授業研究協議会等を位置付け、授業実践に基づいて、より具体的な支援の在り方について共通理解を図るようにしている。

(3) 小中連携通信の発行

小中合同研修会の実施前後等に「遠賀町小中連携通信」（資料3）を発行し、全教職員に配付している。研修実施前には、研修内容の予告を掲載し、教職員の意識を高めるようにしている。実施後には、研修内容のまとめを掲載し、周知徹底を図るようにしている。

■ 小中連携による学力向上を図る授業づくり

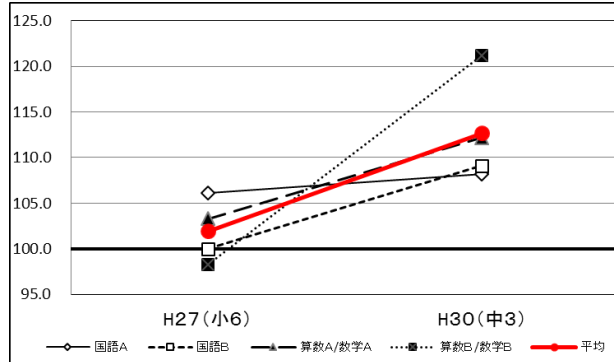
遠賀町立C中学校

・全校生徒数130名、全学級数6（特支2）

○同一集団の各教科区分等の標準化得点の変化

<C中学校の特長>

遠賀町小中連携教育推進組織体制のもと、学力向上を図る授業づくりに取り組んでおり、全国学力・学習状況調査結果から、標準化得点の上昇が見られる。一方、本校の課題の1つとして学力の二極化の傾向がある。この学力の二極化を解消するために、授業づくりと家庭学習や補充教室などの学習基盤づくりに取り組んでいる。



3 まちの施策を受けて中核となる学校の取組

(1) 授業づくり

本町で取り組んでいる「思考・判断・表現を促す授業づくり」を具現化するために、「学習指導部会」から、学習過程や話型、思考ツールの活用が示されている。本校では、これらを活用した一人一実践の研究授業を行っている。授業後の協議会では、研究主任によって具体的な課題解決を図るための協議の柱が設定され協議が行われる。また、学期末に生徒による各教科の授業アンケートを実施している。集約にあたっては、各教科の課題や成果が顕著に示されるように、アンケート結果分析（資料4）やグラフ提示の仕方の工夫をしている。このデータを校内学力向上推進委員会が分析した後、各教科部会で課題改善の取組を協議し、実践につなげている。

(2) 学習基盤づくり

【自学強化週間】毎月1週間、自学の量を増やすことや、思考・判断・表現に関する問題を取り入れた自学を実施している。

【スタディ・ウィーク】家庭と連携した計画的な家庭学習を促すために、期末考査前の1週間において、毎日の学習計画と学習の記録を学級担任と保護者が点検し、最終日に保護者から家庭学習の状況についてコメントを書いてもらう取組を行っている。

家庭学習習慣が身につけていない生徒に対しては、本町の2つの中学校で作成した家庭学習ノートを活用して、指導にあたっている。このノートは、学習方法が明記されているとともに、5日間で1冊が終わるようになっており、生徒の学習意欲を継続させ達成感を感じさせるようにしている。

【C中タイム】帰りの会前の10分間を使った補充学習を実施している。各学年、曜日によって異なる学習課題を出題し、各教科の基礎的・基本的な内容の定着を図っている。

【サマースクール】夏休みの5日間を利用して、1・2年生は全員参加で授業形式の補充教室を実施している。つまずきの多い既習内容の復習を行うことで、基礎・基本の定着を図っている。

4 全ての学級や全ての教科担当に浸透・徹底させるための工夫

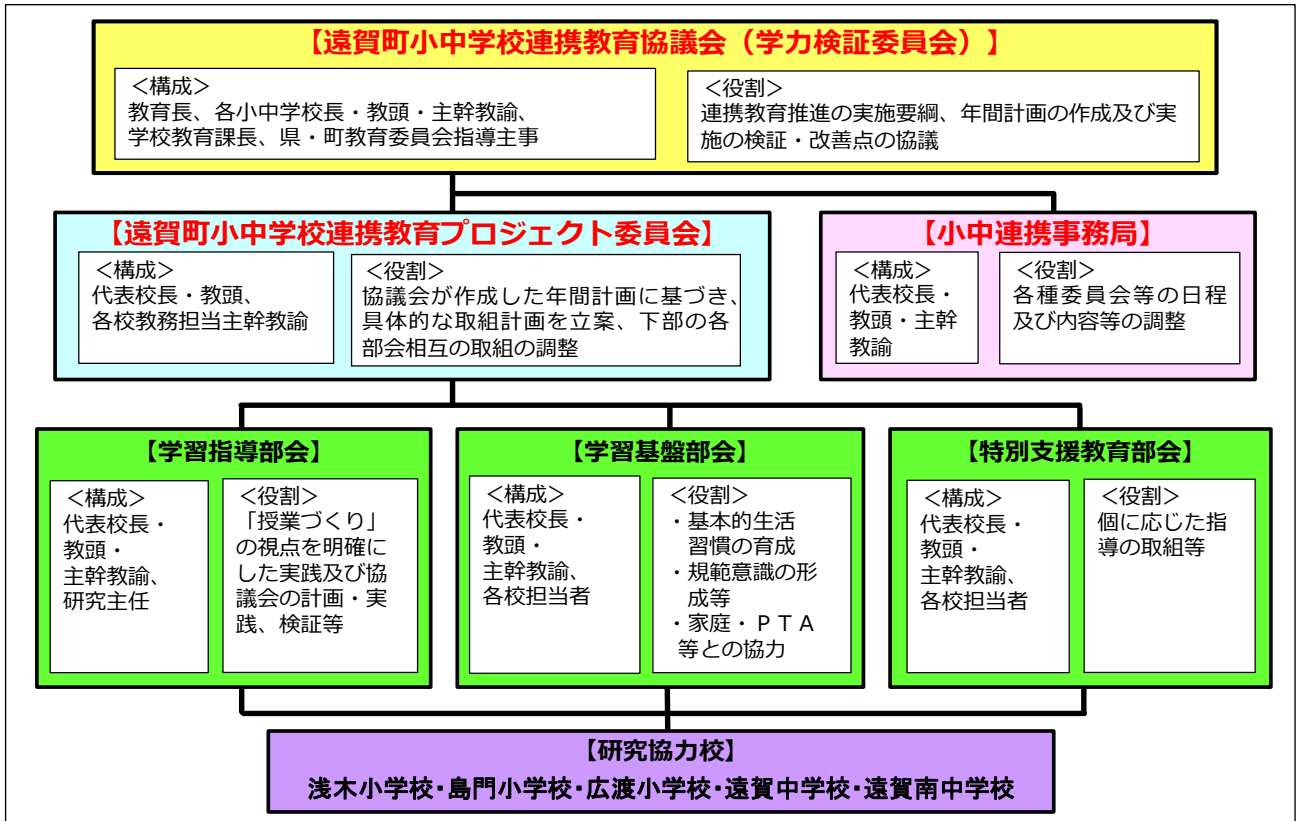
(1) 全国や県の学力調査等の結果分析を生かした授業改善

「小中学校連携教育協議会（学力検証委員会）」で行った全国や県の学力調査等の結果分析を、本校の校内学力向上推進委員会で整理し、教科部会に提供している。教科部会では、要因と今後の具体的な対策を協議し学校としてまとめ、日常の授業改善に生かしている。また、その内容を踏まえて学力向上プランや学力向上重点取組計画書の見直しを行っている。

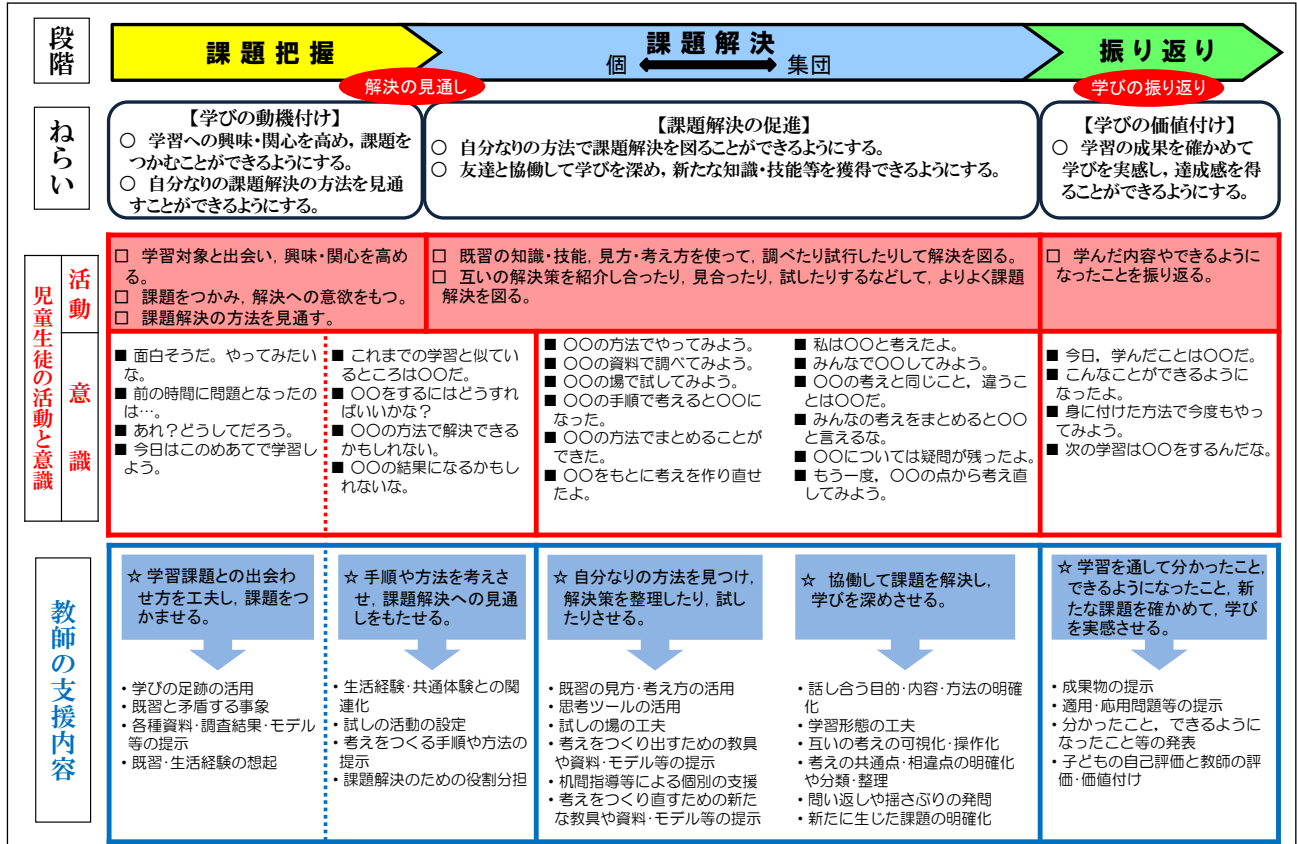
(2) 教職員研修の充実

毎月1回、校内学力向上推進委員会を開き、取組の一つとして教職員研修を企画し実施している。具体例としては夏季休業中を活用し、全国学力・学習状況調査の問題を実際に解いて問題の意図を協議することや、本校の無解答率に着目した分析を行うことで、生徒に身につけさせたい思考力・判断力・表現力について協議している。また、「小中合同研修会」で、他の小中学校の教職員と意見交流や協議を行うことで、授業づくりの考え方や具体的な支援について共通理解を図るとともに、小中連携通信等を活用した校内研修を実施することにより、各自の授業実践につなげている。

資料 1 「遠賀町小中連携教育研究組織」



資料 2 「『課題把握』『課題解決』『振り返り』の3段階で構成する学習過程」



＜『課題把握』『課題解決』『振り返り』の3段階で構成する学習過程』活用のポイント＞

本学習過程は、3段階の各段階のねらいや児童生徒の活動と意識、教師に必要な支援内容を明らかにしており、一単位時間の学習だけでなく、単元を通した学習においても活用できる。

資料3 「遠賀町小中連携通信」

遠賀町小中連携通信 No.8

「【着眼1】思考判断表現を促す授業づくりの具体について」
【平成30年10月5日（金） 発行：遠賀町小中連携事務局】

小学校は延期された運動会が無事終了し、中学校は文化祭の準備の真っ最中だと思います。日々、児童生徒の成長に向けて全力で取り組む先生方、大変お疲れさまです。
 さて、2学期は各小中学校で、研究授業が多く行われると思います。この度、小中連携学習指導部会から【着眼1】の具体が提案されましたので、先生方にご紹介します。以下の3つの手立てをそれぞれの授業づくりに生かし、子どもたちの思考力・判断力・表現力を向上させていきましょう。

【着眼1】思考・判断・表現を促す授業づくり」の具体について

(1) 「思考の方法」を取り入れた場面設定

児童生徒が、考えを吟味し、再構築等ができるように、課題把握や課題解決の段階に比較したり関係づけしたりする「思考の方法」を取り入れた考える場面を設定する(図1)。

- ・比較・・・比較の視点を明確にして共通点、相違点を見つける。
- ・関係づけ・・・複数の事柄を順序、統合、分類、具体、多面・多角、演繹、帰納、類推する等、結び付けて考える。

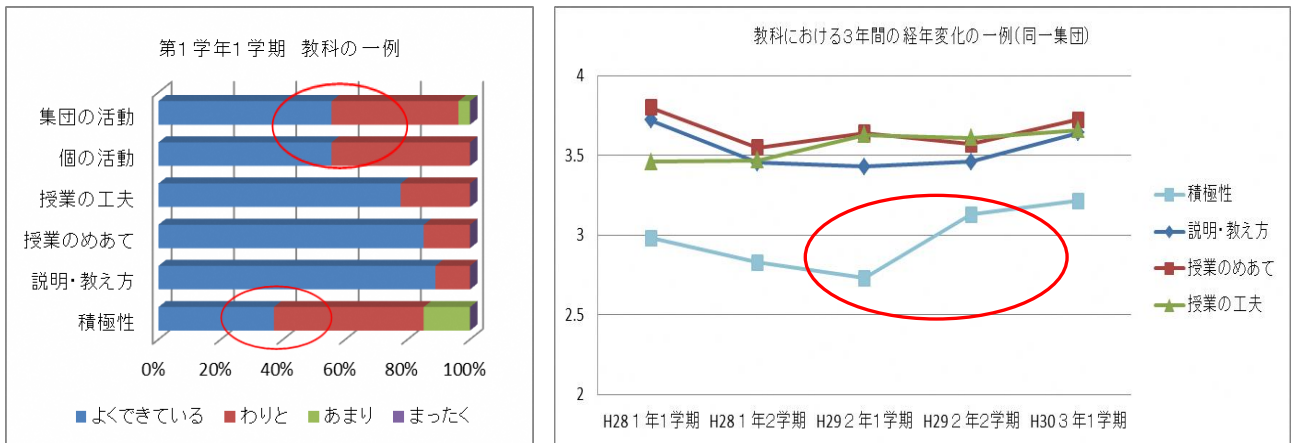
学習過程	課題把握	個	課題解決	集団	振り返り
思考	既習事項 生活経験		自分の考え 友達の考え		学びの実感 新たな課題
	比較 関係づけ		比較 関係づけ		比較 関係づけ

＜「遠賀町小中連携通信」活用のポイント＞

本通信は、小中合同研修会の実施前後等に発行され、教職員が熟読するとともに、校内研修で活用することで、本町の学力向上の取組について共通理解を図ることができる。まちぐるみで共同研究を進める上で有効な手段となっている。

なお、本通信は、A3またはA4サイズの紙面の表裏に情報を掲載しており、年間10回程度発行している。

資料4 「生徒による授業アンケート結果分析・教科における3年間の経年変化の一例（同一集団）」



＜生徒による授業アンケート活用のポイント＞

各教科の課題や成果が顕著に示されるように、アンケート結果分析を工夫することで、教職員各自の授業実践を振り返る資料として活用できるようにしている。

【事例4】

■ 小中9か年を見通した学力向上

小郡市教育委員会

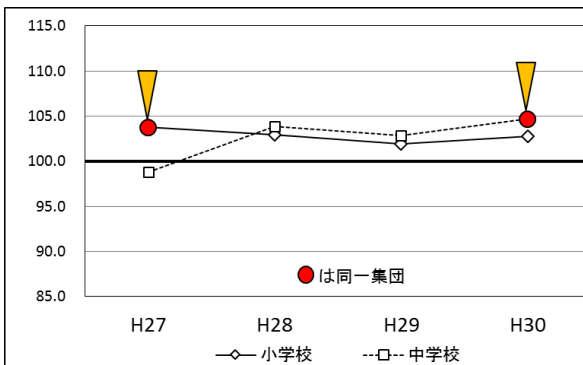
・全小学校8校、全中学校5校

○標準化得点（4教科区分平均）の経年変化

＜小郡市教育委員会の特長＞

小中9か年で学力向上を図る取組の推進

- 学力低位層に視点を当てた指標設定
- 校長を中心とした学力向上推進体制づくり
- 学校の学力向上改善サイクルの機能化への支援
- 調査結果分析状況を支援する教育委員会訪問
- 検証改善委員会の計画的実施



1 まちとしての中核となる学力向上の取組

(1) 学力低位層に視点を当てた指標設定

全国学力・学習状況調査（主として「知識」に関する問題）において、正答率4割未満の児童生徒数の割合が全児童生徒数の2割以下、また（主として「活用」に関する問題）において、正答率3割未満の児童生徒の割合が全児童生徒数の2割以下を指標とする（資料1）。

(2) 校長を中心とした学力向上推進体制づくりへの支援

校長会と市全体の課題の共有化を図り、課題解決のための方策を協議することによって、市全体で重点的に取り組む方策を策定する。

- 方策1：学力低位層の生徒の実態を把握し、習熟度別学習や補充学習を徹底すること
- 方策2：全ての教員が、校内研修等において、当該年度の全国学力・学習状況調査の問題を解く機会を設定すること
- 方策3：定期考査の一部に活用問題を取り入れること
- 方策4：授業等で、「基礎基本を含む活用力を育成する教材集」を活用した取組を行うこと
- 方策5：これから求められる学力及び授業改善について、指導主事等外部講師を招聘して、校内研修等を行うこと

(3) 教員の意識を高め、学校における学力向上改善サイクルの機能化に向けた支援

校長会等で、市教委作成の学力分析や分析の仕方、学力向上プランの評価時期等を示した学力向上改善サイクルの資料を提示するとともに、実態分析のノウハウに関する情報を提供する。

2 全小中学校に浸透・徹底させるための工夫

(1) 調査結果分析状況を支援する教育委員会訪問

学力向上に関する各学校訪問による指導助言を行う。

- ① 学校からの学力向上に関するRPDCAに関する校長及び教科担当者による説明
- ② 教育委員会による各学校の学力の実態を分析した資料の提供
- ③ 各学校の全体としての改善サイクルの取組への指導助言及び今後の教育委員会の支援についての協議

(2) 検証改善委員会の計画的実施

学力向上推進委員会の活性化を図る。

- ① 校長会及び教頭会の代表及び各学校の研究主任で構成し、市としての学力向上の取組の共通理解、校種毎の横の連携及び小中の縦の連携について協議
- ② 各学校の学力向上プラン、教科毎の学力向上プラン、9か年を見通した家庭学習の手引き等の検討
- ③ 学力調査結果分析を基にした根拠のある学力向上プランの見直し及び改善

■ 評価データを活用した全職員によるカリキュラムマネジメント

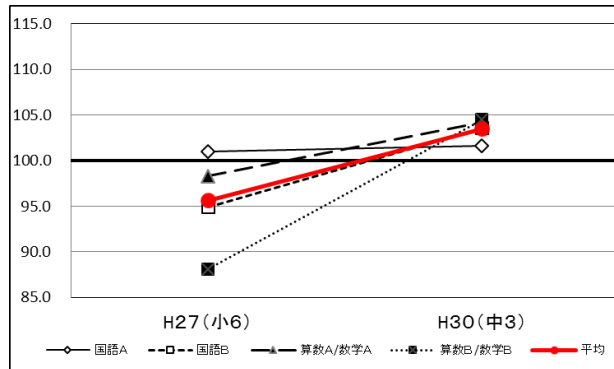
小郡市立D中学校

・ 全校生徒数約310名、全学級数11（特支2）○同一集団の各教科区分等の標準化得点の変化

<D中学校の特長>

校長を中心とした組織的な学力向上の取組

- 学力低位層生徒の把握
- 福岡県教育委員会作成の教材集の計画的活用
- 生徒による授業評価を生かした授業改善
- 計画的な校内研修会や教科部会の設定
- 小中連携の強化



3 まちの施策を受けて中核となる学校の取組

(1) 学力低位層生徒の把握

小郡市学力向上推進委員会による全国学力・学習状況調査や県学力分析テストの分析結果等を参考に、学校の調査結果を分析し、学校全体及び各教科の学力向上プランの策定・改善を行う。また、校内の指導方法工夫改善推進委員会を中心に、学力低位層の生徒に対しての個別指導や繰り返し指導、習熟度別学習指導（補充学習や発展学習）を実施する。

(2) 福岡県教育委員会作成の教材集の計画的活用

福岡県教育委員会作成の「教材集（基礎基本を含む活用力を育成する問題集）」や「福岡県学力調査フォローアップシート」、教育事務所作成「学力パワーアップ問題集」を年間指導計画や月行事予定表に位置づけ、授業での計画的な活用や、単元のまとめ、家庭学習での効果的な活用を実施する。

(3) 生徒による授業評価を生かした授業改善

本校の取組指標である「主体的・対話的で深い学び」（5つの視点）の実現に向けた授業改善の1つの資料として活用するために、全教科の授業アンケート（資料2-①）を年間3回実施している。このアンケートは研究主任が集約している。学力向上推進委員会で分析後、校内研修で各教科担当に結果（資料2-②）を提供することで、分析結果に基づいて教科部会で「教科の学力向上プラン」を話し合っ修正し、日常の授業で改善することを明確にする。

4 全ての学級や全ての教科担当に浸透・徹底させるための工夫

(1) 計画的な校内研修会や教科部会の設定

校内研修や教科部会、アンケートを実施する。

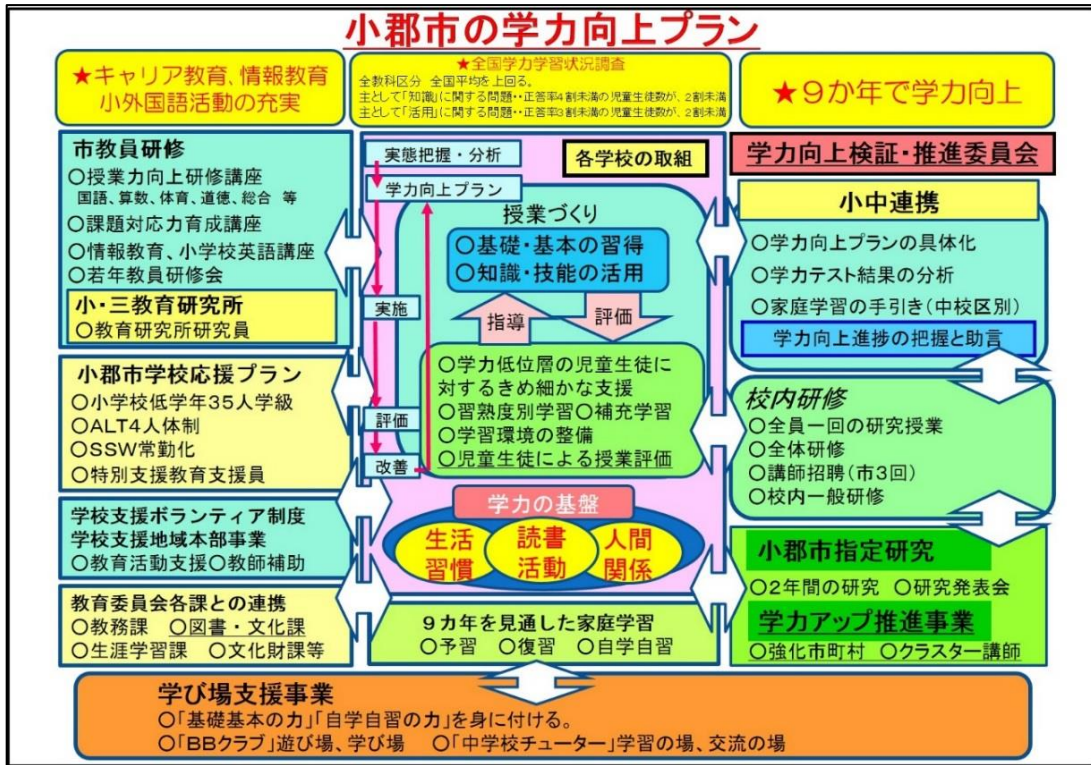
- ① 校内研修担当者を軸とした全職員による実践交流（授業づくり、集団づくり）
- ② 各教科の定期考査問題の検討及び意見交換
- ③ 全国学力・学習状況調査、福岡県学力調査、福岡県立高等学校入試問題等、全職員で解く機会の設定。また現在、求められている学力観や調査問題の傾向分析等の共通理解
- ④ 生徒による学級力アンケートの定期的な実施及び結果の活用（学級経営、全生徒・保護者への周知等）

(2) 小中連携の強化

小・中学校の共通理解・共通実践できる機会をつくる。

- ① 9か年を見通した家庭学習の手引き作成のための交流及び協議を実施し、同中学校区の「9年間の家庭学習の手引き」（資料3）を策定。
- ② 同手引きの活用と徹底を図るための小中合同の校内研修の実施
- ③ 学力調査結果及び学力向上に効果のあった取組等の小・中学校での交流

資料1 「小郡市教育委員会の学力向上プラン」



＜小郡市学力向上プラン活用のポイント＞

本プランには、小郡市の児童生徒の学力向上に係る教育施策及び学校の取組が全て集約されている。各小・中学校は、これを受け、学力向上プランや各種学力向上等の取組へ反映している。また、毎年度、市教育施策の更新に伴い、本プランも更新され、新規の取組等に関する共通理解を図ることができる。

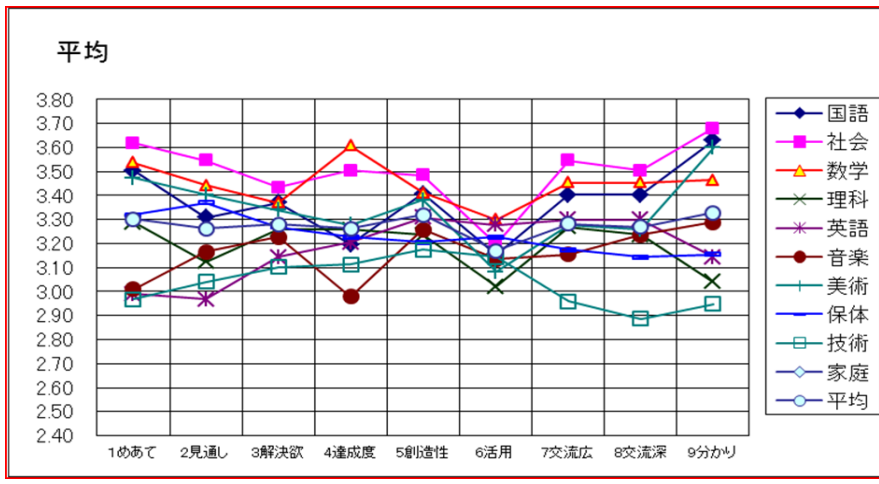
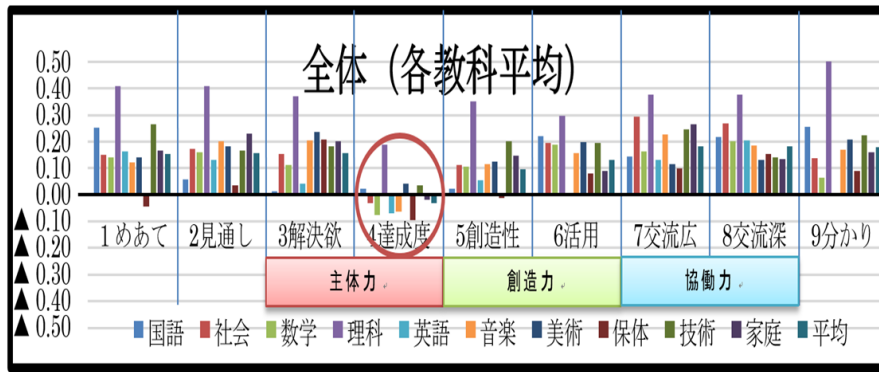
資料2-① 「生徒による授業評価アンケート」

学年組番	年 級	番 号	氏名	学年	①	②	③	
授業についてのアンケート(2018年 第1回)				クラス	①	②	③	
このアンケートは、先生の皆さんが1年間の授業を振り返って成果や反省点を考え、今後授業により積極的に参加できるようにしてほしいために、そして教師にとっては、よりよい授業を推進できるように授業の内容や方法に関する貴重な意見を収集するためのものです。このアンケートの回答は不問無答は決してありませんので、安心して回答してください。				番号	①	②	③	
				男1、女2	①	②	③	
1. この授業は何を学習するのあてをつかんでいますか。「分かるほど分かること」を学んだらと指した上で授業に取り組んでいますか。	2. どのように学習を進めていくのか、見逃しを持って取り組んでいる場合がありますか。「わかるほど分かること」を学んだらと指した上で授業に取り組んでいますか。	3. 授業の中で、教師の質問(めあて)に対して積極的に授業に参加していますか。	4. 「わかった」、「できた」、「なるほど」と感じたり、めあてを達成し自分の成長を感じることがありますか。	5. 授業の中で(教科書や授業の考えを)写したりせず自分考えやアイデアを言ったり、伝えたりしていますか。	6. 学校で学んだ知識や身につけた技能(テクニックや能力など)を次の授業や生活に活用しようとして(役にたつ)していますか。	7. 友達や先輩や考え方を交流することができていますか。(自分の考えや学びを深めることができている)。	8. 交流活動を通して自分の考えの強さを認め、自分の考えや学びを深めることができている。	9. 授業はわかりやすいですか。(授業教材・教材・方法・活動)
国語	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	
社会	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	
数学	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	
理科	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	
英語	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	
音楽	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	
美術	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	
保健	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	
技術	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	
家庭	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	
これまでの授業で楽しかった、感銘を受けたのはどんな時ですか。	図:	社:	数:	理:	英:			
	音:	美:	体:	技:	家:			
2をマークする例: ①②③ → ①●③ ダメな例: ①●③ (うすい) 、 ①●③ (ていねいでない) 、 ①●③ (はみ出し)								

＜生徒による授業評価実施のポイント＞

生徒による授業評価アンケートを学校教育目標及び学校の主題研究に沿って項目を作成し、学期末に年3回実施する。また、アンケートの集計については、マークシート方式で集計できるソフト(市費で購入)を活用し、業務の軽減を図り、数種類のアンケートを実施している。

資料2-②「生徒による授業評価アンケートの結果」



<授業評価アンケート結果活用のポイント>

- 学級・教科・担当教師・項目別にグラフ化し、校内研修会で提示後、各教科部会で課題を整理し、次の取組に生かす。
- 各教科別、担当教師別、項目別にグラフ化し校内研修で提示する。
- 分析結果から各教科部会で課題を整理し、教科毎の学力向上プランの改善及び授業改善の視点として活用する。

資料3 「小・中9か年を見通した家庭学習の手引き」

<9か年を見通した家庭学習の手引き活用のポイント>

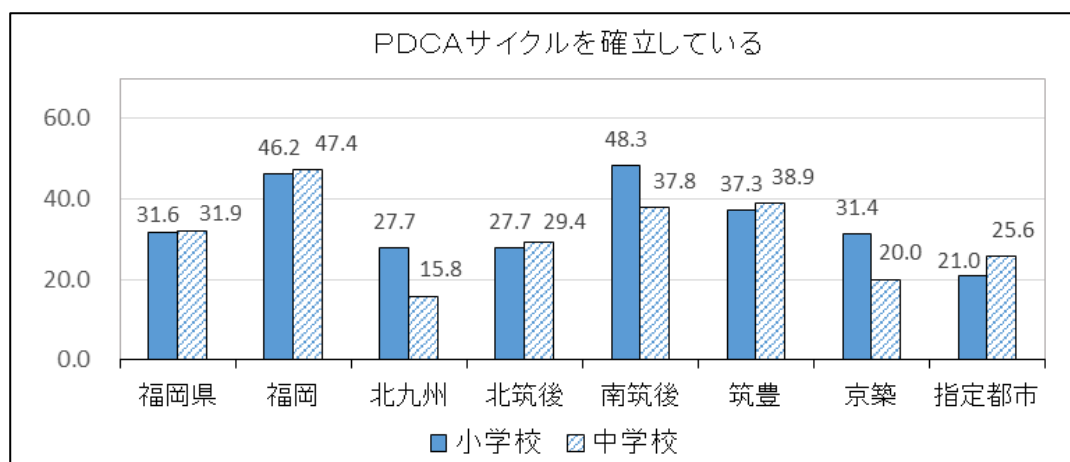
4月当初に全保護者に配布し、入学式等で周知を図っている。また、家庭学習の取組状況を学期末のアンケートで把握し、その結果を保護者へ周知している。さらに、夏季休業中に小・中の全教職員で集まり、取組の成果や課題を協議し、2学期以降の取組の共通理解を図っている。

V 小学校と中学校の取組状況を質問紙で比較分析

(1) 学校質問紙

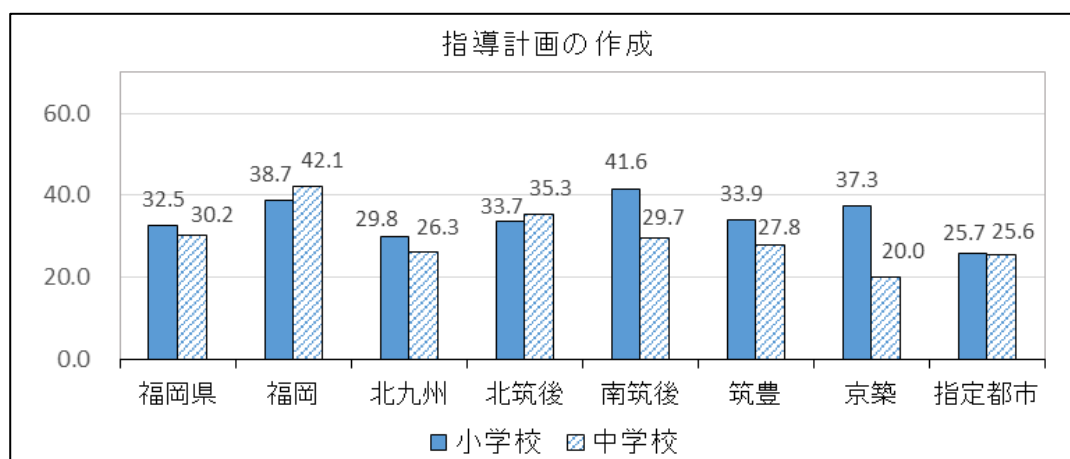
小 18・中 17	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。
-----------	--

- 県全体で「よくしている」と回答した学校の割合を小学校と中学校で比較すると、中学校が小学校を上回っている。
- 各地区で「よくしている」と回答した学校の割合を小学校と中学校で比較すると、北九州、南筑後、京築は、小学校と中学校との差が 10.0 ポイント以上である。



小 16・中 15	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか。
-----------	---

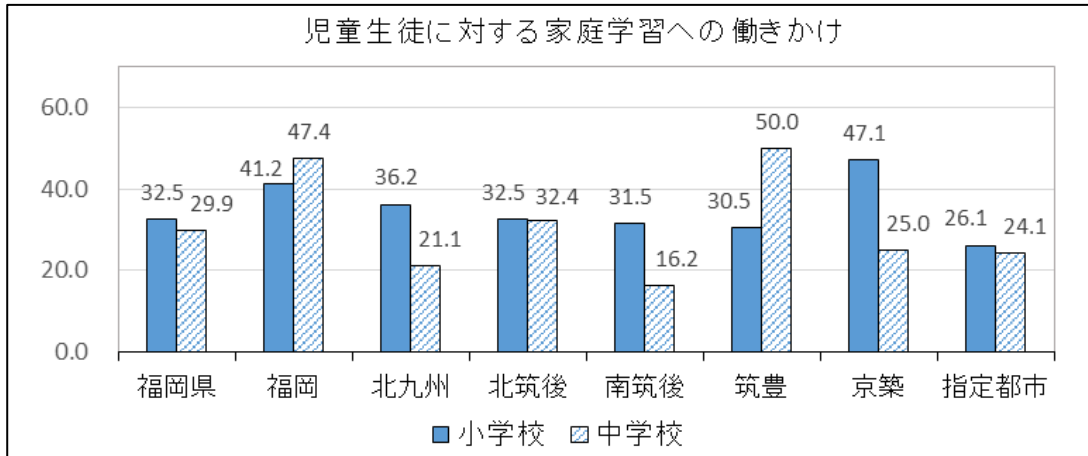
- 県全体で「よくしている」と回答した学校の割合を小学校と中学校で比較すると、小学校が中学校を上回っている。
- 各地区で「よくしている」と回答した学校の割合を小学校と中学校で比較すると、南筑後、京築は、小学校と中学校との差が 15.0 ポイント以上である。



小 66・中 63

前年度までに、家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか（国語、算数／数学共通）。

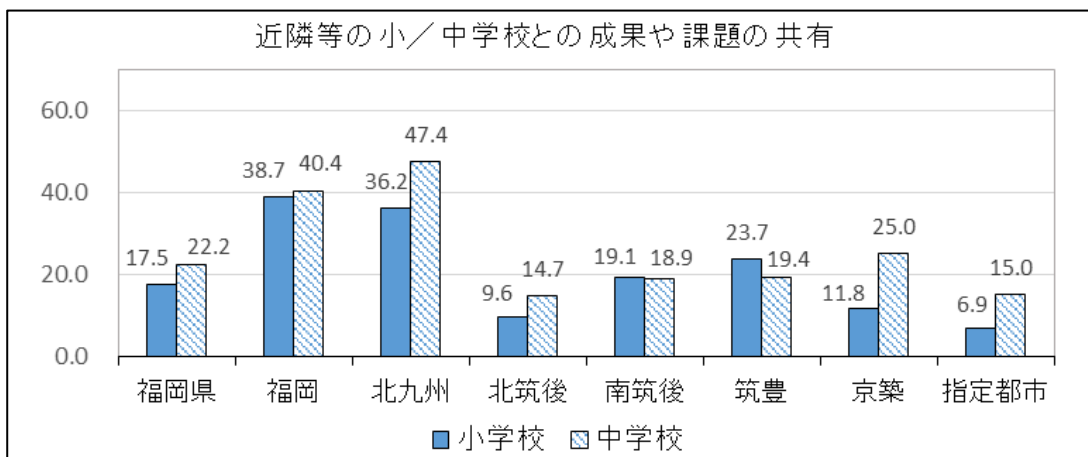
- 県全体で「よく行った」と回答した学校の割合を小学校と中学校で比較すると、小学校が中学校を上回っている。
- 各地区で「よく行った」と回答した学校の割合を小学校と中学校で比較すると、北九州、南筑後、筑豊、京築は、小学校と中学校との差が 15.0 ポイント以上である。



小 34・中 33

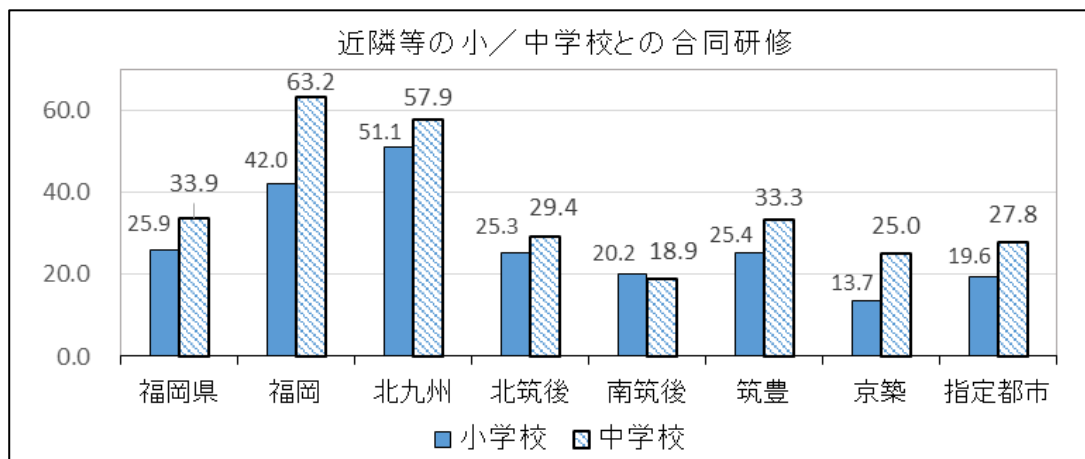
平成 29 年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小／中学校と成果や課題を共有しましたか。

- 県全体で「よく行った」と回答した学校の割合を小学校と中学校で比較すると、中学校が小学校を上回っている。
- 各地区で「よく行った」と回答した学校の割合を小学校と中学校で比較すると、北九州、京築は、小学校と中学校との差が 10.0 ポイント以上である。



前年度までに、近隣等の小／中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか。

- 県全体で「よく行った」と回答した学校の割合を小学校と中学校で比較すると、中学校が小学校を上回っている。
- 各地区で「よく行った」と回答した学校の割合を小学校と中学校で比較すると、福岡、京築は、小学校と中学校との差が 10.0 ポイント以上である。

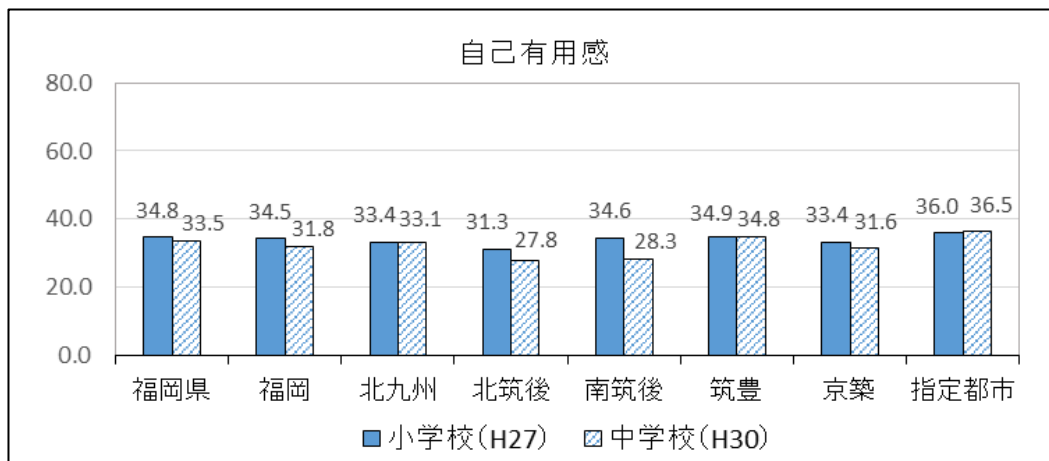


(2) 児童生徒質問紙

※ 児童生徒質問紙での比較分析では、平成27年度（小6）と平成30年度（中3）の同一集団を、本県及び地区ごとに並べてグラフで示している。

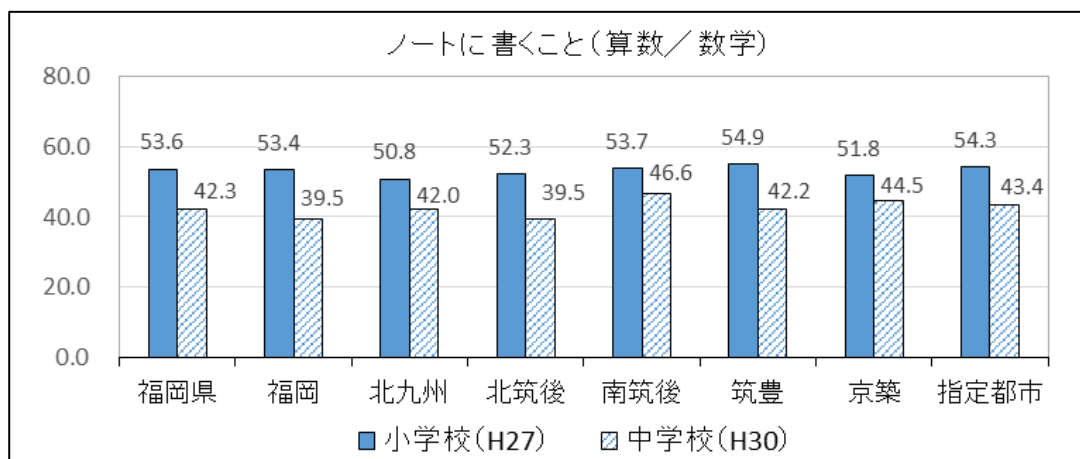
小6・中1	自分には、よいところがあると思いますか。
-------	----------------------

- 県全体で「そう思う」と回答した同一児童生徒の割合を小学校と中学校で比較すると、中学校段階で下がっている。
- 各地区で「そう思う」と回答した同一児童生徒の割合を小学校と中学校で比較すると、指定都市以外の全ての地区において、中学校段階で下がっている。



小67・中36	算数／数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。
---------	--

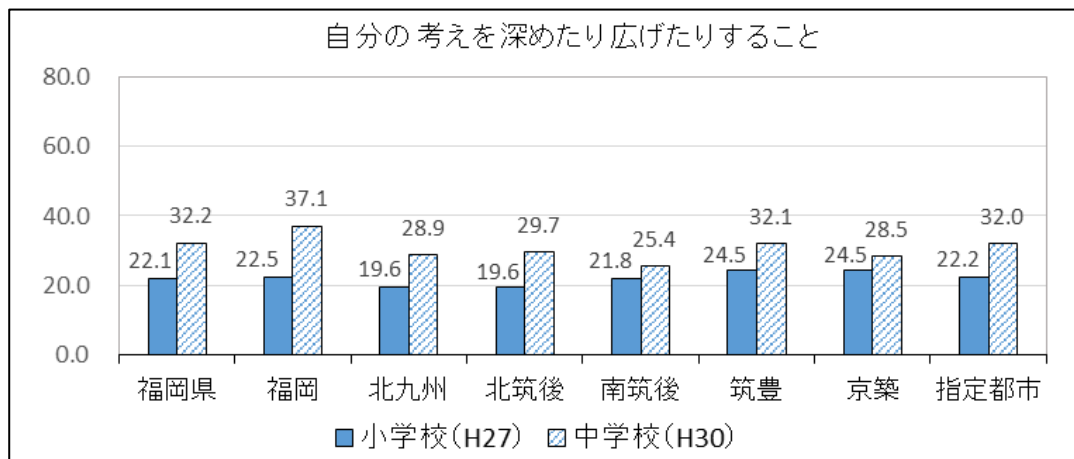
- 県全体で「当てはまる」と回答した同一児童生徒の割合を小学校と中学校で比較すると、中学校段階で下がっている。
- 各地区で「当てはまる」と回答した同一児童生徒の割合を小学校と中学校で比較すると、全ての地区において、中学校段階で下がっている。



小 46・中 54

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

- 県全体で「そう思う」と回答した同一児童生徒の割合を小学校と中学校で比較すると、中学校段階で上がっている。
- 各地区で「そう思う」と回答した同一児童生徒の割合を小学校と中学校で比較すると、全ての地区で中学校段階で上がっている。特に、福岡では中学校が小学校を 14.6 ポイント上回っている。



VI 児童生徒質問紙に関する調査結果と分析

◇ 児童生徒質問紙調査の目的

小学校第6学年の児童及び中学校第3学年の生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問調査を行い、児童生徒の学習意欲や学習習慣の改善・充実のための教育活動や教育施策の改善を図る。

◇ 本報告書において分析の対象とした質問項目

	視点	番号	カテゴリー	質問番号		質問項目	頁番号
				小	中		
1	学力基盤づくり	(1)	自己有用感	1		自分には、よいところがあると思いますか。	74
		(2)	将来に関する意識	3		将来の夢や目標を持っていますか。	75
		(3)	規範意識	4		学校のきまり（規則）を守っていますか。	76
				5		いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	77
		(4)	学習に対する関心・意欲・態度	27		算数／数学の勉強は好きですか。	78
				38		理科の勉強は好きですか。	79
(5)	基本的な生活習慣	7		朝食を毎日食べていますか。	80		
2	授業づくり	(1)	各教科の内容	29		算数／数学の授業の内容はよくわかりますか。	81
				31		算数／数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。	82
				36		算数／数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。	83
		(2)	課題解決に向けた取組	55	52	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。	84
		(3)	自分の考えを深めたり広げたりすること	57	54	学級の友達の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていると思いますか。	85
3	家庭・関係機関との連携	(1)	家庭学習	10		家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。	86
				14		学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師も含む）。	87
		(2)	読書時間	15		学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。	88
		(3)	地域・社会とのかわり	21		地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。	89
				22		地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。	90

◇ 分析の方法

A 回答状況の経年比較

同一の質問項目に対する本県全体の児童生徒の回答状況を、当該質問が初めて調査項目となった年度と、平成28、29、30年度で比較する。

B 回答状況と教科の正答率との相関関係

平成30年度における質問項目に対する回答状況と教科区分ごとの平均正答率と相関関係があると考えられる場合にのみ、棒グラフで示す。

C 地区別の回答状況

平成30年度における同一の質問項目に対する各地区の児童生徒の回答状況を比較する。

◇ 資料を読み取る際の留意点

質問紙調査に対する回答状況は、選択肢以外の回答や無回答を除外しているため、合計が100%にならない場合がある。

1 学力基盤づくり

(1) 自己有用感

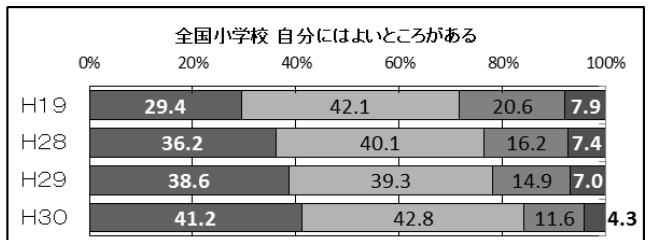
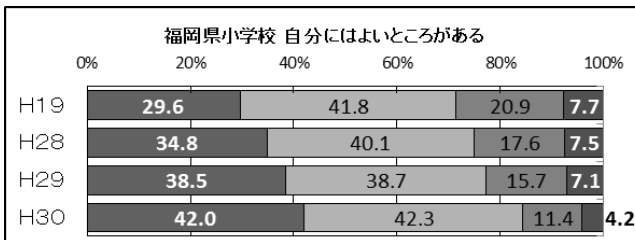
※ 数字は、児童生徒質問紙中の質問番号

小1・中1 自分には、よいところがあると思いますか。

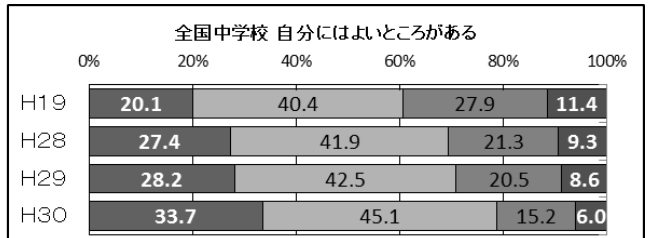
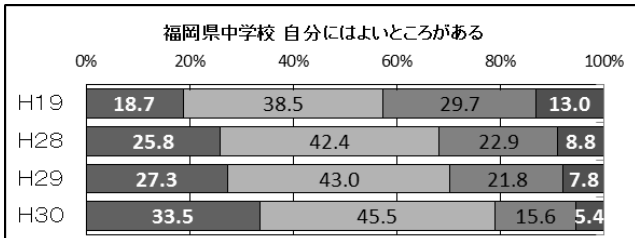
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合は、平成29年度より、小学校、中学校ともに増加している。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合は、小学校は全国より0.8ポイント上回り、中学校は全国とほぼ同じである。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校7.5ポイント、中学校8.7ポイントである。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない

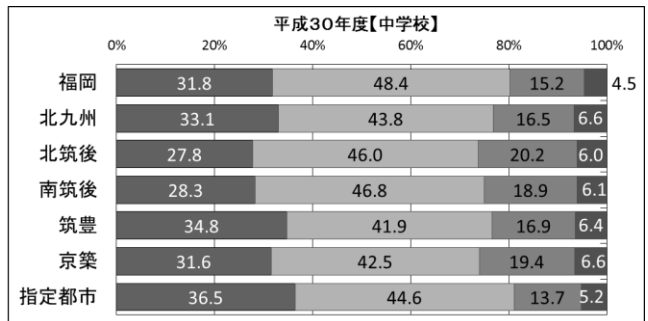
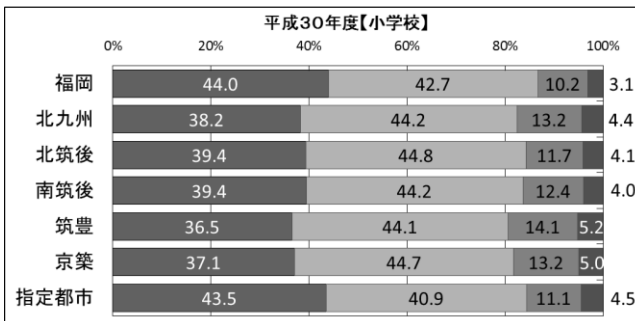
■ 小学校回答状況



■ 中学校回答状況



■ 地区別回答状況



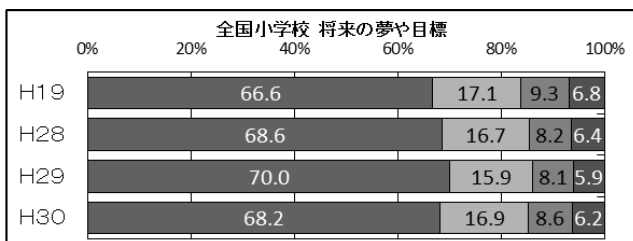
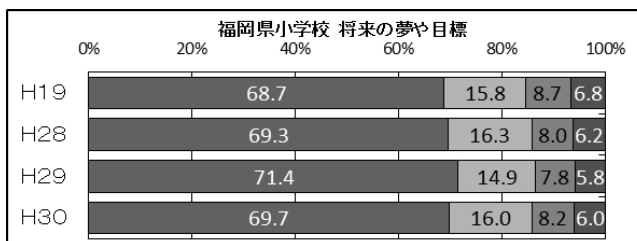
(2) 将来に関する意識

小3・中3 将来の夢や目標を持っていますか。

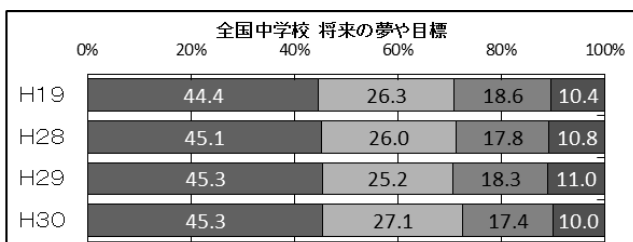
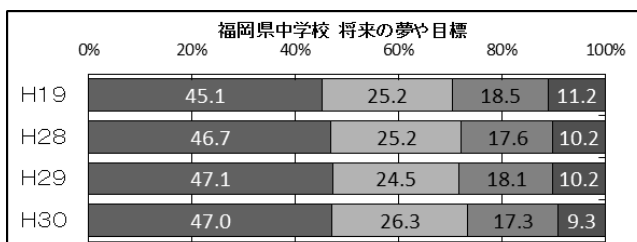
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合は、平成29年度より、小学校は減少し、中学校はほぼ変化がない。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合は、全国より、小学校は1.5ポイント、中学校は1.7ポイント上回っている。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校4.8ポイント、中学校6.4ポイントである。

■ 小学校回答状況

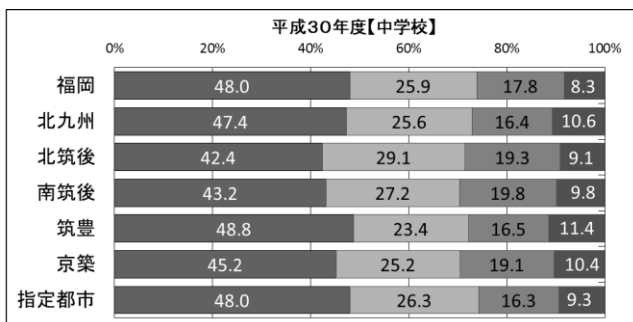
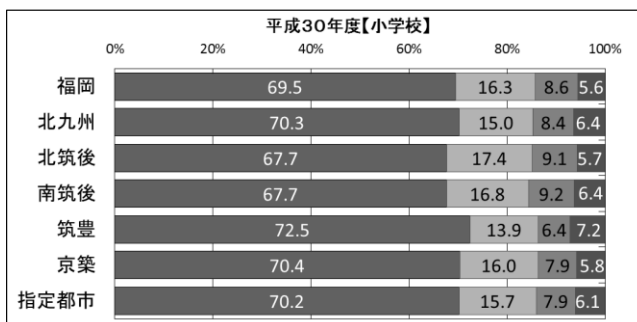
■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



■ 中学校回答状況



■ 地区別回答状況



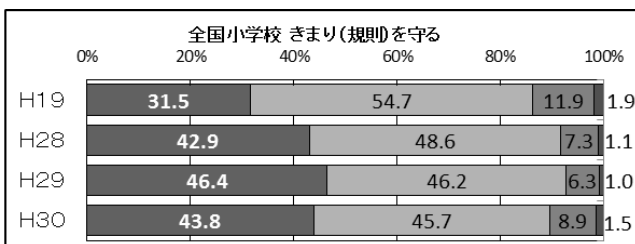
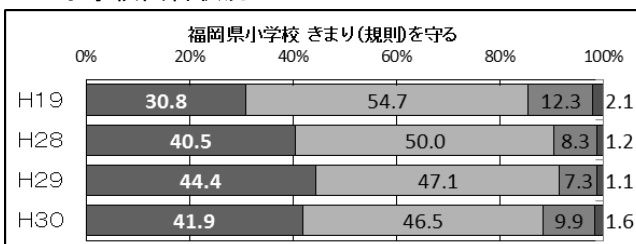
(3) 規範意識

小4・中4 学校のきまり（規則）を守っていますか。

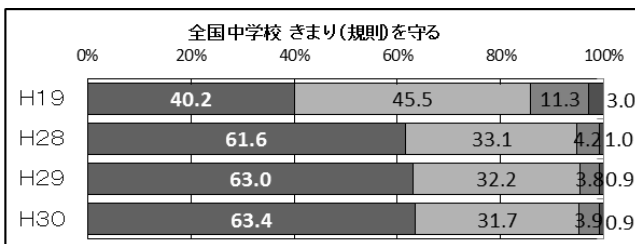
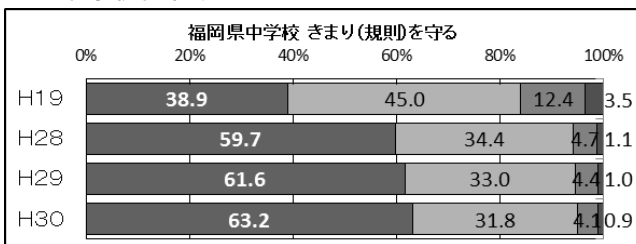
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合は、平成29年度より、小学校は減少し、中学校は増加している。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合は、小学校は全国より1.9ポイント下回り、中学校は全国とほぼ同じである。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校11.0ポイント、中学校5.3ポイントである。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない

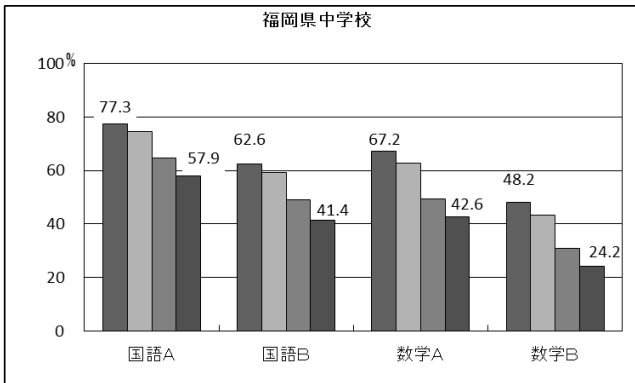
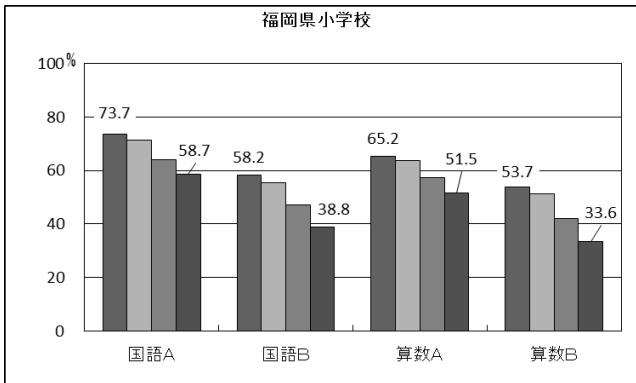
■ 小学校回答状況



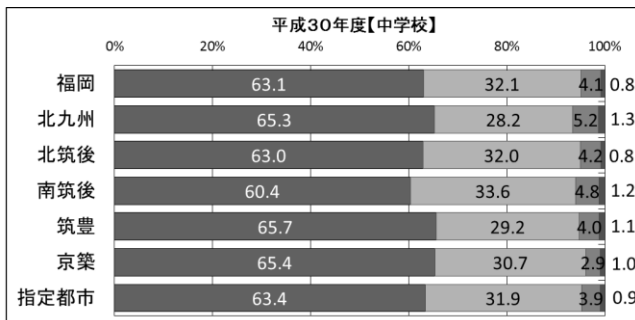
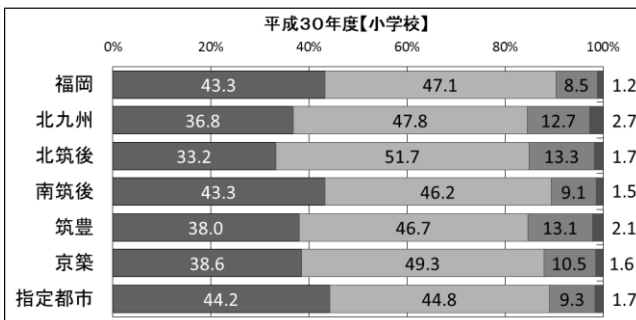
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関関係



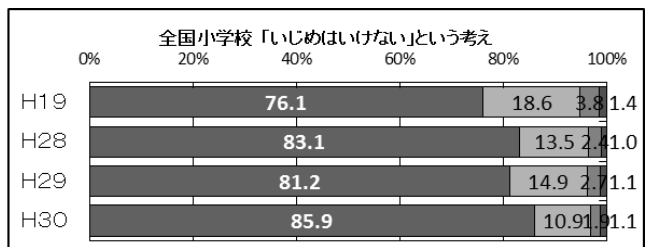
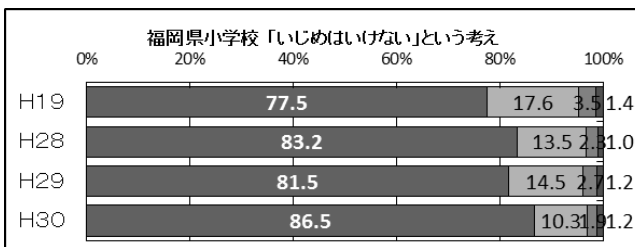
■ 地区別回答状況



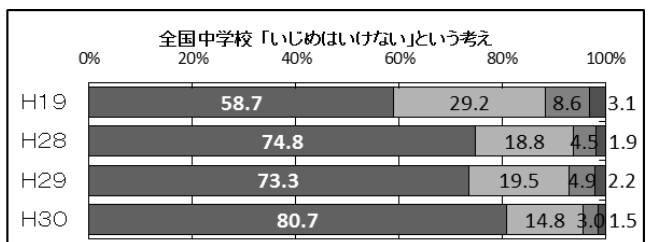
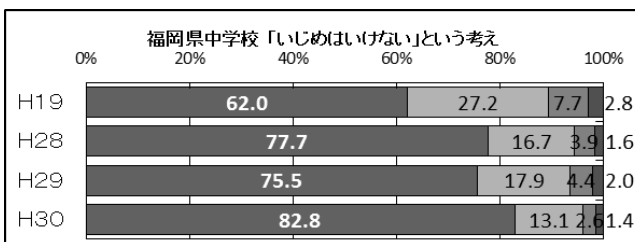
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合は、平成29年度より、小学校、中学校ともに増加している。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合は、全国より、小学校は0.6ポイント、中学校は2.1ポイント上回っている。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校4.2ポイント、中学校4.3ポイントである。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない

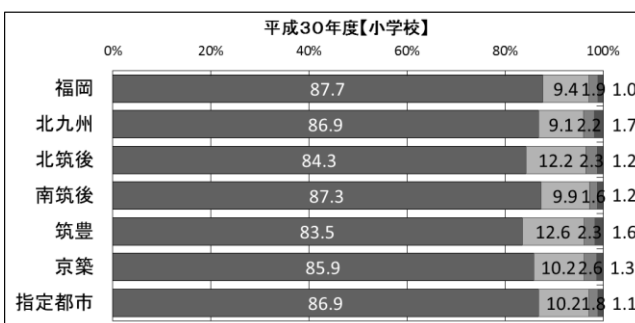
■ 小学校回答状況



■ 中学校回答状況



■ 地区別回答状況



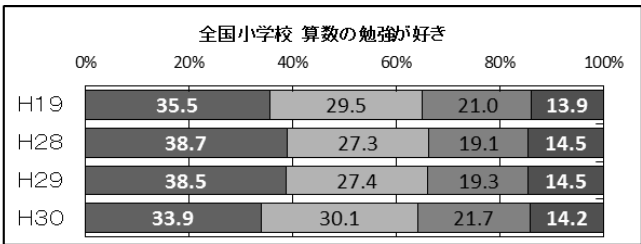
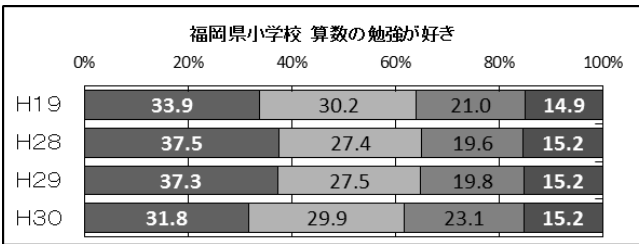
(4) 学習に対する関心・意欲・態度

小 27・中 27 算数／数学の勉強は好きですか。

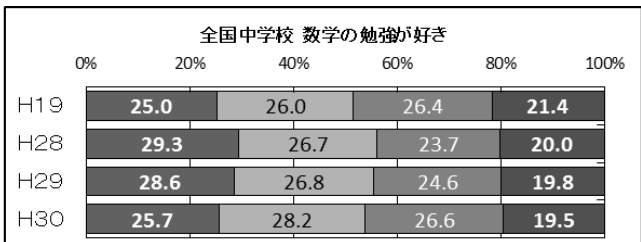
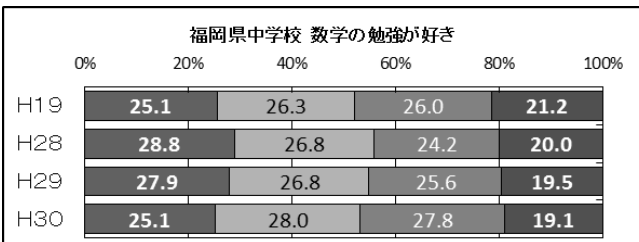
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合は、平成29年度より、小学校、中学校ともに減少している。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合は、全国より、小学校は2.1ポイント、中学校は0.6ポイント下回っている。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校5.7ポイント、中学校6.7ポイントである。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない

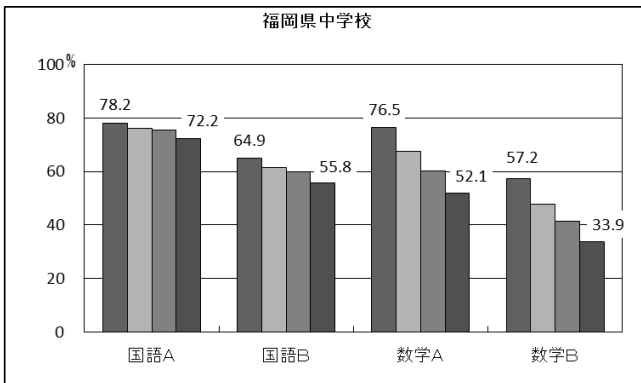
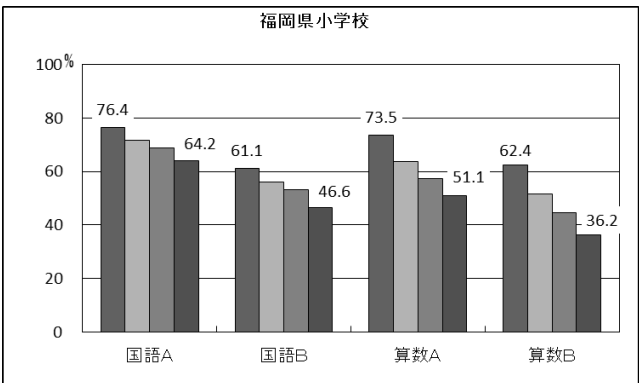
■ 小学校回答状況



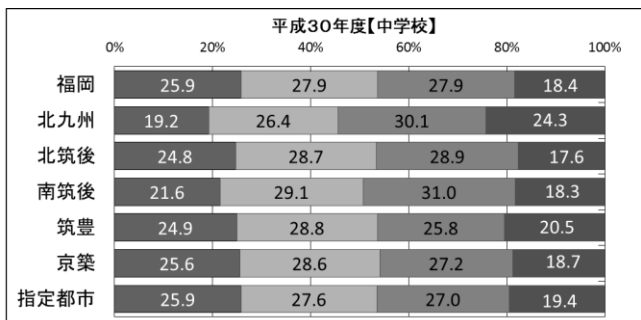
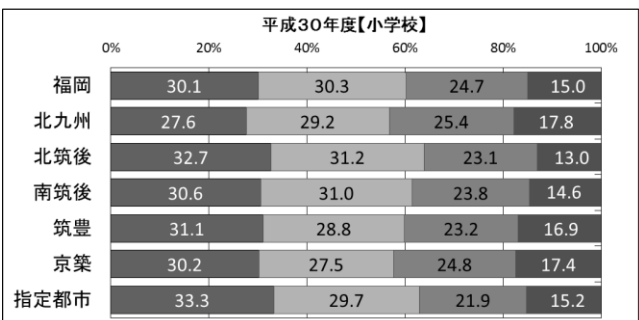
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関関係



■ 地区別回答状況

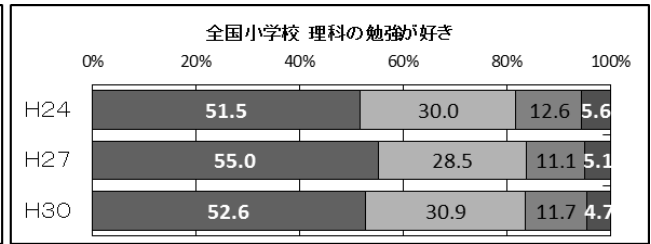
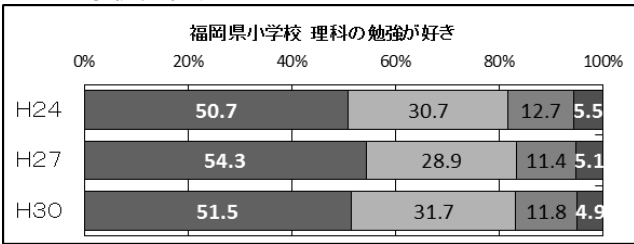


小38・中38 理科の勉強は好きですか。

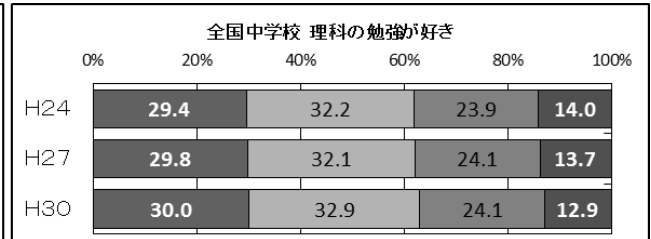
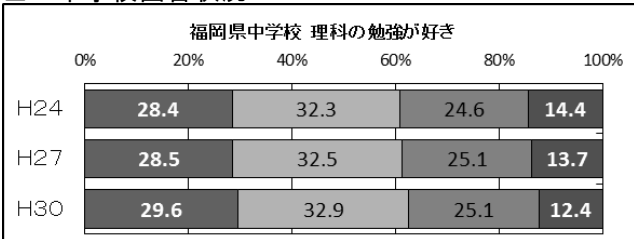
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合は、平成27年度より、小学校は減少し、中学校は増加している。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合は、全国より、小学校は1.1ポイント、中学校は0.4ポイント下回っている。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の理科の正答率は、高い傾向にある。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校7.8ポイント、中学校5.0ポイントである。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない

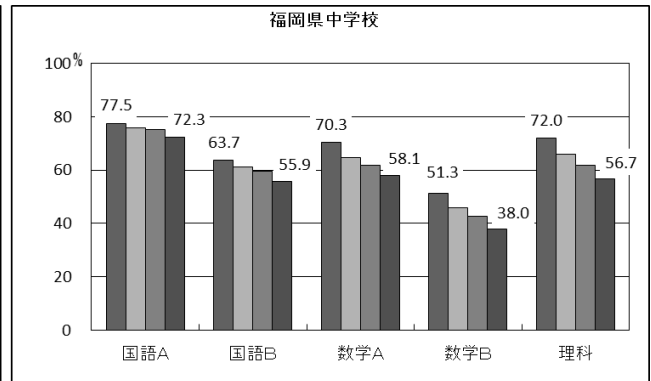
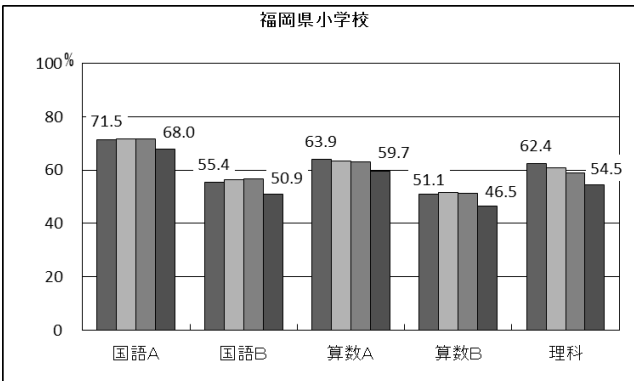
■ 小学校回答状況



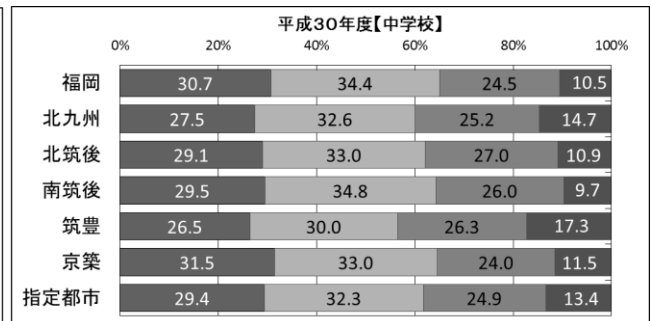
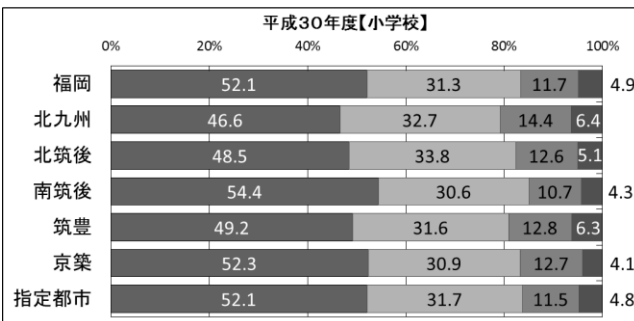
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関関係



■ 地区別回答状況



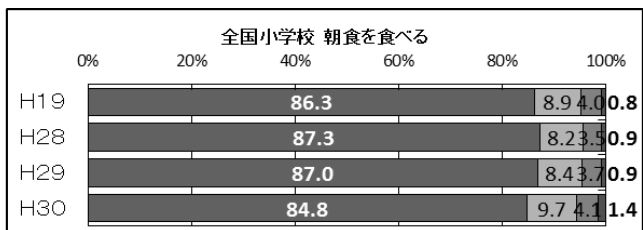
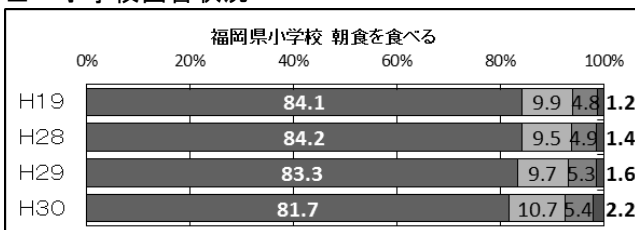
(5) 基本的な生活習慣

小7・中7 朝食を毎日食べていますか。

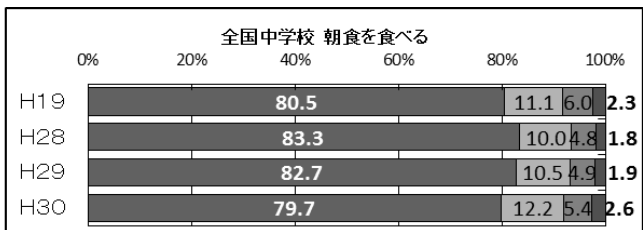
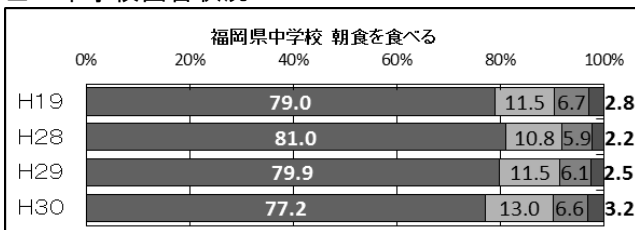
- 平成30年度の、食べていると回答している児童生徒の割合は、平成29年度より、小学校、中学校ともに減少している。また、全く食べていないと回答している児童生徒の割合は、小学校、中学校ともに増加している。
- 平成30年度の、食べていると回答している児童生徒の割合は、全国より、小学校は3.1ポイント、中学校は2.5ポイント下回っている。
- 平成30年度の、食べていると回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。
- 平成30年度の、食べていると回答している児童生徒の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校5.8ポイント、中学校7.0ポイントである。

■ 食べている ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 全く食べていない

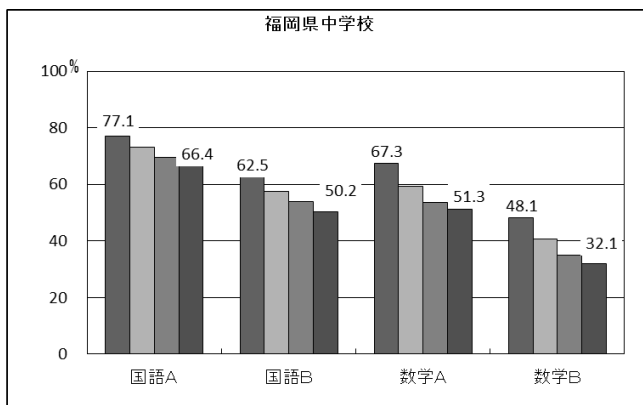
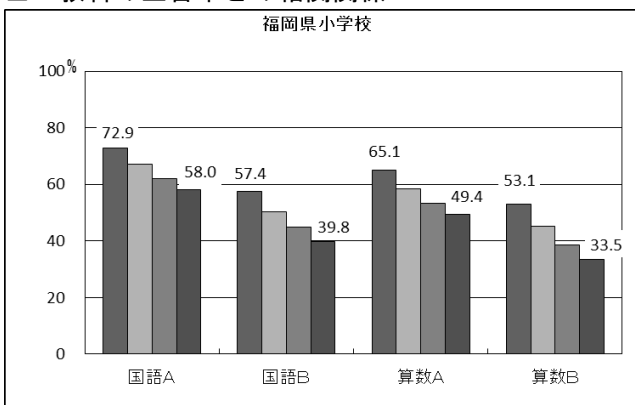
■ 小学校回答状況



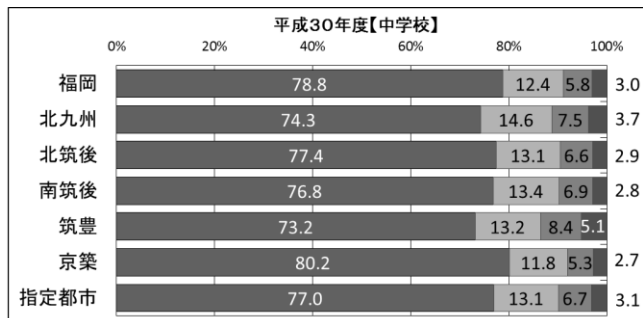
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関関係



■ 地区別回答状況



2 授業づくり

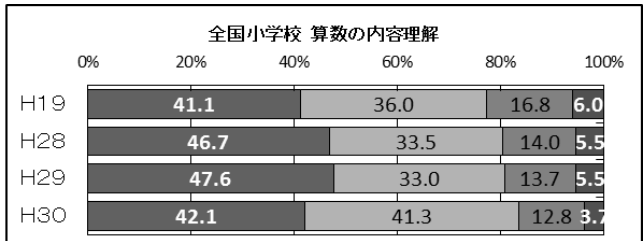
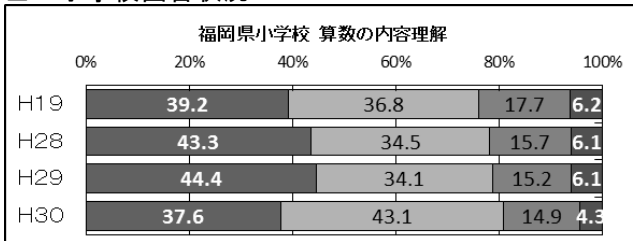
(1) 各教科の内容

小 29・中 29 算数／数学の授業の内容はよく分かりますか。

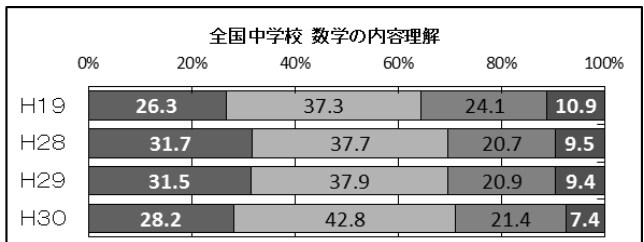
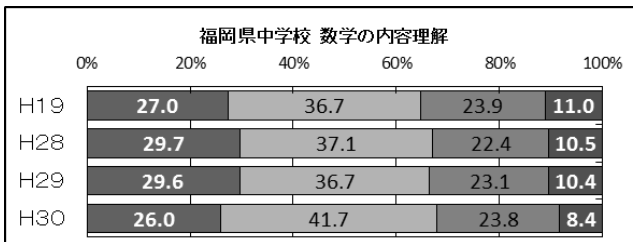
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合は、平成29年度より、小学校、中学校ともに減少している。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合は、全国より、小学校は4.5ポイント、中学校は2.2ポイント下回っている。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校5.7ポイント、中学校6.9ポイントである。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない

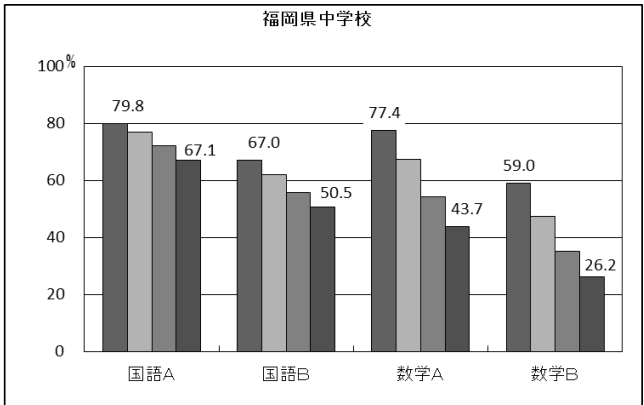
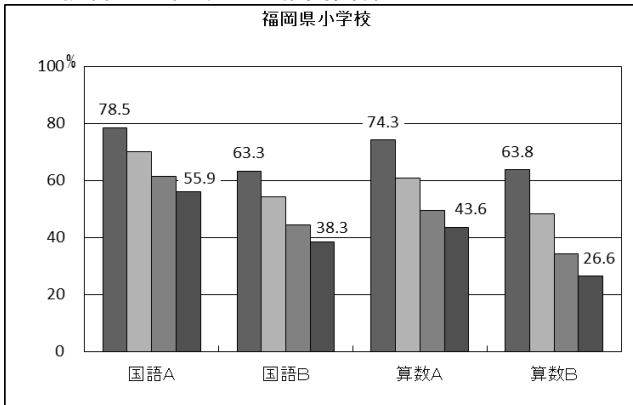
■ 小学校回答状況



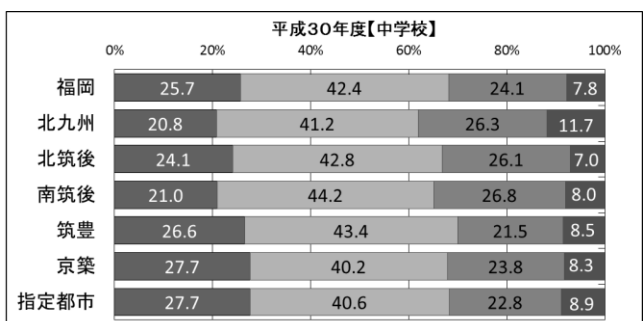
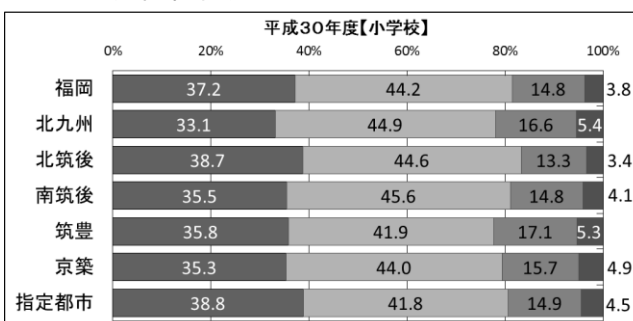
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関関係



■ 地区別回答状況

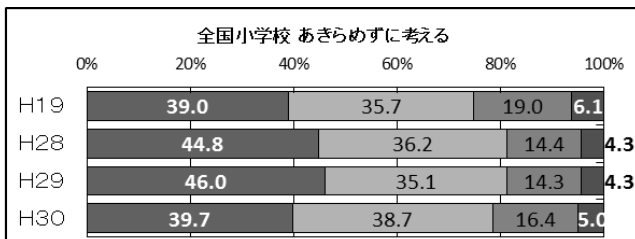
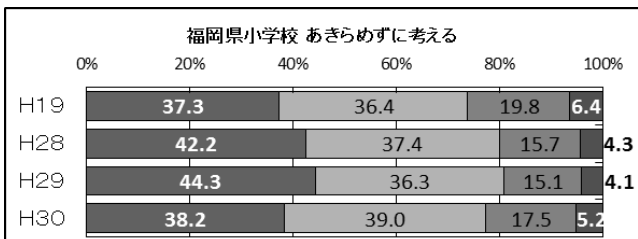


小31・中31 算数／数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。

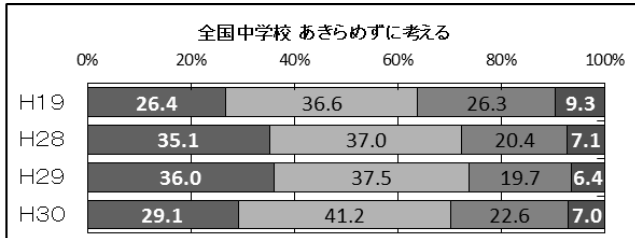
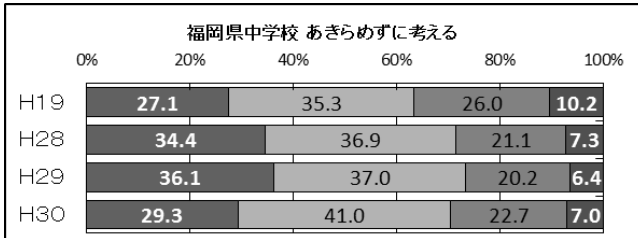
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合は、平成29年度より、小学校、中学校ともに減少している。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合は、小学校は全国より1.5ポイント下回っており、中学校は全国とほぼ同じである。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校2.3ポイント、中学校5.6ポイントである。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない

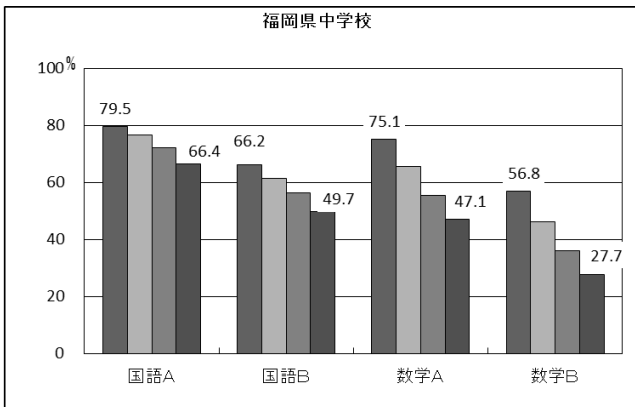
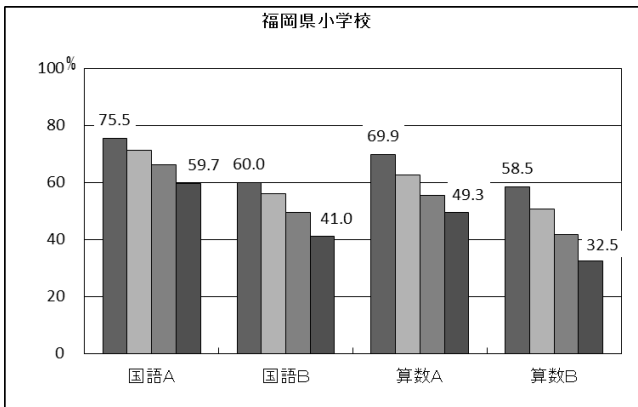
■ 小学校回答状況



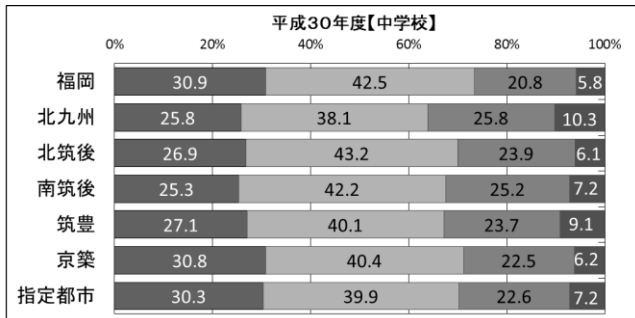
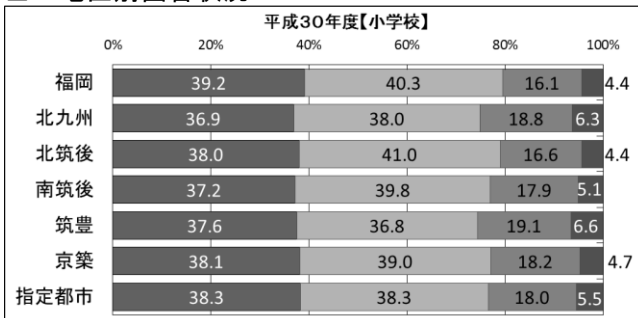
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関関係

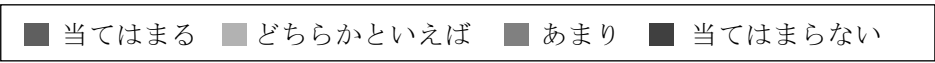


■ 地区別回答状況

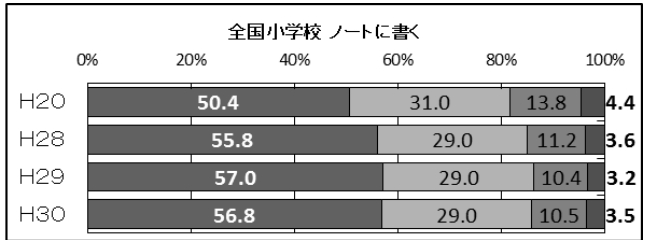
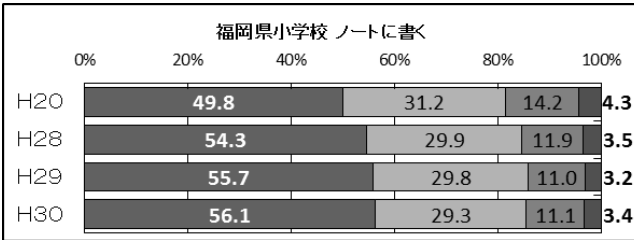


※ 平成20年度から加えられた質問

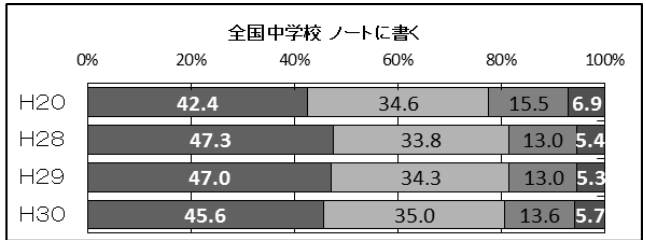
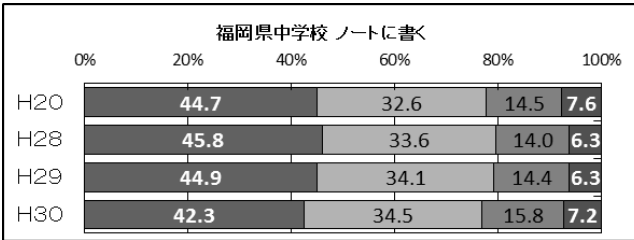
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合は、平成29年度より、小学校は増加し、中学校はほぼ変化がない。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合は、全国より、小学校は0.7ポイント、中学校は3.3ポイント下回っている。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校6.8ポイント、中学校7.1ポイントである。



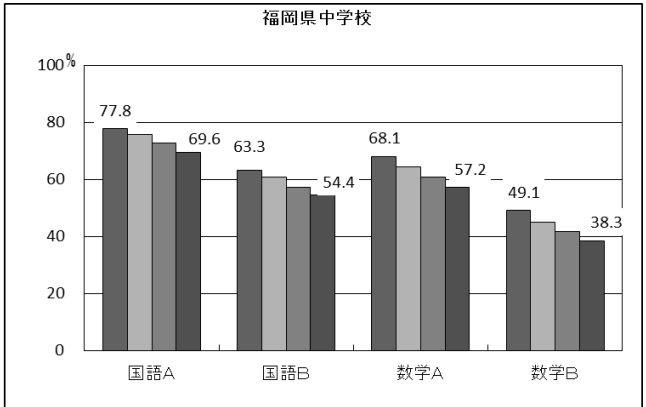
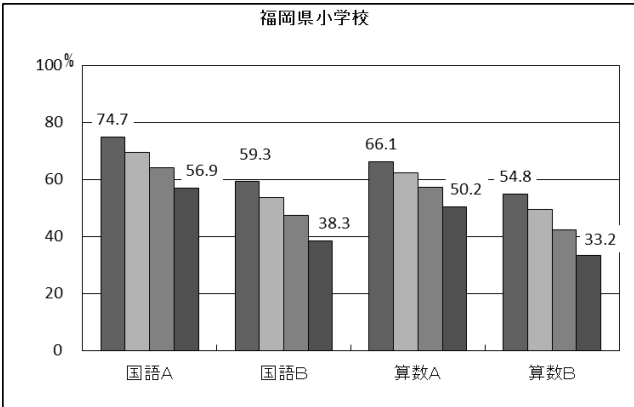
■ 小学校回答状況



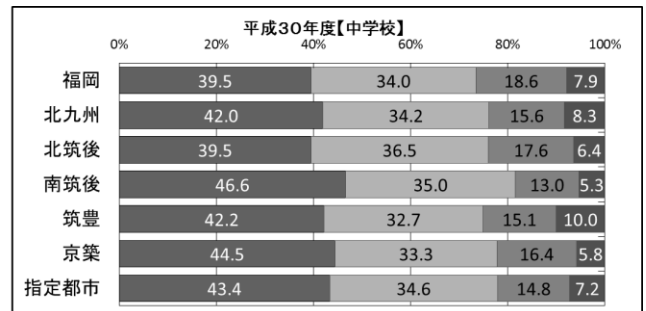
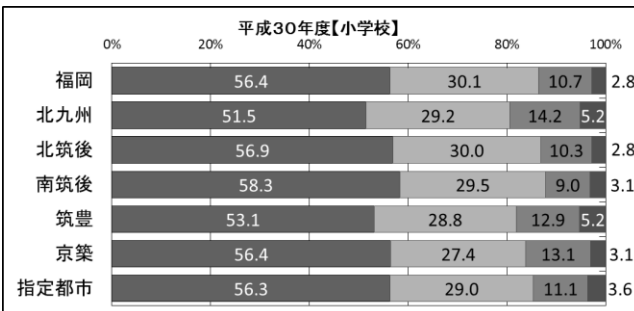
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関関係



■ 地区別回答状況



(2) 課題解決に向けた取組

小 55・中 52

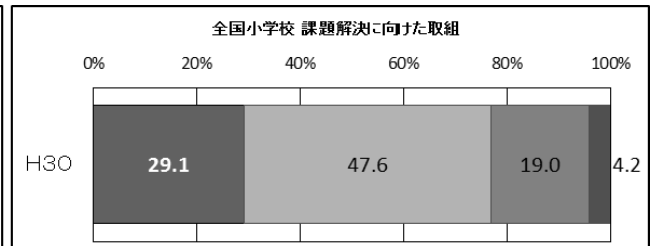
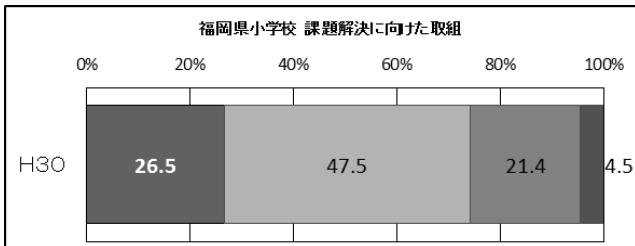
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。

※ 平成30年度から加えられた質問

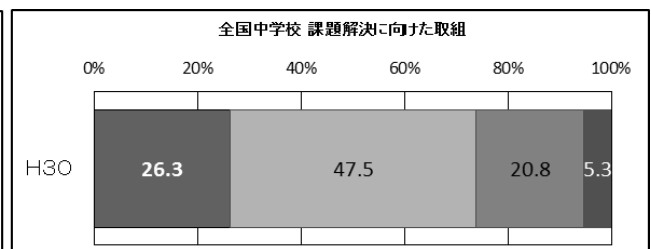
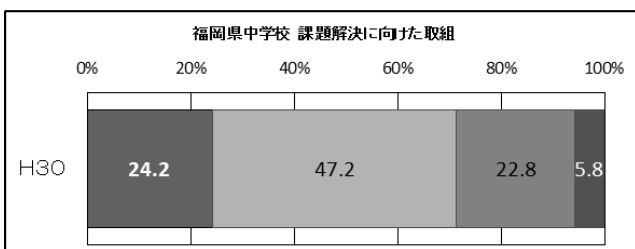
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合は、全国より、小学校は2.6ポイント、中学校は2.1ポイント下回っている。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校3.7ポイント、中学校4.6ポイントである。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない

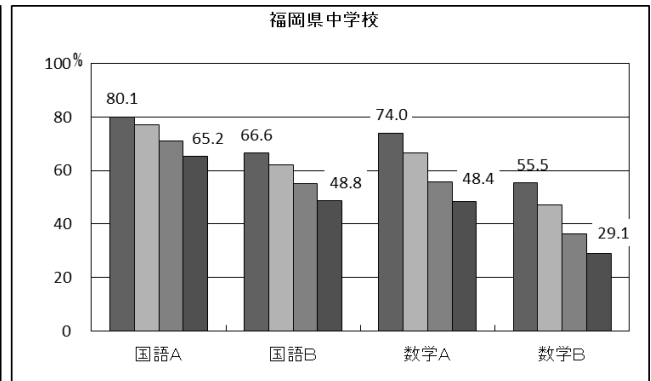
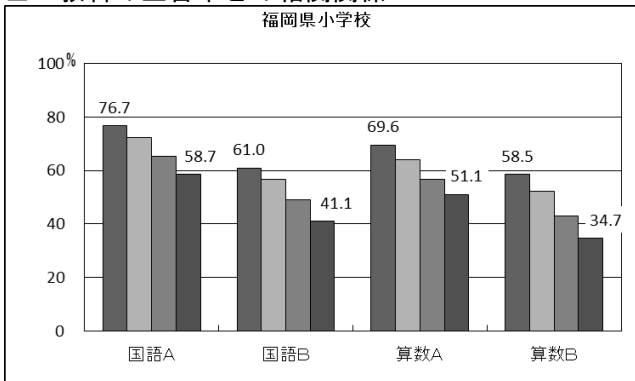
■ 小学校回答状況



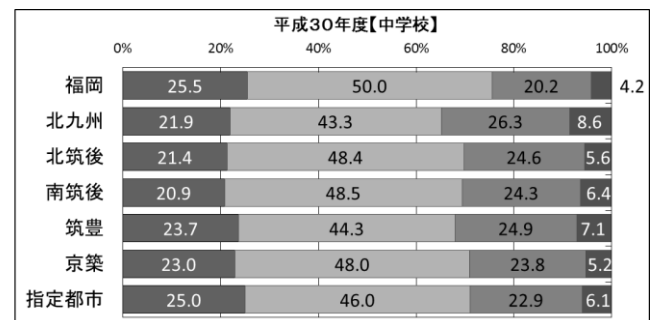
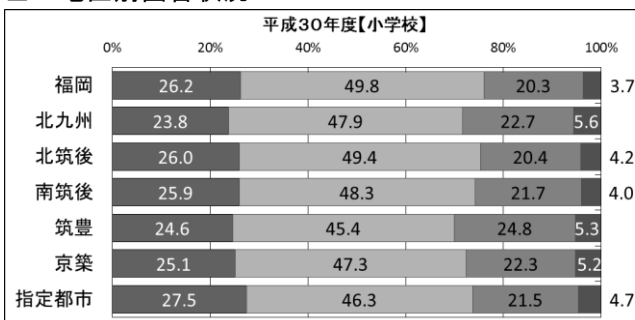
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関関係



■ 地区別回答状況



(3) 自分の考えを深めたり広げたりすること

小 57・中 54

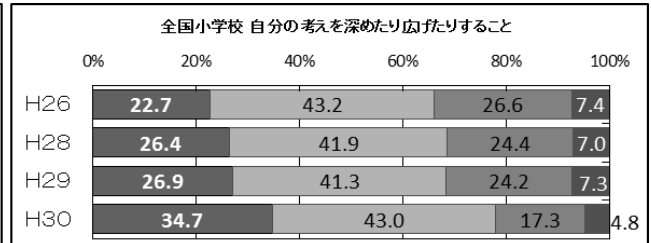
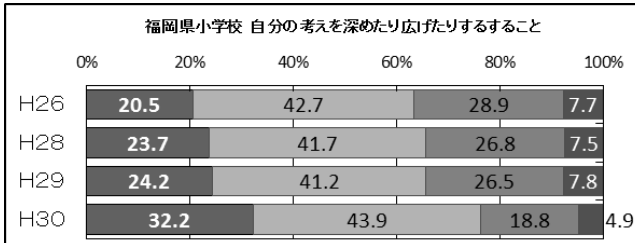
学級の友達の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

※ 平成26年度から加えられた質問

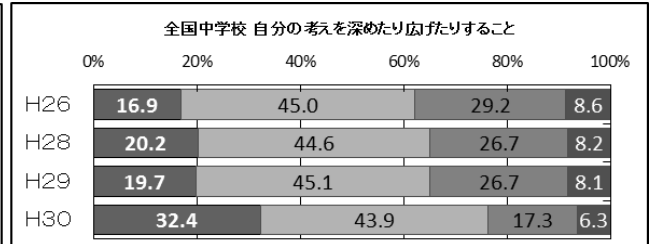
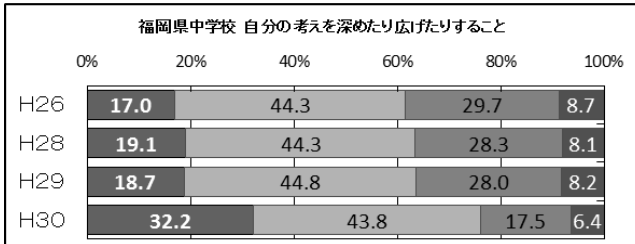
- 平成30年度の、そう思うと回答している児童生徒の割合は、平成29年度より、小学校、中学校ともに増加している。
- 平成30年度の、そう思うと回答している児童生徒の割合は、小学校は全国より2.5ポイント下回っており、中学校は全国とほぼ同じである。
- 平成30年度の、そう思うと回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。
- 平成30年度の、そう思うと回答している児童生徒の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校2.2ポイント、中学校11.7ポイントである。

■ そう思う ■ どちらかといえば ■ あまり ■ そう思わない

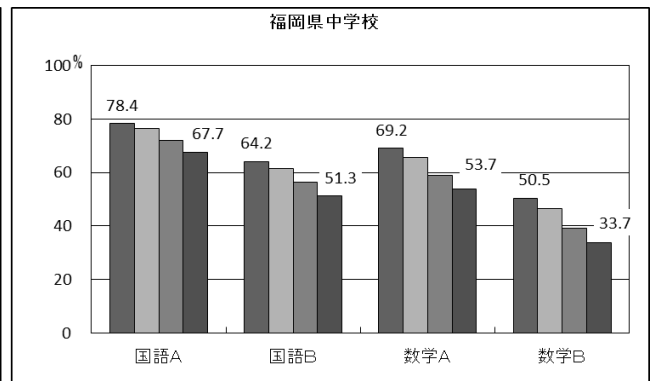
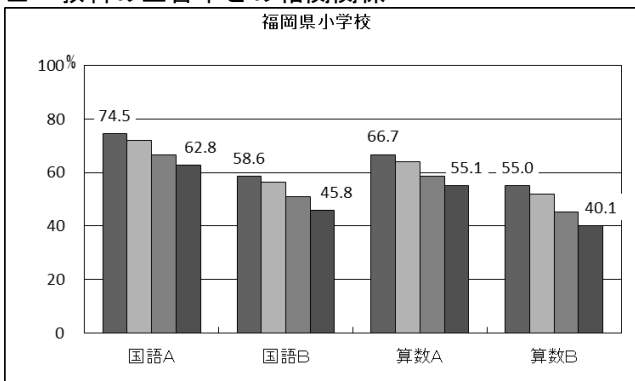
■ 小学校回答状況



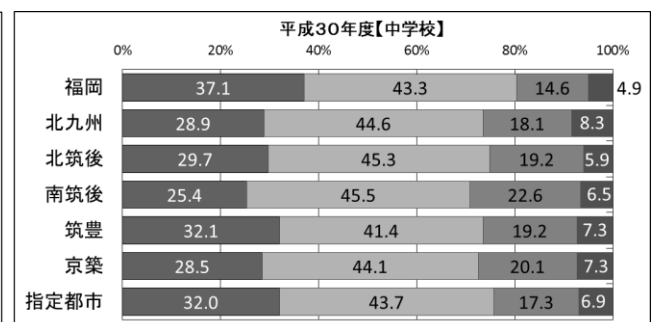
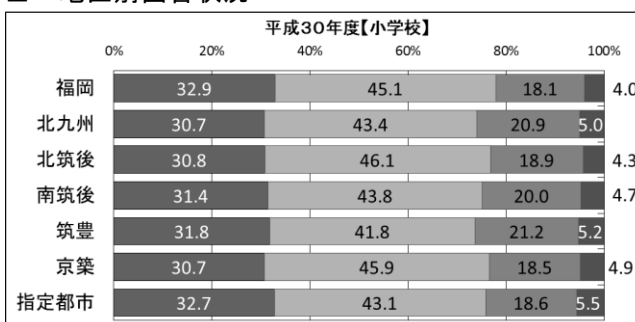
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関関係



■ 地区別回答状況



3 家庭・関係機関との連携

(1) 家庭学習

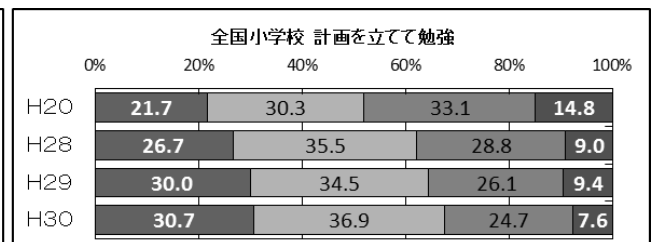
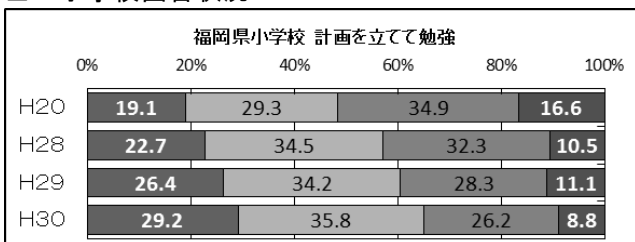
小10・中10 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

※ 平成20年度から加えられた質問

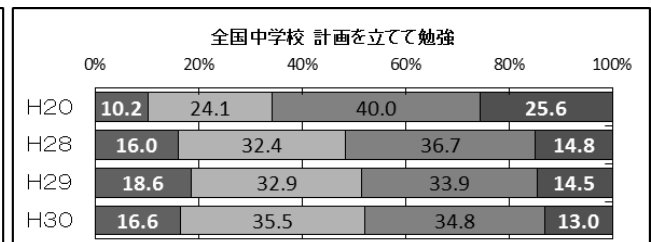
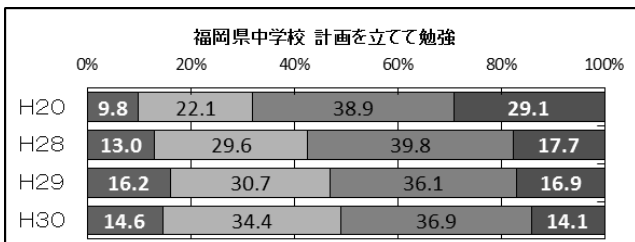
- 平成30年度の、していると回答している児童生徒の割合は、平成29年度より、小学校は増加し、中学校は減少している。
- 平成30年度の、していると回答している児童生徒の割合は、全国より、小学校は1.5ポイント、中学校は2.0ポイント下回っている。
- 平成30年度の、していると回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。また、この傾向は、「家で、学校の宿題をしていますか」「家で、学校の授業の復習をしていますか」といった質問項目においても同様に見られる。
- 平成30年度の、していると回答している児童生徒の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校5.0ポイント、中学校4.4ポイントである。

■ している ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 全く

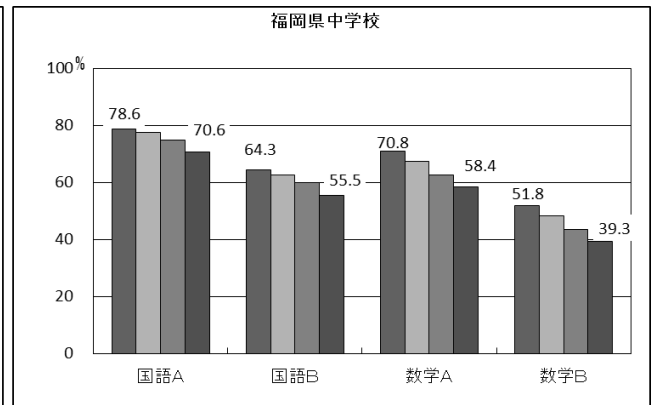
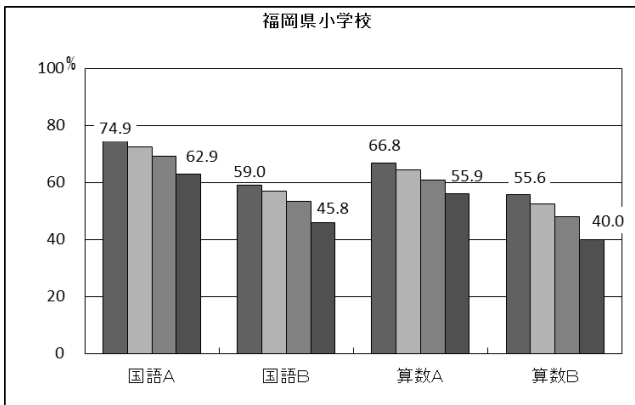
■ 小学校回答状況



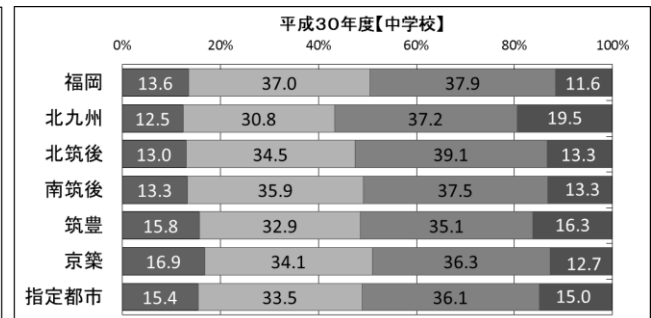
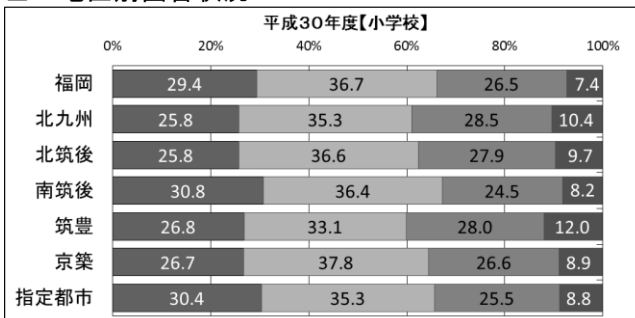
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関関係



■ 地区別回答状況



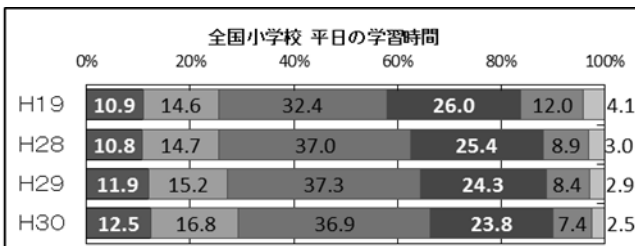
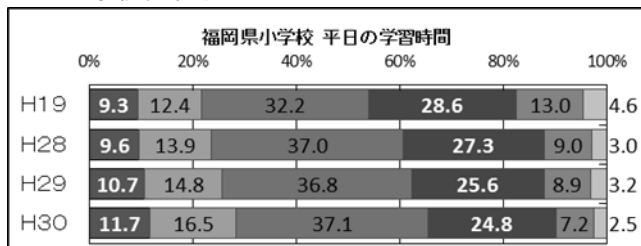
小14・中14

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師も含む）。

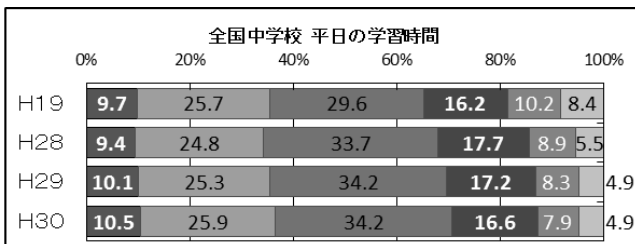
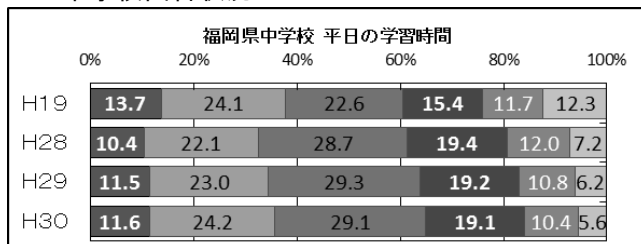
- 平成30年度の、平日に家庭学習を小学校1時間以上、中学校2時間以上する児童生徒の割合は、平成29年度より、小学校、中学校ともに増加している。
- 平成30年度の、平日に家庭学習を小学校1時間以上、中学校2時間以上する児童生徒の割合は、全国より、小学校は0.9ポイント、中学校は0.6ポイント下回っている。
- 平成30年度の、平日に家庭学習を全くしない児童生徒の正答率は、全教科区分において最も低い。
- 平成30年度の、平日に家庭学習を小学校1時間以上、中学校2時間以上する児童生徒の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校9.7ポイント、中学校10.6ポイントである。

■ 3時間以上 ■ 2時間以上 ■ 1時間以上 ■ 30分以上 ■ 30分未満 ■ 全く

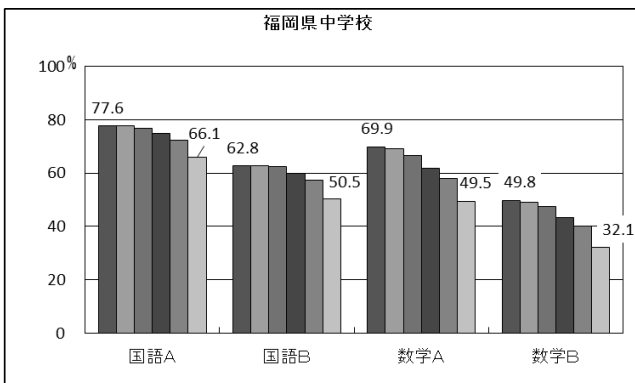
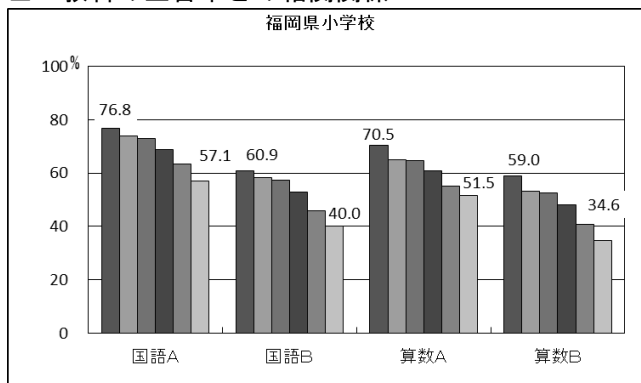
■ 小学校回答状況



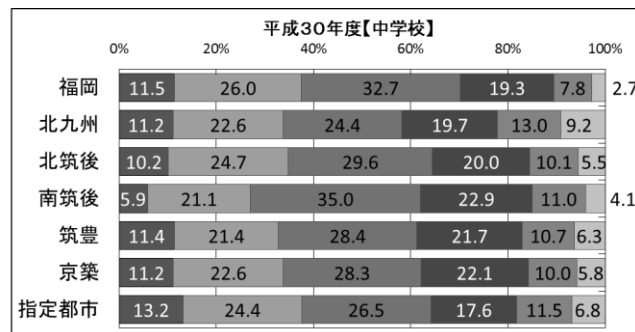
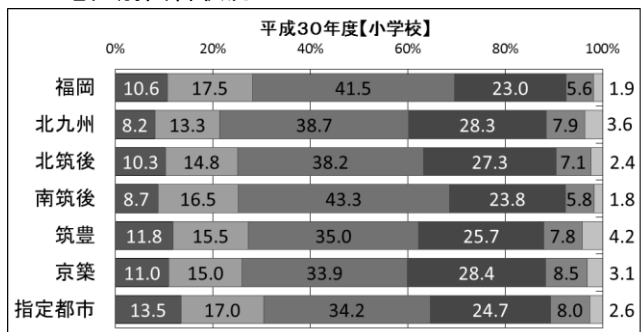
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関関係



■ 地区別回答状況



(2) 読書時間

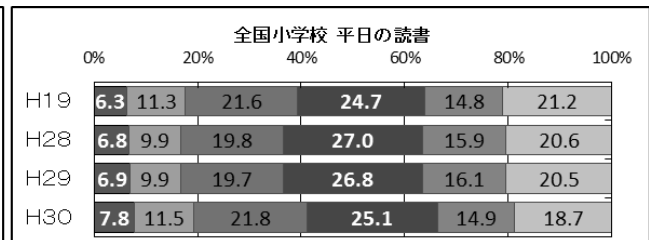
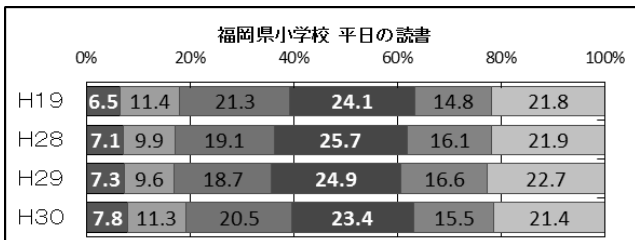
小15・中15

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。

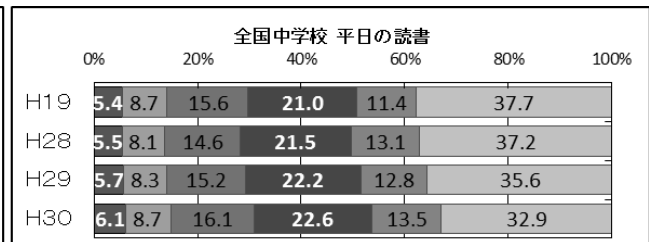
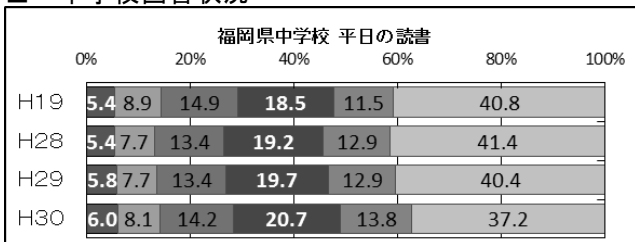
- 平成30年度の、30分以上読書をしていると回答している児童生徒の割合は、平成29年度より、小学校、中学校ともに増加している。
- 平成30年度の、30分以上読書をしていると回答している児童生徒の割合は、全国より、小学校は1.5ポイント、中学校は2.6ポイント下回っている。
- 平成30年度の、30分以上読書をしていると回答している児童生徒の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校5.2ポイント、中学校7.0ポイントである。

■ 2時間以上 ■ 1時間以上 ■ 30分以上 ■ 10分以上 ■ 10分未満 ■ 全く

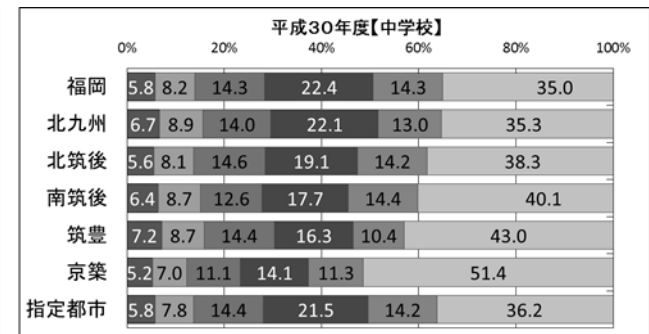
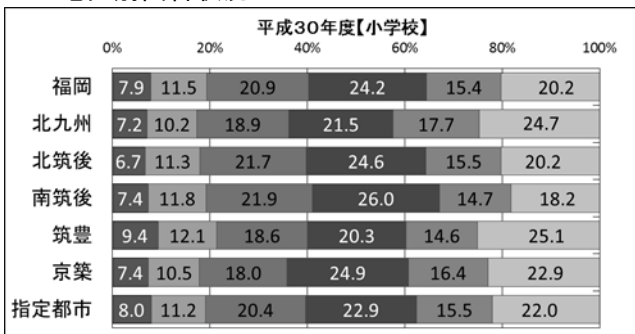
■ 小学校回答状況



■ 中学校回答状況



■ 地区別回答状況



(3) 地域・社会とのかかわり

小21・中21

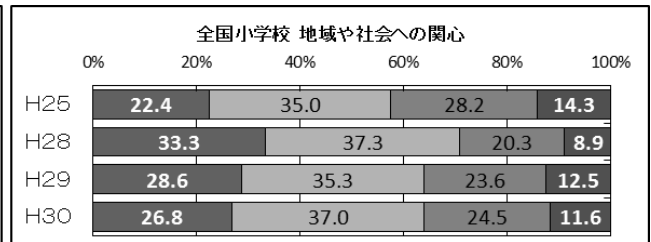
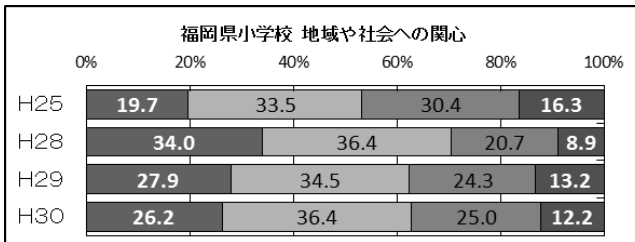
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。

※ 平成25年度から加えられた質問

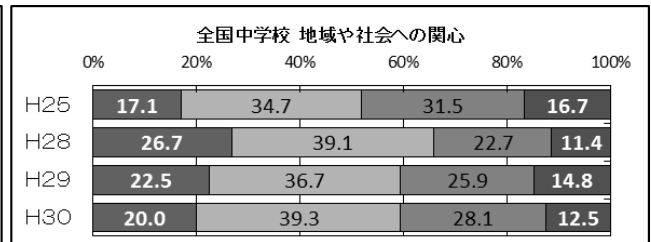
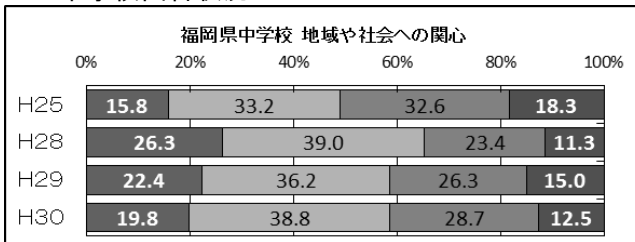
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合は、平成29年度より、小学校、中学校ともに減少している。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合は、小学校は全国より0.6ポイント下回っており、中学校は全国とほぼ同じである。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校5.9ポイント、中学校ともに6.1ポイントである。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない

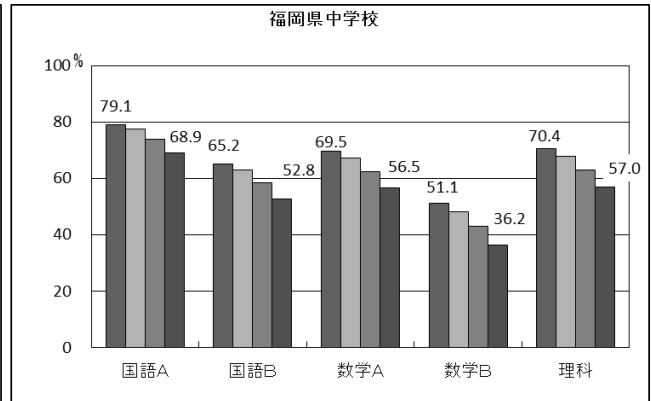
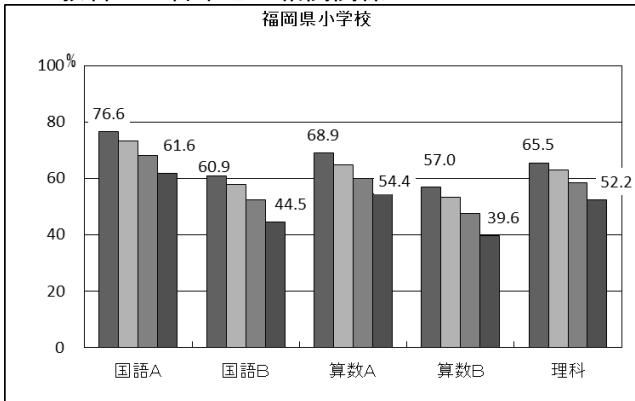
■ 小学校回答状況



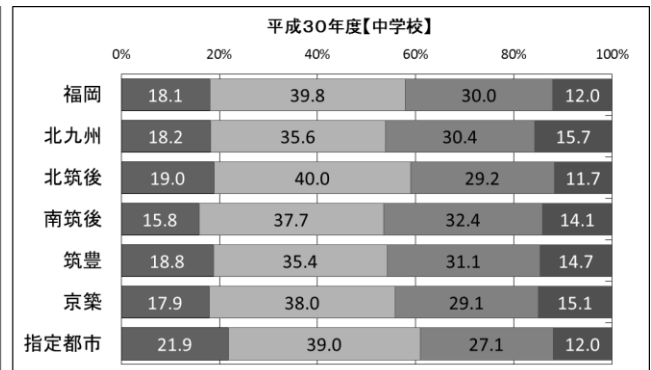
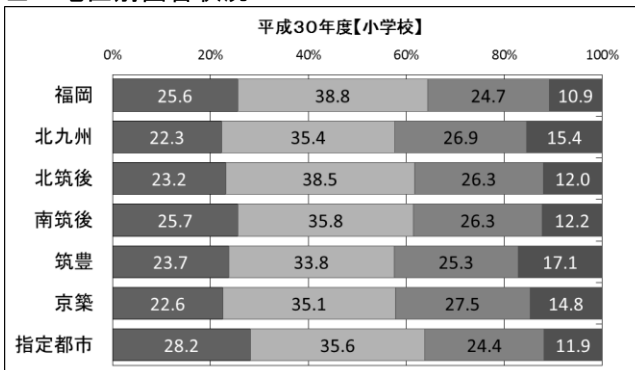
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関関係



■ 地区別回答状況

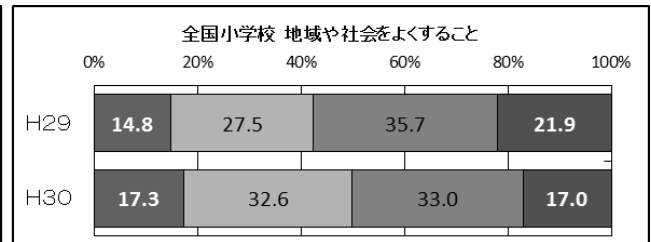
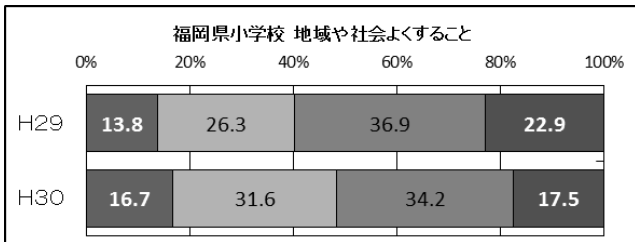


※ 平成29年度から加えられた質問

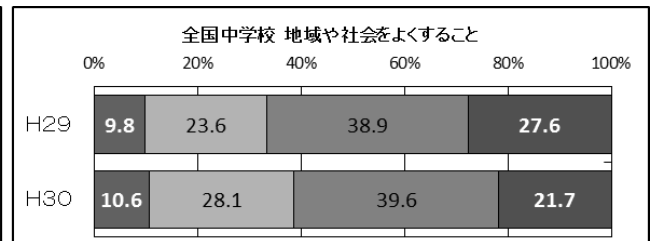
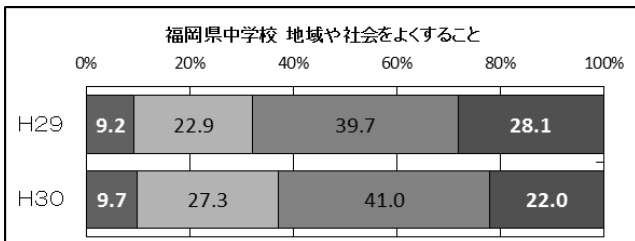
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合は、平成29年度より、小学校、中学校ともに増加している。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合は、全国より、小学校は0.6ポイント、中学校は0.9ポイント下回っている。
- 平成30年度の、当てはまると回答している児童生徒の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校4.7ポイント、中学校3.2ポイントである。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない

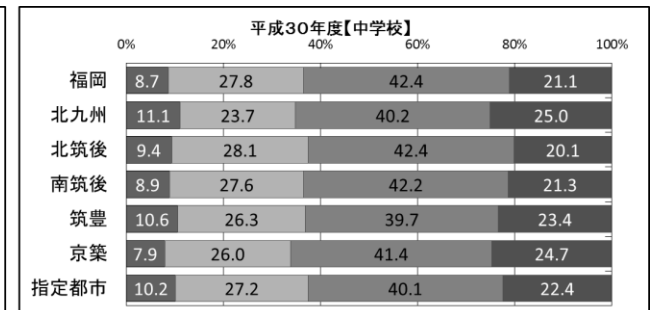
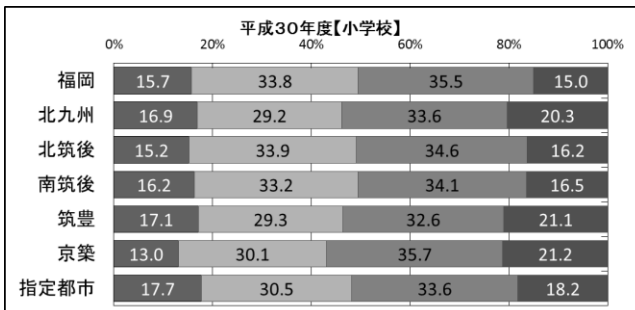
■ 小学校回答状況



■ 中学校回答状況



■ 地区別回答状況



Ⅶ 学校質問紙に関する調査結果と分析

◇ 学校質問紙調査の目的

学校における指導内容、指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等を調査することにより、市町村教育委員会や学校の教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

◇ 本報告書において分析の対象とした質問項目

	視点	番号	カテゴリー	質問番号		質問項目	頁番号
				小	中		
1	学力基盤づくり	(1)	学習規律	12		授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか。	92
				25	24	前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞くなど)の維持を徹底しましたか。	93
2	授業づくり	(1)	指導方法	26	25	前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。	94
		(2)	補充的な学習	37	36	算数/数学の指導として、前年度までに補充的な学習の指導を行いましたか。	95
		(3)	教職員の取組	43	41	理科の指導として、前年度までに補充的な学習の指導を行いましたか。	96
3	教員の意識・指導力の向上	(1)	カリキュラム・マネジメント	18	17	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。	98
		(2)	調査結果の活用	31	30	平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。	99
		(3)	教員研修	75	72	教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか。	100
		(4)	教職員の取組	82	79	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか。	101
4	家庭・関係機関との連携	(1)	教育課程の周知	20	19	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか。	102
		(2)	家庭学習	66	63	前年度までに、家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか。(国語、算数/数学共通)	103
		(3)	地域・社会とのかかわり	56	54	前年度までに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行いましたか。	104
5	その他	(1)	就学援助	14		就学援助を受けている児童生徒の割合	105

◇ 分析の方法

A 回答状況の経年比較

同一の質問項目に対する本県全体の学校の回答状況を、当該質問が初めて調査項目となった年度と、平成28、29、30年度で比較する。

B 回答状況と教科の正答率との相関関係

平成30年度における質問項目に対する回答状況と教科区分ごとの平均正答率と相関関係があると考えられる場合のみ、棒グラフで示す。

C 地区別の回答状況

平成30年度における同一の質問項目に対する各地区の学校の回答状況を比較する。

◇ 資料を読み取る際の留意点

特定の選択肢を回答した学校が少ない場合には、極端な傾向を示す場合がある。また、質問紙に対する回答状況は、選択肢以外の回答や無回答を除外しているため、合計が100%にならない場合がある。

1 学力基盤づくり

(1) 学習規律

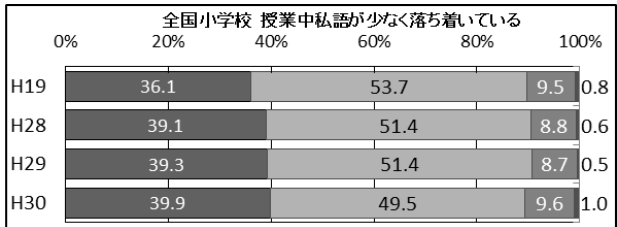
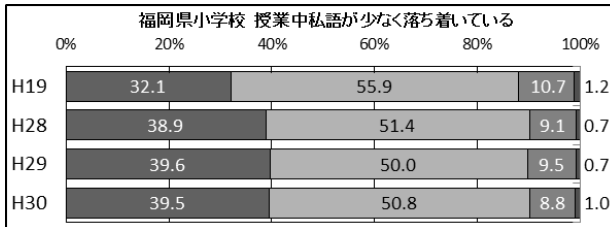
- ※ 数字は、学校質問紙中の質問番号
- ※ 差が 20.0 ポイント以上ある場合は数値に を引いている。

小12・中12 授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか。

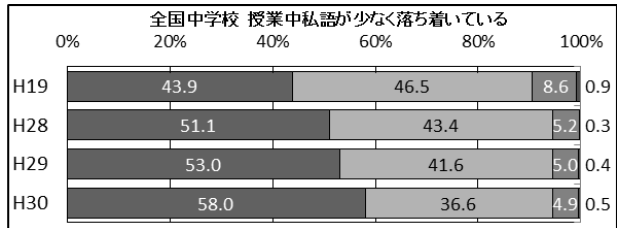
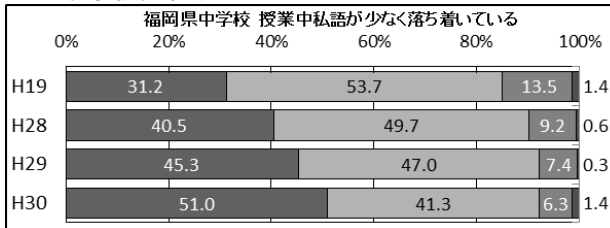
- 平成30年度の、そのとおりと回答している学校の割合は、平成29年より、小学校はほぼ変化していないが、中学校は増加している。
- 平成30年度の、そのとおりと回答している学校の割合は、全国より、小学校は0.4ポイント、中学校は7.0ポイント下回っている。
- 平成30年度の、そのとおりと回答している学校の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。
- 平成30年度の、そのとおりと回答している学校の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校15.3ポイント、中学校30.2ポイントである。

■ 小学校回答状況

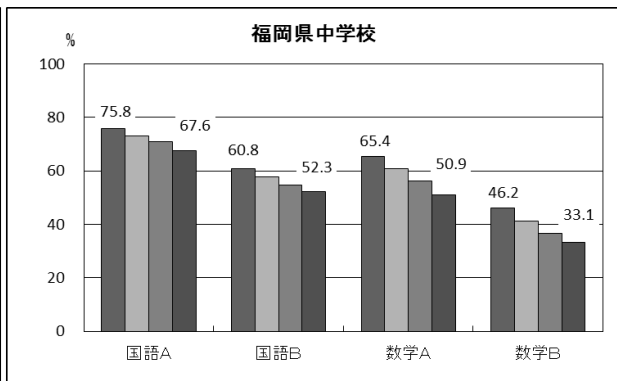
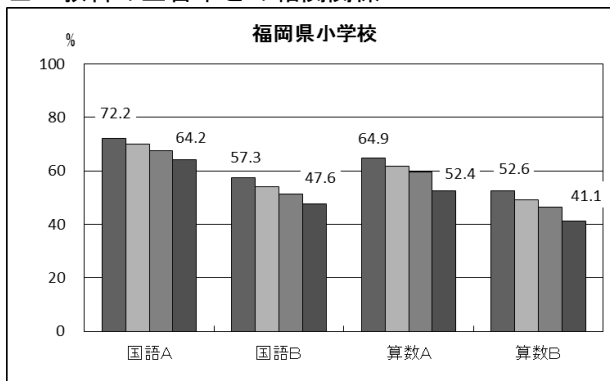
■ そのとおり ■ どちらかといえば ■ あまり ■ そう思わない



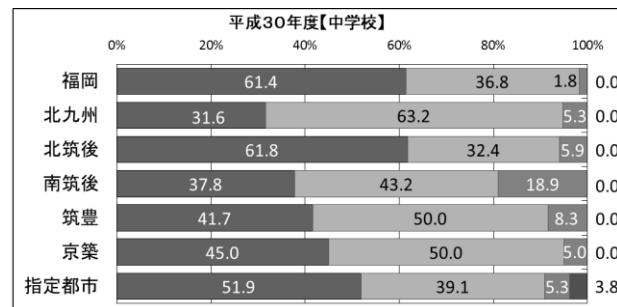
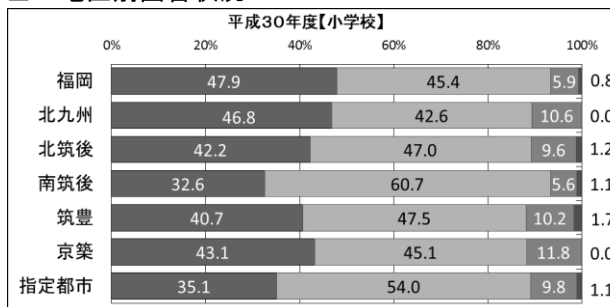
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関関係



■ 地区別回答状況



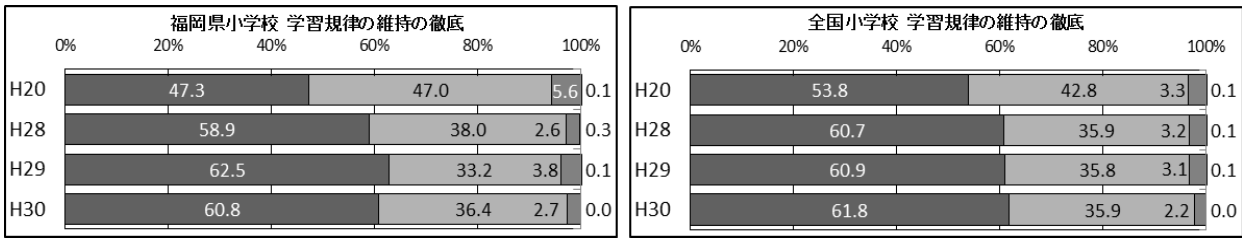
小 25・中 24 前年度までに、学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞くなど）の維持を徹底しましたか。

※ 平成20年度から加えられた質問

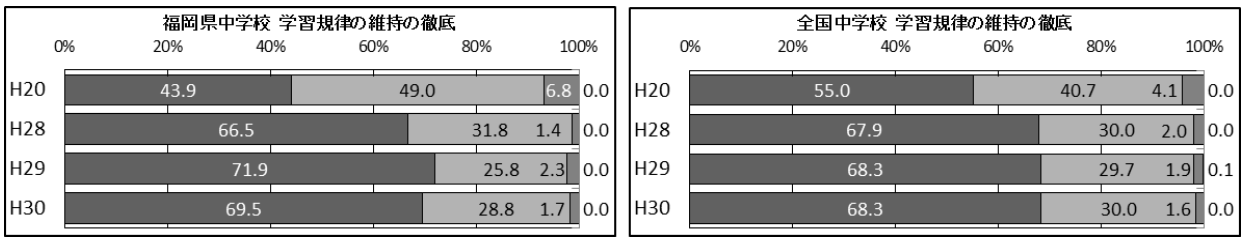
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の割合は、平成29年より、小学校、中学校ともに減少している。
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の割合は、全国より、小学校は1.0ポイント下回り、中学校は1.2ポイント上回っている。
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校17.7ポイント、中学校15.5ポイントである。

■ よく行った ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 行っていない

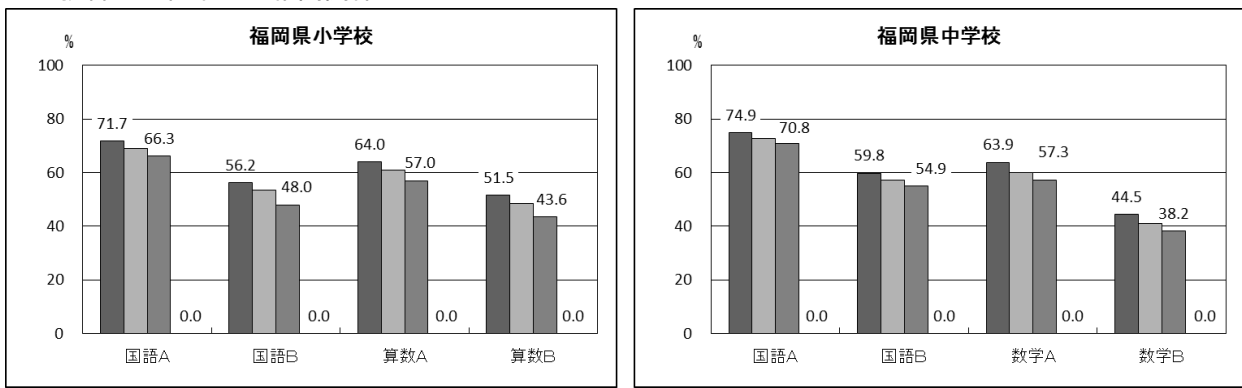
■ 小学校回答状況



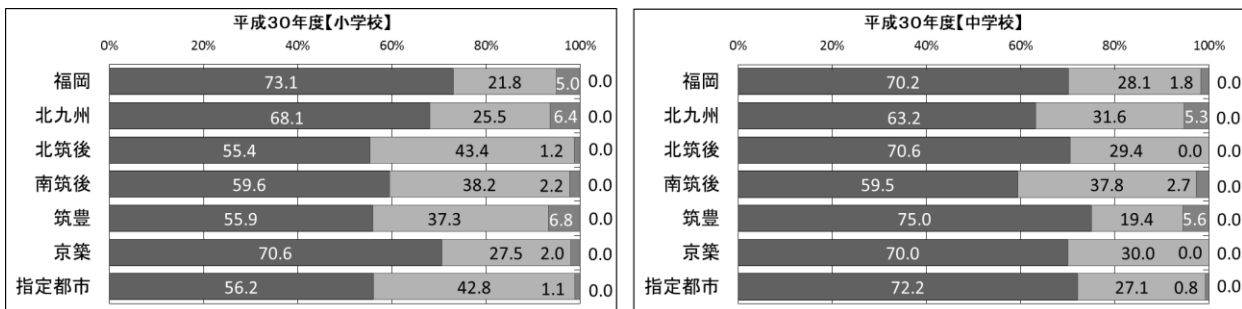
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関関係



■ 地区別回答状況



2 授業づくり

(1) 指導方法

小 26・中 25

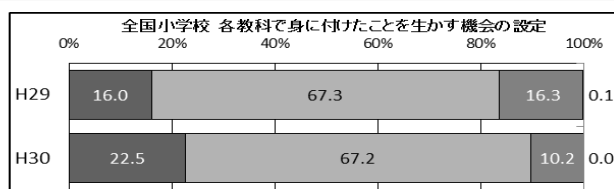
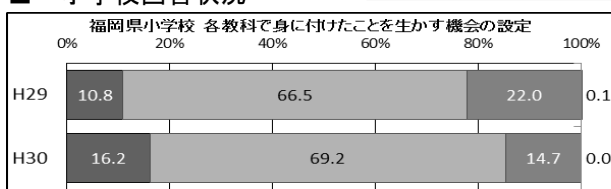
前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。

※ 平成29年度から加えられた質問

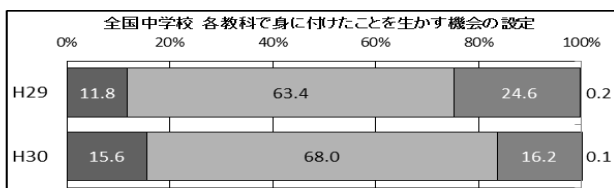
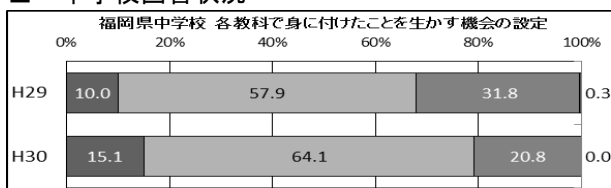
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の割合は、平成29年より、小学校、中学校ともに増加している。
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の割合は、全国より、小学校は6.3ポイント、中学校は0.5ポイント下回っている。
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校10.8ポイント、中学校14.3ポイントである。

■ 小学校回答状況

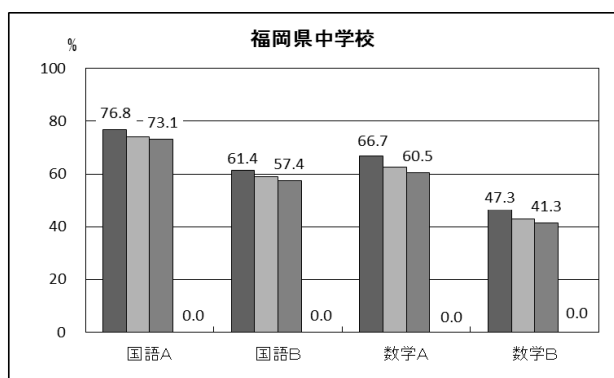
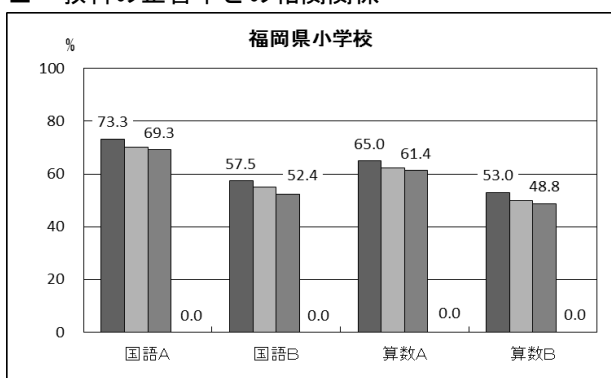
■ よく行った ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 行っていない



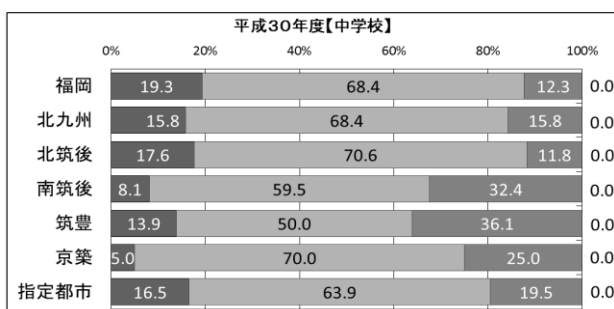
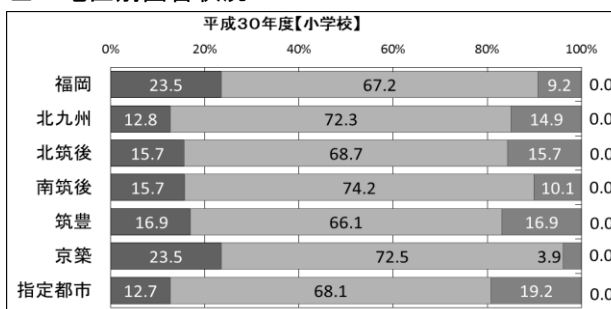
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関関係



■ 地区別回答状況



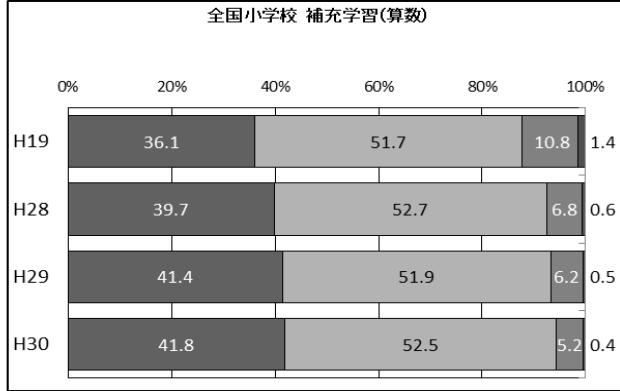
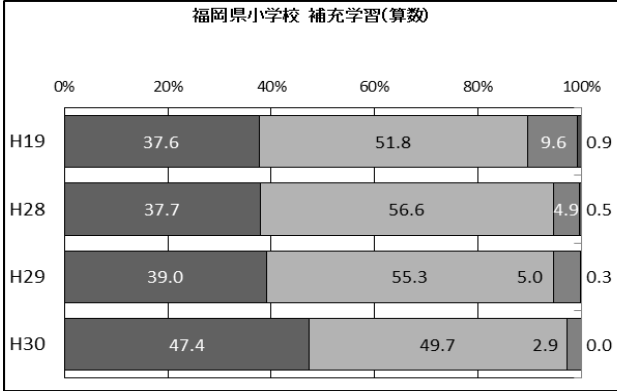
(2) 補足的な学習

小37・中36 算数／数学の指導として、前年度までに補足的な学習の指導を行いましたか。

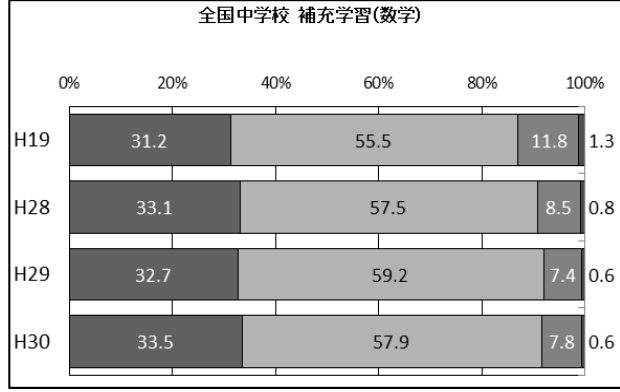
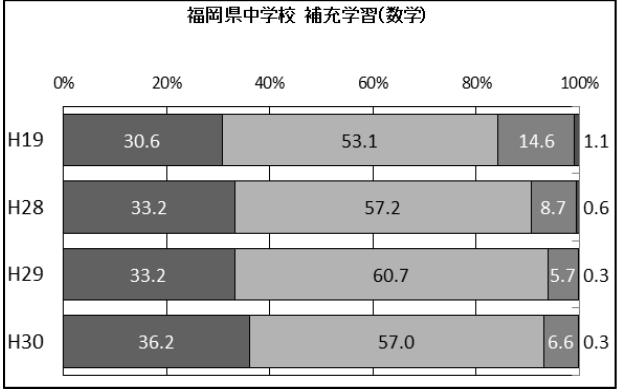
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の割合は、平成29年より、小学校、中学校ともに増加している。
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の割合は、全国より、小学校は5.6ポイント、中学校は2.7ポイント上回っている。
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校 25.4ポイント、中学校 30.0ポイントである。

■よく行った ■どちらかといえば ■あまり ■行っていない

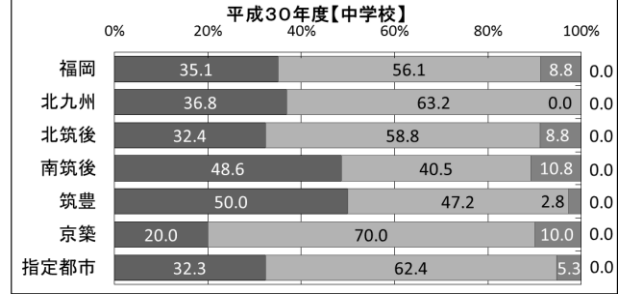
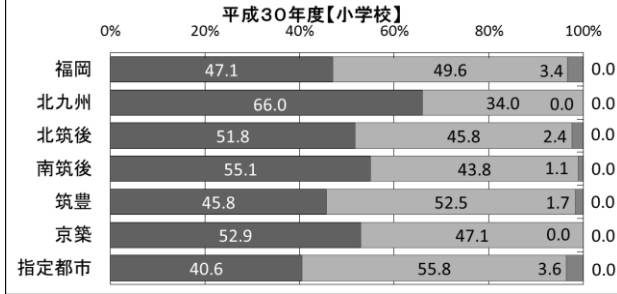
■ 小学校回答状況



■ 中学校回答状況



■ 地区別回答状況

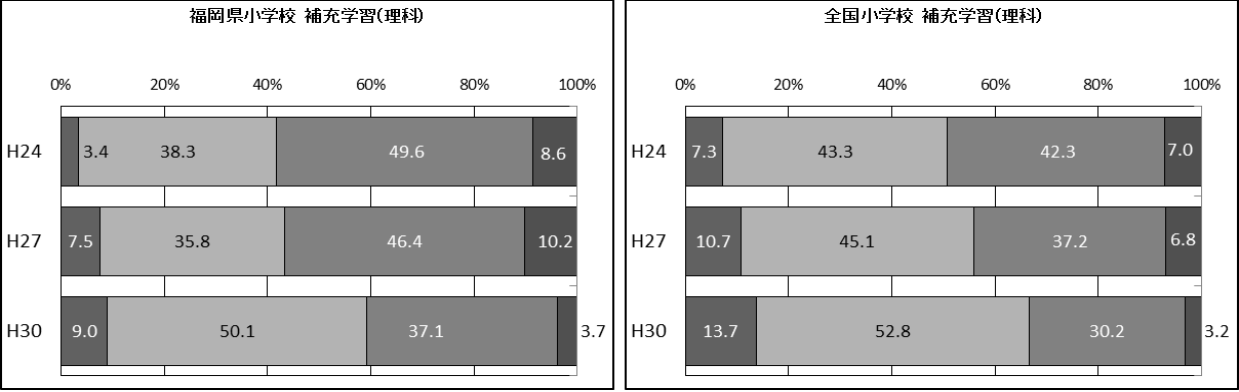


小 43・中 41 理科の指導として、前年度までに補充的な学習の指導を行いましたか。

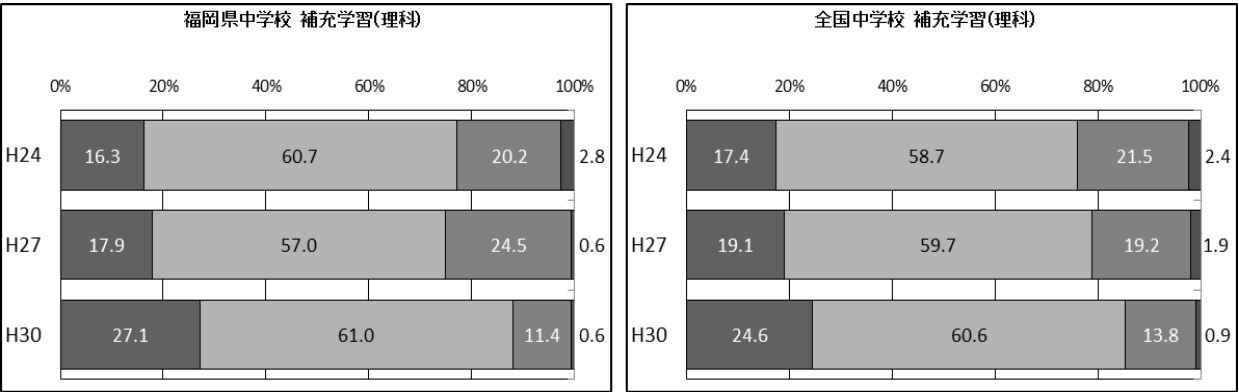
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の割合は、平成27年より、小学校、中学校ともに増加している。
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の割合は、全国より、小学校は4.7ポイント下回り、中学校は2.5ポイント上回っている。
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校9.4ポイント、中学校32.4ポイントである。

■ よく行った ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 行っていない

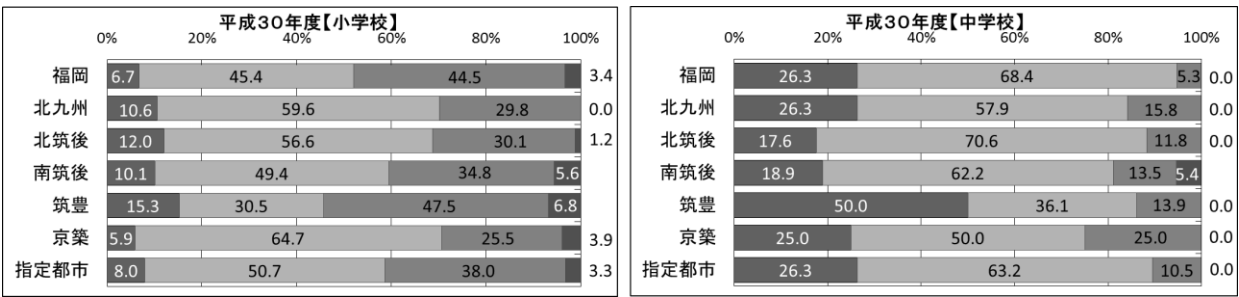
■ 小学校回答状況



■ 中学校回答状況



■ 地区別回答状況



(3) 教職員の取組

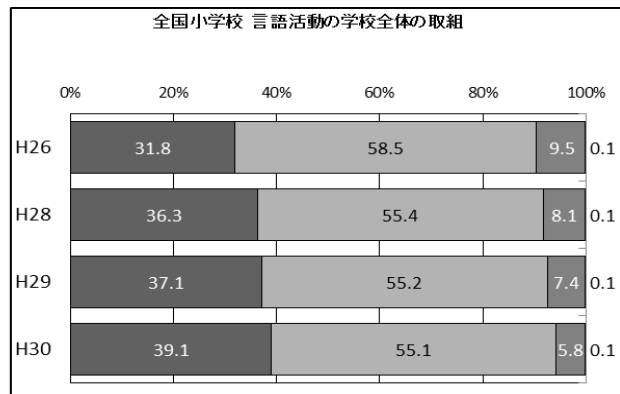
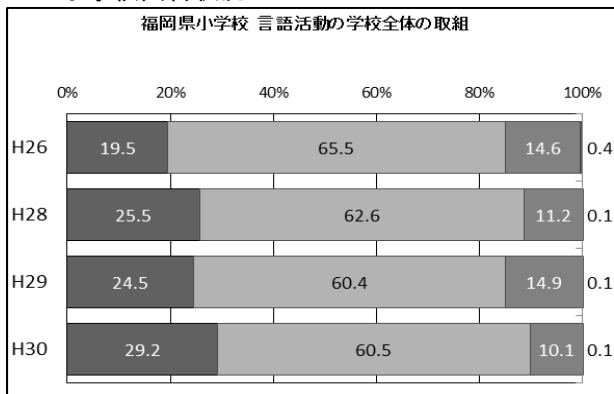
小 81・中 78 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、(外国語活動)、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか。

※ 平成26年度から加えられた質問

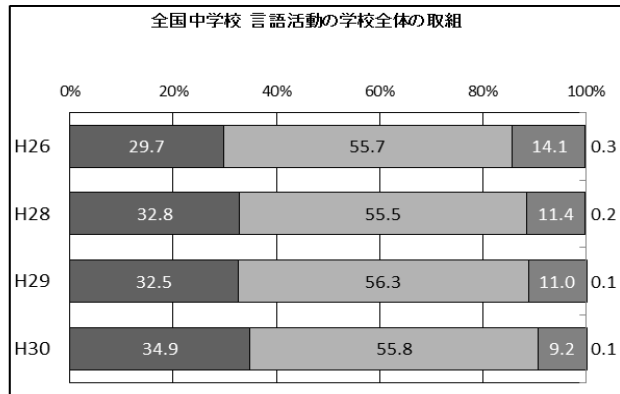
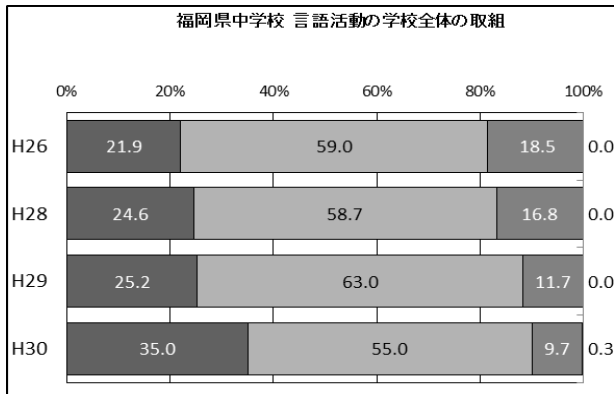
- 平成30年度の、よくしていると回答している学校の割合は、平成29年より、小学校、中学校ともに増加している。
- 平成30年度の、よくしていると回答している学校の割合は、全国より、小学校は9.9ポイント下回り、中学校はほぼ同じである。
- 平成30年度の、よくしていると回答している学校の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校19.2ポイント、中学校30.9ポイントである。

■よくしている ■どちらかといえば ■あまり ■していない

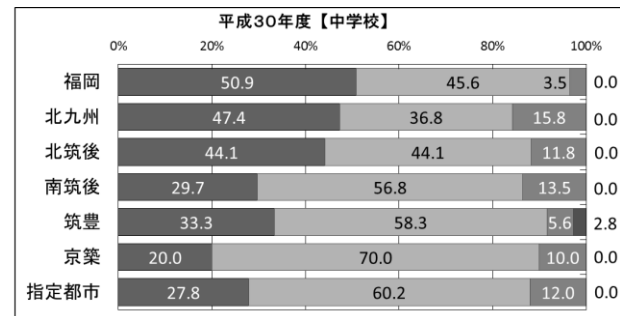
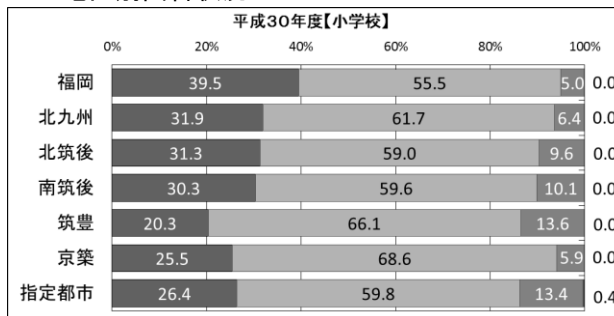
■ 小学校回答状況



■ 中学校回答状況



■ 地区別回答状況



3 教員の意識・指導力の向上

(1) カリキュラム・マネジメント

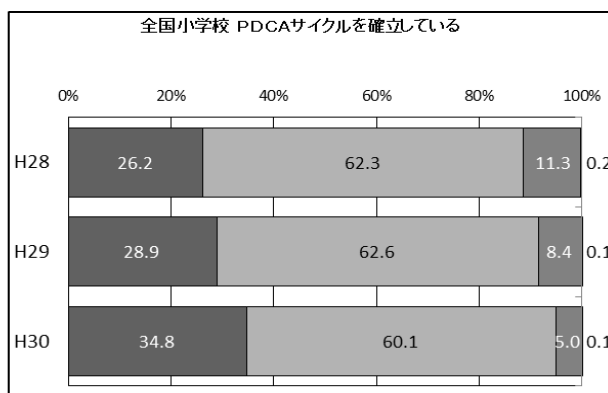
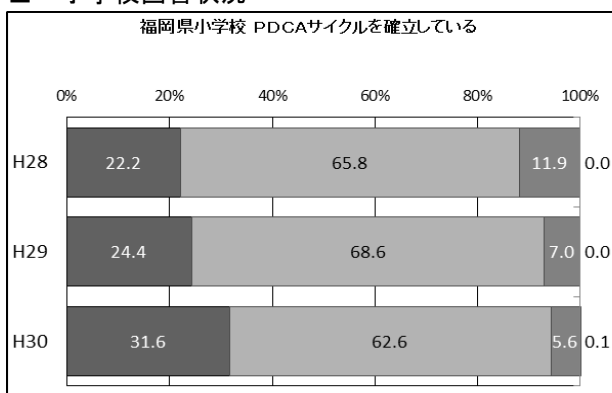
小18・中17	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。
---------	--

※ 平成28年度から加えられた質問

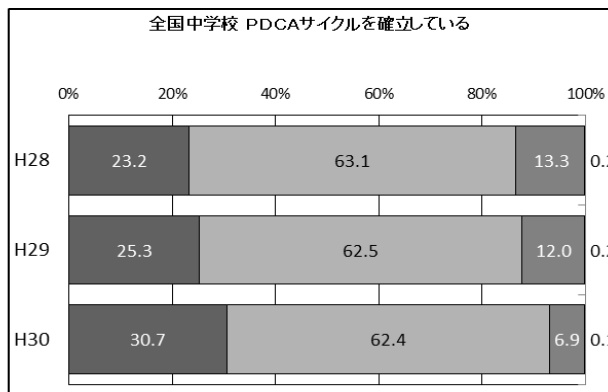
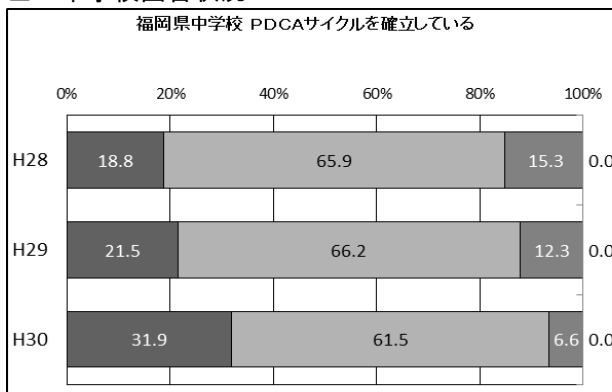
- 平成30年度の、よくしていると回答している学校の割合は、平成29年より、小学校、中学校ともに増加している。
- 平成30年度の、よくしていると回答している学校の割合は、全国より、小学校は3.2ポイント下回り、中学校は1.2ポイント上回っている。
- 平成30年度の、よくしていると回答している学校の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校27.3ポイント、中学校31.6ポイントである。

■ よくしている ■ どちらかといえば ■ あまり ■ していない

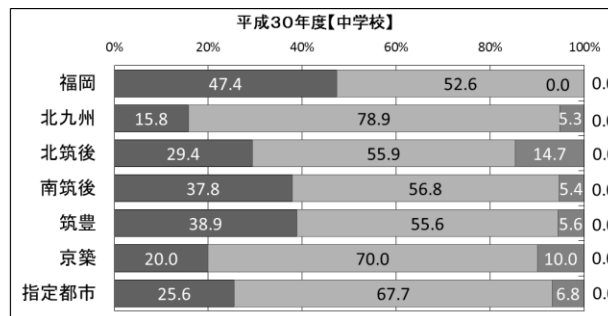
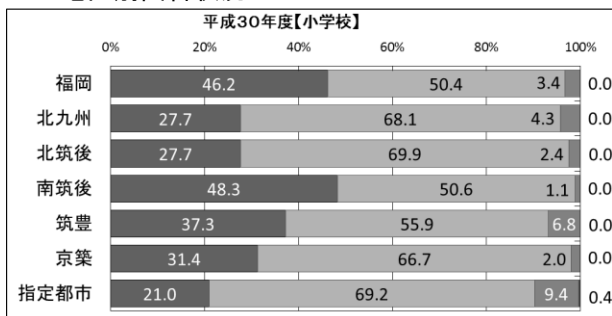
■ 小学校回答状況



■ 中学校回答状況



■ 地区別回答状況



(2) 調査結果の活用

小31・中30

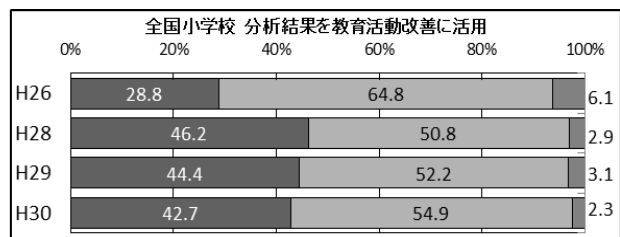
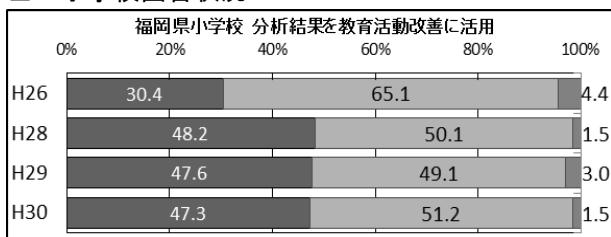
平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。

※ 平成26年度から加えられた質問

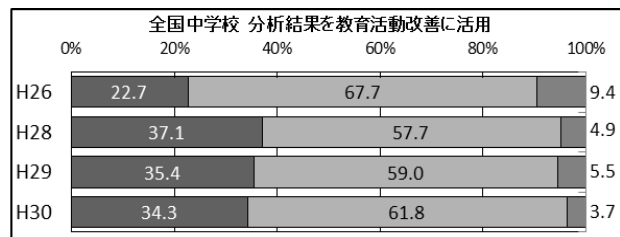
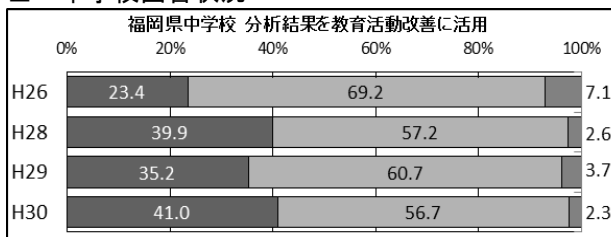
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の割合は、平成29年より、小学校は減少し、中学校は増加している。
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の割合は、全国より、小学校は4.6ポイント、中学校は6.7ポイント上回っている。
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校21.9ポイント、中学校18.0ポイントである。

■ 小学校回答状況

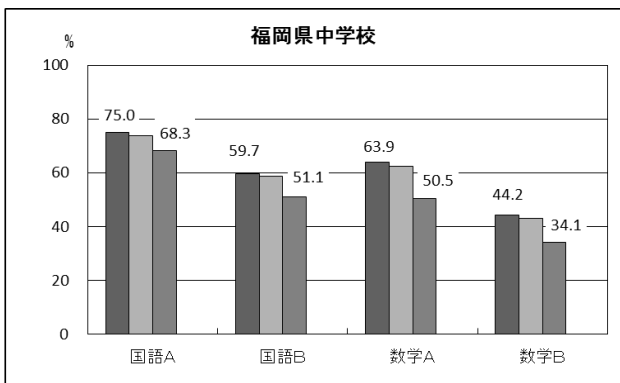
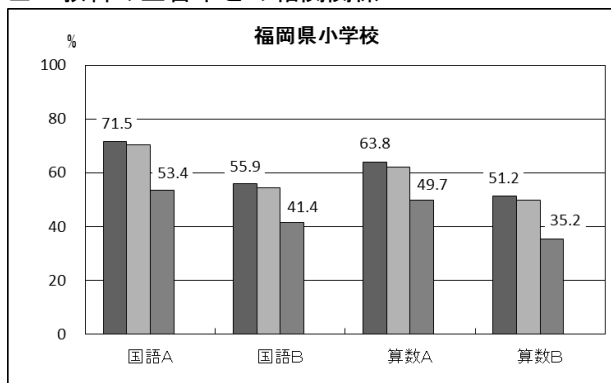
■ よく行った ■ 行った ■ ほとんど行っていない



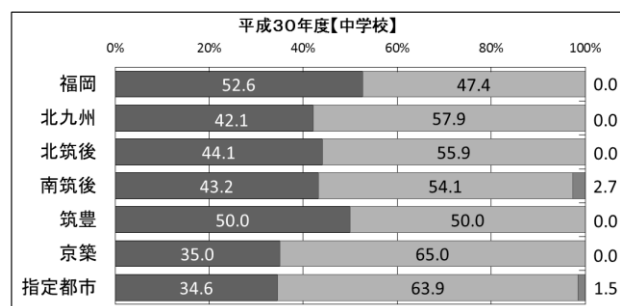
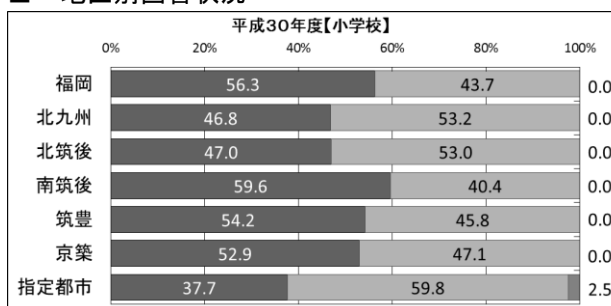
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関関係



■ 地区別回答状況



(3) 教員研修

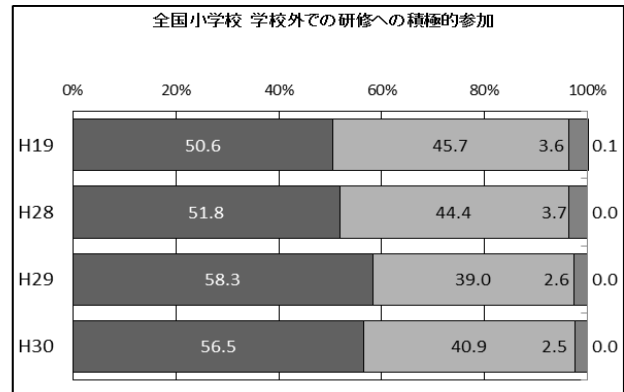
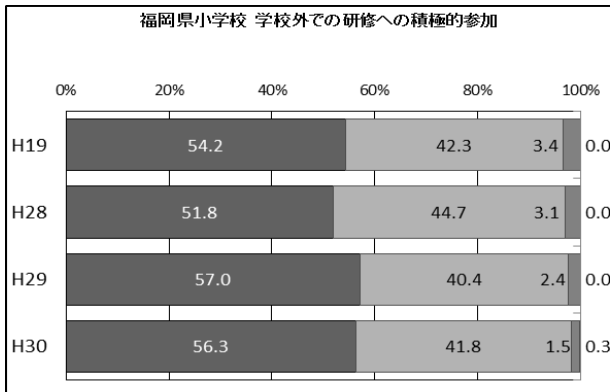
小75・中72

教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか。

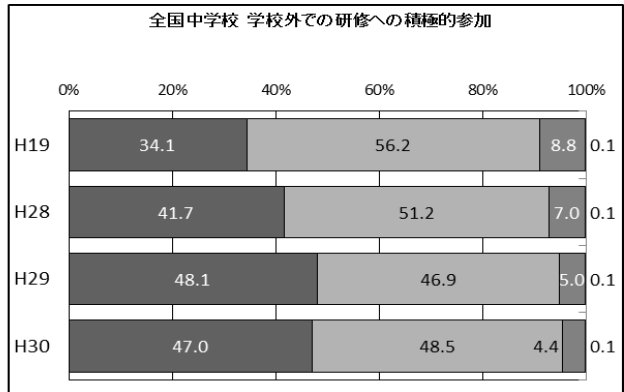
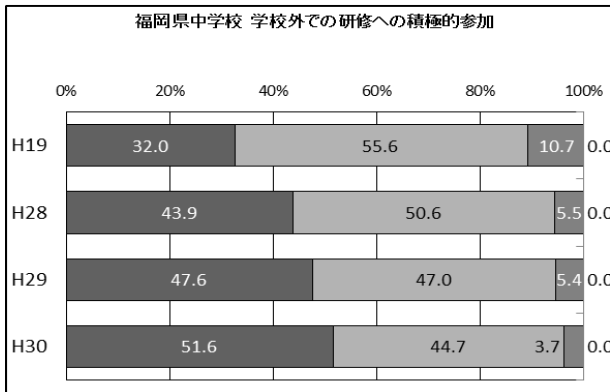
- 平成30年度の、よくしていると回答している学校の割合は、平成29年より、小学校は減少し、中学校は増加している。
- 平成30年度の、よくしていると回答している学校の割合は、小学校は全国とほぼ同じであり、中学校は全国より4.6ポイント上回っている。
- 平成30年度の、よくしていると回答している学校の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校23.2ポイント、中学校40.4ポイントである。

■ よくしている ■ どちらかといえば ■ あまり ■ していない

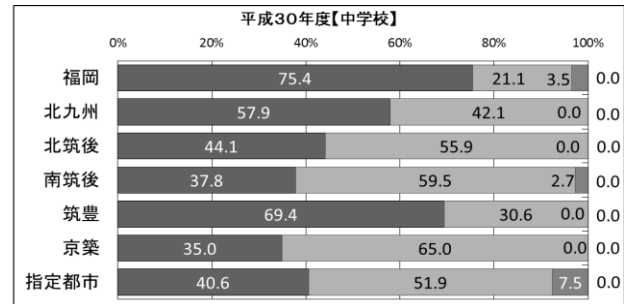
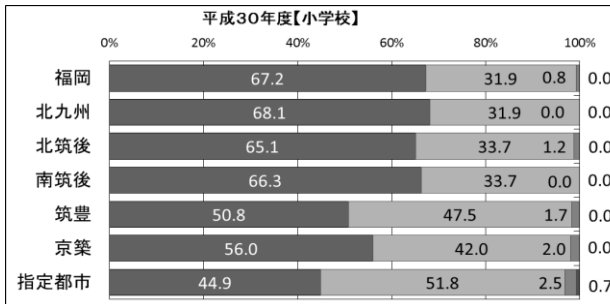
■ 小学校回答状況



■ 中学校回答状況



■ 地区別回答状況



(4) 教職員の取組

小 82・中 79

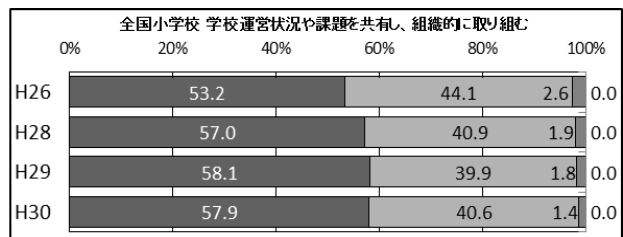
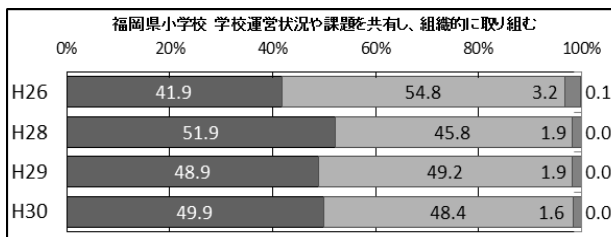
学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか。

※ 平成26年度から加えられた質問

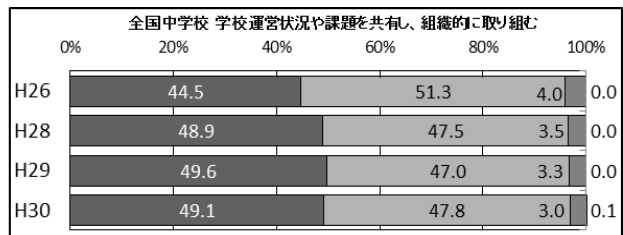
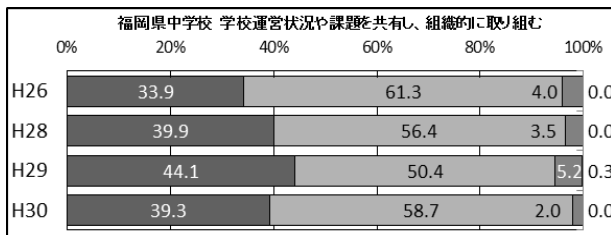
- 平成30年度の、よくしていると回答している学校の割合は、平成29年より、小学校は増加し、中学校は減少している。
- 平成30年度の、よくしていると回答している学校の割合は、全国より、小学校は8.0ポイント、中学校は9.8ポイント下回っている。
- 平成30年度の、よくしていると回答している学校の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。
- 平成30年度の、よくしていると回答している学校の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校20.8ポイント、中学校29.1ポイントである。

■ 小学校回答状況

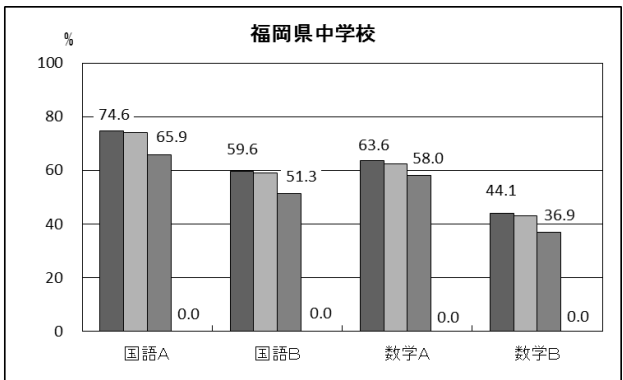
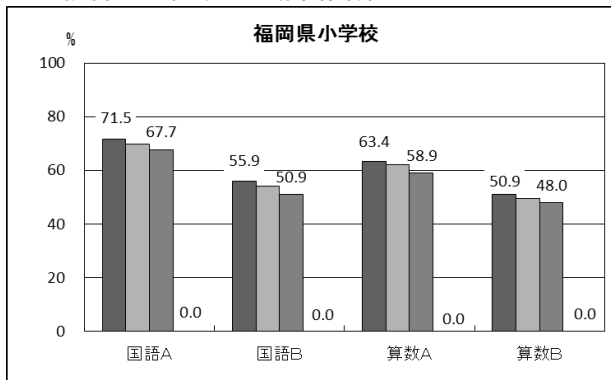
■ よくしている ■ どちらかといえば ■ あまり ■ していない



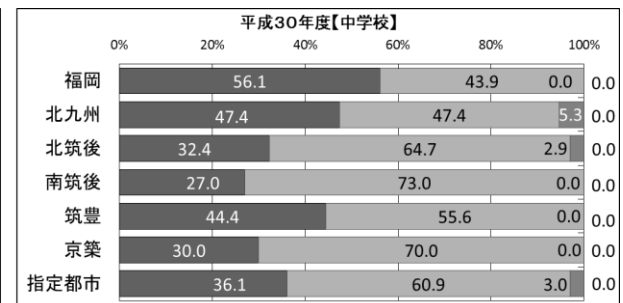
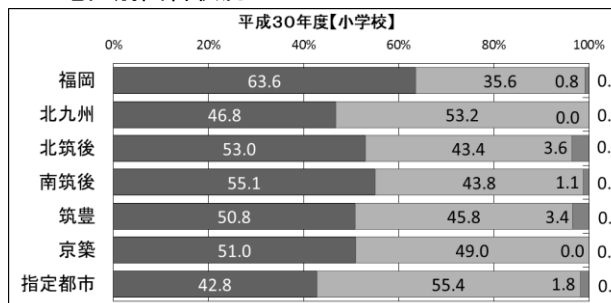
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関関係



■ 地区別回答状況



4 家庭・関係機関との連携

(1) 教育課程の周知

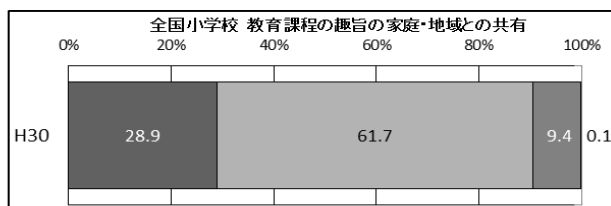
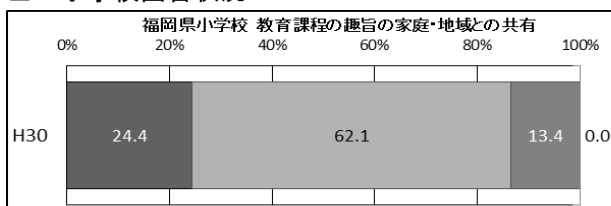
小20・中19 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか。

※ 平成30年度から加えられた質問

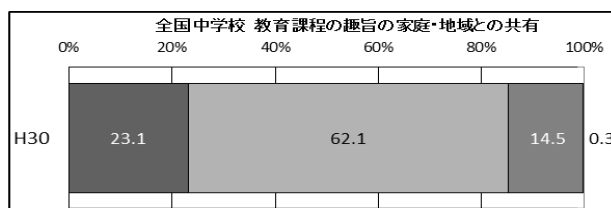
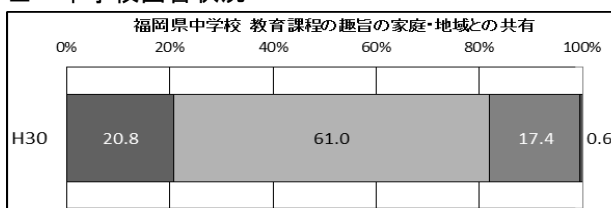
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の割合は、全国より、小学校は4.5ポイント、中学校は2.3ポイント下回っている。
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校 31.7ポイント、中学校 31.6ポイントである。

■ よくしている ■ どちらかといえば ■ あまり ■ していない

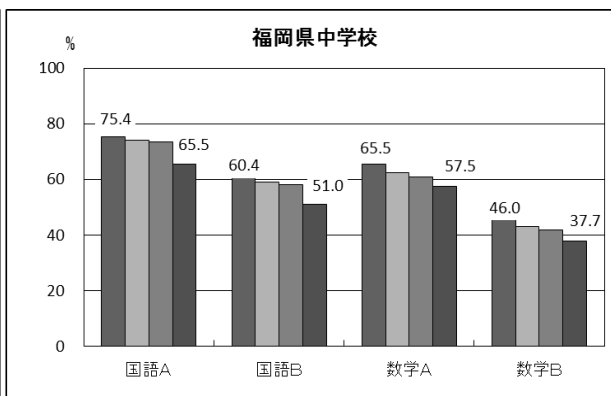
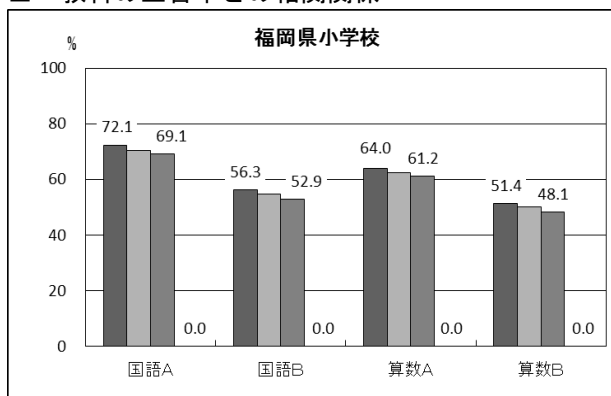
■ 小学校回答状況



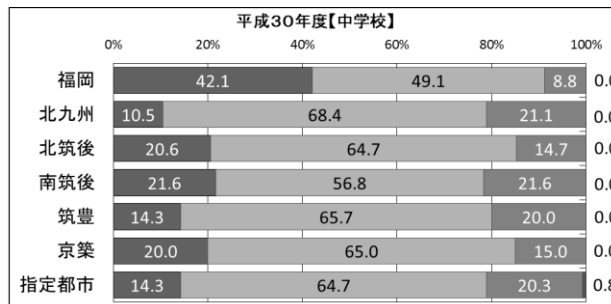
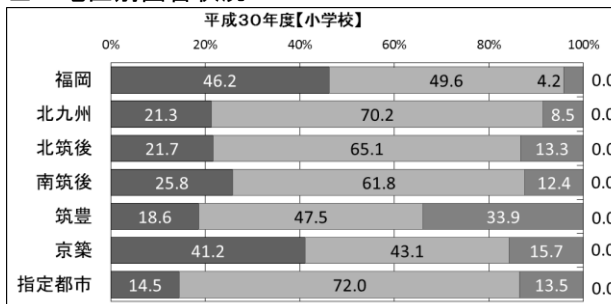
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関関係



■ 地区別回答状況



(2) 家庭学習

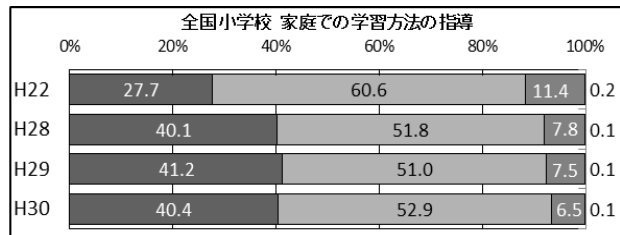
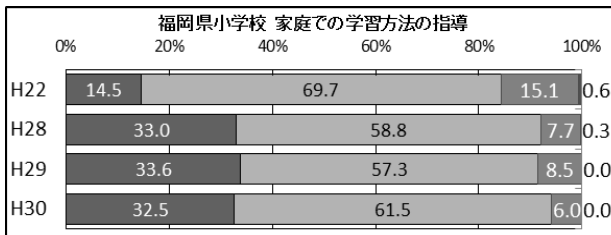
小 66・中 63 前年度までに、家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか。(国語、算数/数学共通)

※ 平成22年度から加えられた質問

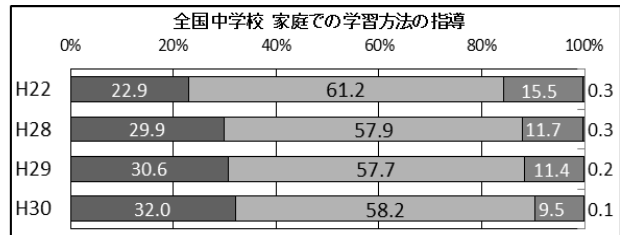
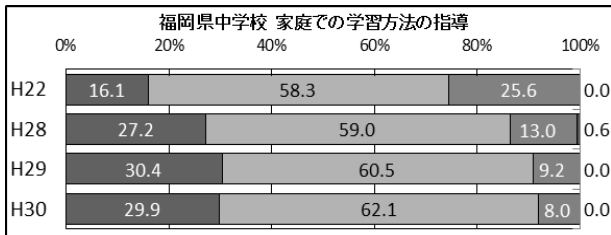
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の割合は、平成29年より、小学校、中学校ともに減少している。
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の割合は、全国より、小学校は7.9ポイント、中学校は2.1ポイント下回っている。
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校21.0ポイント、中学校33.8ポイントである。

■ 小学校回答状況

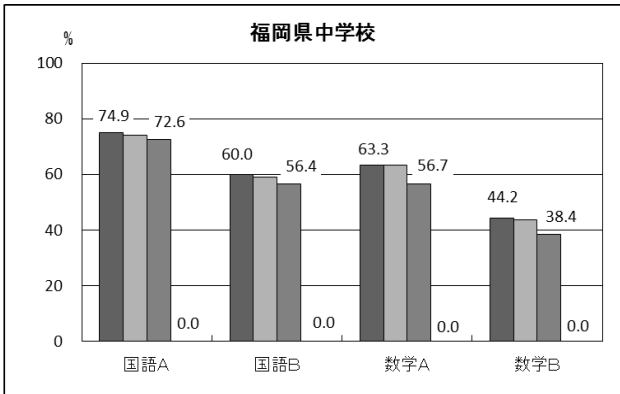
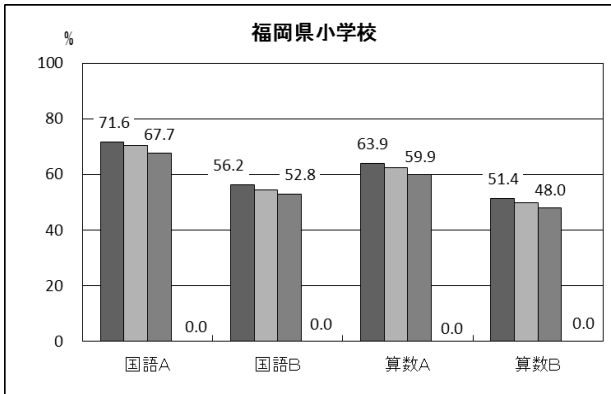
■ よく行った ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 行っていない



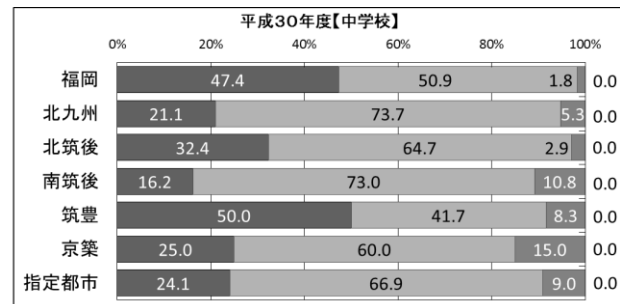
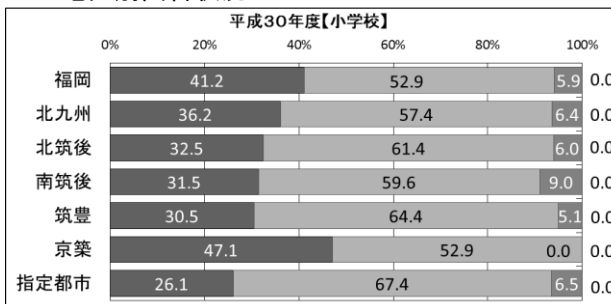
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関関係



■ 地区別回答状況



(3) 地域・社会とのかかわり

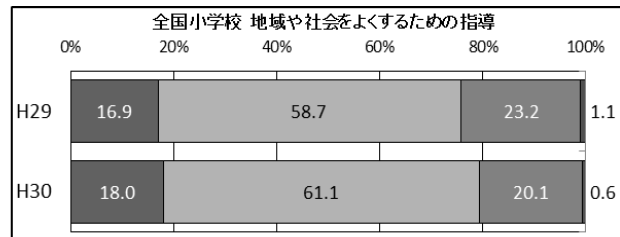
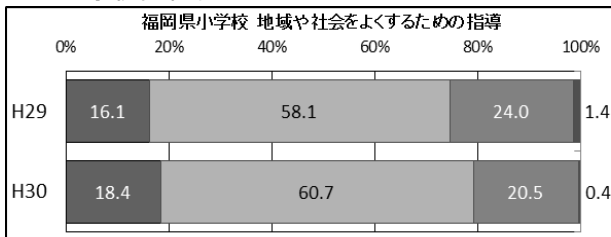
小56・中54 前年度までに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行いましたか。

※ 平成29年度から加えられた質問

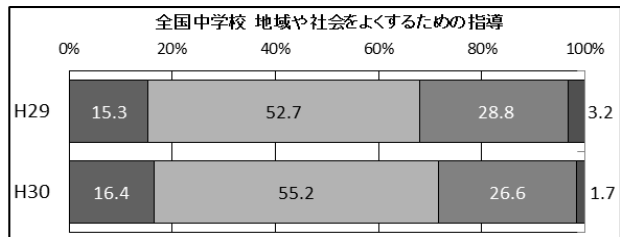
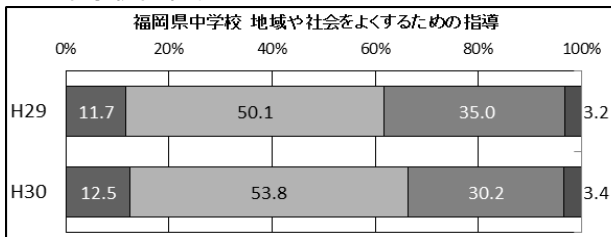
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の割合は、平成29年より、小学校、中学校ともに増加している。
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の割合は、全国より、小学校は0.4ポイント上回り、中学校は3.9ポイント下回っている。
- 平成30年度の、よく行ったと回答している学校の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校 22.7ポイント、中学校 19.6ポイントである。

■ よく行った ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 行っていない

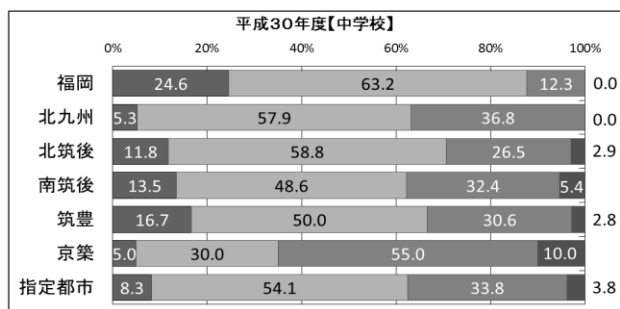
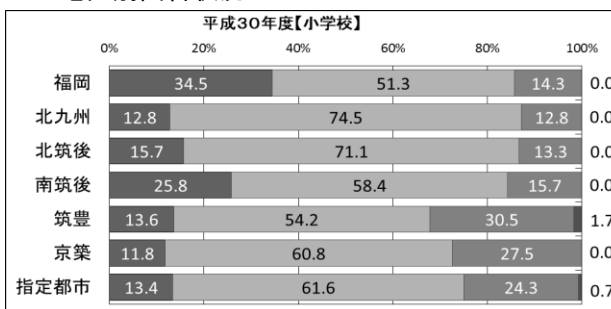
■ 小学校回答状況



■ 中学校回答状況



■ 地区別回答状況



5 その他

(1) 就学援助

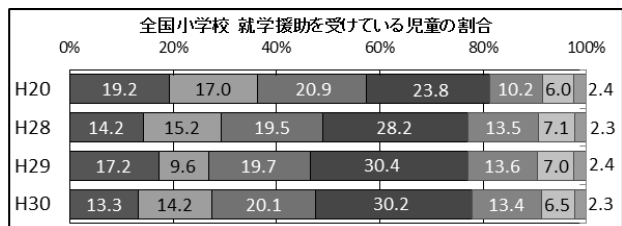
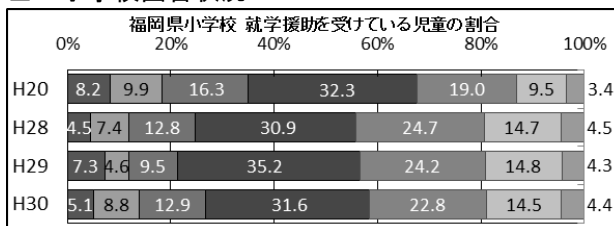
小14・中14 就学援助を受けている児童生徒の割合

※ 平成20年度から加えられた質問

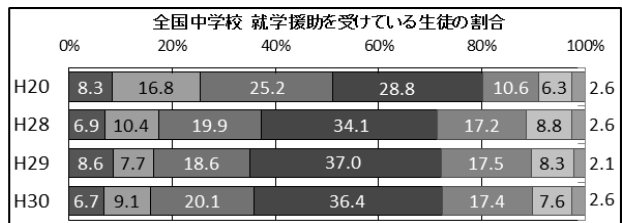
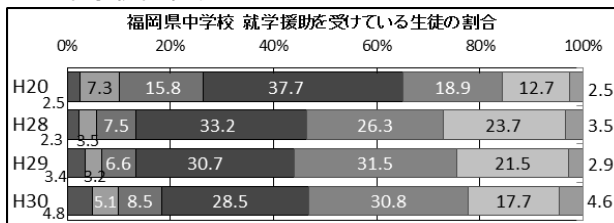
- 小学校、中学校ともに全国より、就学援助を受けている児童生徒の割合が高い学校が多い。
- 平成30年度の、就学援助を受けている児童生徒の割合が高い学校は、全教科区分において正答率が低い傾向にある。
- 平成30年度の、就学援助を受けている児童生徒の割合が30%以上と回答している学校の割合の地区間の最大・最小の差は、小学校 44.1 ポイント、中学校 66.6 ポイントである。

■ 受けていない ■ 5%未満 ■ 10%未満 ■ 20%未満 ■ 30%未満 ■ 50%未満 ■ 50%以上

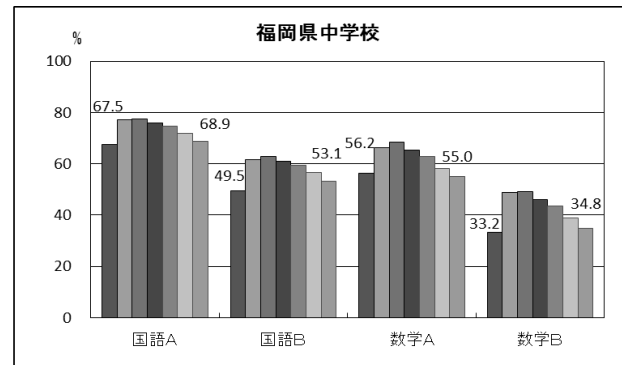
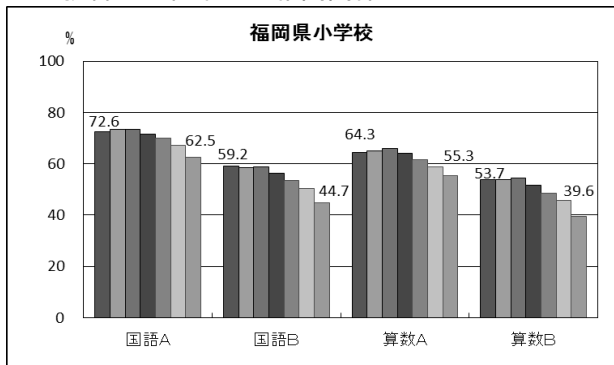
■ 小学校回答状況



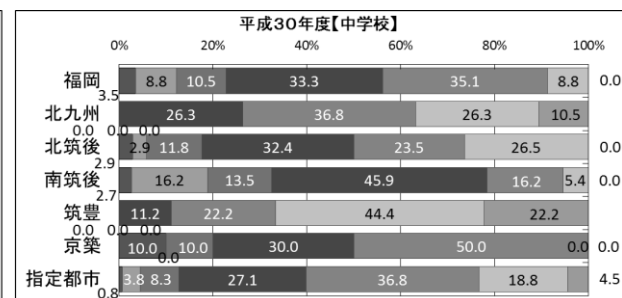
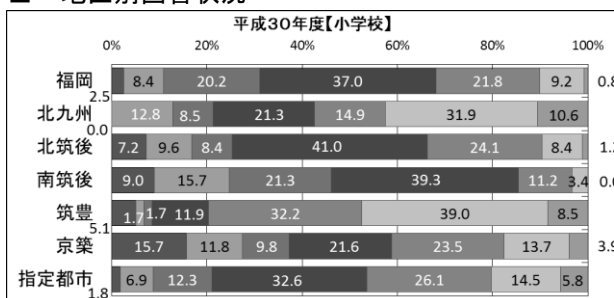
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関関係



■ 地区別回答状況



Ⅷ 児童生徒質問紙と学校質問紙の調査結果の比較分析

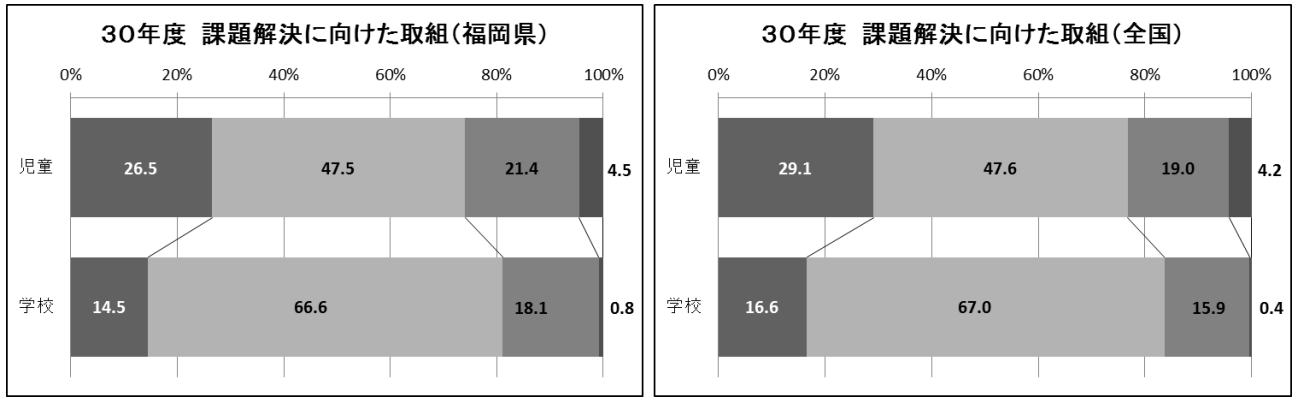
児童生徒質問紙と学校質問紙の共通質問について、教師と児童生徒の認識の違いをみる。

※ 数字は、児童生徒質問紙及び学校質問紙中の質問番号

児童生徒 質問紙	小 55 中 52	5年生まで（小）1、2年生のとき（中）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。
学校質問紙	小・中 13	対象となる児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができますか。

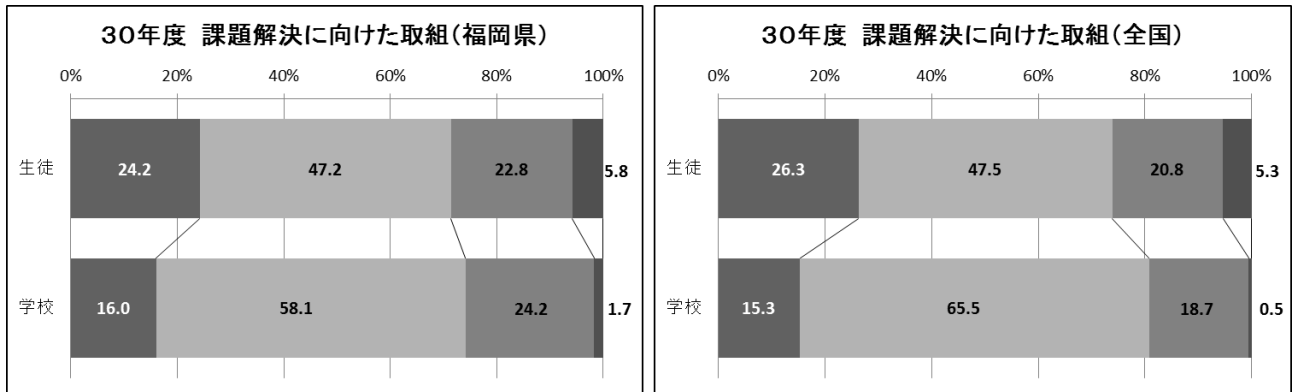
児童生徒質問紙	当てはまる	どちらかといえば	あまり	全く
学校質問紙	できている	どちらかといえば	あまり	全く

■ 小学校



○ 本県の「課題の解決に向けた主体的な取組」について、当てはまると回答している割合は、児童が学校より 12.0 ポイント大きく、全国の同様の割合は、児童が学校より 12.5 ポイント大きい。本県の児童と学校の認識の違いは全国より 0.5 ポイント小さい。

■ 中学校

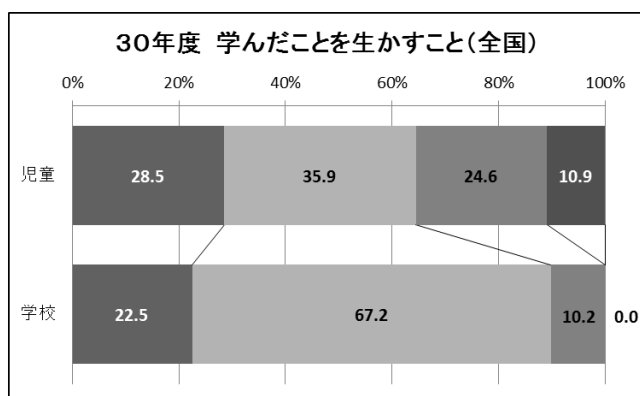
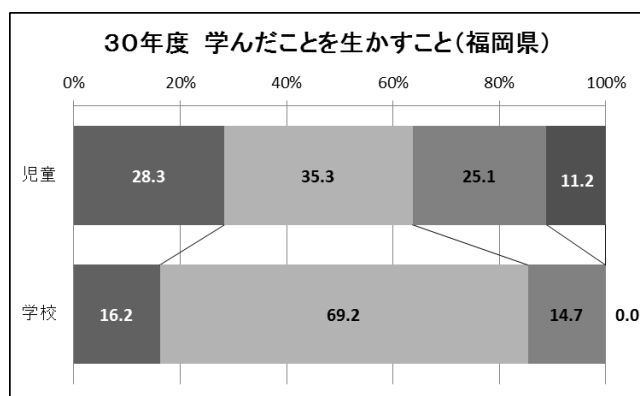


○ 本県の「課題の解決に向けた主体的な取組」について、当てはまると回答している割合は、生徒が学校より 8.2 ポイント大きく、全国の同様の割合は、生徒が学校より 11.0 ポイント大きい。本県の生徒と学校の認識の違いは全国より 2.8 ポイント小さい。

児童生徒 質問紙	小・中 32	算数／数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか 考えますか。
学校質問紙	小 26 中 25	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度に、各教科等で身に付けた ことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けま したか。

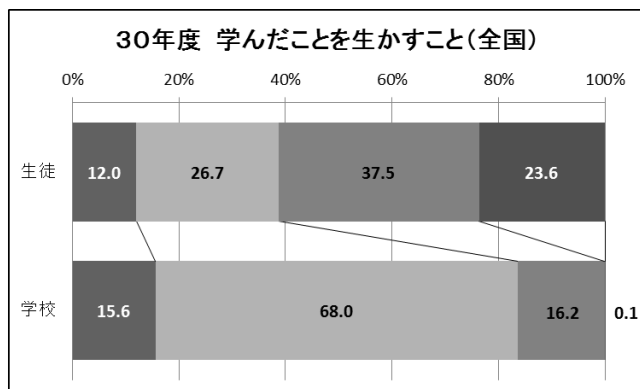
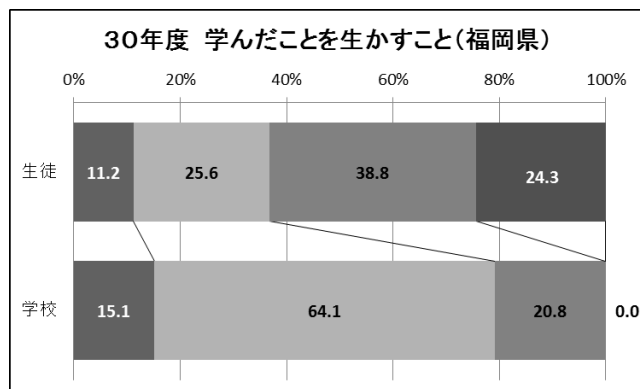
児童生徒質問紙	当てはまる	どちらかといえば	あまり	全く
学校質問紙	よく行った	どちらかといえば	あまり	全く

■ 小学校



○ 本県の「学んだことを生かすこと」について、当てはまると回答している割合は、児童が学校より 12.1 ポイント大きく、全国の同様の割合は、児童が学校より 6.0 ポイント大きい。本県の児童と学校の認識の違いは、全国より 6.1 ポイント大きい。

■ 中学校

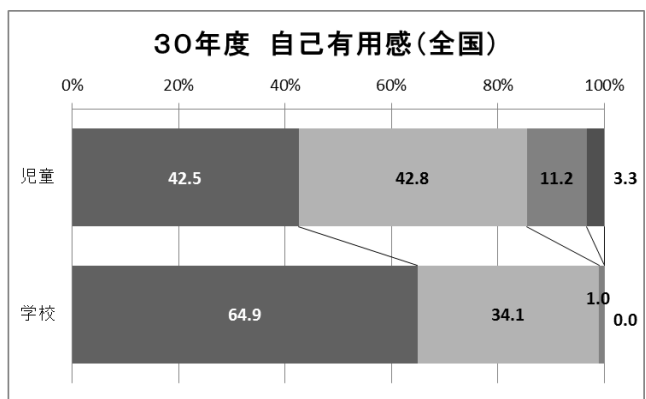
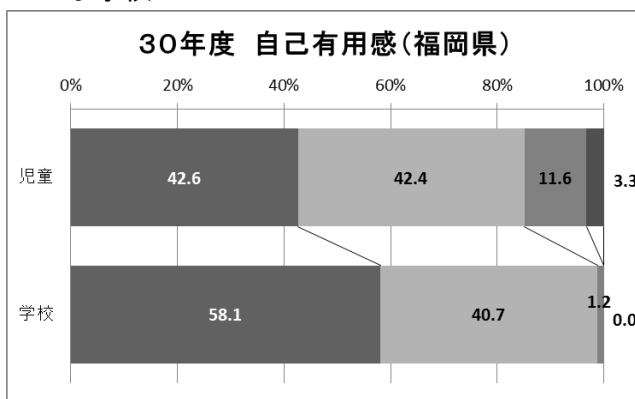


○ 本県の「学んだことを生かすこと」について、当てはまると回答している割合は、学校が生徒より 3.9 ポイント大きく、全国の同様の割合は、学校が生徒より 3.6 ポイント大きい。本県の生徒と学校の認識の違いは、全国より 0.3 ポイント大きい。

児童生徒 質問紙	小・中 2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
学校質問紙	小 30 中 29	前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか。

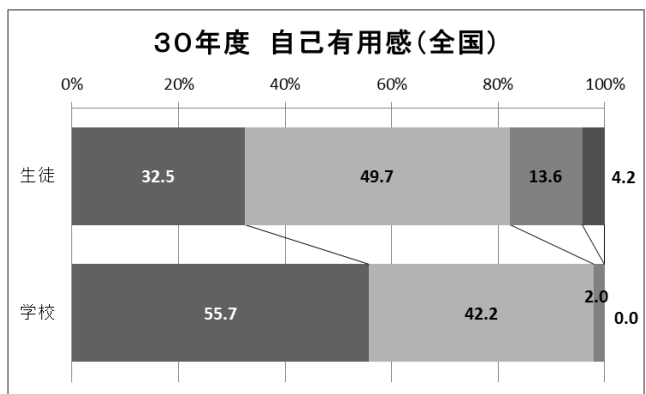
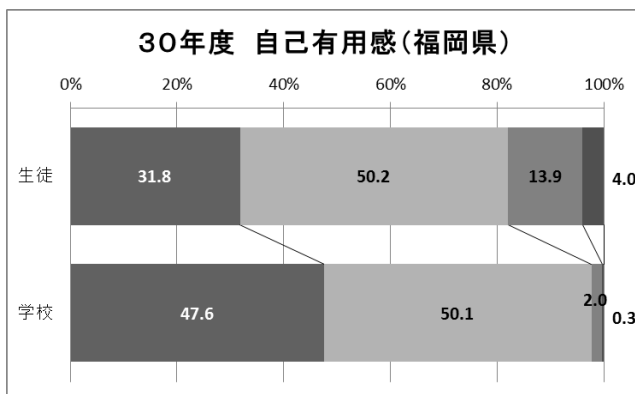
児童生徒質問紙	当てはまる	どちらかといえば	あまり	全く
学校質問紙	よく行った	どちらかといえば	あまり	全く

■ 小学校



○ 本県の「自己有用感」について、当てはまると回答している割合は、学校が児童より 15.5 ポイント大きく、全国の同様の割合は、学校が児童より 22.4 ポイント大きい。本県の児童と学校の認識の違いは、全国より 6.9 ポイント小さい。

■ 中学校



○ 本県の「自己有用感」について、当てはまると回答している割合は、学校が生徒より 15.8 ポイント大きく、全国の同様の割合は、学校が生徒より 23.2 ポイント大きい。本県の生徒と学校の認識の違いは、全国より 7.4 ポイント小さい。

Ⅸ 平成30年度 福岡県学力調査結果

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、県独自の学力調査を実施し、県内各地域における児童生徒の学力の状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 各市町村（学校組合）教育委員会（指定都市を除く。）、学校が自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルの維持・向上を支援する。
- ③ 各学校が、児童生徒の学力の状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査の対象学年（指定都市を除く。）

- 公立の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年
 - 公立の中学校第1・2学年、義務教育学校後期課程第1・2学年、中等教育学校第1・2学年、特別支援学校中学部第1・2学年
- ※ 当該学年における当該教科の目標及び内容に準じて指導を受けている場合は、原則として調査の対象とする。

(3) 調査の教科

- 小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年
国語、算数（1教科45分で実施）
- 中学校第1・2学年、義務教育学校後期課程第1・2学年、中等教育学校第1・2学年、特別支援学校中学部第1・2学年
国語、数学（1教科50分で実施）

(4) 調査の内容

主として「基礎」に関する問題	主として「活用」に関する問題
<ul style="list-style-type: none">・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容など

(5) 調査日

平成30年6月19日（火）

(6) 6月19日に調査を実施した県内公立学校・児童生徒数

○ 小学校

学年	学校数 (校)	児童数 (人)	
		国語	算数
第5学年	455	23,629	23,645

○ 中学校

学年	学校数 (校)	生徒数 (人)	
		国語	数学
第1学年	216	21,532	21,552
第2学年	216	21,524	21,555

※学校数は、分校を含む

(7) 調査問題の内容

○ 調査範囲等

- ・ 原則として、当該学年の前学年までの指導事項とする。
- ・ 各教科の問題は、原則として、主として「基礎」に関する問題及び、主として「活用」に関する問題とする。問題数は下表のとおりである。

	小学校第5学年		中学校第1学年		中学校第2学年	
	国語	算数	国語	数学	国語	数学
主として「基礎」に関する問題	13	15	14	16	16	16
主として「活用」に関する問題	6	8	6	7	6	7
問題数合計	19	23	20	23	22	23

○ 設問（解答）形式

「選択式」、「短答式」及び「記述式」の3形式とする。

*選択式：選択肢から選ぶ（基本は4択）問題。

*短答式：語句などを答える問題。グラフや図を描く問題も含む。

*記述式：文で答える問題。考え方の筋道を図や式で答える問題も含む。

なお、形式ごとの問題数は下表のとおりである。

	小学校第5学年		中学校第1学年		中学校第2学年	
	国語	算数	国語	数学	国語	数学
選択式	6	8	8	11	9	5
短答式	9	12	7	9	9	15
記述式	4	3	5	3	4	3

2 調査結果の概要

(1) 県全体及び地区別の平均正答率、最大・最小の差

	小学校第5学年						中学校第1学年						中学校第2学年						
	国語			算数			国語			数学			国語			数学			
	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	
県全体の平均正答率 (指定都市を除く)	53.8	63.1	33.9	64.8	73.0	49.4	66.7	68.2	63.3	64.2	72.6	44.8	55.3	57.7	48.8	48.9	51.5	42.9	
地区	福岡	55.8	65.0	35.9	67.0	74.9	52.2	69.0	70.2	66.3	66.0	74.4	46.5	57.6	60.2	50.4	52.2	54.8	46.3
	北九州	51.4	60.7	31.3	62.2	71.0	45.5	64.7	66.1	61.2	61.9	70.5	42.2	53.1	55.5	46.9	43.8	46.7	37.3
	北筑後	51.4	60.0	32.8	64.1	72.4	48.5	66.1	67.6	62.5	64.1	72.4	45.1	54.0	56.1	48.2	47.9	50.6	41.6
	南筑後	54.5	64.0	33.8	64.6	72.7	49.5	65.1	67.1	60.4	63.4	72.0	43.7	54.1	56.6	47.4	46.9	49.2	41.7
	筑豊	52.6	62.6	31.1	60.9	69.8	44.3	60.9	62.6	57.0	58.4	66.7	39.4	49.7	51.9	44.0	42.2	45.0	35.8
	京築	51.8	61.2	31.6	63.1	71.6	47.3	64.4	66.1	60.5	61.6	70.5	41.1	52.9	54.8	47.7	45.8	48.7	39.3
最大・最小の差	4.4	5.0	4.8	6.1	5.1	7.9	8.1	7.6	9.3	7.6	7.7	7.1	7.9	8.3	6.4	10.0	9.8	10.5	

平均正答率：平均正答数を設問数で割った値を百分率で表示した値のこと。

(2) 全体の状況

- 算数／数学は、「基礎」及び「活用」ともに学年が上がるにつれて、地区間の差が大きくなる傾向が見られる。
- 地区間の差は、小学校第5学年及び中学校第2学年で、国語の「活用」に関する問題より「基礎」に関する問題の方が大きく、算数／数学の「基礎」に関する問題より「活用」に関する問題の方が大きい。また、中学校第1学年は、国語の「基礎」に関する問題より「活用」に関する問題の方が大きく、数学の「活用」に関する問題より「基礎」に関する問題の方が大きい。

(3) 小学校の状況

- 「全体」、「基礎」及び「活用」に関する問題についての地区間の差は、国語よりも算数の方が大きい。
- 最も地区間の差が大きいのは、算数の「活用」に関する問題である。

(4) 中学校の状況

- 第1学年は「全体」及び「基礎」に関する問題についての地区間の差は、数学よりも国語の方が大きい。「活用」に関する問題についての地区間の差は、数学よりも国語の方が大きい。
- 第2学年は「全体」、「基礎」及び「活用」に関する問題についての地区間の差は、国語よりも数学の方が大きい。
- 最も地区間の差が大きいのは、第2学年数学の「活用」に関する問題である。

(5) 地区別の標準化得点

標準化得点：県の平均正答数を100としたときの各地区の平均得点

計算式：各地区の平均正答数÷県の平均正答数×100

※ 網掛け部分は、県の平均正答数を上回っているもの

※ 中学校第1学年は、昨年度から実施のためH27、H28の標準化得点及び差の数値を表記していない。

(福岡地区)

	小学校第5学年						中学校第1学年						中学校第2学年					
	国語			算数			国語			数学			国語			数学		
	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用
H27	103.2	102.7	104.2	104.2	103.2	107.8	—	—	—	—	—	—	104.1	104.0	104.6	106.3	105.6	109.1
H28	103.6	102.5	106.9	103.6	103.3	104.5	—	—	—	—	—	—	103.4	103.1	104.0	105.7	106.0	104.5
H29	103.1	101.9	107.6	103.2	102.4	105.8	102.5	102.0	104.1	102.7	102.5	103.3	103.2	102.7	104.7	105.5	105.3	105.8
H30	103.9	102.4	110.0	103.4	101.8	105.0	103.8	103.2	105.3	102.7	102.6	106.5	104.1	104.3	103.4	107.1	107.3	106.7
H27との差	0.7	-0.3	5.8	-0.8	-1.4	-2.8	1.3	1.2	1.2	0.0	0.1	3.2	0.0	0.3	-1.2	0.8	1.7	-2.4

(北九州地区)

	小学校第5学年						中学校第1学年						中学校第2学年					
	国語			算数			国語			数学			国語			数学		
	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用
H27	96.0	96.7	94.5	93.9	94.7	91.2	—	—	—	—	—	—	95.9	96.7	93.5	91.9	93.2	86.4
H28	95.9	97.7	90.4	97.0	97.6	95.3	—	—	—	—	—	—	97.7	97.9	97.0	93.4	93.3	93.5
H29	94.8	96.9	87.7	96.1	97.4	91.8	97.5	98.2	94.8	97.0	97.3	96.0	98.5	99.5	95.0	90.5	91.0	89.4
H30	96.1	96.3	95.0	96.0	97.3	90.0	97.0	97.9	97.4	95.9	97.4	96.8	95.9	96.7	96.6	90.2	91.5	86.7
H27との差	0.1	-0.4	0.5	2.1	2.6	-1.2	-0.5	-0.3	2.6	-1.1	0.1	0.8	0.0	0.0	3.1	-1.7	-1.7	0.3

(北筑後地区)

	小学校第5学年						中学校第1学年						中学校第2学年					
	国語			算数			国語			数学			国語			数学		
	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用
H27	98.5	98.1	99.3	98.4	99.1	95.8	—	—	—	—	—	—	99.4	99.2	100.0	98.7	98.8	98.2
H28	97.7	98.3	95.7	98.5	98.8	97.4	—	—	—	—	—	—	98.7	99.0	97.7	98.3	98.4	97.7
H29	97.3	97.8	95.5	97.3	98.0	94.9	99.0	99.0	98.9	98.7	98.7	98.7	97.7	97.7	97.7	99.9	100.0	99.8
H30	96.1	95.1	100.0	98.7	99.1	97.5	99.2	100.0	100.0	99.3	100.0	103.2	97.5	97.8	100.0	98.2	98.8	96.7
H27との差	-2.4	-3.0	0.7	0.3	0.0	1.7	0.2	1.0	1.1	0.6	1.3	4.5	-1.9	-1.4	0.0	-0.5	0.0	-1.5

(南筑後地区)

	小学校第5学年						中学校第1学年						中学校第2学年					
	国語			算数			国語			数学			国語			数学		
	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用
H27	101.2	101.7	100.4	101.1	100.9	101.6	—	—	—	—	—	—	97.5	97.8	96.8	98.9	99.0	98.5
H28	100.8	100.4	102.2	100.6	100.2	101.5	—	—	—	—	—	—	99.1	99.1	99.1	98.4	97.8	100.8
H29	102.7	102.5	103.5	102.4	102.0	104.0	98.6	98.7	98.3	98.9	98.9	99.0	97.5	98.0	95.6	95.6	95.6	95.6
H30	101.0	101.2	100.0	100.0	99.1	100.0	97.7	98.9	94.7	98.6	99.1	100.0	97.5	98.9	96.6	96.4	96.3	96.7
H27との差	-0.2	-0.5	-0.4	-1.1	-1.8	-1.6	-0.9	0.2	-3.6	-0.3	0.2	1.0	0.0	1.1	-0.2	-2.5	-2.7	-1.8

(筑豊地区)

	小学校第5学年						中学校第1学年						中学校第2学年					
	国語			算数			国語			数学			国語			数学		
	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用
H27	93.6	94.8	90.9	91.9	93.4	86.4	—	—	—	—	—	—	91.5	91.9	90.4	87.0	88.5	80.5
H28	93.6	95.3	88.2	92.5	93.3	90.1	—	—	—	—	—	—	90.3	90.9	88.5	85.2	85.1	85.5
H29	96.1	98.4	88.1	94.2	95.6	89.2	94.0	95.3	88.9	93.3	94.1	90.8	91.2	91.7	89.8	87.1	87.9	85.4
H30	98.0	98.8	95.0	94.0	95.5	87.5	91.7	92.6	89.5	90.5	92.2	90.3	89.3	90.2	89.7	86.6	87.8	83.3
H27との差	4.4	4.0	4.1	2.1	2.1	1.1	-2.3	-2.7	0.6	-2.8	-1.9	-0.5	-2.2	-1.7	-0.7	-0.4	-0.7	2.8

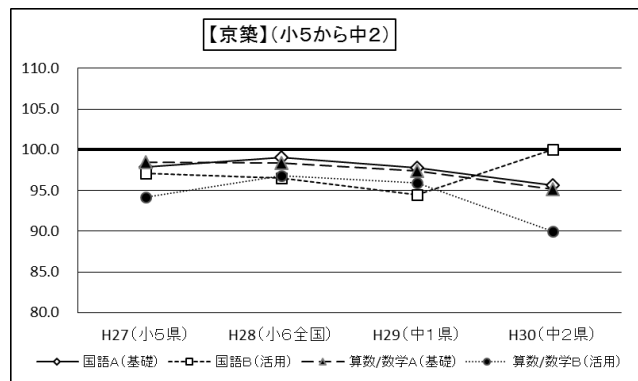
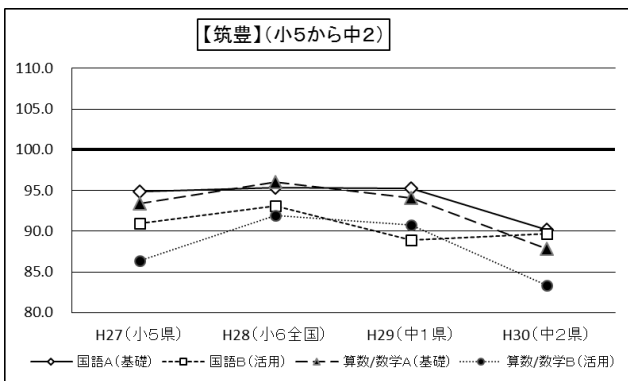
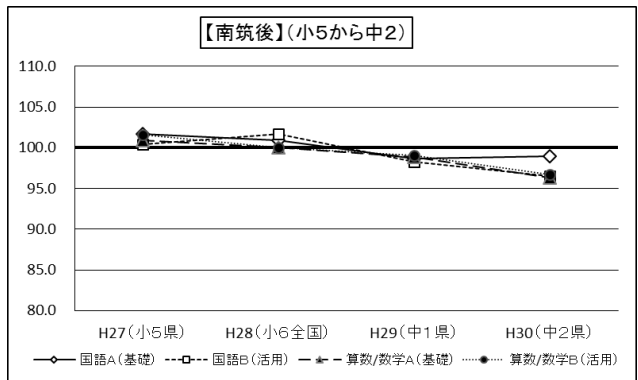
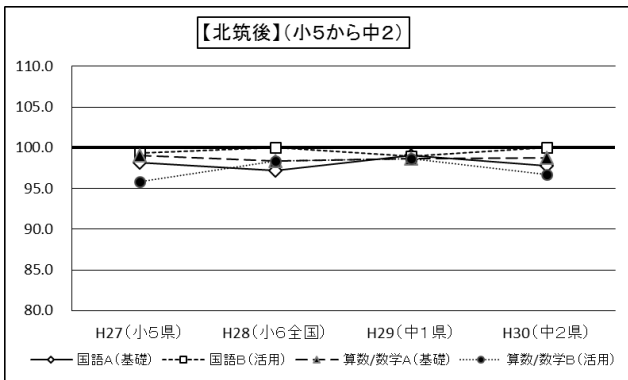
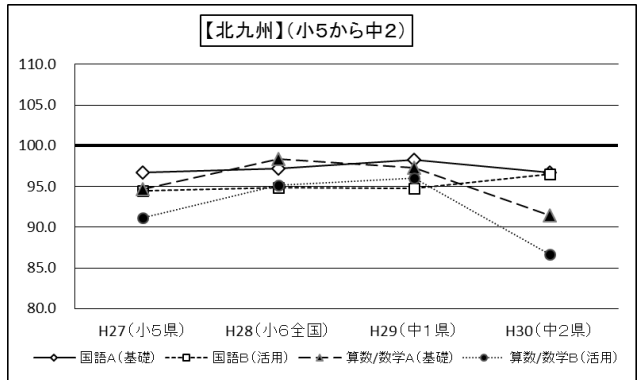
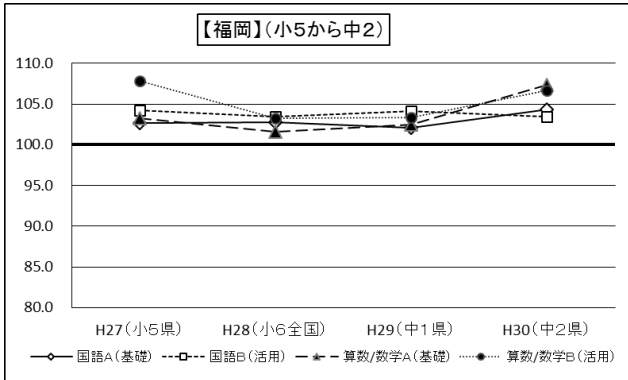
(京築地区)

	小学校第5学年						中学校第1学年						中学校第2学年					
	国語			算数			国語			数学			国語			数学		
	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用
H27	97.7	97.9	97.1	97.5	98.5	94.2	—	—	—	—	—	—	96.4	96.6	95.8	91.4	92.0	88.8
H28	98.3	99.0	96.1	97.0	96.4	98.4	—	—	—	—	—	—	96.5	96.3	96.8	95.1	94.8	96.4
H29	94.7	95.6	91.7	96.5	96.4	96.8	97.1	97.8	94.5	97.1	97.4	95.9	98.6	99.5	95.5	93.4	94.4	91.1
H30	96.1	97.6	95.0	97.3	97.3	95.0	97.0	96.8	94.7	95.9	97.4	93.5	95.1	95.7	100.0	93.8	95.1	90.0
H27との差	-1.6	-0.3	-2.1	-0.2	-1.2	0.8	-0.1	-1.0	0.2	-1.2	0.0	-2.4	-1.3	-0.9	4.2	2.4	3.1	1.2

(6) 県平均を100とした場合の同一集団（H30年度中学校第2学年）の各地区の標準化得点の経年変化

※ 県平均正答数（指定都市を除く）を100とした場合の標準化得点

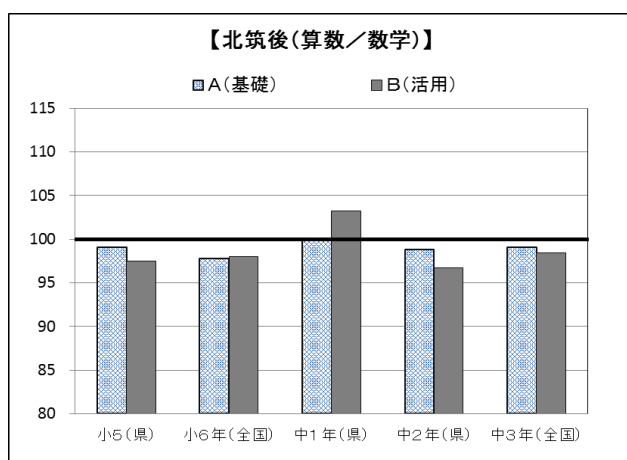
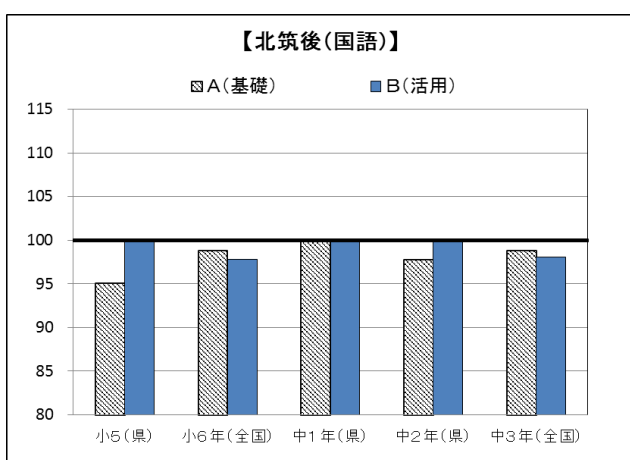
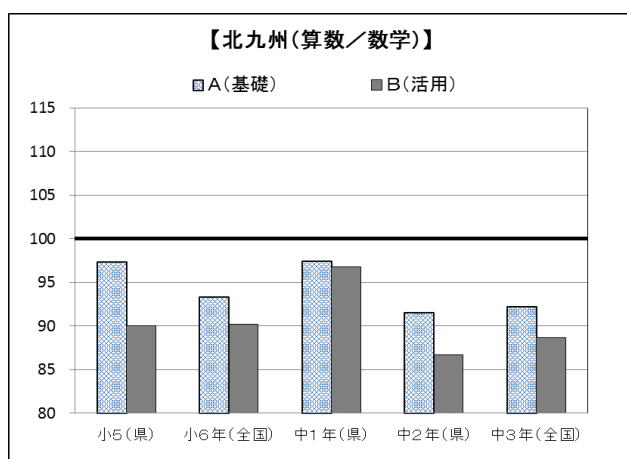
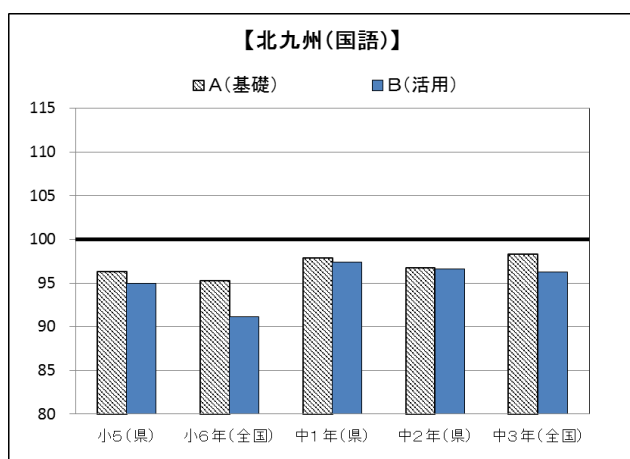
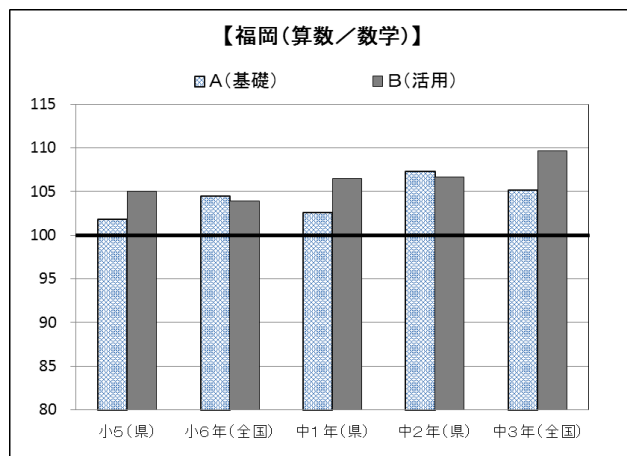
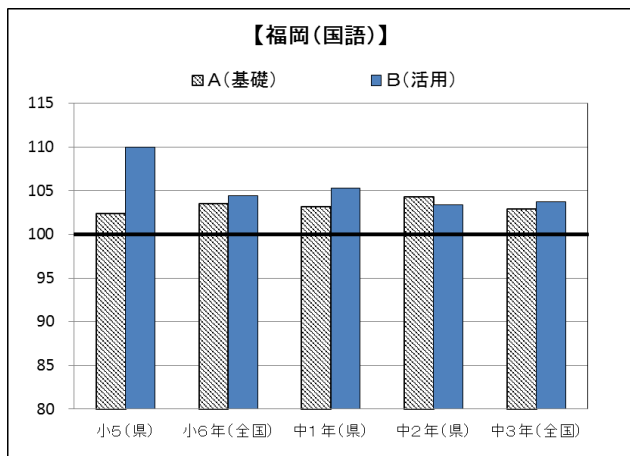
- 南筑後、筑豊、京築は、小学校第6学年（全国学力・学習状況調査4月実施）から、中学校第1学年（福岡県学力調査6月実施）にかけて3教科区分以上が下降している。
- 福岡以外の地区は、特に中学校第2学年段階で下降する傾向にある。



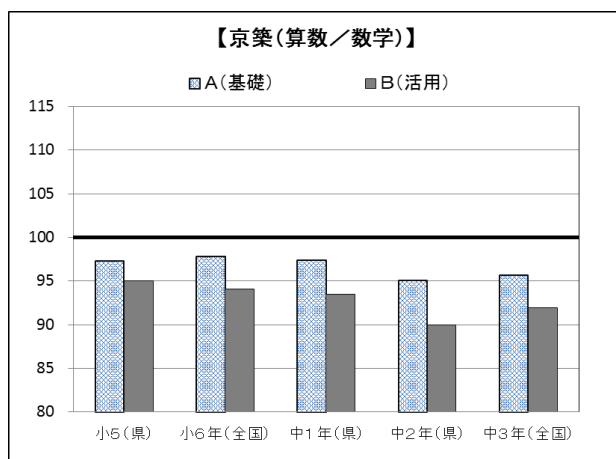
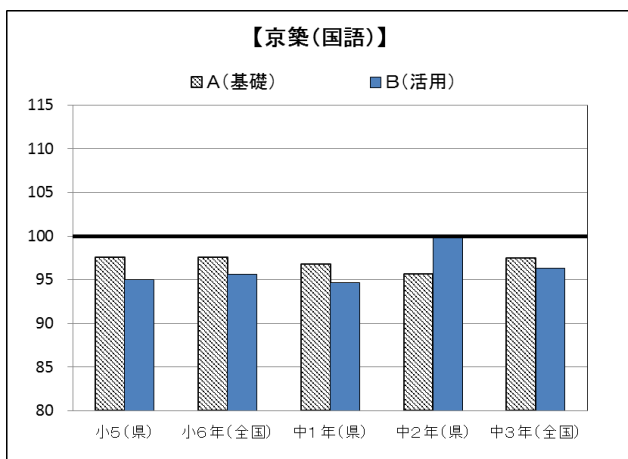
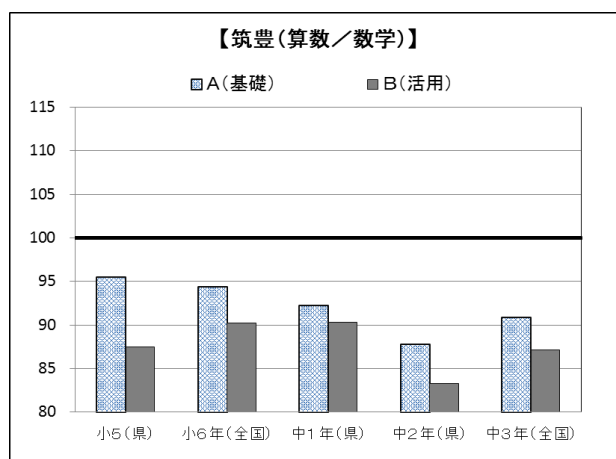
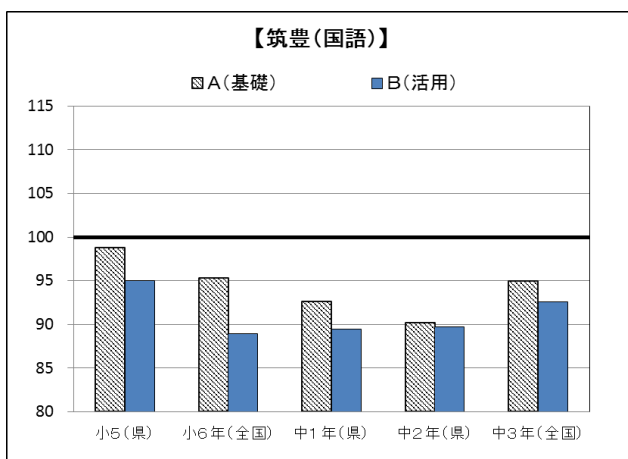
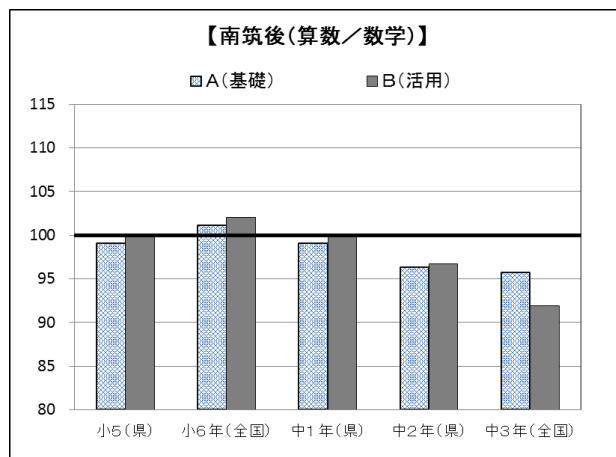
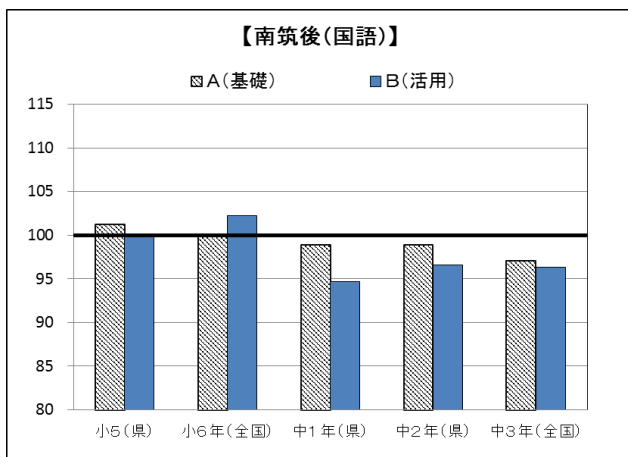
(7) 県平均を100とした場合の全国学力・学習状況調査と県学力調査の各地区の標準化得点

※ グラフは、各地区の国語及び算数／数学のA問題（基礎）とB問題（活用）の標準化得点を示している。

※ 県平均正答数（指定都市を除く）を100とした場合の標準化得点



- 福岡は、小5から中3までの全ての学年において、全教科区分、県平均を上回っている。
- 福岡の全学年全教科区分、北筑後の小5国語A（基礎）、中1の全教科区分、中2国語B（活用）、南筑後の小5国語、算数B（活用）、小6全教科区分、中1の数学B（活用）、京築の中2国語B（活用）は県平均に達している。



3 各学年の調査結果

(1) 小学校第5学年国語

- 教科全体では、期待正答率 63.7%に対して平均正答率 53.8%であり、9.9ポイント下回っている。
- 問題形式別に見ると、「基礎」及び「活用」に関する問題では、期待正答率をそれぞれ7.3ポイント、15.3ポイント下回っている。
- 評価の観点別に見ると、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」及び「言語についての知識・理解・技能」において、期待正答率をそれぞれ36.5ポイント、17.1ポイント、18.5ポイント、2.6ポイント下回っている。
- 解答形式別に見ると、「選択式」、「短答式」及び「記述式」において、期待正答率をそれぞれ6.3ポイント、2.9ポイント、30.9ポイント下回っている。
- 領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、期待正答率をそれぞれ36.5ポイント、14.8ポイント、16.4ポイント、2.6ポイント下回っている。

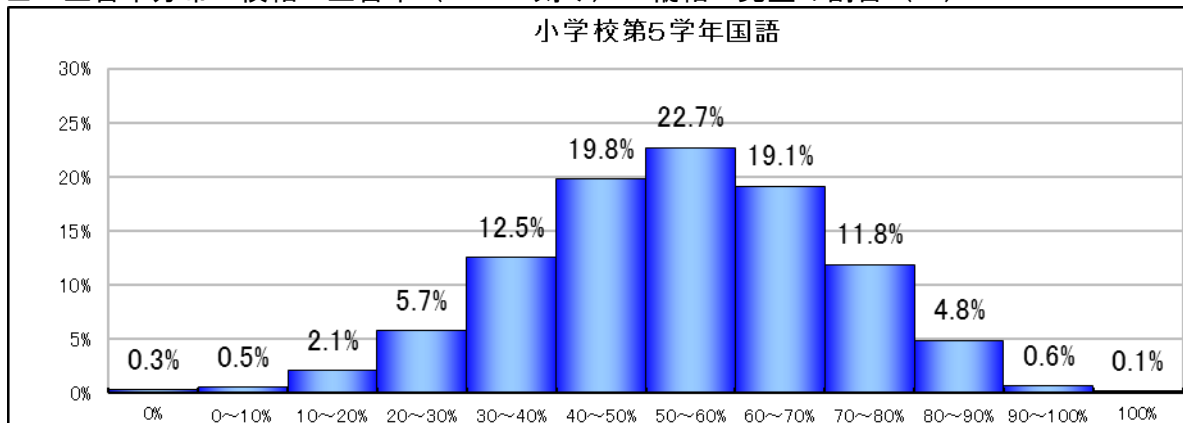
■ 教科全体と「基礎」・「活用」問題形式別、評価の観点別、解答形式別の正答率（%）

	問題形式別正答率			評価の観点別正答率				解答形式別正答率		
	全体	基礎	活用	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式
期待正答率	63.7	70.4	49.2	50.0	46.7	53.0	73.5	58.3	73.9	48.8
平均正答率	53.8	63.1	33.9	13.5	29.6	34.5	70.9	52.0	71.0	17.9
差	-9.9	-7.3	-15.3	-36.5	-17.1	-18.5	-2.6	-6.3	-2.9	-30.9

■ 領域別の正答率（%）

	領域別正答率			
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
期待正答率	50.0	48.8	57.5	73.5
平均正答率	13.5	34.0	41.1	70.9
差	-36.5	-14.8	-16.4	-2.6

■ 正答率分布 横軸：正答率（10%刻み） 縦軸：児童の割合（%）



(2) 小学校第5学年算数

- 教科全体では、期待正答率 65.9%に対して平均正答率 64.8%であり、1.1 ポイント下回っている。
- 問題形式別に見ると、「基礎」に関する問題では期待正答率を 0.7 ポイント上回り、「活用」に関する問題では期待正答率を 4.4 ポイント下回っている。
- 評価の観点別に見ると、「数学的な考え方」及び「技能」において、期待正答率をそれぞれ 4.9 ポイント、1.5 ポイント下回っており、「知識・理解」において、期待正答率を 1.8 ポイント上回っている。
- 解答形式別に見ると、「選択式」及び「記述式」において、期待正答率をそれぞれ 1.7 ポイント、5.2 ポイント下回っており、「短答式」において、期待正答率を 0.4 ポイント上回っている。
- 領域別に見ると、「量と測定」、「図形」及び「数量関係」において、期待正答率をそれぞれ 5.0 ポイント、1.0 ポイント、0.3 ポイント下回っており、「数と計算」において、期待正答率を 0.7 ポイント上回っている。

■ 教科全体と「基礎」・「活用」問題形式別、評価の観点別、解答形式別の正答率（％）

	問題形式別正答率			評価の観点別正答率			解答形式別正答率		
	全体	基礎	活用	数学的な考え方	技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式
期待正答率	65.9	72.3	53.8	51.7	75.0	67.2	62.5	73.8	43.3
平均正答率	64.8	73.0	49.4	46.8	73.5	69.0	60.8	74.2	38.1
差	-1.1	0.7	-4.4	-4.9	-1.5	1.8	-1.7	0.4	-5.2

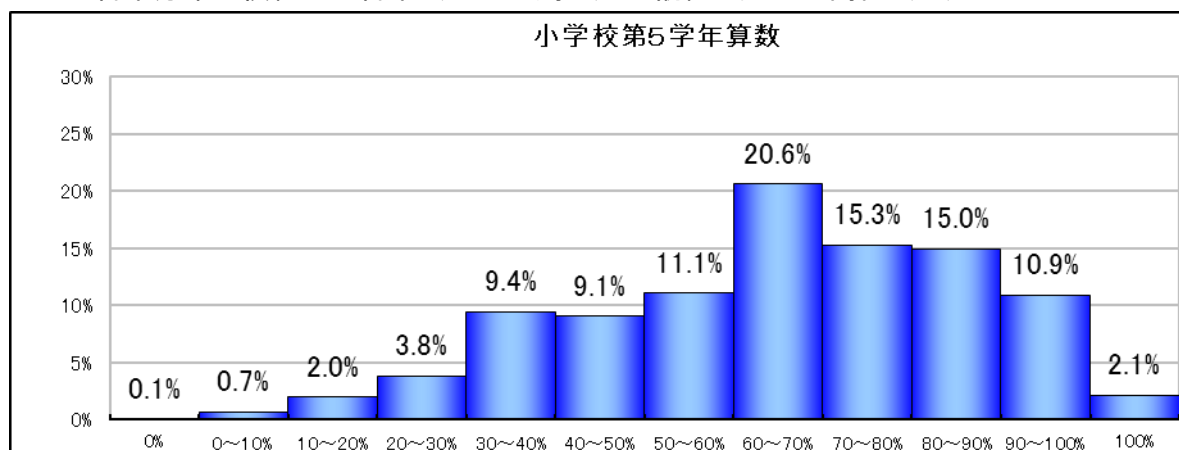
※ 網掛け部分は、期待正答率を上回っているもの

■ 領域別の正答率（％）

	領域別正答率			
	数と計算	量と測定	図形	数量関係
期待正答率	78.3	60.0	52.5	70.0
平均正答率	79.0	55.0	51.5	69.7
差	0.7	-5.0	-1.0	-0.3

※ 網掛け部分は、期待正答率を上回っているもの

■ 正答率分布 横軸：正答率（10％刻み） 縦軸：児童の割合（％）



(3) 中学校第1学年国語

- 教科全体では、期待正答率 67.5%に対して平均正答率 66.7%であり、0.8 ポイント下回っている。
- 問題形式別に見ると、「基礎」に関する問題では期待正答率を 1.1 ポイント下回り、「活用」に関する問題では期待正答率と等しくなっている。
- 評価の観点別に見ると、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」及び「言語についての知識・理解・技能」において、期待正答率をそれぞれ 1.0 ポイント、1.8 ポイント、1.3 ポイント、1.3 ポイント下回っている。
- 解答形式別に見ると、「選択式」において、期待正答率を 2.0 ポイント上回っており、「短答式」及び「記述式」において、期待正答率をそれぞれ 2.8 ポイント、2.4 ポイント下回っている。
- 領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、期待正答率をそれぞれ 1.0 ポイント、1.8 ポイント、1.3 ポイント下回っており、「読むこと」において、期待正答率を 0.7 ポイント上回っている。

■ 教科全体と「基礎」・「活用」問題形式別、評価の観点別、解答形式別の正答率 (%)

	問題形式別正答率			評価の観点別正答率				解答形式別正答率		
	全体	基礎	活用	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式
期待正答率	67.5	69.3	63.3	70.0	57.5	62.5	72.5	71.3	70.0	58.0
平均正答率	66.7	68.2	63.3	69.0	55.7	61.2	71.2	73.3	67.2	55.6
差	-0.8	-1.1	0.0	-1.0	-1.8	-1.3	-1.3	2.0	-2.8	-2.4

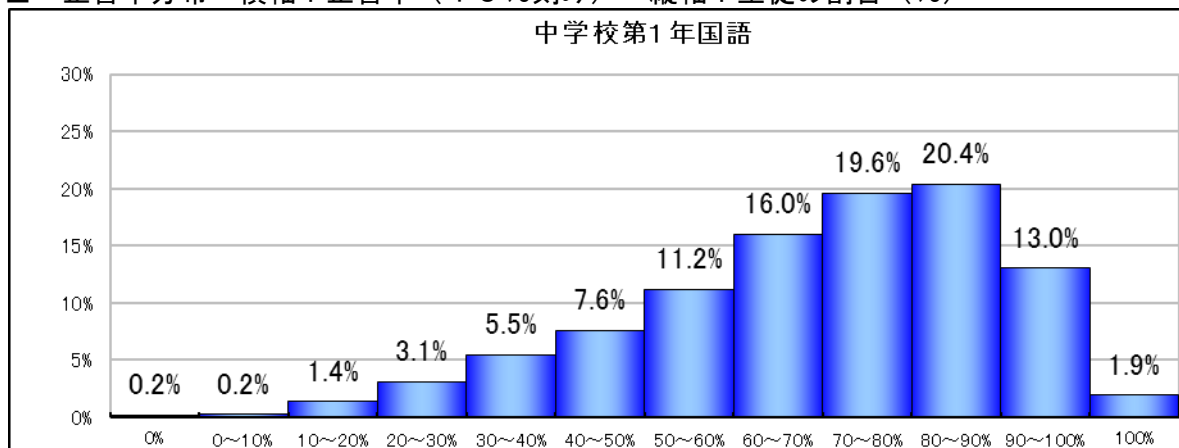
※ 網掛け部分は、期待正答率を上回っているもの

■ 領域別の正答率 (%)

	領域別正答率			
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
期待正答率	70.0	57.5	66.7	72.5
平均正答率	69.0	55.7	67.4	71.2
差	-1.0	-1.8	0.7	-1.3

※ 網掛け部分は、期待正答率を上回っているもの

■ 正答率分布 横軸：正答率（10%刻み） 縦軸：生徒の割合 (%)



(4) 中学校第1学年数学

- 教科全体では、期待正答率 63.5%に対して平均正答率 64.2%であり、0.7ポイント上回っている。
- 問題形式別に見ると、「基礎」に関する問題では期待正答率を 2.6ポイント上回り、「活用」に関する問題では期待正答率を 3.8ポイント下回っている。
- 評価の観点別に見ると、「数学的な見方や考え方」において、期待正答率を 3.7ポイント下回っており、「技能」及び「知識・理解」において、期待正答率をそれぞれ 3.4ポイント 2.5ポイント上回っている。
- 解答形式別に見ると、「選択式」において、期待正答率と等しくなっており、「短答式」において、2.5ポイント上回っており、「記述式」において、期待正答率を 2.5ポイント下回っている。
- 領域別に見ると、「数と計算」及び「図形」において、期待正答率をそれぞれ 3.4ポイント、6.2ポイント上回っている。「量と測定」及び「数量関係」において、1.5ポイント、3.2ポイント下回っている。

■ 教科全体と「基礎」・「活用」問題形式別、評価の観点別、解答形式別の正答率 (%)

	問題形式別正答率			評価の観点別正答率			解答形式別正答率		
	全体	基礎	活用	数学的な見方・考え方	技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式
期待正答率	63.5	70.0	48.6	48.8	75.6	65.0	68.2	66.7	36.7
平均正答率	64.2	72.6	44.8	45.1	79.0	67.5	68.2	69.2	34.2
差	0.7	2.6	-3.8	-3.7	3.4	2.5	0.0	2.5	-2.5

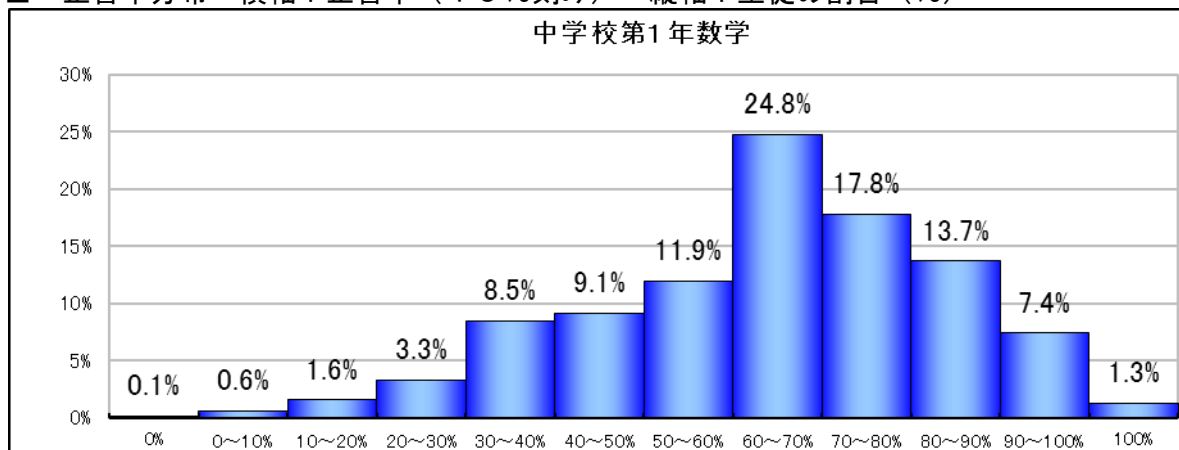
※ 網掛け部分は、期待正答率を上回っているもの

■ 領域別の正答率 (%)

	領域別正答率			
	数と計算	量と測定	図形	数量関係
期待正答率	67.0	60.8	67.0	60.7
平均正答率	70.4	59.3	73.2	57.5
差	3.4	-1.5	6.2	-3.2

※ 網掛け部分は、期待正答率を上回っているもの

■ 正答率分布 横軸：正答率（10%刻み） 縦軸：生徒の割合 (%)



(5) 中学校第2学年国語

- 教科全体では、期待正答率 64.5%に対して平均正答率 55.3%であり、9.2ポイント下回っている。
- 問題形式別に見ると、「基礎」及び「活用」に関する問題では、期待正答率をそれぞれ7.9ポイント、12.9ポイント下回っている。
- 評価の観点別に見ると「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」及び「言語についての知識・理解・技能」において、期待正答率をそれぞれ10.8ポイント、10.7ポイント、12.4ポイント、5.8ポイント下回っている。
- 解答形式別に見ると、「選択式」、「短答式」及び「記述式」において、期待正答率をそれぞれ13.3ポイント、5.7ポイント、8.6ポイント下回っている。
- 領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、期待正答率をそれぞれ21.4ポイント、10.7ポイント、11.3ポイント、5.0ポイント下回っている。

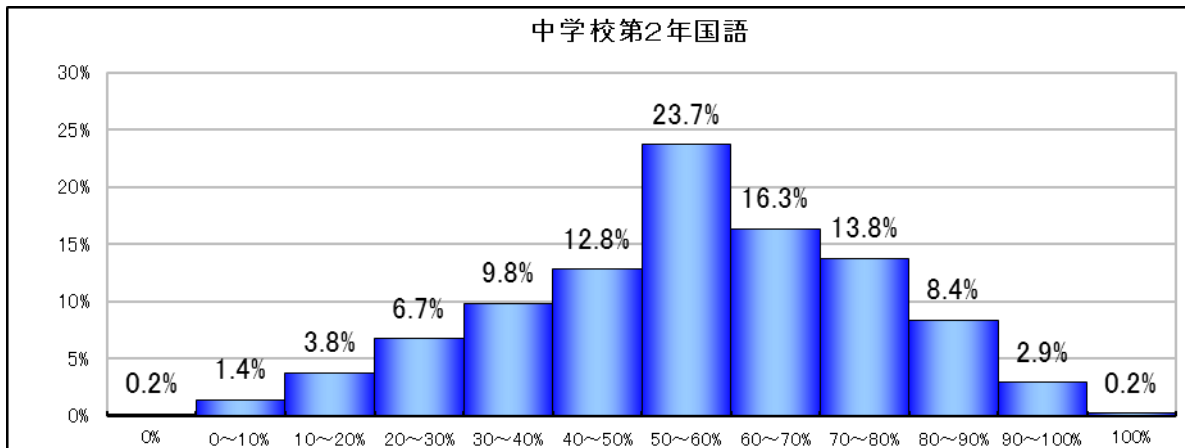
■ 教科全体と「基礎」・「活用」問題形式別、評価の観点別、解答形式別の正答率 (%)

	問題形式別正答率			評価の観点別正答率				解答形式別正答率		
	全体	基礎	活用	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式
期待正答率	64.5	65.6	61.7	62.5	45.0	56.7	69.1	66.7	70.0	47.5
平均正答率	55.3	57.7	48.8	51.7	34.3	44.3	63.3	53.4	64.3	38.9
差	-9.2	-7.9	-12.9	-10.8	-10.7	-12.4	-5.8	-13.3	-5.7	-8.6

■ 領域別の正答率 (%)

	領域別正答率			
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
期待正答率	75.0	45.0	58.8	71.0
平均正答率	53.6	34.3	47.5	66.0
差	-21.4	-10.7	-11.3	-5.0

■ 正答率分布 横軸：正答率（10%刻み） 縦軸：生徒の割合 (%)



(6) 中学校第2学年数学

- 教科全体では、期待正答率 53.9%に対して平均正答率 48.9%であり、5.0ポイント下回っている。
- 問題形式別に見ると、「基礎」及び「活用」に関する問題では、期待正答率をそれぞれ 5.1ポイント、5.0ポイント下回っている。
- 評価の観点別に見ると、「数学的な見方や考え方」、「技能」及び「知識・理解」において、期待正答率をそれぞれ 8.2ポイント、3.4ポイント、6.0ポイント下回っている。
- 解答形式別に見ると、「選択式」、「短答式」及び「記述式」において、期待正答率をそれぞれ 1.2ポイント、6.0ポイント、6.8ポイント下回っている。
- 領域別に見ると、「数と式」、「量と測定」、「図形」及び「資料の活用」において、期待正答率をそれぞれ 6.2ポイント、6.4ポイント、3.6ポイント、2.5ポイント下回っている。

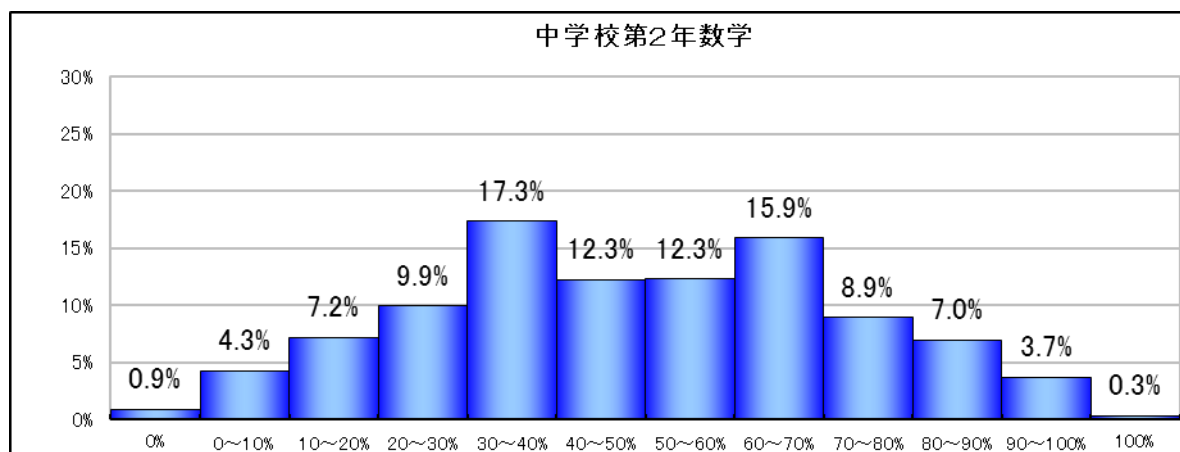
■ 教科全体と「基礎」・「活用」問題形式別、評価の観点別、解答形式別の正答率 (%)

	問題形式別正答率			評価の観点別正答率			解答形式別正答率		
	全体	基礎	活用	数学的な見方・考え方	技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式
期待正答率	53.9	56.6	47.9	41.3	57.9	54.3	60.0	55.0	38.3
平均正答率	48.9	51.5	42.9	33.1	54.5	48.3	58.8	49.0	31.5
差	-5.0	-5.1	-5.0	-8.2	-3.4	-6.0	-1.2	-6.0	-6.8

■ 領域別の正答率 (%)

	領域別正答率			
	数と式	量と測定	図形	資料の活用
期待正答率	60.0	47.5	52.0	47.5
平均正答率	53.8	41.1	48.4	45.0
差	-6.2	-6.4	-3.6	-2.5

■ 正答率分布 横軸：正答率（10%刻み） 縦軸：生徒の割合 (%)



X まとめと今後の取組

1 これまでの取組

昨年度は、特に中学校において、次の2つを課題として取組を進めてきた。

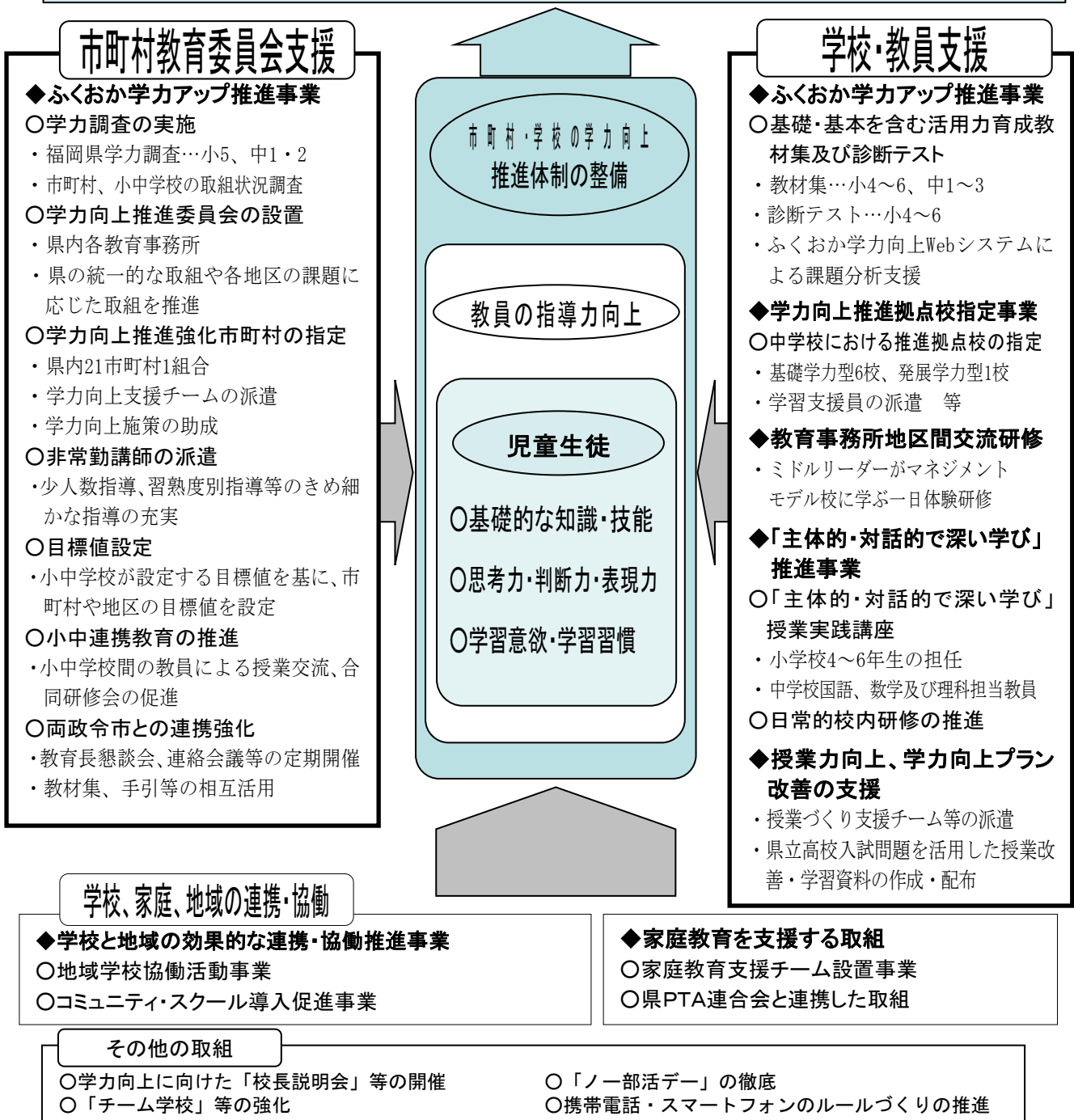
- 思考力・判断力・表現力等を重視した授業改善による学力向上
- 全職員による組織的・協働的な検証改善体制の確立

◆ 学力向上推進事業について

県教育委員会では、上記の課題等を踏まえ、「学力向上総合推進事業」を展開している。この事業は、以下に示す施策を県、市町村、学校が一体となって総合的に推進することにより、本県児童生徒の確かな学力の育成を図っている。

学力向上総合推進事業の全体像

確かな学力の育成



2 取組の成果と課題

■ 成果

小学校は4教科区分ともに全国値以上、中学校は国語Bが全国値と同等の値となった。また、4教科区分の平均値は、小学校では4年連続、中学校では3年連続で向上した。(※標準化得点による)
このことは、主に、次のことに依ると考えられる。

- 学校の全職員による組織的・協働的な検証改善の取組が、見通しを持って計画的に進められるようになったこと。
- 「『書くこと』を重視した学習活動」「児童生徒による授業評価」「高・大入試改革とつないだ定期考査問題及び日常授業の改善」を全県的に推進したこと。

■ 課題

今後の課題として、特に次の2点がある。

- 義務教育9年間を通して持続的に学力を伸長させるため、小中を繋いで授業改善を推し進めること。
- 学校の優れたマネジメントを全県的に浸透させる仕組みを整えること。

3 今後の取組

◆ 今後の改善の視点

- ◎ 小・中をつないだ取組の充実～『本丸は授業改善』～
一心に響き、真の学力を培って、子供の未来へとつなぐ授業づくりをー

- 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善
- 中核となって組織をリードする人材の育成
- 義務教育の出口を見据えた校長のマネジメント

【県教育委員会としての今後の取組】

小・中9年間を通した『授業改善』による学力向上

人材育成 支援

- 学校の中核となるミドル・リーダーの育成
〔教育事務所地区間交流研修の充実 等〕
- 県全体の教科指導リーダーの育成
〔コア・ティーチャーの育成と授業公開等による活用〕
- 若年教員の授業力育成
〔新教員研修体系による若年教員研修 等〕

小・中をつないだ取組の充実

授業改善 支援

- 定期考査問題の改善
〔思考力・判断力等を重視したモデル問題集約・県HPにデータバンク化 等〕
- 児童生徒による授業評価の推進
〔評価結果の効果的な活用事例を研修会や報告書等で紹介〕
- 「書くこと」を重視して、思考力・判断力・表現力等を育む授業づくり
〔県教材集、高校入試問題活用資料提供〕
〔9年間の視点に立った学力向上プランの作成 等〕

義務教育の出口を見据えたマネジメント 支援

- 優れたマネジメントにより、効果を上げている学校の事例を啓発
・同一集団の推移に着目した学力実態の小・中合同研修
・評価結果のデータ化を基にした職員研修の充実
〔学力向上推進拠点校指定事業、教育事務所地区間交流研修、学校リーダーのためのマネジメント・リーフレット 等〕
- 授業改善の理念や方策について地域・保護者に向けた情報発信を支援
・入試改革等の教育の動向と、これから求められる学力を育成するための授業づくりなど情報発信の視点を提供

